スヘク之ヲ府參事會ニ提出シタルハ經由ノ途ヲ誤リタルモノナリ（訴願法第一條第二號第二條第一項）

（第一門第四(103)判決理由參看）

(28)◉不當差押處分取消ノ訴

三十四年第六十八號　明治三十四年七月一日宣告　（北海道平民飛澤春造對根室稅務管理局長池袋透太郎）

判旨○鑛區稅滯納處分ニ對シ大藏大臣ニ訴願シタルトキハ同一事件ニ付キ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ス（行政裁判法第十七條第三項）

（第一門第一(304甲)判決理由參看）

(29)◉不當處分取消ノ訴

三十四年第百九十三號　全年十二月二十五日裁決　（兵庫縣平民村上爲藏對神戸稅務管理局長曾我祐保）

判旨○甲者ニ對スル酒稅滯納處分トシテ公賣シタル物件ハ乙者ノ財產ナリトスルモ乙者ハ被處分者ニ非サルカ故ニ其所有權ヲ主張シ得ルニ止マリ該處分取消ノ訴訟ヲ提起スルヲ得ス（行政裁判法第二十七條）

（第一門第一(311)判決理由參看）

(1)◉不當訂正命令取消ノ訴

二十三年第十一號　全年十二月十五日裁決　（東京府平民岡田平太郎對農商務大臣陸奥宗光）

判旨○鑛山借區券記名書換願ノ却下處分ハ法律第百六號第三ニ所謂營業免許ノ拒否ニ非ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(7)判決理由參看）

(2)◉尾去澤鑛山借區券書換願受理催促ノ訴

二十三年第十一號　全年十二月十五日裁決　（東京府平民岡田平太郎對農商務大臣陸奥宗光）

判旨○鑛山借區券記名書換願ノ却下處分ハ法律第百六號第三ニ所謂營業免許ノ拒否ニ非ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(7)判決理由參看）

(3)◉石炭坑借區願不當處分取消ノ訴

二十三年第十八號　二十四年一月三十一日宣告　（福岡縣士族占部三折外六名對農商務大臣陸奥宗光）

判旨○鑛山借區願ニ對スル拒否ハ法律第百六號第三ニ所謂營業免許ノ拒否ニ非ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(13)判決理由參看）

(4)◉渡船營業不允許處分取消ノ訴

二十三年第三十四號　二十四年二月二十四日宣告　（愛知縣平民桑常人外二名對全縣知事岩村高俊）

判旨○渡船營業ノ許否縣知事ノ職權ニ在ルトキハ知事カ之ヲ許可セサルモ不法ニ非ス

原告ハ被告カ明治二十三年十月原告ノ渡船營業願ニ對シ允許シ難シト指令シタルハ不法ノ處分ナリト陳述スト雖モ被告知事ハ專ラ公共ノ便否ヲ査定シ原告ノ出願セシ場所ニハ渡船場ヲ設ルノ必要ナシト認メタルモノニシテ明治二十二年愛知縣令第九十八號取締規則第一條ノ末文ニ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシトアルニ依ルモ該營業ヲ許否スルハ固ヨリ被告知事ノ職權ニ屬シ其處分上違法ト認ムヘキ廉ナキヲ以テ被告知事カ原告ノ營業願ヲ許可セサルハ不法ノ處分ニアラサルモノトス

(5)◉水車營業許可取消ノ訴

二十四年第十一號　全年三月十九日裁決　（神奈川縣平民三竹傳藏外三名對全縣知事淺田德則）

判旨○水車營業ニ關シ任意ノ出願ニ據ル請願ノ却下ハ行政廳ノ處分ニ非サルヲ以テ法律第百六號第三第四ニ據リ直ニ出訴スルヲ得ス（法律第百六號第三第四）

（第一門第四(2)判決理由參看）

(6)◉鮭建網營業場許可差拒ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十四年第十七號　全年九月十八日宣告　（北海道平民內山利兵衞對全道釧路國厚岸郡長椎原國太）

判旨○從來營業免許ヲ有シタル一定ノ漁場ヲ減縮セラ

レタルヲ不當トスル訴ハ法律第百六號第三ニ所謂營業免許ノ取消ニ關スル事件ナリ（法律第百六號第三）

（第一門第一(25)判決理由參看）

(7)◉坑業禁止令取消ノ訴ニ對スル妨訴ノ抗辯

二十四年第二十三號
全年九月十九日宣告（新潟縣平民中野貫一對全縣知事篭手田安定）

判旨○日本坑法ニ基キ石油坑借區ノ許可ヲ得タル者ハ之ト同時ニ其地ニ於テ其營業ヲ爲スノ免許ヲ得タルモノトス

○石油坑借區ノ坑業禁止命令ハ既得ノ免許ヲ取消スモノナルニ據リ法律第百六號第三中ニ包含ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(26)判決理由參看）

(8)◉區劃專用捕魚採藻營業免許拒否不當ノ訴

二十四年第二十一號
全　年十月二日宣告（廣島縣平民三保利八外四十四名對全縣安藝郡長梁原幹）

判旨○營業慣行屆出期限後ニ屆出タル屆書ヲ却下シタルハ違法ニ非ス

本件所爭ノ海面ハ原告カ從來捕魚採藻營業ノ爲メ專用セシ場所ナルヲ以テ被告ハ其慣行ニ從ヒ原告ニ專用ノ許可ヲ與フヘキハ當然ナルニ甲第三十號證ノ訓令ヲ爲シ原告ノ屆書ヲ却下シタルハ違法ニ非ス然ルニ原告ハ該布達ニ營業ヲ爲スモノトアルヲ以テ現營業者ノミニ關スル規定ニシテ原告ノ如キ當時現營業者ニ非サルモノニハ該營業ヲ爲スヘキ旨ノ布達ナリト謂フモ其證據ト認ムルモノナク又明治二十年六月水產物營業人組合ニ加入屆ヲ爲シタルトキ該屆書ニ其區域ヲ記入シ同組ノ承認ヲ經タリト謂フモ同組合ハ漁業區域ヲ認許スルノ權利ナキニヨリ其承認ハ單ニ原告ノ加入屆ヲ認メタルニ止マルモノトス故ニ被告カ原告ノ漁場ニ對シ第一號證ノ如ク測定區域ノ剝波方ヲ達シタルハ違法ノ處置ニアラス

(11)◉營業許可取消ノ訴

二十四年第七十五號
全年十一月十八日裁決（東京府平民大崎藤次郎外三名對警視總監園田安賢）

判旨○警視總監カ其職權ヲ以テ爲シタル營業所移轉ノ許可ニ對シテ出訴スルヲ得ス

（第一門第一(34)判決理由參看）

(9)◉兒島灣養貝營業許可請求ノ訴ニ對スル妨訴ノ抗辯

二十四年第十八號
全年十月十六日宣告（岡山縣平民三宅彌三郎外三名對全縣知事千阪高雅）

判旨○養貝營業ノ爲メ海面區畫ノ借區ヲ出願スルトキハ同時ニ養貝營業ヲ出願シタルモノト看做ササルヲ得サルヲ以テ該借區出願ニ對スル拒否ハ法律第百六號第三ニ所謂營業免許ノ拒否ニ外ナラス（法律第百六號第二）

十號證ノ訓令ヲ爲シ原告ノ屆書ヲ却下シタルハ違法ナリト謂フニ在ルモ原告ハ明治十九年廣島縣布達乙第二十三號ヲ以テ規定シタル慣行屆出期限ニ從ヒ屆出テサルモノナレハ同布達但書ニ期限內ニ屆出テサルモノハ慣行ナキモノト看做ストアルニ依リ其專用ノ慣例ハ成立セサルモノト謂ハサルヲ得ス然ルニ原告ハ該布達ニ營業ヲ爲スモノトアルヲ以テ現營業者ノミニ關スル規定ニシテ原告ノ如キ當時現營業者ニ非サルモノニハ該營業ヲ爲スヘキ旨ノ一旦屆書ヲ差出シタルモ戶長ニ於テ之ヲ却下シタリト謂フト雖モ該布達面ニハ現營業者ニ限ルノ明文ナキノミナラス其書式凡例ニ於テ何年頃海面拜借又ハ區劃專用ヲ許サレ其後自ラ廢棄或ハ取消サレ云々ト指定シアルニ依ルモ原告官フ如ク現營業者ニ限ルモノトハ認メ難シ又其慣行屆ハ縣知事ニ差出スヘキモノナレハ戶長カ却下シタルモ原告ハ更ニ之ヲ縣知事ニ差出ノ手續ヲ盡シタルコトナク シテ事玆ニ至リタルモノナレハ本訴ニ於テ戶長カ其屆書ヲ却下シタルヲ理由トスルヲ得ス故ニ被告カ甲第三十號證ノ如ク訓令ヲ爲シ原告ノ屆書ヲ却下シタルハ違法ノ處置ニアラサルモノトス

(10)◉鮭建網營業場許可差拒ノ訴（第一門第一(25)妨訴抗辯ノ本案）

二十四年第十七號
全年十月二十二日宣告（北海道平民內山利兵衛對全道釧路國厚岸郡長椎原國太）

判旨○水產營業人組合ハ漁業區域ヲ認許スルノ權利ナキヲ以テ其組合ニ加入シ承認ヲ得ルモ一定ノ漁業場ニ於ケル營業免許ヲ得タルモノト謂フヲ得ス

原告ハ甲第五號圖面ノ如ク秋味沖手引岩水面ヨリ沖出四百五十間方位子丑ノ方ハ從來一定ノ漁業場ナリト謂フモ其證據ト認ムルモノナク又明治二十年六月水產物營業人組合ニ加入屆ヲ爲シタルトキ該屆書ニ其區域ヲ記入シ同組ノ承認ヲ經タリト謂フモ同組合ハ漁業區域ヲ認許スルノ權利ナキニヨリ其承認ハ單ニ原告ノ加入屆ヲ認メタルニ止マルモノトス故ニ被告カ原告ノ漁場ニ對シ第一號證ノ如ク測定區域ノ剝波方ヲ達シタルハ違法ノ處置ニアラス

(12)◉坑業禁止令取消ノ訴

二十四年第二十七號
全年十一月二十八日宣告（新潟縣平民鶴田熊次郎對全縣知事篭手田安定）

判旨○許可ヲ得サル坑業權ノ讓渡ハ違法ナリ（日本坑法第二十四款）

（第十五門(3)判決理由參看）

(13)◉兒島灣養貝營業許可請求ノ訴（第一門第一(32)妨訴抗辯ノ本案）

二十四年第十八號
全年十二月十八日宣告（岡山縣平民三宅彌三郎外八名對全縣知事千阪高雅）

判旨○縣知事カ法規ニ從ヒ其職權ニ據リ同業組合加入者ニ非サル者ニ借區營業ヲ許可セサルモ違法ニ非ス

原告代理人陳述ノ要點ハ原告等ハ從來ノ養貝營業者ナルヲ以テ甲第五號證ノ如ク養貝地ノ拜借ヲ再願シタルニ被告ハ尙ホ多分ノ空地アルニモ拘ラス同業者ノ組合ニ加入スレハ之ヲ許シ否ラサレハ之ヲ許サスト謂フハ不當ナリト謂フニ在レトモ本件被告ノ處分タル甲第六號證ノ指令ノ如キハ法律規則ノ範圍內ニ於テ其職權ヲ以テ爲シタル者ニシテ其處分ハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス假令ヒ原告言フ如ク果シテ尙ホ海面空地ノ場所アリトスルモ又同業者ノ組合ニアラサレハ借區營業ヲ許可セサルモ之ヲ以テ被告ノ指令ヲ取消ス可キ理由ト爲スヲ得ス

(14)◉不當指令取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十四年第六十號　（嚴手縣平民及川長平外一名對農商務大臣陸奥宗光）
仝年十二月二十二日宣告

判旨○法律第百六號第三ハ直接ニ營業其モノノ免許ニ關スル事件ノミナラス營業ノ目的事項カ豫メ官廳ノ許可ヲ要スルトキ其許可ヲ得サルニ於テハ營業免許ヲ拒否セラレタルト同一ノ結果ヲ生スル場合ヲモ包含ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(37)判決理由參看）

(15)◉魚市營業免許ノ拒否處分取消ノ訴

二十五年第二號　（愛媛縣魚市會社頭取二神清八對仝縣知事）
仝年四月十一日宣告　（縣屬早和氣溫泉久米郡長土屋正藏）

判旨○新規營業ノ屆出ハ取締人ノ連署ヲ要スル場合ニ於テ縣知事カ其連署ナキ營業屆ヲ拒否シタルハ不當ニ非ス

原告ハ明治二十四年九月八日成規ノ手續ヲ經テ和氣郡新濱村字高濱千四百二十六番地ニ支店ヲ設ケ魚市營業ノ屆ヲ爲シタルニ被告カ之ヲ拒否シタルハ不當ノ處分ナリト謂フト雖モ抑魚市場ノ設置アル市町村ニ於テ新規營業ヲ營ムモノハ取締人ノ連署ヲ要スルコトハ愛媛縣令第三十號ノ命スル所ナリ然ルニ該屆書ニ連署セル中村友治ハ魚市場取締人ノ名義之レ無ク啻ニ共同營業者ノ一人タルニ過キサルヲ以テ屆書ニ連署スルノ資格無キ者ナレハ原告ハ成規ノ手續ヲ經テ屆ヲ爲シタリト謂フヲ得ス

(16)◉古物商條例違反伊丹警察署ノ物品引揚命令取消ノ訴

二十五年第三十三號　（兵庫縣平民松井長藏對仝縣伊丹警察署長警部園田半之助）
仝年四月二十七日宣告

判旨○古物商取締條例第五條ニ基キ警察署カ爲シタル物品引上ノ處分ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ（十六年第五十號布告古物商取締條例第五條）

（第一門第一(43)判決理由參看）

(17)◉營業免許拒否不服ノ訴

二十五年第三十四號　（兵庫縣平民中島七右衛門對仝縣柏原警察署佐治分署長警部德田淺太郎）
仝年七月八日宣告

判旨○鳥獸獵規則第一條職獵遊獵ハ單ニ銃獵ノ種類ヲ定メタルノミニ止リ生業トスル者ト認メタルモノハ職獵トナシ遊樂ノ爲ニスル者ト認メタルモノハ遊獵ト爲スノ意義ニ非ス（二十五年鳥獸獵規則第一條）

○鳥獸獵規則第七條ノ各項ニ該當スル者ヲ除クノ外何人ト雖モ自己ノ望ム所ニ從ヒ職獵遊獵ノ銃レヲ爲スモ妨ナシ（同上第七條）

○願人ノ財產ノ有無多少ハ職獵遊獵ヲ區別スルノ標準ト爲スヲ得ス

被告ハ鳥獸獵規則第一條ニ從ヒ原告ハ多クノ財產ヲ有スルモノナレハ鳥獸ヲ獵シ生業トスルモノニ非スト認定シタルヲ以テ其職獵願ヲ許可セサリシナリト謂ト雖モ鳥獸獵規則第一條ハ凡銃獵ハ之ヲ別テ職獵遊獵ノ二種ト爲スト規定シタルマテニ止リ之ヲ以テ生業トスルモノト認メタルモノハ之ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスル者ト認メタルモノハ之ヲ遊獵ト爲スノ規定ナリト解釋スルヲ得ス其他同規則中職獵ナルト遊獵ナルトヲ定ムルハ當該官廳ノ認定ニ依ルノ規定ナキヲ以テ見レハ同規則第七條ノ各項ニ該當スルモノニ非サル以上ハ何人ト雖モ自己ノ望ム所ニ從ヒ職獵遊獵ノ孰レヲ爲スモ固ヨリ妨ナキモノトス又假リニ當該官廳ニ認否ノ職權アルモノト爲スモ願人タル者ノ財產ノ有無多少ハ法律上職獵遊獵ヲ區別スルノ標準ト爲スヲ得ス是レ何等ノ營業ト雖法律ニ從ヒ之ヲ爲スハ貧富ヲ論セス各人ノ自由ナレハナリ故ニ本件職獵願ヲ拒否シタル被告ノ處分ハ鳥獸獵規則即チ法律ニ遵シタル處分ナリト言フヲ得ス

(18)◉藝妓營業地制限ノ縣令取消ノ訴

二十五年第百號　（廣島縣平民香川コノ外三十八名對仝縣知事鍋島幹）
仝年十月四日裁決

判旨○縣令ニ因リ營業地ヲ制限セラレタルヲ違法トシ其取消ヲ求ムル訴ハ該縣令發布ノ日ヲ處分ノ當日トシ出訴期限ヲ計算スヘキモノトス（行政裁判法第二十二條）

（第一門第二(11)判決理由參看）

(19)◉不當處分ニ對シ權利回復ノ訴

二十五年第三十九號　（大阪府平民澤田齋庵對仝府知事山田信道）
仝年十月二十九日宣告

判旨○發電所ノ新設ニ關シ府知事カ規則ニ準據シ公害ナシト認メテ許可シタルハ違法ノ處分ニ非ス

原告代理人陳述ノ要點ハ明治十年大阪府第百二十三號布達第二項并ニ明治十三年第百四十六號達ニ基キ認可セラレタルモノナレハ第百二十三號但書ニ依リ新規開業ノ者ハ四方三十間以內ノ人家ヘ協議ヲ遂ケ其承諾ヲ得ヘキ筈ナルニ原告ノ承諾ヲ與ヘサルニ拘ハラス被告カ大阪電燈會社中之島發電所ノ新設ヲ認可シタルハ不當ナリト謂フト雖モ明治十三年第百四十六號達中開業出願ノ際若シ近傍人家ノ內或ハ故障申立ル者有之ト雖モ實地檢查ノ上公害ナシト認ムレハ之ヲ許可スルコトアルヘシトノ明文アリ而シテ被告ハ該達ニ準據シ其職權ヲ以テ公害ナシト認メ發電所ノ設置ヲ許可シタルモノナレハ被告ノ處分ハ適法ニシテ不當ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(20)◉營業免許拒否ノ訴

二十五年第五十一號　（千葉縣平民柳澤喜右衛門對仝縣知事藤島正健）
仝年十一月十九日宣告

判旨○渡船場再興願ニ對シ知事カ事實調查ノ結果之ヲ許可セサルハ違法ニ非ス

原告ハ本件中野鋒地先茜渡船場再興願即チ甲第一號證ニハ對岸金杉村願人北島房五郎ノ連印アリテ對岸人民ト協議ヲ遂ケタルヲ證スルニ足ルカ故ニ被告カ原告ノ願ヲ許可セサルハ違法ノ處分ナリト謂フト雖モ北島房五郎ハ其調印取消ヲ被告廳ニ出願シ被告ハ對岸人民ニ故障ノ有無ヲ埼玉縣廳ニ照會セシハ乙第一號乙第三號證ノ如クナルヲ以テ見レハ金杉村人民ニ故障ナシト謂フヲ得ス又原告ハ甲第八號證ヲ提出シ往昔中野鋒ニ渡船場アリシト謂フト雖モ其交中中野鋒渡場與助前トアルハ果シテ原告出願ノ箇所ニ適當スルヤ否ヤ確知スルニ由ナキモノトス依テ被告カ甲第一號證絕跡渡船場再興願ヲ許可セサルモ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(21)◉不當處分取消ノ訴

二十五年第四十九號　（北海道平民吉崎由太郎對仝道廳松前郡長山內久內）
仝年十一月二十四日宣告

判旨○水産物取締規則第六條ハ隣接漁業者謂ハレヽナキ故障ニ對シ其理由ヲ副申シテ願書ノ進達ヲ得セシムルニ止マリ隣接漁業人ノ連署ヲ闕キタル場合ニ於ケル處分方法ヲ定メタルモノニ非ス

○建網漁業ハ水産物取締規則ニ據レハ無期限ナルモ同漁業ニ關シ一旦有限免許ヲ得タル者ハ其期間限リ漁業權ヲ有スヘキモノナルヲ以テ期間滿了後漁業ヲ爲スニハ更ニ免許ヲ受クルヲ要ス

原告カ本件被告ノ處分ヲ不當トスル理由ノ要點ハ被告カ原告ノ鍊建網漁業願書ニ隣接漁業人中木崎源右衞門ノ連署ナキヲ以テ許可ヲ爲ササルハ明治二十一年北海道廳令第十八號水産物取締規則第六條ノ旨ニ違フモノナリ而シテ被告ノ源右衞門カ連署ヲ拒ミタルハ妨害アルカ爲ナリト述レトモ其實然ルニアラス又原告出願ノ漁業ハ水産物取締規則第十三條無期限許可ノ漁業ニ對スルモノニシテ原告ハ最ニ二箇年間ノ許可ヲ得タル漁業滿期前ニ於テ其繼續願ヲ爲シタルニ被告カ之ヲ拒否シタルハ不當ナリト謂フニ在リト雖モ水産物取締規則第六條中隣接漁業者謂ハレヽナク故障ヲ唱フル時ハ其理由ヲ副申シテ願書ヲ進達スルコトヲ得トアルハ出願者ニ便益ヲ與ヘタルマテニシテ其進達ヲ闕キタル場合ニ於ケル處分ノ方法ハ該規則ノ規定スル處ニアラサレハ同規則ニ依リ之レカ當否ヲ論スルヲ得ス又建網漁業ハ水産物取締規則第十三條無期限ノ部ニ屬スト雖モ漁業免許ニ有期無期ヲ分チタルハ許可ノ限度ヲ示シタルモノニシテ漁業人ノ都合ニ依リ限度以内ニ期限ヲ設ケ漁業免許ヲ受ケタルモノハ其期間限リ漁業權ヲ有スルモノタルハ固ヨリナレハ原告ノ如キ有限免許ヲ受ケタルモノニシテ其期限滿了スルトキハ更ニ免許ヲ受クヘキコト新ニ漁業免許ヲ受クルモノト異ナルナキヲ以テ原告ハ無限ノ漁業權ヲ有スルモノト主張スルヲ得ス故ニ被告カ原告ニ與ヘタル指令ハ處分ノ當ヲ失フモノニアラス

(22) ◉違法處分取消ノ訴

二十五年第百三十一號　全年十一月三十日裁決　（靜岡縣福田豐次郎　對內務大臣井上馨）

判旨○築港局ノ處分會計法ニ違反セリト主張シ其處分取消ノ請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(63)判決理由參看）

(23) ◉認可取消請求ノ訴

二十五年第百四十六號　全年十二月二十八日裁決　（富山縣平民菅山秀次郎　對岐阜縣知事小崎利準）

判旨○蠶絲業組合取締規約蠶種檢查規程等ニ對スル縣知事ノ認可取消ノ請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(71)判決理由參看）

(24) ◉藝妓營業地制限ノ縣令取消請求ノ訴

二十五年第八十八號　二十六年三月十日宣告　（廣島縣平民小西ハル外四名　對全縣知事鍋島幹）

判旨○縣知事カ縣令ヲ發シテ藝妓營業者ノ居住地ヲ一定シタルハ現ニ該業ヲ營ム者ニ對シテ爲シタル特別ノ行政處分ニアラス從テ營業免許ニ關スル處分ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス（法律第百六號第三）

(25) ◉漁業營業免許ニ關スル不當處分取消ノ訴

二十六年第三十七號　全年三月十七日裁決　（大分縣平民森龜太郎外二名　對全縣大分郡長小倉左文）

判旨○他人ノ得タル營業免許ノ取消ヲ請求スル訴ハ法律第百六號第三ニ所謂營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ニ非ス（法律第百六號第三）

(26) ◉精米媒助粉營業免許拒否ノ訴

二十六年第二十號　全年四月十日宣告　（千葉縣平民岩川直樹　對全縣知事兵頭正懿）

判旨○縣知事ノ認可シタル營業組合規約アルトキ其組合ニ屬スヘキ營業ヲ爲サントスル者カ組合ニ加入セスシテ出願シタル營業免許ヲ知事ニ於テ拒否シタルハ違法ニ非ス

○甲者ニ許可シタル漁業免許カ乙者ノ漁業權ヲ毀損スル事實アルトキハ知事ハ更ニ其許可ヲ改正スルコトヲ得

原告ニ於テ本件係爭ノ漁場ハ小林甚太郎祖先以來營業ノ慣行アリ橫山勘三郎外貳名ハ明治十五年以來甚太郎ト組合中與ニ力ヲ致シタルモノニシテ地元村ヲ代表セシモノニアラス且被告ハ明治二十五年十月十四日ノ許可ハ取締規則第六條ノ適用ヲ誤リシユヘ之ヲ取消シタリト謂フモ甚太郎ノ漁業慣行ヲ認ムル以上ハ第六條ヲ適用セサル可カラス又第七條ニ依リ持場慣行ナキ者ハ地元村ノ承諾ヲ要スルモノナレハ勘三郎外貳名ハ甚太郎ニ慣行アリテ得ル所ノ權利ハ之ヲ共有ス可キハ當然ニシテ原告等カ許

號第三）

○又該縣令ハ居住及移轉ノ自由ヲ制限シタルモノトシ其取消ヲ請求スル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(80)判決理由參看）

(27) ◉繼續漁業許可取消ノ違法處分取消ノ訴

二十六年第三號　全年六月二日宣告　（秋田縣平民小林甚太郎外三名　對全縣知事平山靖彥）

判旨○知事ニ於テ許可シタル漁業免許カ誤謬ノ調查ニ因レルコトヲ發見シ其許可ヲ取消シタルハ違法ニ非ス

○甲者ニ許可シタル漁業免許カ乙者ノ漁業權ヲ毀損スル事實アルトキハ知事ハ更ニ其許可ヲ改正スルコトヲ得

原告ニ於テ本件係爭ノ漁場ハ小林甚太郎祖先以來營業ノ慣行アリ橫山勘三郎外貳名ハ明治十五年以來甚太郎ト組合中與ニ力ヲ致シタルモノニシテ地元村ヲ代表セシモノニアラス且被告ハ明治二十五年十月十四日ノ許可ハ取締規則第六條ノ適用ヲ誤リシユヘ之ヲ取消シタリト謂フモ甚太郎ノ漁業慣行ヲ認ムル以上ハ第六條ヲ適用セサル可カラス又第七條ニ依リ持場慣行ナキ者ハ地元村ノ承諾ヲ要スルモノナレハ勘三郎外貳名ハ甚太郎ニ慣行アリテ得ル所ノ權利ハ之ヲ共有ス可キハ當然ニシテ原告等カ許

可ヲ得可キ權利アルハ亦明カナルノミナラス行政官ト雖モ一旦許可ノ處分ヲ爲シタルニ於テハ其年期間ハ之ニ檢束セラル可キモノナレハ許可ノ取消ヲ爲スハ違法ナリト謂フト雖モ小林甚太郎ハ明治十年四月舊慣ヲ更メ新屋村漁師總代佐々木金助外四名同村伍長總代川上勝能ト今後合併引網等ノ契約ヲ結ヒ五箇年期ヲ以テ出願シタレトモ該期ノ漁業ハ當時ノ取締規則ニ依リ入札法ノ爲メ營ムヲ得ス明治十五年九月ノ出願ハ同期限ヲ以テ新屋村同業者四十名ト連署シ且一村内協議ヲ遂ケタル旨新屋村戸長森川新三郎外壹人ノ奥書及村方ニ於テ故障無之旨同村地主總代人大門武兵衛外壹人ノ上申ヲ得テ之ヲ爲シ許可セラレ明治二十年一月ハ同期限ヲ以テ横山勘三郎梅崎善三郎森本藤七郎ト連署シ一村協議ヲ遂ケタル旨新屋村外二町村戸長大久保泰藏外壹人ノ奥書ヲ得出願シテ其許可ヲ得明治二十四年十月ハ同期限ヲ以テ小林甚太郎ハ單獨ニ漁師總代ト連署シ横山勘三郎外貳名モ亦漁師總代ト連署シ各出願シ勘三郎等ハ其十二月二十八日願ノ趣聞屆ケ難キ旨指令セラレ甚太郎ハ翌二十五年十月十四日前期引續持場漁業願ノ趣聞屆ク但横山勘三郎梅崎善三郎森本豐吉ト組合ノ儀ハ從前ノ通心得可キ旨指令セラレ同日ヲ以テ勘三郎等ハ前指令ハ取消更ニ願ノ趣聞屆ク但小林甚太郎ト組合ノ儀ハ從前ノ通心得可キ旨ノ指令ヲ受ケタルモノナレトモ該願出ハ共ニ前例ニ違ヒ地元村ニ協議ヲ遂ケタルノ蹟ナキモノナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ甚太郎ハ明治二十二年秋田縣令第百十七號捕魚採藻取締規則第六條ニ適スル者ナルモ明治十年新屋村漁師總代及伍長總代ト約定シタル旨趣ニ背キ横山勘三郎外二名ハ前期間即チ明治二十年ヨリ同二十四年ニ至ル一期間居村新屋村トノ契約ヲ結ヒ以テ小林甚太郎ニ組合漁業ヲ爲シ得タルモノニシテ各自カ占得シタル慣行ナリト認ムルヲ得ス依テ酉來ノ慣行ナク且地元村ニ協議シテ承諾ヲ得タルモノニアラサレハ同規則第六條第七條ニ適セサルモノナリ故ニ秋田縣知事カ明治二十五年十月十四日原告等ノ出願ニ對シテ與ヘタル漁業許可ノ指令ハ其當ヲ得サルモノナリ然ルニ被告ハ自ラ當初ノ調査ハ誤認ニシテ不當ノ處分ナルヲ覺知シ明治二十五年十一月二十四日ヲ以テ同年十月十四日原告等ニ與ヘタル指令ヲ取消シ殊ニ小林甚太郎ニ對シテハ倶願ノ趣ハ地元村ト共同シ更ニ出願ス可シト指令シタルハ相等ノ處分ナリ又原告ハ一旦許可ノ處分ヲ爲シタルニ於テハ其年期間ハ之ニ檢束セラル可キモノナリト謂フト雖モ地元村ノ漁業權ヲ毀損スルノ事實アル以上ハ前指令ヲ改正ス可キハ當然ナリトス依テ原告ハ右指令取消ノ處分ヲ違法ナリト謂フヲ得ス

判決

(28)◉漁業停止處分取消請求ノ訴

二十六年第三十三號
全年九月二十一日裁決（廢手縣平民芳賀民彌對全縣東中北閉伊郡長新渡戸宗助）

判旨○訴願法施行以前ニ受ケタル漁業停止ノ處分ニ對スル訴願ハ同第二十條ニ據リ同第八條ノ期間内ニ提起スルヲ要ス（訴願法第二十條第八條）

（第一門第四(19)判決理由參看）

(29)◉採藻捕介營業區域免許不當處分取消ノ訴

二十五年第五十七號
二十六年十月二十七日宣告（廢手縣平民吹切丑松對全縣南北九戸郡長淺沼介郎參加人全縣平民米澤雜吉）

判旨○甲村民ノ捕介採藻營業免許ヲ取消シ該營業ノ慣行ナキ乙村民ニ之ヲ免許シタルハ不當ナリ

被告ニ於テ本件ハ明治十七年ノ處分ニ基キタル訴願ノ裁決ニ依リテ處分シタルナリ其十七年ノ處分ハ原告カ行政裁判法規定ノ出訴期限内ニ出訴ヲ爲ササルヲ以テ既ニ確定シタルモノナリト謂フト雖モ採藻免許ニ關シテハ明治二十一年九月原告カ提出シタル採藻願書ヲ被告ニ於テ之ヲ受理シ數年間調査ヲ盡シタル上其願ヲ拒否セシヨリ原告ニ於テ訴願ノ末本訴ヲ提起シタル者ナリ又捕介業ハ八木人民ノ訴願ニ對シ岩手縣知事カ裁決ヲ以テ讓ニ原告ニ與ヘタル免許ヲ取消シタルヲ被告ニ於テ執行シタルカ爲メ本訴ヲ提起スルニ至リタル者ナレハ岩手縣知事ノ裁決カ十七年ノ處分ヲ是認シタルト否トニ拘ハラス新ニ處分ヲ經タルモノニシテ未タ處分ノ確定シタルモノト謂フヘカラス而シテ本件被告カ捕介採藻營業免許ヲ參加人八木ニ與ヘタル理由ノ要領ハ論爭區域ニ關シ原告宿戸ニハ營業ヲ爲シタル慣行ノ認ムヘキナクシテ八木ハ宿戸ニ比シ從來漁業採藻稅金及收獲ノ多額ナルト論所カ宮戸陸地ノ境域ニ伴ハス八木ノ所屬内ニ在ル等ヲ以テ八木ニ慣例アルヲ認定シタリト謂フモノナレトモ漁業採藻稅及收獲ノ多寡ハ以テ營業場境界ノ何レニ在ルヲ判スルニ足ラス又被告カ營業境界ト定メタル大島ト中ノ島トノ中間ハ直チニ八木宿戸兩字ノ陸地境界ニ相當スルモノアラサルニ依リ論所カ八木ノ所屬内ニ在ルモノト謂フヘカラス且八木カ明治十六年十二月岩手縣令ニ提出シタル採藻願ヲ閱スレハ其但書ニ第三地割ハ宿戸ニ協同採藻スル慣例有之候得ハ云々之ニ入合採藻スルモ拒ミ候等ノ決シテ仕間數トアリ又原告第十二號證明治二十一年十一月被告ノ尋問ニ對シ八木カ論所ヲ以テ入合稼業ニ相違ナシト答ヘタルコトアルヲ視ルニ從來論所ニ於ケル營業權ハ八木ニ於テ專有シタルモノト認ムルヲ得サルノミナラス捕介採藻業ハ種市村各字ニ於テ何レモ入會稼ヲ爲シタルコトナシトハ本訴ノ審問ニ對シ原告宿戸及參加人八木ノ答フル所ナレハ八木宿戸兩字人民カ入會稼ヲ爲シタル慣例ナキコトモ亦知ルヘキニ依リ被告カ論所ヲ以テ八木ノ營業場ト定メタルハ一モ慣例ノ據ル所ナキモノトス而シテ實地ヲ檢スルニ論所大島等ハ被告カ原告宿戸ノ營業場ト認メタル大濱地先キ中ノ島北ノ島等ト密接聯貫シ其論所中ノ南方ナル末尾ノ僅少部分ハ八木ノ陸地先キナル海面ニ連及スルアルモ論所其他一簇ノ岩礁ハ宿戸海岸ニ沿フテ存スルノミナラス被告ノ異議ナキ宿戸ニ屬スル中ノ島北ノ島ナル名稱ヨリシテ之ヲ推スモ原告ノ所謂相ノ間分ケ南ノ岬ナル營業場ハ確然タル慣例ノ存在スルモノアルニアラスンハ以北僅ニ八木ノ地先キニ係屬スルノ故ヲ以テ宿戸ニ屬スルモノト認ムヘクシテ之カ分割ヲ爲シ難シ然ルニ被告原告ノ願ヲ拒否シ認ムヘキ慣例ナキノ八木ニ向テ之ヲ分割シ更ニ境界ヲ設ケテ營業ヲ免許シタルハ處分ノ當ヲ得タルモノニアラス

(30)◉印紙類元賣捌營業願指令取消ノ訴

二十七年第十六號
全年四月十三日宣告（岐阜縣平民川島元祥對全縣知事曾我部道夫）

判旨○二十三年勅令第二百七十一號第三條ニ賣捌人トアルハ該勅令第二條ノ所謂賣捌人ヲ指シタルモノニシテ同條ノ元賣捌人ヲ包含セス（二十三年勅令第二百七十一號第二條第三條）

原告ハ明治二十三年勅令第二百七十一號第二條ハ各府縣ニ左ノ印紙類賣捌人ヲ置クトアリテ賣捌人ニ元賣捌人及賣捌人ノ二種アル事ヲ定メタルモノナレハ該勅令ニ於テ賣捌人ト單記セラレタルトキハ二種ノ營業人ヲ網羅スルモノト斷定スルヲ當然トス故ニ第三條ノ賣捌人ハ左ノ順序ニ從

七云々トアリテ單記セラレタルモノナレハ二種ノ營業ノ一ヲ包含スルモノナリト謂フト雖モ該勅令第二條ハ左ノ印紙類寶捌人ヲ置クトアリテ元寶捌人及寶捌人ノ名稱職業等ヲ定メタルモノナレハ其印紙類寶捌人中ニ右兩種ノ營業人ヲ包含スルコトハ論ヲ俟タサルモ本條ニ於テ元寶捌人及寶捌人ノ定義ヲ定メタル後第三條ニ於テ寶捌人ト記シタルハ前條末段ノ寶捌人ヲ指稱シタルモノニシテ元寶捌人ヲモ指稱シタルモノニアラサル事明カナリ故ニ被告知事カ第三條ノ順序ニ依ラス元寶捌人ヲ許可シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス隨テ明治二十六年十二月二十八日付岐阜縣指令一第一六二號ノ取消スヘキモノニアラス

(31)◉旅人宿營業免許取消命令ニ對スル取消ノ訴

二十六年第百十九號
二十七年四月十九日宣告　（東京府平民安達龜吉　對警視總監園田安賢）

判旨○旅人宿營業者カ未丁年ノ宿泊人ヲ誘出シ遊興ヲ爲サシメタル事實アル場合ニ於テ警視總監カ其營業免許ヲ取消シタルハ不當ニ非ス

原告ハ明治二十六年八月二十五日大阪ノ商人田中義三郎ナル者來泊シ一泊ニシテ下谷區練塀町旅人宿福山館ニ轉宿セリ其後聞ク所ニ依レハ右田中ナル者ハ大阪ヨリ出京ノ際大金ヲ持參シタル由ニテ福山館管理人小林誠一郎ナル者ト原告カ當時雇ヒ置キタル森友吉ナル者トヲ誘ヒ遊興ヲ爲シタル由ニ付直チニ右友吉ヲ解雇セリ然ルニ警視總監ニ於テ原告ニ警察令第十六號宿屋營業取締規則第二條第四項ニ該當スル所爲アリトシテ營業免許ヲ取消シタルハ不當ナリト謂フト雖モ被告提出ノ參考書即田中義三郎ノ始末書ニ依レハ原告ハ雇人森友吉及福山館管理人小林誠一郎ナル者ト共謀シ未丁年ナル田中義三郎ヲ誘出シ遊興ヲ爲サシメタル事實アリト認メ得ヘキヲ以テ宿屋營業取締規則第二條第四項ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス隨テ明治二十六年九月二十一日警視總監カ原告ニ對シ發シタル旅人宿營業免許取消命令ハ不當ナルモノニアラス

(32)◉貯氷發賣不認可指令取消ノ訴

二十七年第二十五號
全年四月二十日裁決　（愛知縣平民高橋民次郎　對全縣知事時任爲基）

判旨○凍氷販賣營業者ノ出願ニ對シ知事カ其貯氷中一部分ノ發賣ヲ允許セサル旨ノ指令ヲ爲シタルヲ不當トシ其取消ヲ請求スル訴ハ法律第百六號第三二所謂營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ニ非ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(112)判決理由參看）

(33)◉鍊建網營業免許ノ取消變更ニ關スル違法命令取消ノ訴

二十六年第百二十六號
二十七年四月二十七日宣告　（北海道士族中谷虎雄　對全道釧路外十二郡長二瓶正性）

判旨○漁業者ノ各自カ收利上互ニ投網ノ位置ヲ爭フヲ以テ公益ニ害アリトシ一旦許可シタル漁業場ノ位置變更等ヲ命シタルハ不當ナリ

被告ニ於テ公益視察ハ無形中ニ存シ苟モ妨害アリト視察シ必要ヲ認メハ被告ハ之ヲ默々ニ付スル能ハス法律ノ許ス限リ宜シク處置セサル可カラサルノ責任ヲ有シ之ヲ實施スルハ職分上爲ス所ノ權能ナリト謂ヒ又曩キニ山縣中谷ノ兩人ニ許可シタル鍊網場ハ釧路地方鍊漁業上ノ公益ニ妨害ヲ與ヘタルモノナレハ北海道水產物取締規則ヲ適用シ處分シタルモノナルニ違法處分ノ爲メ原告ノ權利ヲ毀損シタル事實ナシト謂フト雖モ本件原告ノ鍊建網漁業ヲ既ニ許可シタル後之レカ位置變更等ヲ命スルニハ公益ヲ妨害スト認ムル可キ相當ノ事實無カル可カラス而シテ被告ニ於テ其妨害ヲ與ヘタリトノ爲スノ事ハ漁業者各自ノ收利上ヨリ互ニ投網ノ位置ヲ爭フニ過キサレハ之ヲ以テ公益ニ妨害ヲ與ヘタルモノト謂フ可カラス依テ被告カ北海道水產物取締規則第十三條ヲ適用シ原告ニ對シテ爲シタル命令ハ失當ナリトス

(34)◉營業免許不當處分取消ノ訴

二十七年第十五號
全年六月七日宣告　（北海道平民本吉イワ　對全道釧路外十二郡長二瓶正性）

判旨○營業免許拒否ノ處分ヲ不當ナリト主張スルニハ其處分ノ違法ナルコトヲ證明スルヲ要ス

原告ニ於テ被告ノ明治二十年十二月十五日付願書ニ對シ許否ノ指令ヲ爲サスシテ同二十二年九月二日附ノ願書ニ對シ處分ヲナシタル爲メ原告ヲシテ後願者トナラシメタルハ不當ナリ又縱令先願者アリタリトスルモ本件漁場ニ巨額ノ資本ヲ投シタルノ緣故ヲ以テ原告ニ免許ヲ與フヘキハ當然ナルニ被告ノ處分茲ニ出テサルハ不當ナリト謂フト雖モ原告ハ單ニ本件處分ニ程當ナラサルコトヲ主張スルニ止マリテ其處分ノ明治二十一年北海道廳令第十八號水產物取締規則ノ條項ニ違背スルコトヲ證明セサルノミナラス之ヲ其他ノ法令ニ照ラスモ違法ノ處分ナルコトヲ認ムルヲ得ス故ニ被告カ本件漁業免許ヲ拒否シタル處分ハ不當ナリト謂フヲ得ス

(35)◉鰊漁業製造兼業免許拒否處分取消ノ訴

二十七年第二十七號
全年十二月四日宣告　（北海道平民永井喜代松　對全道枝幸外三郡長代理全郡書記富永錠次郎）

判旨○漁業願書ノ必要條件タル組合頭取ノ連署ナキ漁業願ハ無效ナリ

原告ニ於テ水產物取締規則第四條ハ單ニ行政上ノ便宜ヲ計リ頭取ナシテ故障ノ有無ヲ上申セシムルニ過キサレハ其頭取ノ連署ナケレハトテ之ヲ却下スルヲ得ス又同則第七條中右ノ連署ヲ要スル場合ニ於テ故障ヲ唱フルモ其理由ヲ調査シ連署ノ有無ニ拘ハラス許可スルコトアルヘシトノ明文アルヲ以テ之ヲ觀ルモ此連署ハ漁業出願ノ有效ナラシムルノ必要條件ニアラスト謂フト雖モ第四條ニ願書ハ頭取ノ連署ヲ受クヘシトアリ第七條ニ頭取故障ヲ唱フルモ許可スルコトアルヘシトアルハ漁業ノ願書ニハ頭取ナシテ連署セシムルヲ正則トシ若シ連署ヲ拒ムトキハ其理由即故障ヲ陳述セシムルノ意ニシテ願書ニハ頭取ナシテ必ス可否ノ意見ヲ申述セシムルコトヲ命シタルモノト解釋セサルヘカラス然ルニ原告ノ願書ニハ取締ノ連署モナク又其故障ノ申立モ存セサレハ此必要條件ヲ闕キタルモノニシテ本則ノ規定ニ違背シタル無效ノ願書ナリト謂ハサルヘカラス又原告ノ假令一步ヲ讓リテ連署ヲ必要條件トスルモ出願ノ當時取締役不在ニシテ其事務ヲ代理スルモノナカリシノミナラス其後提出シタル海產干場變更願書ニ取締役ノ連署シタルハ卽チ其故障ナキモノト看做スヘク隨テ連署アリタルト同一ノ效力アリト謂フト雖モ既ニ本則第四條第七條ニ於テ頭取ノ意見ヲ徵スルヲ以テ必要條件ト定メタル以上ハ其不在如何ニ依リ此手續ヲ變更スルヲ得ス又海產干場變更願ト漁業願トハ彼是全ク別異ノ行爲ニ屬スレハ彼ノ願書ニ連署シタルヲ以テ是ノ願書ニ連署シタルト同一ノ效力アリト謂フヲ得ス

(36) ●昆布採收製造營業權免許願違法處分ニ關スル訴ノ妨訴抗辯

二十七年第五十六號　二十八年二月十八日宣告（北海道平民金澤彦作對仝道根室外九郡長高岡直吉）

判旨○營業願ニ關スル訴願却下ノ裁決ニ對シ之カ受理裁決ヲ請求スル訴ニ於テ該却下ノ裁決ニ關係ナキ者ヲ對手人ト爲スハ不當ナリ（訴願法第九條第一項）

(37) ●縣達及指令取消請求ノ訴

（第一門第三(22)判決理由參看）

二十六年第四十七號　二十八年二月二十七日宣告（鹿兒島縣平民中村三太郎外二名對仝縣知事加納久宣原告從參加人仝縣平民平川吉左衛門外十三名被告從參加人仝縣大迫貫爲外二百十一名）

判旨○人民ノ權利ヲ毀損セサル縣達若クハ行政廳ノ指令ハ取消スヘキ限リニ在ラス

被告ニ於テ大瀨廣曾根ノ兩瀨ハ加世田村民川畑清兵衛外二百五十五名カ當該官廳ノ聽許ヲ得タル專用ノ漁場ナリシコトハ事實上爭フ可カラス同村民ハ舊鹿兒島藩制ニ從ヒ該兩瀨ニ於ケル漁業ノ特權ヲ與ヘラレ其權利ヲ實行シ義務ヲ負擔シ明治七年四月ニ至リ古來ノ慣例ニ基キ其區域ヲ明確ニシ更ニ官廳ノ聽許ヲ得テ漁業ヲ繼續セシ者ナリ鰤漁業ハ他ノ漁業ト大ニ其趣ヲ異ニシ數年間數万ノ金額ヲ消費セサレハ其目的ヲ遂シ難シ故ニ古來ヨリ加世田村民ハ資金ヲ募集シ組合ヲ設ケ明治十九年本縣漁業組合準則ニ依リ組合規約ノ認可ヲ願出タルニ因リ之ニ認可ヲ與ヘタリト謂フト雖モ被告及被告從參加人ノ擧證中明治十五年以前ニ在ル者ハ特定ノ鰹漁業ニ關スル者ニシテ舊鹿兒島藩ノ特許モ亦之ニ外ナラサレハ加世田村民ハ舊來大瀨廣曾根ニ於テ特ニ鰤漁業ヲ爲シ來リタルノ慣行アル者ナリト認ムルニ足ル證左ナキモノトス而シテ原告ハ阿多郡田布施村字新川沖合ニ在ル大瀨廣曾根ノ兩瀨ハ嘉永六年三月ノ裁決ヲ以テ我漁業權ヲ縮少セラレ加世田村トノ入會漁場トナリ爾來漁業ヲ繼續シタルハ甲第三號證ノ如ク被告ニ於テモ明治二十一年鰤釣漁業ノ出願ニ對シ原告等三名ハ慣行アル者ナルヲ以テ本廳ヘ出願ニ及ハスト諭ヒ且其理由ヲモ說明シタルコトアル次第ナルニ明治二十六年一月ニ至リ達二第五號ヲ以テ爲シタル縣達ハ既得ノ漁業權ヲ拒否シ尙該兩瀨ハ加世田村專用漁場ノ如ク見做シ川畑清兵衛等ノ鰤漁業組合ノ出願ニ認可ヲ與ヘタルハ不當ナル旨主張スト雖モ甲第二號證嘉永六年ノ裁決ニ記載スル漁場ハ今瀨外三ケ瀨トアリテ外三ケ瀨ハ何所ニ適當スルヤヲ判別スルニ由ナク且其要旨ニ至リテモ加世田田布施兩村ニ漁場ノ良否ニ從ヒ相互隔日ニ其良所ニ乘入レ漁業ヲ爲ス可ク又鰤網ノ敷入ヲ爲ス可カラサルコトヲ命示シタルニ過キサレハ之ヲ以テ直チニ大瀨廣曾根ニ於ケル鰤漁業ノ入會ヲ認許シタル者ナリトハ認メ難ク又甲第三號證明治十三年ニ係ル其一中村三太郎ノ鑑札願ハ新規鰆釣營業ニシテ其漁場ハ字新川字伊作諸々ト記シ其二平助ノ鑑札願ハ新規鰆釣營業ニシテ其漁場ハ字新川字伊作沖合諸々ト記シ津島吉左衛門ノ六名ノ鑑札願ハ釣漁業新規營業ニシテ其漁場ハ字松山うん字新瀨字大瀨戸並小瀨戸沖合諸所ト記シ其諸所ナル者ハ共ニ一定ノ名稱アル場所ヲ指示シタルモノト認難ク且新規營業云々ニ依レハ舊來慣行アリシモノニアラサルノミナラス本件ニ關スル大瀨廣曾根ニ於ケル慣行ヲ觀ルノ證ト爲スニ足ラス又甲第四號證明治二十一年ノ原告等三名ハ慣行アル者ナル旨ノ指令及甲第六號證同上ノ理由書ハ本件係爭ノ達二第五號縣達ノ由來スル所ナレハ之ヲ以テ從來慣行アルノ證ト爲スヘキモノニアラス其他擧證中原告カ大瀨廣曾根ニ於テ加世田村ト入會シテ鰤漁業ヲ爲スノ慣行ヲ有セシコトヲ認ム可キモノナキヲ以テ其既得權ヲ毀損セラレタリト謂フ可カラス隨テ指令二第五一號ニ對シ異議ヲ主張スルコトヲ得ス又原告從參加人ハ東加世田村及田布施村沖合ニ在ル大瀨廣曾根ノ兩瀨ハ記臆ス可カラサル年代ヨリ加世田田布施兩村ニ於テ鰤其他ノ漁業ヲ爲シ來リシヲ一時中止セシモ明治十五年度ヨリ更ニ鰤釣漁業ヲ爲スコトトナリ兩村各浦浦ヨリ出漁スル場所ナルニ被告カ達二第五號ヲ以テ原告ハ大瀨廣曾根ニ於テ漁業ノ慣行ナキモノト達シ指令二第五一號ヲ以テ川畑清兵衛等カ不正ニ締結シタル鰤漁業組合規則ヲ認可シタルハ其結果從參加人等ヲシテ該兩瀨ニ於テ漁業ヲ爲スノ權ヲ失却スルニ至ラシムル不當ノ處分ナリト謂フト雖モ大瀨廣曾根ニ於テ加世田田布施兩村カ入會シテ鰤漁業ヲ爲スノ慣行アリト認ム可キ證據ナキハ前ニ述フルカ如ク尙原告從參加人ハ甲第三號證ノ出願竝指令及三ケ瀨ニ於テハ慣行ナキモノト心得ヘキ旨ノ達二第五號縣達ニ關係ナク且被告カ指令二第五一號ヲ以テ川畑清兵衛外二百五十五名ニ與ヘタル認可ハ鰤漁業組合規約ヲ認可シタルモノニシテ組合ノ人員及其資格等ヲ限定セシモノニ非サルニ因リ之カ爲該兩瀨ニ於テ漁業ヲ爲スノ權ヲ失却スルニ至レリトスルノ因由ナキモノトス故ニ被告答辯ノ一部ハ其當ヲ失スト雖モ達二第五號縣達及指令二第五一號指令ハ共ニ原告竝ニ原告從參加人ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト認ム可キ事項ナキヲ以テ取消ス可キモノニ非ス

(38) ●烟草稅則違犯證約金徵收ニ對スル不服ノ訴

二十八年第十九號　仝年二月二十七日裁決（東京市福室エイ對東京府知事三浦安）

判旨○證約金徵收ノ通告ヲ不當ナリトシ其取消ヲ請求スル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

(39) ●鰊漁業絞粕身欠胴鰊製造兼業願ニ對スル不當處分取消請求ノ訴

（第一門第一(129)判決理由參看）

二十七年第七十九號　二十八年三月二十日宣告（群馬縣平民都丸歐之助對北海道天鹽國増毛外五郡長林顯三）

判旨○建網漁業ハ免許ヲ得タル區域內ニ限ル故ニ其區域ヲ廢スルヲ以テ他ノ區域ヲ使用スルヲ得ス

被告カ本件營業願ヲ拒否シタル理由ノ一トシテ原告ノ願ハ増毛郡漁業組合規約第四十八條ニ抵觸スルモノナリ其第四十八條ハ建網數ヲ制限シタルニ止ラス建網ノ位置ヲモ制限シタルモノナリト謂フト雖モ組合規約第四十八條ニハ當組合中ニ於テ鰊差網出願ノ數ハ一萬二千七百六十八放ヲ以テ限リトシ鮭鱒鰊建網數ハ明治二十四年四月十五日マテニ出願シタルヲ以テ限リトシ云々トアリテ一モ位置ノ制限ニ涉ルモノナキニ依リ右第四十八條ハ建網ノ位置ヲモ制限シタリト謂フヲ得ス又原告ニ於テ規約第四十八條ノ定數ヲ超過セサルモノ卽チ原告營業願ノ如キ他ノ一方ノ建網ヲ廢シ一方ニ設クルモノハ被告ニ於テ拒否スルヲ得サルモノナリト謂フト雖モ建網漁業ノ免許ハ其場所限リ許可ヲ受ケタルモノナレハ一方ヲ廢スルヲ以テ其免許ノ效力ヲ他ニ及ホスヲ得ス故ニ規約第四十八條ノ定數ニ超過セサルノミヲ以テ許可スヘキノ理由アルモノト爲スヲ得ス而シテ

本件營業願ノ處分ハ被告ニ於テ管轄ノ一理由トシテ被告第一號證ノ如ク處分ノ際增毛郡漁業組合頭取ノ意見ヲ問ヒ原告ノ建網位置カ魚道ヲ遮リ他人ノ營業ヲ害スルモノト認メタルヲ以テ許可セサリシナリト申立之ニ對シ原告ハ隣網ノ距離及被告カ許可シタル前例ヲ擧ケテ陳辯スル所アリト雖モ被告ノ處分ヲ以テ法律命令ニ違反シタリト認ムヘキノ點ナキニ依リ本件被告ノ處分ヲ不當ナリト謂フヲ得ス

(40)◉不當裁決取消ノ訴

二十八年第十二號
仝年五月二十九日宣告
（宮崎縣東臼杵郡伊形村會議長久保德三郎對仝縣仝郡仝村長久保德三郎）

判旨○漁業ハ純然タル營業ニシテ其性質公共事業ニ非サルカ故ニ法人タル町村ノ爲シ得ヘキモノニ非ス（町村制第二條）

原告ハ數百人ノ漁夫ヲ使用シ而シテ其數設ノ箇所ハ一定ノ海面ヲ占有スルモノナレハ箇人的ノ事業ニアラサルニ依リ町村制第二條ニ包含スルモノナリト謂フト雖モ漁業ハ其性質純然タル一種ノ營業ニシテ公共事業タル性質ヲ有スルモノニアラサレハ法人タル町村ノ爲シ得ヘキ事業ニアラス從テ町會ニ於テ議決スルコトヲ得サルモノナレハ宮崎縣知事及東臼杵郡長カ原告ニ與ヘタル裁決ハ不當ト謂フヲ得ス

(41)◉海面區畫漁業借區繼年期願違法處分更正ノ訴ニ關スル妨訴抗辯

二十八年第二十一號
仝年五月三十一日宣告
（福島縣平民馬目長之助外十六名對仝縣菊多磐前磐城郡長町野重世仝縣知事日下義雄）

判旨○郡長ノ指令ニ對スル訴願ヲ却下シタル縣知事ハ該指令竝裁決ヲ不當トスル訴ニ於テ對手人ト爲ル責務アリ

（第一門第三(24)判決理由參看）

(42)◉捕介採藻營業免許一部取消ニ關スル處分取消ノ訴

二十七年第五十號
二十八年六月十日宣告
（廢手縣平民金野鶴吉外百二名對仝縣知事服部一三被告從參加人仝縣平民戶羽仙之助外二十名）

判旨○舊藩廳ノ裁定ニ據リテ確定シタル營業ノ權利ハ拋棄若クハ舊慣變更ノ事實ナクンハ之ヲ喪失スルモノニ非ス

原告ハ甲第七號證ニ依リ小友村ニハ浮魚ノミ入合ノ權アリト謂ヒ甲第八號證根付魚海草等ノ漁事候樣トアルニ依リ捕魚ノ外捕介採藻ハ專ラ原告村ノ漁權ニ屬スト謂フト雖モ甲第七號證ハ原告村當時ノ願書ニ止マレハ其事實ヲ證スルニ足ラス甲第八號證ハ舊藩廳ノ下知書ナルモ甲第九號證及乙第十四號證ノ如ク同一ノ事件ニ付更ニ藩廳ノ裁定ヲ經タルヲ觀レハ其第八號證ハ確定シタル裁定ト爲スヲ得ス而シテ甲第九號證乙第十四號證ニ依レハ其第二項ニ小漁ノ分入合ニ是又可仕候事但海草カキシウリマリコ岩付ノ分可爲漁切事トアリ然ラハ小漁ナルモノハ甲第七號證原告カ當時主張セル浮魚ノミニ限ルトノ申立ヲ採用セスシテ三種ヲ取除ク外捕介業モ包含セシメタルノ意義ナルヲ知ルヘキノミナラス其但書ハ被告乙第八號證當時小友村ノ申立ヲ認可シテ海草外三種ニ限リ廣田村ノ漁切漁事ト定メタルヲ知ルヘシ又原告ハ甲第三十八號證甲第四十一號證甲第四十三號證等ヲ以テ小友村ニ入合ノ慣例ナキヲ知ルヘシト申立竝ニ原告ノ漁業免許ニ對シ小友村カ曾テ異議ヲ唱ヘサルハ小友村ニ入合漁業ノ慣例ナキヲ視ルニ足レリト謂フモ甲第九號證乙第十四號證即藩廳ノ裁定ニ依リテ確定シタル權利ヲ小友村ニ於テ拋棄シタルカ若クハ維新後舊慣ヲ變更シタル事實ヲ證スルモノナキ以上ハ論所ニ對シ小友村ニ入合漁業ノ權利ナシト認ムルヲ得ス故ニ本件ニ對スル被告ノ處分ハ其當ヲ失フモノニアラス

(43)◉漁業權回復ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十七年第四十九號
二十八年六月二十八日宣告
（廢手縣東閉伊郡津輕石村長船越合治對仝縣東中北閉伊郡長新渡戶宗助）

判旨○町村カ法人トシテ行フ事業ハ公共的ナルヲ要スル町村ノ公共事務ト謂フヲ得ス從テ公共事務ニ非サル漁業權回復ノ訴訟ハ町村長ノ資格ヲ以テ提出スルヲ得ス（町村制第二條第六十八條七號）

（第一門第一(142)判決理由參看）

(44)◉海面區畫漁業場借區繼年期出願ニ對スル違法處分更正ノ訴

二十八年第二十一號
仝年七月九日宣告
（福島縣平民馬目長之助外十六名對仝縣菊多磐前磐城郡長町野重世仝縣知事日下義雄）

判旨○郡長カ漁場借區繼年期出願ニ隣村連署ヲ要スル爲メ一應下戻シタルニ止リ未タ其出願ニ對シ何等ノ處分ヲ爲ササルモノハ法律第百六號第二二所謂營業免許ノ拒否ニ非ス（法律第百六號第二二）

（第一門第一(144)判決理由參看）

(45)◉水車營業繼續願不當處分取消請求ノ訴ニ關スル妨訴抗辯

二十八年第七十四號
仝年十二月二十七日宣告
（和歌山縣平民前田半十郎對仝縣伊都郡長稻葉久通）

判旨○訴願法第八條ノ訴願期限起算點ハ直接ニ處分ヲ受ケタル者ニ對シ適用スヘキ規定ニシテ該處分ヲニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル他ノ者ニ對シテハ其處分アリシコトヲ知得シタル日ヨリ起算ス（訴願法第八條）

（第一門第四(27)判決理由參看）

(46)◉漁業免許並ニ漁業拒絕ノ不法處分取消ノ訴

二十八年第六十七號
仝年十二月二十八日宣告
（岡山縣平民水嶋隣多對北海道紗那外三郡長代理郡書記鈴木瑞枝）

判旨○漁業免許ニ就テハ先願效ヲ付與スル法則ナシ
○追完セシメ得ル願書ハ全然無效ニ非ス
○處分ニシテ事務取扱ニ關スル內規ニ違反スルモ一私人ハ之ヲ援用シテ權利ノ毀損ヲ主張スルヲ得ス

原告ニ於テハ明治二十六年五月二十六日原告提出ニ係ル內保村字「ノボンノツ」立岩ニ於ケル紅鱒建網漁業願ヲ却下シ同年五月八日谷茂平出願ニ係ル同一漁業願ヲ許可シタル被告ノ處分ハ不法ナリトシ第一谷茂平カ漁業願書ニ添附シテ郡役所ニ差出セシ副願書ハ隣接漁業者タル原告ニ連署ヲ求メタレトモ原告ハ之ニ應セス拒絕ノ理由書ヲモ差出ササル旨虛僞ノ陳述ヲ記載セルモノニテ北海道水產物取締規則第六條末段ニ該當セサル無效ノ出願ナリト主張スレトモ元來漁業免許ニ就テハ先願效ヲ付與セル法則ナキヲ以テ先願者ハ必ス免許ヲ得ヘキモノト限ラス行政廳ノ見込ヲ以テ出願ノ前後ニ據ラサルコトアルモ之ヲ以テ直チニ違法ノ處分ナリト謂フヲ得サルノミナラス谷茂平ノ漁業願書ニハ原告ニ連署ヲ求メタレトモ原告之ニ應セス拒絕ノ理由書ヲモ差出ササル旨ヲ記載セル副願書ヲ添附セルカ故ニ北海道水產物取締規則第六條ノ方式ヲ備ヘ且ツ其受附日附ハ明治二十六年五月八日ナルヲ以テ原告ノ出願ニ先タツ有效ノ願書ナリトス然ルニ原告ハ右副願書記載ノ事項ヲ以テ虛僞ノ陳述ナリト謂フトモ北海道水產物取締規則第六條ハ行政廳ノ專務取扱ニ關スル規定ニシテ隣接漁業者ニ對シ副申事項ノ反對ヲ證明シ以テ出願ヲ無效タラシムル權利ヲ與ヘタルモノニアラス左レハ被告ニ於テ調査ノ結果谷茂平ノ副申事項ヲ以テ眞實ナリト信認セシ以上ハ有效ナル漁業願書トシテ處分ヲ爲セシハ當然ニシテ原告ハ之ニ對シ容喙スル權利ナキモノトス然ラハ則チ其副申事項ノ果シテ虛僞ナルヤ否ヤ竝ニ該爭點ニ關スル原告ノ甲第十號證乃至甲第十四號證ハ竝ニ之ヲ說明スル必要ナキモノトス第二明治二十六年五月付谷茂平ノ漁業願書ハ其手續ヲ誤リタル爲メ一旦却下セラレ其出願タル全ク消滅ニ歸シ當初ヨリ之レ無カリシモノト同然ナリ茂平ハ更ニ同年八月中副願書ヲ差出シ先キニ却下セラレタル漁業願書ヲ追完セントスレトモ是レ新ナル出願ニシテ爲ニ最初出願ノ日時ニ溯リ其ノ效力ヲ保持スルモノニアラスト主張スレトモ甲第四號證竝ニ甲第十一號證ノ二等ニ却下ノ文字ヲ使用セル一事ヲ以テ原告ノ主張ヲ證明スルニ足ラサルノミナラス現ニ乙第四號證ニ依レハ隣接漁業者ノ連署ヲ受ケシムル爲メ差戻シタルモノナルコト明瞭ナルヲ以テ茂平カ八月ニ差出セシ願書ハ最初出願ノ日ニ溯リテ其效力ヲ有スルモノトス原告ハ又完全ナル原告ノ願書ヲ差措キ不完全ナル谷茂平ノ出願ニ對シ其不備ヲ訂正セシメタル上許可ヲ與ヘシ被告ノ處置ハ不當ナリト謂ヘトモ追完セシムルコトヲ得ル願書ハ全然無效ニアラサルヲ以テ被告カ其不備ヲ補正セシメタル上出願ノ先後ニ依リ處分ヲ爲セシハ決シテ不當ニアラス第三原告ノ出願セシ場所ハ立岩ヨリ卯ノ方位ニ當ル沖出三百間ニシテ谷茂平ノ出願セシハ同所ヨリ巳午ノ方位ニ當ル沖出三百間ナリ卽チ出願ノ方位ヲ異ニセルヲ以テ各其方位ニ付キ先願效ヲ有スルモノナルニ原告ノ出願ヲ却下シ谷茂平ノ出願ヲ許可セシハ不當ナリト主張スレトモ其出願ノ場所ハ同一字名中ニ在リテ互ニ相接近セル箇所ナルヲ以テ設令方位ニ於テ多少異ナル所アレトモ是レ亦二者相接近シ相當ノ間隔ヲ有セサルヲ以テ先願者タル谷茂平ニ許可ヲ與フル以上ハ勢セ原告ノ出願ヲ却下セサルヲ得ス況ンヤ乙第六號證ノ一ニ依レハ茂平ノ出願セシ方位モ亦原告ト異ナラサルニ於テヲヤ故ニ原告ノ此點ニ於ケル主張モ亦其理由ナキモノトス第四出願地ト隣接漁網トノ距離ハ五百間以上ヲ隔ツルコトヲ要スルハ漁業組合竝ニ被告ノ認ムル所ナリ而シテ谷茂平ノ出願地ハ原告カ明治三十二年中許可ヲ得シ隣接漁網ニ對シ此間隔ナキニモ拘ラス之ヲ許可セシハ卽チ原告ノ既得漁業權ヲ毀損シタル不當ノ處分ナリト主張スレトモ五百間以上ノ間隔ヲ要スルノ點ハ畢竟事務取扱ニ關スル內規ニ過キサルヲ以テ原告ハ自己ノ權利ヲ毀損セラレタルモノトシテ之レヲ援用スルコトヲ得サルモノトス第五ノツルモベツ」海面ノ地理ハ谷茂平ノ熟知セル所ナルヲ以テ最初出願ニ際シ隣網トノ間隔一里以外ナリト記載シ北海道水產物取締規則第六條但書ニ該當スルモノトセシハ先願者ノ位置ヲ得シカ爲メ故意ニ出テタルモノナリト主張スレトモ被告カ谷茂平ニ許可ヲ與ヘシハ茂平ノ出願ヲ以テ該則但書ニ該當スルモノトシテ處分ヲ爲シタルモノニアラス卽チ相當ノ手續ヲ經テ訂正ヲ爲サシメタルニ依リシモノナルカ故ニ其果シテ故意ニ出テタルモノナルヤ否ヤヲ究ムル必要ナキモノトス

(47) ◉訓令取消訴願ノ裁決不服ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十七年第八十一號
二十九年三月十日宣告（富知縣平民濵崎吉三郎外四十七名對全縣幡多郡長桑原平八）

判旨○郡長ノ訓令ニ基キテ爲シタル村長ノ處分ニ對スル訴ニ於テ該郡長ハ對手人ト爲ル責務アリ

（第一門第三(26)判決理由參看）

(48) ◉銀鑛試掘認可願無效處分ノ訴願不受理ノ處分ニ關スル訴

二十九年第二十一號
全年三月十三日裁決（北海道平民松田學對農商務大臣子爵榎本武揚）

判旨○銀鑛試掘願ニ關スル效力上ノ爭ハ鑛業條例ノ規定ニ從フヘキモノニシテ法律第百六號第三ノ範圍內ニ屬スヘキモノニ非ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(161)判決理由參看）

(49) ◉違約處分認可取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十九年第十三號
全年四月十五日宣告（山形縣平民佐藤長次郎外一名對農商務大臣子爵榎本武揚）

判旨○取引所仲買人除名ノ申請ニ認可ヲ與フルハ農商務大臣カ仲買人ニ對スル一ノ行政處分トス又其除名ノ認可ハ初メニ與ヘタル營業免許ノ取消ニ外ナラサルヲ以テ之ニ對スル不服ハ法律第百六號第三ニ該當スル事件ナリ（法律第百六號第三）

（第一門第一(164)判決理由參看）

(50) ◉不當處分取消ノ訴

二十九年第四十六號
全年六月二十五日宣告（北海道平民加濱勘七對全道檢山外五郡長岩波常景）

判旨○同一場所ニ對スル漁業營業ヲ先願者ニ許サスシテ後願者ニ許シタルモ違法ニ非ス

原告ハ漁業營業願ハ先ツ漁業組合事務所ニ差出シ事務所ヨリ戶長役場ニ進達スル慣例ナレハ出願ノ先後ハ願書ヲ事務所ニ差出ス日時ヲ以テ定ムヘキモノナリ而シテ飯田富五郎カ願書ヲ事務所ニ差出シタルハ原告出願ノ翌日ニシテ卽チ後願者ナルニ被告カ之ニ許可ヲ與ヘ原告ノ出願ヲ拒否シタルハ違法ノ處分ナリト謂フト雖モ北海道水產物取締規則及其他ノ法令中漁業營業願ハ出願ノ先後ヲ以テ其許否ヲ定ムヘキ規定ナキニ依リ出願ノ先後ニ拘ラス之ヲ許否スルコトアルモ其處分ヲ以テ直ニ違法ナリト謂フヲ得ス從テ被告カ原告ノ出願ヲ拒否シタルハ先願權ヲ侵害シタル違法ノ處分ト謂フヲ得サルナリ

(51)◉訓令取消訴願ノ裁決不服ノ訴（第一門第(三)(26)妨訴抗辯ノ本案）

二十七年第八十一號
二十九年七月三日宣告

（高知縣平民濵崎吉三郎外四十七名對仝縣幡多郡長桑原平八原告從參加人仝縣平民岡淺次郎外五十五名被告從參加人仝縣知事石田英吉仝縣平民武田伊藏外六十二名）

判旨○大敷網漁業ノ如キ海面一定ノ區畫ヲ使用シテ捕魚ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ出願シテ其許可ヲ受クルヲ要ス（八年太政官布告第百九十五號）

原告ハ本訴大敷網撤囘ニ關スル被告ノ訓令ハ適法ノ委任ヲ受ケシテ發シタル越權ノ處分ナリト謂フト雖モ明治二十二年高知縣令第百二十二號ヲ以テ定メタル郡市長委任條件中其第二十三項ニ捕魚ノ爲メ魚梁瀨張八重ノ類構造願ノ事トアリ本件大敷網ニ關スル事件ノ如キモ同項規定ノ委任範圍内ニ包含スルモノト解釋スルヲ適當ナリトス故ニ被告ノ發シタル大敷網撤囘ノ訓令ハ違法ノ行政處分ナリト謂フヲ得ス又原告ハ適法ノ委任アリテ被告カ之レヲ發シタルモノト假定スルモ該訓令ハ舊慣ニ從ヒ從來ノ範圍内ニ於テ捕魚シ來リタル原告等ノ權利ヲ害シタルモノナリト謂フト雖モ大敷網漁業ノ如キハ一定ノ海面ヲ區畫使用シテ捕魚ヲ爲スモノナレハ原告ニ於テ該漁業ヲ營マントスルトキハ明治八年太政官布告第百九十五號ニ依リ管轄官廳ニ出願シテ其許可ヲ得サルヘカラス然ルニ原告ハ甲第七號證周防形櫂ノ浦爾部落契約證第二條ノ如ク各自ノ境界内ニ於テ大敷網ヲ敷設スルモ異議ナキコトヲ確約シ此契約ニ基キ甲第八號證大敷網布設願寫ノ如ク出願シ其許可ヲ取タリト謂フト雖モ甲第八號證ハ願書ノ本書ニ非サレハ該證中明治二十三年七月八日付村長代理助役濕淵政亮奥書證印ノ上同日進達濟及ヒ明治二十三年同月二十五日附置ト成ル本紙同綴ト記載シアルモ被告ニ於テ該願書ヲ受理セス隨テ之レニ對シテ何等ノ指令ヲ與ヘタルコトナシト抗辯スル以上ハ他ニ確證ナキ限リハ甲第八號證ノ如キ願書並ニ許可ノ指令アリタルモノト認ムルヲ得ス又原告ハ甲第四號證乃至甲第六號證等ヲ以テ原告等ニ海面漁業ノ舊慣アルコトヲ主張スト雖モ該證ハ本件大敷網漁業ニ關スル願書指令ナリト認メ難キモノナレハ之レヲ以テ原告ハ大敷網ヲ數設シ漁業ヲ爲スノ權利アリトノ證據ト爲スニ足ラス故ニ被告ノ發シタル幡訓令第九一號ハ適法ノ訓令ニシテ之レヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

(52)◉不當命令取消請求ノ訴

二十九年第八十七號
仝年十月二十八日宣告

（東京府平民猪俣鐵五郎外一名對警視總監山田爲噿）

判旨○警視廳ニ於テ風俗ヲ害スルノ虞アリト認メ待合茶屋營業免許ノ失效ヲ命シタルハ不當ニ非ス

○警視總監ノ命ニ依リ第一課長ノ爲シタル警視廳令字句ノ訂正ハ有效ナリ

原告ハ開業以來何等不都合ノ所爲ナキニ被告ニ於テ取締規則第二條ヲ適用シ營業免許ノ失效ヲ命令セシハ不當ナリト謂フト雖モ被告ノ申立及其取調書ニ依レハ被告ノ原告ノ行爲ヲ以テ風俗ヲ害スルノ虞アリト認メ該命令ヲ交付セシハ不當ノ處置ト認ムルヲ得ス又原告ハ警視廳令第八號ハニ於テ之ヲ爲スヘキモノニアラス故ニ其第二條中「行爲」ヲ「虞」ト訂正セシハ無效ナリト謂フト雖モ其訂正ハ第一課長ニ於テ警視總監ノ命ヲ受ケ之ヲ爲シタルモノナレハ有效ノモノト謂ハサルヲ得ス

(53)◉農商務大臣ノ裁決不服ノ申立竝ニ試掘地ニ於ケル金銀銅石炭鑛採掘特許排斥處分取消請求ノ訴

二十九年第九十八號
仝年十一月七日裁決（秋田縣平民高村勝廣外一名對農商務大臣子爵榎本武揚）

判旨○採掘特許ノ拒否ニ關スル事件ハ法律百六號第三ニ包含セサルノミナラス其拒否ニ對シテハ鑛業條例中出訴ヲ許ス規定ナシ（法律第百六號第三）

（第一門第一(177)判決理由參看）

(54)◉漁場稼業否免許取消ノ訴

二十九年第五十號
仝年十一月九日宣告

（廢手縣東閉伊郡船越村字大浦住民總代川端牛兵衛外七名對仝縣東中北閉伊郡長太田時敏）

判旨○他人亦營業シタル事實アルトキハ自己獨リ其慣行者ナリト謂フヲ得ス

原告ハ本件漁場ニ於テ天明年度以來漁業ヲ行フタル慣例アルヲ以テ廢手縣漁業採藻取締規則第四條ニ依リ原告部落ニ漁業ヲ許可セラルヘキ筈ナルニ被告ニ於テ之ヲ許可セサルハ不當ナリト謂フト雖モ原告部落ノ住民カ天明年間該漁場ニ於テ稼業ヲ爲シタルハ事實ナリトスルモ其以後ニ至リテハ或ハ舊藩主ニ於テ自ラ漁業ヲ爲シ或ハ他町村ノ一箇人ニ於テ稼業ヲ行ヒタル事實ナレハ原告部落ノ住民ニ於テ從來共同稼業シタル慣例アリト謂フヘカラス故ニ被告郡長カ本件原告ノ出願ヲ許可セサルハ該規則第四條ニ照ラシ不當ノ處分ナリト謂フヲ得ス隨テ其處分ハ取消スヘキモノニアラス

(55)◉水車營業繼續願不當處分取消請求ノ訴（第一門第四(27)妨訴抗辯ノ本案）

二十八年第七十四號
二十九年十一月十一日宣告

（和歌山縣平民前田半十郎對仝縣伊都郡長稻葉通久）

判旨○郡長ニ於テ村長ノ爲シタル正式ノ具申ヲ調査完全ノモノト認メ水車營業繼續願ヲ許可シタルハ違法ニ非ス

原告ハ岩本總兵衛ノ水車營業地最寄水路關係區域内ニ在リテ其事實ハ既往ノ事跡ト實際ニ徵シ疑ヒナキ所ナリ而シテ被告ハ原告等ノ故障アルニ拘ラス之ヲ關係區域外ノモノト看做シ總兵衛ノ水車營業繼續願ヲ許可シタルハ一ノ水車營業規則ニ背キ一ノ關係者ノ權利ヲ無視シタル違法ノ處分ナリト謂フト雖モ被告ハ村長ノ正式ノ具申ニ依リ調査完全ナルモノト認メ該出願ニ對シ許可ヲ與ヘタルモノナレハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(56)◉水車營業繼續願不當處分取消請求ノ訴（第一門第一(28)妨訴抗辯ノ本案）

二十八年第七十五號
二十九年十一月十一日宣告

（和歌山縣平民橋太助外四名對仝縣伊都郡長稻葉通久）

判旨○郡長ニ於テ村長ノ爲シタル正式ノ具申ヲ調査完全ノモノト認メ水車營業繼續願ヲ許可シタルハ違法ニ非ス

（本件判決理由ハ(55)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(57) ◉不當裁決取消ノ訴

二十九年第百八號
仝年十二月八日裁決
（廣島縣士族龜川萬三對農商務大臣子爵樞本武揚）

判旨○鑛業特許權ニ關スル訴權ノ有無ニ就テハ法律第百六號ヲ適用セス又特許證書換ニ關スル行政廳ノ處分ニ對シ鑛業條例中出訴ヲ許スノ規定ナシ（法律第百六號）

（第一門第一(182)判決理由參看）

(58) ◉鰊漁業ニ關スル訴

二十九年第六十七號
仝年十二月二十五日宣告
（北海道平民米田盛對仝道廳長官原保太郎）

判旨○漁業ニ關スル訴願ハ代人ニ據リ提出スルコトヲ得

（第一門第四(41)判決理由參看）

(59) ◉阿賀早出兩川漁場營業免許ニ關スル訴

二十九年第四十四號
仝年十二月二十八日宣告
（新潟縣平民戶島治六外二十三名對仝縣知事淺田德則）

判旨○漁業權ハ沿岸人民ノ所有ニ屬スヘキモノニ非ス○知事ハ人民ノ漁業願ヲ許否スルノ職權アリ○漁業免許ヲ得タル甲者ニ違法ノ所爲アルモ之ヲ以テ同一ノ漁場ニ於ケル漁業免許ヲ乙者ニ許可スルノ理由ト爲スニ足ラス○漁業免許ニ就テハ先願效ヲ付與スヘキ法令ナシ

原告ニ於テ第一漁業權ハ明治九年太政官達ニ基キ法律上當然從來ノ慣習アル漁業者ニ屬スヘキモノニシテ知事ノ職權ハ其權利ノ有無ヲ確認スルニ止マルモノナルコトヲ主張スルモ漁業權ハ沿岸人民ノ所有ニ屬スヘキモノニ非ス而シテ知事ハ法律規則ニ依リ人民ノ出願ニ對シ免許ヲ與ヘ若クハ之ヲ拒否スルノ權アルモノトス第二原告ハ被告ノ指令ハ取締規則ニ違背スルモノナリ該規則ニ依レハ漁業ヲ營ム者ニ許可スヘキ筈ナルニ被告カ免許ヲ與ヘタル服部幾七等ハ自ラ營業セスシテ其權利ヲ他人ニ公賣シタルモノナリト謂フト雖モ總令服部幾七等ニ此ノ如キ所爲アリトスルモ其所爲ハ或ハ幾七等ノ得タル免許ニ影響ヲ及ホスコトアルモ之ヲ以テ本件原告ノ出願ニ對シ免許ヲ與フヘキ理由ト爲スヲ得ス第三原告ハ最ニ漁業ノ免許ヲ得タル後明治二十一年中一旦廢業ヲ願出タレトモ其願タル當分種川ヲ廢シ時期ヲ以テ更ニ出願スルノ意ニシテ被告ハ之ヲ聞屆ケタルモノナレハ被告ハ今回ノ出願ニ對シ原告ニ許可ヲ與フヘキ義務アリト謂フト雖モ甲二號證ニ依ルモ被告ハ廢業ノ上申ニ對シ「聞屆」ノ指令ヲ爲シタルモノニシテ原告將來ノ出願ニ對シ許可ヲ與フルコトヲ約シタルモノニアラス又原告ハ願書ニ休業トアリタルヲ廢業ト改メタルハ總代ノ一人タル宮川藤太郎越權ノ所爲ナリト謂フト雖モ其後總代全體ノ連署ヲ以テ提出シタル乙第四號證ニ依レハ種川廢業云々トアリテ一同ニ之ヲ承認シタルモノナルヲ知ルニ足ル第四原告ハ服部幾七等ノ出願ニ對シ先願者ナルコトヲ主張スルモ本件漁業ノ許否ニ付テハ出願ノ先後ニ依リ決スヘキ法令アラサレハ是亦タ被告ノ處分ヲ違法ナリトスルノ理由トスルヲ得サルモノトス

(60) ◉鰊建網營業ニ關スル訴願權回復要求

ノ訴

二十九年第五十八號
三十年一月二十六日宣告
（北海道平民五十嵐綱治對仝道廳長官原保太郎）

判旨○訴願經由ノ途ヲ誤リタル爲ニ要シタル日時ハ訴願期間ノ進行ヲ妨ケス（訴願法第二條）

（第一門第四(45)判決理由參看）

(61) ◉違法處分取消ノ訴（第一門第一(164)妨訴抗辯ノ本案）

二十九年第十三號
三十年六月三十日宣告
（山形縣平民佐藤長次郎外一名對農商務大臣伯爵大隈重信）

判旨○米穀取引所ハ其所屬仲買人ノ藏所ニ就キ屆出ノ米穀俵數ヲ檢査スル權限アリ（取引所法第二十二條）

○虛僞ノ藏所屆ヲ爲シ渡米ノ差出ヲ怠リタリト認メタル仲買人ヲ違約者トシ除名ノ處分ヲ行ヒタルハ適法ナリ

第一本件備米ノ不足アリシヤ否ヤノ點ニ付原告ハ第六號證ノ一ヨリ七マテ即チ各藏主ノ證明書ヲ提出シ以テ原告屆出ノ通リ備米ノ現存セシコトヲ主張シ被告ハ之レニ對シ乙第一號證山形米穀生絲取引所理事長ヨリ農商務大臣ニ宛タル申告書及乙第五號證同理事長ヨリ山形縣知事ニ宛テタル答申書ヲ援用シ以テ反證ト爲セリ依テ先ツ原告第六號證ヲ見ルニ右ハ各藏主ヨリ原告ニ出シタル證明書ニシテ明治二十八年九月三十日臨時檢査ノ際原告屆出ノ通リ各自倉庫中ニ備米ノ現存セシコトヲ主張シ被告ハ之レニ對シ乙第一號證山形米穀生絲取引所理事長ヨリ農商務大臣ニ宛タル申告書及乙第五號證同理事長ヨリ山形縣知事ニ宛テタル答申書ヲ援用シ以テ反證ト爲セリ依テ先ツ原告第六號證ヲ見ルニ右ハ各藏主ヨリ原告ニ出シタル證明書ニシテ明治二十八年九月三十日臨時檢査ノ際原告屆出ノ通リ各自倉庫中ニ備米ノ現存セシコトヲ主張シ被告ハ之レニ對シ乙第一號證山形米穀生絲取引所理事長ヨリ農商務大臣ニ宛タル申告書及乙第五號證同理事長ヨリ山形縣知事ニ宛テタル答申書ヲ援用シ以テ反證ト爲セリ依テ先ツ原告第六號證ヲ見ルニ右ハ各藏主ヨリ原告ニ出シタル證明書ニシテ明治二十八年九月三十日臨時檢査ノ際原告屆出ノ通リ各自倉庫中ニ備米ノ現存セシコトヲ主張シ被告ハ之レニ對シ乙第一號證山形米穀生絲取引所理事長ヨリ農商務大臣ニ宛タル申告書及乙第五號證同理事長ヨリ山形縣知事ニ宛テタル答申書ヲ援用シ以テ反證ト爲セリ依テ先ツ原告第六號證ヲ見ルニ右ハ各藏主ヨリ原告ニ出シタル證明書ニシテ明治二十八年九月三十日臨時檢査ノ際原告屆出ノ通リ各自倉庫中ニ備米ノ現存セシ旨ヲ記載シアルモ何レモ同年十月十五日ヨリ翌年二月二十八日マテノ間ニ作製シテ原告ニ與ヘタルモノナレハ之ヲ以テ臨時檢査ノ當時ニ於ケル備米ノ現狀ヲ確知シ得ヘキ證據ト爲スニ足ル者ト認ムルヲ得ス就中高桑甚右衞門證明書中ニハ米二百五十俵勇藏分右親子同居ノ事故自分倉庫ニ積入タル旨ヲ記載シアレトモ臨時檢査ノ際取引所員カ勇藏ノ倉庫ニ就キ積立米ノ不足アルヲ認メタルモノナレハ後日父甚右衞門方ニモ勇藏分ノ積入アリタリトテ之ヲ以テ勇藏方ノ不足ヲ補フコトヲ得サルモノトス又平吹祐助長谷川長吉ノ證明書中ニハ最初取引所員荒井太四郎派出ノ際ニハ各々一時ノ行違ヨリ佐藤長次郎名淺ノ米ナシトノ證明書ヲ差出セシモ更ニ長次郎ノ請求ニ依リ荒井太四郎再出張シ藏入米充分ナルコトヲ認メ且前ノ證明書ノ取消書ヲ受取リ歸リタル旨ヲ記載シアルモ證人荒井太四郎ノ陳述ニ依レハ證人ハ自分一私人ノ資格ニテ再ヒ平吹祐助方ヘ參リ倉庫ヲ檢査セシニ諸所ニ積立米アリシヲ認メ且前ノ證明書取消ノ書面ヲ一私人ノ資格ニテ受取リ歸レリト謂ヒ又長谷川長吉方ヘハ再檢査ニ行カスト謂ヒ其他證人ノ謂フ所ニ依レハ平吹方ノ再檢査ヲ行タルハ取引所員ノ職務ヲ以テシタルモノニアラス其持歸リタル取調書ハ取引所ヘ差出シタルコトナキカ如シ又積立米ハアリシモ長次郎ノ米ナリシト答フルヲ得ス右證人荒井太四郎ノ陳述ニ依テ見レハ原告第六號證ノ六七八最モ信ヲ措クニ足ラス之ニ反シ被告提出乙第五號證ノ中ニハ藏主中平吹祐助及長谷川長吉方ニ出張セシ理事荒井太四郎所員小林信正ノ取調書室岡マス齋藤茂助及山田庄五郎方ニ出張セシ副支配人田中金彥所員佐藤飛久太郎ノ取調書高桑幸助高桑勇藏及渡邊喜助方ニ出張シタル所員田中金彥所員小林信正ノ復命書等アリ右取調書復命書ハ取引所理事長ノ命ニ依リ同所役員二名宛一組ト成リ各々仲買人ノ藏所ニ出張シ每藏所ノ藏主又ハ代人立會ノ上ニテ倉庫中ノ積立米ヲ檢査シ或ハ別ニ藏主ノ證明書ヲ取リ其現狀ヲ理事長ニ報告シタル職務上ノ取調書ニシテ臨時檢査當時ニ於ケル各藏所ノ現狀ハ之ニ依テ

推定ヲ下スニ足ルモノト謂ハサルヘカラス而シテ原告ノ證據書類又ハ各證人ノ申立中ニハ一モ之ヲ打消スヘキ價値ヲ具スルモノアルヲ見ス依テ本件原告等ノ備米ニハ被告乙第五號證ニ謂ヘル如キ不足米アリシモノト認定セサルヲ得ス第二原告ハ臨時檢査ノ取引所定款營業細則其他何等ノ法令規約ニモ規定ナキ者ナレハ是レ越權不法ノ處置ナリト謂フト雖モ取引所ノ仲買人ノ賣買取引上ヨリ生スル損害ニ付テハ賠償ノ責ニ任スルコトヲ取引所法第二十二條ニ規定スル所ナリ然ラハ取引所カ自カラ受授スル金穀ノ數量ヲ檢査スルハ當然ノ職務ナレハ其所屬仲買人ノ藏所ニ就キ屆出ノ米穀俵數ヲ調査スルハ越權ノ處置ナリト謂フヲ得ス第三原告ハ假リニ臨時檢査ノ當時不足米アリシトスルモ本件ハ營業細則第四十六條ヲ以テ論スヘカラス該條ニ渡米ノ差出ヲ怠リ云云トアレトモ定款第九十八條ニ賣主ハ銘柄藏所ヲ屆出テ云云トアルニ依リ原告ハ所謂藏所ヲ屆出タルモノナリ故ニ渡米ノ差出ヲ怠リタルモノニアラスト謂フト雖モ抑モ藏所屆ナルモノハ現在ノ米穀ヲ代表スヘキ性質ノモノナルカ故ニ虛僞ナル藏所屆ハ是レ無效ノ屆出ニシテ正シク最初ヨリ藏所屆ヲ出ササルモノト同一ナリ故ニ之ヲ以テ細則第四十六條ノ渡米ノ差出ヲ怠リタルモノト爲シ該條ニ依リ違約者ヲ以テ論スルハ正當ノ適用ナリト謂ハサルヘカラス又原告ハ積立米ノ過不足ハ定款第九十八條末段ノ手續ヲ經テ始メテ論スヘキモノナリト謂フモ本件ハ既ニ說明セシカ如ク取引所ノ職權ヲ以テ臨時檢査ヲ行ヒ藏所屆ノ虛僞ナルヲ發見シタル場合ナレハ定款第九十八條末段ノ手續ト關係スル所アラス第四點及第五點トシテ原告ノ論スル所モ同シク本件ニ關係スルモノニアラス何トナレハ臨時檢査ノ結果藏所屆ヲ本來虛僞ノモノナリト定メ營業細則第四十六條ヲ適用スル以上ハ更ニ同細則第二十五條ニ依リテ不足高ノ割合如何ヲ論スルノ必要ナケレハナリ第六原告ハ取引所カ藤田德五郎ノ既ニ結了シタル一部受渡ヲモ取消シタルハ不法ナリト謂フモ本件ハ前述ノ如ク原告ノ差出シタル藏所屆カ最初ヨリ虛僞無效ノモノナルニ由リ違約處分ヲ爲シタルモノナレハ右無效ノ藏所屆ニ基ツキ結了シタル一部分ノ受渡ヲ取消スハ當然ノ結果ナリト謂ハサルヘカラス要スルニ本件山形米穀生絲取引所カ執行シタル臨時檢査ハ越權ニアラス又此臨時檢査ノ結果原告等ノ備米ニ不足アルコトヲ發見セシ上ハ原告等ノ出セシ藏所屆ハ虛僞無效ノモノタリ此藏所屆無效タル以上ハ營業細則第四十六條ニ依リ原告等ヲ以テ渡米ノ差出ヲ怠リタル者トシ違約者ヲ以テ處分シ取引所ヨリ除名ヲ申請シ被告農商務大臣ノ之ヲ認可シタルハ適法ノ處分ニシテ之ヲ取消スヘキノ理由ナキモノトス

(62)◉營業免許ノ拒否處分ニ係ル訴

三十年第六十一號
仝年十二月一日宣告　（鳥取縣平民北海道寄留安富芳三）
（郡對北海道廳長官男爵安場保和）

判旨○管轄官廳ハ漁業願ヲ許否スルノ職權アリ

原告ニ於テ留萌郡長カ原告ノ出願ニ對シ本年二月十三日付ヲ以テ許可シ難シト爲シタル指令ハ其理由ヲ付セサルニ依リ被告ニ訴願セシニ被告ノ裁決モ亦場所ノ善惡漁利ノ厚薄ヲ理由トシ請求相立タスト爲セシハ原告ノ當然享ケ得ヘキ權能ヲ剝クニ至レル趣ヲ主張スト雖モ營業ニ付許可ヲ要スルモノハ其管轄廳ニ於テ之カ許否ヲ決定スヘキ職權ヲ有スルニ由ルモノナリ而シテ本件被告ノ處分ハ法律規則等ニ違背シタルモノト認ムヘキ事項ナキヲ以テ敢テ違法ノ處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリト謂フヲ得ス

(63)◉綱網營業免許拒絶ニ關スル不法處分

取消ノ訴

三十年第六十八號
仝年十二月一日宣告　（香川縣士族土田新八對仝縣阿野鵜足郡長中島尙邨）

判旨○郡長カ漁業願ニ必要條件タル關係市町村ノ漁業者總代並組合頭取ノ支障ナキ旨ノ保證ヲ添ヘスシテ提出シタル漁業願ヲ拒否シタルハ不當ニ非ス

原告ニ於テ本件ハ縣令第五十九號第四條ニ謂フ所ノ慣行ナキ漁業ニ屆スルヲ以テ其近接地タル町村ノ保證ヲ得レハ足ルモノニシテ故ラニ利害ノ關係ナキ他町村ノ保證ヲ求ムルヲ要セスト主張スルト雖モ縣令第五十九號漁業取締規則第四條ハ一般ノ通則ニシテ本件新規漁業免許出願ノ手續ハ同規則第十七條二項ノ規定ニ依ルヘキモノナリ而シテ同項ニ新規漁業ヲ爲サントスル者ハ前項明記ノ外尙其關係市町村ノ漁業者總代並ニ組合頭取ノ支障ナキ旨ノ保證ヲ添ヘ願出ツヘシトアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ其關係漁業者ナルモノハ原告主張ノ如ク單ニ近接地タル沿岸町村ニ限ラスシテ其海面ノ區域內ニ於テ漁業ヲ爲スノ權利アル者ハ悉ク關係漁業者ナリト認メサルヲ得ス又原告ハ新規出願ニ付キ沿岸町村ノ外他市町村ノ保證ヲ要セサルハ縣令第五十九號第九條及縣令第六十號ノ趣意ヲ對照スレハ明白ニシテ縣下一般ノ實例タルハ甲第二號證ノ如キ其一ナリト謂フト雖モ縣令第五十九號第九條及縣令第六十號ハ漁業組合ニ關スル規定ニシテ本件ニ關係ナク又甲第二號證ハ他郡內ノ慣例ヲ原告カ問合セタルモノニ止リ本件海面ノ關係者ヲ明示シタルモノニ非サレハ是亦證據ト爲スニ足ラス

(64)◉地曳網營業免許取消ノ處分取消ノ訴

三十年第十一號
仝年十二月十七日宣告　（高知縣平民門田直之助外十名對仝縣知事末弘直方）

判旨○從來ノ場所ニ於ケル漁權ノ確認及漁業方法ニ關スル命令ノ請求ニ對シ縣知事カ詮議ニ及ヒ難キ指令ヲ爲シタルハ法律第百號第三ニ所謂營業免許ノ取消ニ非ス（法律第百六號第三）

（第一門第一(219)判決理由參看）

(65)◉不法營業免許拒否處分取消ノ訴

三十年第百十四號
仝年十二月二十四日裁決　（福岡縣平民松井量吉對大阪鑛山監督署長小杉轍三郎）

判旨○鑛業試掘ニ關スル訴ハ鑛業條例ニ據ルヘク法律第百六號ニ據ルヘキモノニ非ス（鑛業條例第二十一條法律第百六號第三）

（第二門第一(221)判決理由參看）

(66)◉漁業免許取消ニ付テノ不法處分取消ノ訴

三十年第五十一號
三十一年七月五日宣告　（岡山縣平民北海道寄留水嶋鱗多對仝道廳紗那支廳長代理仝道廳屬鈴木瑞枝）

判旨○北海道水產物取締規則ニ所謂公益トハ國家的公共ノ利益ノミナラス一地方ニ於ケル公衆ノ利益ヲモ包含ス

○許可シタル漁業ト雖モ當初出願ノ際副申シタル

漁業方法以外ノ漁具ヲ使用シタル爲メ公益ニ害アリト認メ其許可ヲ取消シタルハ違法ニ非ス

原告ハ北海道水產物取締規則ニ於テ公益トアルハ國家的公共ノ利益ヲ指シタルモノニシテ其利益カ公衆全般ニ及フ場合ヲ謂フナリ本件魚族ノ蕃殖ヲ妨害スルカ如キハ其利害ノ關係僅ニ原告ト谷五郎松兩人ノ利害ニ限ルモノニシテ公益ヲ害シタリト謂フヘカラサル旨ヲ主張スルモ公益トハ國家的公共ノ利益ノミヲ指スニ非ス一地方ニ於ケル公益ヲモ包含スルハ勿論ナリ而シテ原告ノ漁業方法カ魚族ノ蕃殖ヲ妨害スルモノトセハ其利害ノ關係ハ原告主張ノ如ク僅ニ兩人ノ利害ニ止マラスシテ該地方物產ノ一種ヲ全滅シ又ハ其產額ヲ減殺スル者ニシテ一地方ノ公益ヲ將來永遠ニ妨害スルモノナリ又原告ハ假令公益ノ妨害中ニ魚族蕃殖ノ妨害ヲ含蓄スルモノトスルモ原告ノ漁業カ魚族ノ蕃殖ヲ妨ケタル事實ナシ所謂濫獲酷漁ト稱スルハ同業者タル谷五郎松ノ申告ヲ盲信シ愛憎ノ心ヲ以テ之ヲ速斷シタルモノナリト謂フト雖モ原告カ當初出願ノ際副申書ニ申立タル漁業方法以外ノ漁具ヲ使用シテ業ヲ營ミタルハ事實ナリ而シテ原告ハ此漁業方法ハ原告ノ見込ヲ開申シタルニ止マリ本件漁業許可ノ條件ニアラスト謂フト雖モ許可ノ條件ナルヤ否ハ必要ナキヲ以テ之ヲ說明セサルモ當初ノ漁業方法以外ノ方法ヲ以テ漁業ヲ爲シタルカ爲メ魚族ノ蕃殖ヲ妨クルニ於テハ公益ヲ妨害シタルモノナリ而シテ被告ハ右ノ事實及二十八年ニ於テ收獲高ノ俄然百六石餘ニ上リタル等ノ事實ニ徵シ原告ノ漁業方法ヲ以テ魚族ノ蕃殖ヲ妨害スルモノト認メ取締規則第十三條但書ニ依リ漁業免許ヲ取消シタルモノナレハ之ヲ違法處分ナリト謂フヲ得ス

(67) ◉鰊漁業絞粕身缺胴鰊製造營業願ニ關スル訴

三十一年第三十三號
仝年七月七日宣告
（北海道平民長山要吉對仝）
道廳長官男爵安場保和）

判旨○訴願ニ對スル裁決ヲ爲スニ當リ何人ノ意見ヲ採テ其材料ニ供スルモ裁決者ノ自由ナリ

第一原告ハ被告カ無資格ナル頭取ノ陳述ニ基キ裁決ヲ爲シタルハ不當ナリト謂フト雖モ何人ノ意見ヲ採用スルモ被告ノ隨意ナレハ無資格者ノ意見ヲ採用シタリトテ其裁決ヲ不當ナリト謂フヲ得ス第二原告ハ明治二十九年五月二十一日付願指令第一四四九號ヲ見ルニ明治二十九年五月十二日付甲第二一七號上申鰊差網制限ノ件當分詮議ニ及ヒ難シトアリ然ルニ郡長カ之ニ拘ハラス許否ヲ決定セシハ該指令ニ違背スルモノナリト謂フト雖モ被告第一號證ヲ見ルニ右上申ハ苫前郡力登村漁業組合區域內鰊差網制限ノ件ニシテ本訴ニハ關係ナキモノナリ第三原告ハ被告カ現在ノ網數ニ超過スルトキハ漁業上ノ安寧ヲ破リ魚族ノ繁殖ヲ害シ云々ト主張スルニ拘ハラス明治三十一年四月七日千五百放ノ多數ノ鰊差網ヲ增毛郡漁業組合頭取松江喜藏ニ許可セシハ偏頗ノ處置ナリト謂フト雖モ右ハ其狀況ノ變更シタル爲メ卽被告第二號證明治三十年十一月ノ「鰊建網入會漁業取締規則」ト被告第三號證明治三十年十二月ノ「鰊其他建網漁業願制限」トニ因リ海面ニ餘地ヲ生シタル爲メ許可セシモノト認ムレハ之ヲ偏頗ノ處置ナリト謂フヲ得ス

(68) ◉入會捕介營業不當處分取消ノ訴

三十年第三十四號
三十一年十月六日宣告
（巖手縣重蔵與四郎外一名對仝縣知事服部一三）

判旨○論所カ甲者ノ專有稼業場タル證據ナク乙者ノ入會稼業ノ慣例アル場合ニ於テ稼業免許ヲ乙者ニ與ヘタルハ違法ニ非ス

原告ニ於テハ古來上納金品其他雜破船始末費用等ノ負擔ヲ爲シ重茂村地先海岸第一號字川代ヨリ第二十三號字尻高迄ノ區域ニ於テ捕介採藻ノ業ヲ營ミ當テ鍬ケ崎及宮古町民ニ對シテ第十四號ヨリ第二十三號迄ノ入會漁業ヲ許シタル外其他ニ對シテハ更ニ入會ヲ許シタルコト無キニ由リ第一號ヨリ第十四號ハ原告專有ノ區域ナルニモ拘ハラス東中北閉伊郡長ニ於テ飯岡村住民ノ願意ヲ容レ兩同ニ第一號ヨリ第八號ノ內字サヂタシ迄入會稼業ノ免許ヲ與ヘタルハ不法ナリト謂フト雖モ甲第一號證ハ見取圖ニシテ證據トスルノ價値ナク甲第四號證乃至甲第七號證ノ金品上納等ニ關スル書類ニシテ其ノ成立ハ眞正ナリ且ツ其負擔ハ重茂村地先海岸ニ於ケル捕介採藻ノ權利ニ伴フモノナリトスルモ他村住民ノ入會ヲ排除シテ原告專ラ斯ノ權利ヲ有スル證據ト爲スニ足ラス甲第八號證乃至第十號證ハ重茂村地先海岸ノ一部分ニ付鍬ケ崎及宮古町住民ニ入會ノ承諾ヲ與ヘシ關係書類ニシテ該區域ハ論所ノ區域ト場所ヲ異ニスルカ故ニ該部分ニ於テ偶原告ニ全權アリト見ルコトヲ得可シトスルモ之ヲ以テ他ノ部分ニ於テモ亦爾ラサル可ラスト謂フヲ得サルニ付論所カ原告ノ專有稼業場ナリトノ主張ヲ確ムルコトヲ得ス甲第十一號證ハ難破船救助始末書類ニシテ漁業權ニ重要ナル關係ヲ有スルモノト認メ難ク甲第十二號證ノ鑑札ハ原告ノ專有權ヲ認メテ與ヘタルモノニアラサレハ是亦原告ノ主張ヲ證明シ難シ要スルニ論所カ原告ノ專有稼業場ナリトノコトハ一モ證據ノ見ルヘキモノ無キヲ以テ東中北閉伊郡長ニ於テ元飯岡村漁民カ論所ニテ入會稼業ヲ爲セシ慣例アルヲ認メ明治二十八年廢手發令第十五號第六條ニ依リ右漁民ニ稼業免許ヲ與ヘシハ違法ニアラス

(69) ◉筏網場稅不法賦課取消ノ訴

三十一年第九十六號
仝年十月二十一日裁決
（愛知縣平民非上信八外三名對岐阜縣參事會仝縣知事安藤謙道）

判旨○筏網場稅ノ賦課ニ關スル訴願期限ハ府縣制第六十九條ニ據ル（舊府縣制第六十九條）

（第一門第四(63)判決理由參看）

(70) ◉鰊建網漁業ニ關スル訴

三十一年第七十三號
仝年十二月十四日宣告
（北海道平民佐藤三郎外二百九名對仝道廳長官男爵園田安賢）

判旨○追鰊ノ慣行ナキ鰊建網入會漁場指定願ヲ却下シタルハ不法ニ非ス

本訴ノ要點ノ係爭ノ海面ニ於テ從來原告ニ追鰊ノ慣行アリヤ否ヤヲ判斷スルニ在リ原告ハ甲號數證ヲ提出シテ慣行ノ事實ヲ證セントスルモ甲第一號證ハ本件漁場指定願書甲第二號證ハ右出願ニ際シ戶長ノ副申書甲第三號乃至甲第八號證ハ磯谷郡漁業組合人中一二ノ者カ明治二十二年同二十三年ニ於テ岩內郡沿岸ニテ漁業ヲ爲シ其納稅手續ニ關スル書類其他提出シタル書證ハ何レモ薄弱ナル間接ノモノニシテ一モ原告主張ノ事實ヲ確認スヘキ證據ト爲スニ足ラス然ラハ被告カ本件鰊建網入會漁場指定願ニ對シ追鰊ノ慣行ナキモノトシテ之ヲ却下シタルハ不法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(71) ◉鯛網營業許可取消ノ訴

三十一年第百十六號
三十二年二月六日宣告
（香川縣平民阿比野勇外一名對仝縣阿野鵜足郡長中島尙崶）

判旨○既ニ許可シタル營業カ新規漁業願ノ必要條件タ

ル關係村ノ保證ヲ闕キタル故ヲ以テ其免許ヲ取消シタルハ違法ニ非ス

原告ノ主張ハ阿野鞆足郡ノ沖合鰯漁場タル網代場ト釣漁場トハ往古ヨリ慣行上一定ノ區域ヲ有スルモノナレハ網營業者ト釣營業者カ互ニ入會漁業スル如キハ事實上決シテ有ルヘカラサルノミナラス網營業者ハ網代場ヲ目的トシ釣營業者ハ網代場ヲ除ク外東西ハ勿論南北自在ニ營業スルモノナレハ釣營業カ網營業ニ影響ヲ及ホスノ理ナシト謂フニ在レトモ原告主張ノ如キ慣行上ノ區域ハ其舉證中一モ之ヲ認ムヘキモノナク第九號證海面圖等ニ依レハ原告ノ所謂兩漁場ノ區域ハ單ニ釣漁業ニ對スル各網代場以外ノ釣漁場ニ於テ自在ニ網漁業ヲ爲サントスルモノナレハ釣漁業者ノ外尚ホ同業者タル關係村中笠居村ノ保證ヲ要スヘキニ其之ヲ闕キタルハ水產物取締規則第四條ニ違背スルヲ以テ被告カ之ヲ理由トシテ既ニ與ヘタル許可ヲ取消シタルハ違法ノ處分ト謂フヲ得ス

(72) ◉不法處分取消ノ訴

三十一年第八十號
三十二年三月二十七日宣告
（巖手縣士族盛合藏六外四百七名對仝縣下閉伊郡長太田時敬）

原告ノ本件漁業ハ古來村受繼業ノ習慣アルモノナリト主張スルモ其立證スル甲第四號證帳場永代賣渡證文ハ帳場買ノ證據ニ止マリ村受繼業ノ證據トナスニ足ラサルノミナラス寧ロ反對ノ事實即該漁業權ハ或數人ニ於テ之ヲ專有シ村民全體ニ屬セサルヲ認ムヘク甲第五號證川漁鑑札ノ百姓共ハ當時數名ノ瀨主ナル者アリテ漁業權ヲ專有セシヲ以テ村民全體ヲ指シタルモノト認メ難ク甲第六號證村補錢請取證ハ其金額ノ領收ヲ證シタルノミニシテ他ニ何等ノ記載ナキニ依リ如何ナル事情アリテ瀨主ヨリ之ヲ與ヘタルモノナルカ知ルヘカラサレハ是亦證據トナスニ足ラス其他原告ニ於テ立證スル所アルモ證據トシテ採用スヘキモノナシ

(73) ◉簗漁許可取消要求ノ訴

三十二年第三十三號
仝年六月十四日宣告
（滋賀縣平民葛見權太郎外三十三名對仝縣高島郡長河毛三郎）

判旨○請求ノ目的タル漁業免許カ有效期限ヲ經過スルトキハ免許取消ニ關スル訴ノ目的物ハ消滅ス（第一門第五(16)判決理由參看）

(74) ◉漁場不當處分取消ノ訴

三十二年第二十二號
仝年七月七日宣告
（北海道二本柳新太郎對仝道廳長官男爵園田安賢）

判旨○適法ニ得タル漁業免許ヲ取消シタルハ違法ナリ

被告ニ於テ本件ノ漁場ニ付テハ小島みん及濱谷小二郎ノ兩名相前後シテ鰊建網ノ漁業ヲ出願セシニ「みん」ノ願書ニハ北海道廳令第四條及第六條ニ於テ必要トスル組合頭取及隣接漁業者ノ連署ナク又最初百五十間ノ距離ニ於テ二統ノ建網ヲ設ケント欲シ後之ヲ一統ニ訂正スル場合ニ於テハ更ニ關係人ノ連署ヲ要スルニ之ヲ爲ササル等適法ノ手續ニ違背セリ之ニ反シ小二郎ノ出願ハ完全ニシテ闕點ナキニモ拘ハラス宗谷外三郡長ニ於テ小二郎ノ出願ヲ拒否シ「みん」ニ漁業ヲ許可シタルハ錯誤ニ出テタル處分ナリト主張スルモ同廳令第七條中ニ組合頭取等故障ヲ唱フルモ其理由ヲ調査シ連署ノ有無ニ拘ハラス許可スルコトアルヘシトアレハ關係人カ故障ヲ唱ヘタル場合ニ於テ其理由ヲ副申シタルトキハ連署ナキ願書ニ對シ漁業ヲ許可スルモ其處分ヲ以テ錯誤ニ出タルモノト謂フヘカラス又願書訂正ノ場合ニ於テ更ニ關係人ノ連署ヲ要スト謂フモ廳令中如何ナル條項ニ依リ之ヲ要スルヤヲ知ルニ由ナシ而シテ原告ハ「みん」カ漁業免許ヲ得タル後廢業屆ヲ爲スト同時ニ同一場所ニ對シ更ニ漁業ヲ出願シタルモノニシテ原告ノ願書ニ闕點ナキコトハ被告ノ爭ハサル所ナリ然ラハ原告ノ適法ノ出願ニ由リ漁業免許ヲ受ケタルモノナレハ其免許ハ有效ニシテ取消スヘキ理由ナキモノトス

(75) ◉火藥賣買營業禁止命令取消ノ訴

三十一年第百五十號
三十二年十一月六日宣告
（宮城縣平民佐藤傳兵衛對仝縣知事千頭清臣）

判旨○火藥賣買營業管理人ノ違犯行爲ヲ理由トシテ營業本人ニ對シ火藥取締規則第三十條ヲ適用シテ其營業ヲ禁止シタルハ違法ニ非ス（火藥取締規則第三十條）

原告ハ原告ノ家人佐藤傳吉カ火藥取締規則第十三條第二項前段ノ規定ニ違背シタル行爲アリタリトテ之レヲ以テ直チニ其違背行爲ニ關係ナキ原告カ火藥取締規則第三十條ノ制裁ヲ受クヘキ謂レナシト謂フト雖モ原告ノ在監中傳吉ニ於テ原告ノ營業ノ爲メ萬般ノ業務ヲ管理シ居リタルコトハ乙第二號證ノ四判決書ニ徵シテ明瞭ナレハ傳吉ノ違犯行爲ハ原告主張ノ如ク原告ノ申付ニ依ラサル專斷ニ出ツル行爲ナリトスルモ其行爲ニ就テハ自己ノ行爲ト等シク營業上ノ責任ナシト謂フヲ得ス又原告ハ火藥取締規則第三十條ノ營業者云々トアルハ營業者本人ノミノ違犯シタル場合ヲ指示スルモノナリト謂フモ前段說明ノ理由ニ依リ本件ノ如キ營業管理人ノ違犯行爲アリタル場合モ亦同規定ノ範圍內ニ入ルヘキモノト解釋セサルヲ得ス依テ被告ニ於テ明治十七年太政官布告第三十一號火藥取締規則第三十條ヲ適用シ原告ノ火藥賣買營業ヲ禁止シタルハ適法ノ處分ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

(76) ◉屠畜場設置許可指令ノ變更請求ノ訴

三十二年第五十七號
仝年十一月二十一日宣告
（長崎縣平民松本辰五郎外一名對仝縣知事服部一三）

判旨○屠畜場新設願ニ對シ其屠場ニ於ケル屠畜ノ種類ヲ制限シテ許可シタルハ屠畜營業權ニ制限ヲ加ヘタルモノニ非ス

原告ハ本件屠畜場移轉新設願ニ對シ被告カ「屠畜ハ從前之通リ豚、羊、山羊ニ限ル事」トノ指令ヲ爲シ屠牛ヲ許ササルカ爲メ原告ハ既得ノ屠畜營業權ヲ完全ニ行使スル能ハス即チ被告ノ處分ハ原告ノ權利行使ヲ妨害シタルモノナリト謂フト雖モ被告ニ於テ該指令ハ原告出願ノ屠場ニ對シ與ヘタルモノニシテ原告ノ屠畜營業權ニ制限ヲ附シタルモノニアラス且陳述スルノミナラス原告甲第一號證屠畜場移轉新設願ニ「屠畜場設立仕度云々」トアリ而シテ其甲第二號證指令文ニ依レハ「屠畜場移轉改築之件許可候條云々」ニ「一屠畜ハ從前之通リ豚、羊、山羊ニ限ル事」トアルヲ以テ右指令ハ唯屠場ニ對シ制限ヲ附シタルニ止マリ原告ノ屠畜營業權ニ制限ヲ加ヘタルモノニアラサルコト明確ナリ然レハ原告ハ本件指令ノ爲メニ原告ノ屠畜營業權ヲ行使スルニ何等ノ妨害ヲ受ケタルモノニアラサレハ之ヲ理由トシテ本訴ノ請求ヲ爲スハ失當ナリトス

(77) ◉堰堨取拂命令取消ノ訴

三十二年第七十三號
仝年十二月十一日宣告
（宮崎縣平民瀨戶山善之助對仝縣知事園山勇）

判旨○水車運轉ノ爲メ無許可ニテ官有地ニ設置シタル堰堨ヲ當該官廳カ取拂ハシムルモ許可ヲ得タル

水車營業權ヲ毀損シタルモノト謂フヲ得ス

原告ニ於テ明治二十四年宮崎縣令第五十一號河川港灣取締規則ニ依リ水車新築ヲ出願シ被告モ亦之ヲ許可シタルニ由リ營業ヲ爲シ來リタルモノナリ而シテ水車ニ要スル堰堤新設ハ當然之ニ附屬スヘキモノナレハ該許可ニ包含セラレタルモノナルニ被告カ明治三十二年三月十八日北諸縣郡都城町大字宮丸字前田用水路ヘ施設セル堰堤ハ本縣ノ許可ヲ得ス設置シタルモノニ付取拂フヘシト爲シタル命令及警察官ヲシテ之ヲ取拂ハシメタルハ水車營業ノ許可ヲ得テ行使シ來リタル其權利及水利ニ關シ原告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト謂フト雖モ凡ソ水車ヲ設置セントスルニハ必スシモ堰堤ヲ設ケサルヘカラストノ理由ナクレハ水車設置ニハ堰堤ハ當然之ニ從伴スヘキモノナリト謂フヲ得ス左スレハ水車新築ノ許可ヲ得タレハトテ之ニ堰堤設置ノ許可ヲモ包含スルモノト認ムルヲ能ハス故ニ原告ニ於テ水車運轉上必要ト認メ本件ノ如キ官有地ニ特ニ堰堤ヲ設置スル場合ニハ更ニ之カ許可ヲ受ケサルヘカラス而シテ甲第一號證ノ水車新築願ニシテ堰堤設置ノ願意アル文詞ナキヲ以テ被告ノ與ヘタル許可ハ單ニ水車新築ニ對スルモノナルニ付キ原告カ本件堰堤ヲ設ケタルハ全ク許可ヲ得スシテ爲シタル工事ニ係ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ被告カ無許可ノ工事トシテ本件爭訟ノ堰堤ヲ取拂ハシメタルハ原告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト謂フヘキモノニアラス

(78)◉水車用河水引用許可取消請求ノ訴（第一門第四(80)妨訴抗辯ノ本案）

三十一年第八十五號
三十三年五月三十日宣告

（長野縣下伊那郡伊賀良村北方區外一名代表者仝村長久保田宗吉外同縣同郡龍丘村桐林區外三區代表者一名對仝縣知事押川則吉）

原告ハ甲第二號證水車建築手續ニ關係ノ上下流村村ヘ協議ヲ遂ケ云云トアリ且河野幸之助ノ願書ニハ一箇人タル數名ノ連署アルノミニシテ鼎村代表シテ承諾セシモノニ非サレハ該願書ハ規定ノ書式ニ違フモノナリ然ルニ關係アル原告各區ニ對シテハ何等ノ協議ヲ爲サスシテ提出シタル願書ニ許可ノ指令ヲ與ヘタルハ該水車建築手續ニ違背スルモノナリト謂フト雖モ本件河野幸之助ノ水車建設ノ揚所ハ伊賀良井ト稱スル井筋ノ派流ニシテ鼎村地内ニアリ又同村ノ管理ニ屬スル男女川筋ニアリテ該水車建設ニ付テハ鼎村ハ固ヨリ直接ニ利害ノ關係ヲ有スルモ原告各區ハ伊賀良井男女川ノ分岐點以下ニ於テ伊賀良井ヲ使用スルモノナレハ建築手續ノ所謂上下流ノ關係ナキモノナリ隨テ河野幸之助ノ出願ニ付キ原告各區ニ協議ヲ遂ケサルモ規則違犯ノ行爲ナリト謂フヲ得ス又河野幸之助ノ願書ニハ流上流下ノ鼎村關係者數名ノ連署アルノミナラス鼎村ヲ長代理助役ノ奥印アルヲ以テ鼎村ノ承諾ナキモノト認ムルヲ得サレハ規定ノ書式ニ該當セサル願書ナリト謂フヲ得ス又原告ハ伊賀良井ノ流水ヲ以テ新ニ水車營業ヲ開始セントスルカ如キハ甲第三號乃至甲第六號證ノ如ク嚴禁セラレタル舊慣アリト謂フト雖モ甲第三號證乃至甲第六號證ハ往古舊領主堀家ニ於テ水車ニ付テハ嚴重ナル取締ヲ爲シ容易ニ其建設ヲ許可セサリシコトヲ證スルニ足ルモ水車ノ建設ヲ許ササル舊慣アルモノト認ムルヲ得ス又原告ハ本件ノ如ク男女川ニ水車ヲ新設スルトキハ自然男女川ニ引用ノ量ヲ增加シ伊賀良井ノ水量ヲ減スルヲ以テ原告各區ハ爲メニ損害ヲ受クルモノナリト謂フト雖モ原告各區ハ本流タル伊賀良井ト支流タル男女川ノ分岐點以下ニ於テ伊賀良井ヲ使用スルモノナレハ水車新設ノ爲メニ特ニ伊賀良井ノ水量ヲ減耗スル事實ナキ以上ハ原告各區ハ其用水上何等ノ影響ヲ蒙ムルヘキ理ナシ然ルニ原告ハ唯自然伊賀良井ノ水量ヲ減スト主張スルモ其事實ヲ認メ得ヘキ確證ナキヲ以テ原告各區ハ河野幸之助ノ水車建設ノ爲メニ別ニ其用水權ヲ侵害セラレタルモノト認ムルヲ得ス

(79)◉不當命令取消ノ訴

三十三年第百十號
仝年六月二十九日裁決（三重縣平民伊藤齊太郎外百四十二名對農商務大臣曾禰荒助）

判旨○農商務大臣カ漁業組合規約一部ノ削除ヲ命シタルハ營業免許ノ拒否又ハ取消ニ非ス（十九年農商務省令第七號漁業組合準則第八條）

（第一門第一(272)判決理由參看）

(80)◉不當裁決及指令取消ノ訴

三十三年第百二十一號
仝年九月二十六日宣告（北海道寄留士族大高弘對仝道廳長官男爵園田安賢）

判旨○北海道廳令第八十三號ハ隣接漁場ニ對スル距離ヲ規定シ檜山郡漁業組合申合規約第五十條第八項ハ村界ニ對スル建網建設ノ制限區域ヲ指定シタルモノニシテ兩者牴觸セス

本件原告被告カ爭フ所ノ要點ハ北海道廳令第八十三號ノ施行ニ依リ檜山郡漁業組合申合規約第五十條第八項ノ消滅ニ歸シタルヤ否ニ在リ按スルニ現行ノ組合規約中本令ニ牴觸スル條項ハ其施行ノ日ヨリ自然ニ效力ヲ失フヘキハ原告主張ノ如クニシテ被告ニ於テモ爭ハサル所ナリ然レトモ本件ノ爭點ニ關シテハ兩者其制限ノ旨趣ヲ異ニシ認令ニ在リテハ隣接漁業ニ對スル距離ヲ規定シ組合規約ハ村界ニ對スル建網建設ノ制限區域ヲ指定シタルモノナレハ之ヲ兩立セシムルモ其間ニ牴觸スル所ナキヲ以テ組合規約第五十條第八項ハ尚ホ其效力ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス從テ支廳長ノ指令及被告ノ裁決亦違法ナリト謂フヲ得ス

(81)◉不當命令取消ノ訴

三十三年第百十號
仝年十一月十二日裁決（三重縣平民伊藤齊太郎外百四十二名對農商務大臣林有造）

判旨○行政裁判ニ對シテハ再審ノ訴ヲ許サス（行政裁判法第十九條）

○民事訴訟法第四百五十五條ニ據ル抗告ハ行政訴訟ニ適用スヘキモノニ非ス（民事訴訟法第四百五十五條）

（第一門第一(279)判決理由參看）

(82)◉米穀市場ニ關スル處分ノ訴

三十三年第百四十一號
仝年十二月十二日宣告（大阪府平民今井延太郎外八名對大阪府知事薗地侃二）

判旨○米穀市場ノ許可取消ハ營業免許ノ取消ニ外ナラス（法律第百六號第三）

○二十九年農商務省令第一號發布以前ニ設立シタル市場ノ許可取消ノ權能ハ之ヲ許可シタル府縣知事ニ屬ス（二十九年農商務省令第一號）

○米穀市場ヲ許可シタル條項ニ違背シタル場合ニ

於テ府縣知事カ其許可ヲ取消シタルハ適法ナリ

第一被告ハ本件市場ノ其規則第三條ニアル如ク專ラ米穀賣買ノ整風ヲ矯正シ各自ノ便利ヲ計ルヲ目的トスルモノニシテ卽チ公益事業ト認メ營利事業ニアラストシテ許可シタルモノナレハ其許可ヲ取消シタルハ營業免許ノ取消ニ關スル事件ト謂フヲ得サルヲ以テ本件ノ如キ行政訴訟ヲ爲スヲ得サルモノナリト謂フモ市場規則第一條ニハ米穀ノ賣買ヲ爲スニ付云云トアリ又原告ノ內野口峰松ニ於テ米穀市場營業稅ヲ納メタル事實等ニ徵スレハ該市場ノ事業ハ規則第三條ニ揭ケタル如ク米穀賣買ノ整風ヲ矯正スルト同時ニ各自ニ其賣買營業ヲ爲スコトヲ許可シタル者ト認メサルヲ得ス故ニ本件市場許可ノ取消ハ爭覓スルニ營業免許ノ取消ニ關スル事件ナリト謂ハサルヲ得ス依テ此點ニ關スル被告ノ抗辯ハ採用セス第二原告ハ明治二十九年農商務省令第一號ニ依リ本件ノ如キ市場ノ許可ヲ取消ス權限ハ農商務大臣ニ轉屬シタルモノナレハ被告ハ今ヤ此權限ナキモノナリト主張スルモ該省令ハ明治二十九年三月以後ニ於テ新ニ市場ヲ設立スル場合ハ農商務大臣ノ許可ヲ受ケサルヲ得サルノ規定ニ過キスシテ當時既ニ設立セラレタルモノニ就テハ右省令ヲ適用スヘキモノニアラス從テ該省令ニ依リ本件市場許可取消ノ權能ハ農商務大臣ニ移轉シ被告ニ於テ其權能ナキモノト謂フヲ得ス第三被告ハ原告ニ於テ取引所類似ノ行爲ヲ爲シタリト主張スルモ果シテ其行爲アリタリト認ムル證左ナシト雖モ乙第一號證大阪府令ニ依レハ被告知事ニ於テ本件市場ヲ許可スル當時該府令ノ趣旨ニ基キ營業ノ目的及其方法等ヲ調查シ以テ認可ヲ與ヘタルモノニシテ其目的方法ハ乙第一號證府令乙第二號證市場規則ノ如ク米穀賣買ノ整風ヲ矯正シ物品取扱手續、現品受渡順序、手數料ノ程度及營業時間等ヲ明カニ規定シアリテ此條項ニ基キ許可シタルモノナルコト明カナリ然シテ其條項ニ違背シタルヤ否ヲ按スルニ原告カ手數料ヲ增加スルニ付テハ市場規則第二十條ニ依レハ該規則ノ更正增補ハ組合一同協議ノ上被告ノ認可ヲ受クヘキモノナルニ原告カ該手續ヲ經テ認可ヲ得タル事蹟ナシ原告ハ手數料增加ノ報告書ヲ呈出シタルニ被告ハ之ヲ受理シタルヨリ視ルモ被告ニ於テ之ヲ認可セシモノナリト謂フモ單ニ原告カ其報告書ノ却下ヲ受ケサル事實ヲ以テ被告カ市場規則ノ變更ヲ認可シタルモノト謂フヲ得ス然ラハ原告等ハ同規則第十六條ニ十石ニ付手數料五錢ト規定シアルニ拘ハラス妄リニ一石ニ付五錢ノ割合ヲ以テ手數料ヲ徵收シタルモノニシテ是レ同條ノ規定ニ違背スルモノナリト謂ハサルヲ得ス又同規則第十條ニ依レハ米穀ヲ賣却セントスル者ハ倉荷證書又ハ指圖式預リ券ヲ市場事務所ニ預ケ置クヘキ規定ナルニ拘ハラス乙第三號證答申書ニ依レハ同事務所ハ賣却セントスル米穀ノ現在ヲ認ムル時ハ倉荷證書又ハ預リ券ヲ本人ニ返付シテ之ヲ他ニ抵當トシテ資金ノ融通セシメタル事實アリ是等ノ規定ハ當初市場設立許可ニ付主要ナル條件ナルニ拘ハラス斯ノ如ク證券ヲ事務所ニ預ケ置カサルノミナラス擅ニ手數料ヲ增加シタル如キハ當初市場許可ノ趣意ニ反スルヤ明カナリ然ラハ卽チ被告ニ於テ本件市場許可ヲ取消シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ處分ト謂フヲ得ス

(83) ◉營業免許ニ係ル不當裁決及處分取消ノ訴

三十二年第二百十九號
三十三年十二月二十四日宣告
（北海道平民堀岡富三郎對仝道廳長官男爵園田安賢被告從參加人仝道畠山清太郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第三）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

本件原告被告カ爭フ所ノ要旨ハ左ノ三點ニ歸着ス

第一點被告ノ漁業願ヲ許否スルハ行政廳ノ職權ニ屬スルモノニシテ其許可ヲ得サレハ漁業權ヲ生スルコトナシ故ニ未タ許可ヲ得サル以前ニ在テハ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリト謂フヲ得ス從テ原告ニ訴權ナシト主張スルモ明治二十三年法律第百六號ニ於テ營業免許ノ拒否ニ付キ出訴ヲ許シタル以上ハ成規ニ適合スル出願ニ對シ正當ノ理由ナク拒否シタル場合ノ如キハ卽チ違法處分ニ由リ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ傷害セラレタルモノナレハ原告ニ訴權ナシト謂フヲ得ス

第二點被告ハ增網底止スル所ナキノ結果ハ魚族ヲ濫獲シテ蕃殖ヲ妨害スルノ虞アルヲ以テ網數制限ノ必要ヲ認メ明治二十九年以來一切增網ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ナリト謂フモ魚族蕃殖ノ狀態ニ付專門技術家カ頻リニ研究シツツアル今日ニ於テハ漁獲ノ多寡ニ依テ容易ニ蕃殖上ノ利害ヲ判斷シ得ヘキモノニアラス若シ被告主張ノ如ク魚族保護上原告ノ出願ヲ拒否スヘキモノトセハ之ト同時ニ漁獲ノ現狀ヲ維持セサルヘカラス然ルニ今後益漁獲ノ增加ヲ計ル爲メ古來慣用ノ行成網ヲ角網ニ改良セントスル結果豐澤ソヨ外二名ニ對シ漁場ノ移轉ヲ許可セサルヘカラサルニ至ルモ尙且漁具ノ改良ヲ遂行シタル實跡ニ徵シテ之ヲ觀ルモ支長廳ノ處分カ公益保護上必要ノ處分ト認ムルヲ得ス

第三點被告ハ原告カ建網ヲ出願シタル位置ハ道陳場トシテ入會漁場ヲ設

ハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第三）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

本件原告被告カ爭フ所ノ要旨ハ左ノ三點ニ歸着ス

第一點被告ノ漁業願ヲ許否スルハ行政廳ノ職權ニ屬スルモノニシテ其許可ヲ得サレハ漁業權ヲ生スルコトナシ故ニ未タ許可ヲ得サル以前ニ在テハ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリト謂フヲ得ス從テ原告ニ訴權ナシト主張スルモ明治二十三年法律第百六號ニ於テ營業免許ノ拒否ニ付キ出訴ヲ許シタル以上ハ成規ニ適合スル出願ニ對シ正當ノ理由ナク拒否シタル場合ノ如キハ卽チ違法處分ニ由リ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ傷害セラレタルモノナレハ原告ニ訴權ナシト謂フヲ得ス

第二點被告ハ增網底止スル所ナキノ結果ハ魚族ヲ濫獲シテ蕃殖ヲ妨害スルノ虞アルヲ以テ網數制限ノ必要ヲ認メ明治二十九年以來一切增網ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ナリト謂フモ魚族蕃殖ノ狀態ニ付專門技術家カ頻リニ研究シツツアル今日ニ於テハ漁獲ノ多寡ニ依テ容易ニ蕃殖上ノ利害ヲ判斷シ得ヘキモノニアラス若シ被告主張ノ如ク魚族保護上原告ノ出願ヲ拒否スヘキモノトセハ之ト同時ニ漁獲ノ現狀ヲ維持セサルヘカラス然ルニ今後益漁獲ノ增加ヲ計ル爲メ古來慣用ノ行成網ヲ角網ニ改良セントスル結果豐澤ソヨ外二名ニ對シ漁場ノ移轉ヲ許可セサルヘカラサルニ至ルモ尙且漁具ノ改良ヲ遂行シタル實跡ニ徵シテ之ヲ觀ルモ支長廳ノ處分カ公益保護上必要ノ處分ト認ムルヲ得ス

第三點被告ハ原告カ建網ヲ出願シタル位置ハ道陳場トシテ入會漁場ヲ設置セシムルノ豫定地ナリシヲ以テ常設ノ建網ヲ營業セントスル出願ヲ拒否シタルハ公益保護上相當ナリト謂フモ厚田郡漁業組合ノ出願ヲ待テ入會漁場ヲ設置シタルノミナラス豐澤ソヨ外二名ノ如キハ許可ヲ待テ入會漁場豫定地ニ其漁場ヲ移轉シタル實跡ニ徵スルモ又豫メ其位置ヲ公示セサリシ所ヨリ觀ルモ被告主張ノ如ク原告ノ出願當時ニ於テ豫メ指定セラレタル入會漁場ト認ムルヲ得ス況ンヤ原告出願ノ場所ニ於テ許可ヲ與フルモ猶ホ入會漁場ニ十分ナル餘地存在スルニ於テハ其出願ヲ拒否シタルヲ以テ公益保護上相當ナリト謂フヲ得ス

前述ノ如ク札幌支廳長カ原告ノ出願ヲ拒否シタル處分ニシテ正當ノ理由ナキ以上之ヲ是認シタル北海道廳長官ノ裁決ヲ取消スヘキモノトス

(84) ◉營業免許ニ係ル不當裁決及處分取消ノ訴

三十二年第二百二十號
三十三年十二月二十四日宣告
（北海道平民平田豐吉對仝道廳長官男爵園田安賢被告從參加人仝道畠山清太郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第三）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

（本件判決理由ハ(83)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(85) ◉營業免許ニ係ル不當裁決及處分取消

ノ訴

三十二年第二百二十一號乃至第二百二十三號
三十三年十二月二十四日宣告
（北海道平民小西京次郎外二名對仝道廳長官
男爵園田安賢被告從參加人仝道畠山清太郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第二）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

（本件判決理由ハ(83)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(86)◉不當裁決取消ノ訴

三十二年第百二十五號
三十三年十二月二十四日宣告
（北海道平民田川岩三對仝道廳長官男爵
園田安賢被告從參加人仝道畠山清太郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第二）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

（本件判決理由ハ(83)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(87)◉不當裁決取消ノ訴

三十二年第二百二十六號乃至第二百三十二號第百三十四號第百三十六號
三十三年十二月二十四日宣告
（北海道平民川島三典門外八名對仝道廳長官
男爵園田安賢被告從參加人仝道畠山清太郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第二）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

（本件判決理由ハ(83)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(88)◉不當裁決取消ノ訴

三十二年第百三十三號第百三十五號
三十三年十二月二十四日宣告
（北海道平民伊藤市太郎外一名對仝道廳長
官男爵園田安賢被告從參加人畠山清太郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第二）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

○他人ノ出願地ト重複シタル漁業願ハ許可スヘキニ非ス

（本件判旨第一第二ハ(83)ト其理由同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

前述ノ如ク札幌支廳長カ原告ノ出願ヲ拒否シタル處分及北海道廳長官カ原告ニ與ヘタル裁決ノ理由ハ正當ナラサルモ原告出願ノ場所ニ付キ臨檢ノ際ニモ原告ヨリ申立テタル通リ伊藤市太郎ノ分ハ明治三十年十二月二十二日川端半左衛門出願ノ場所ト重複シ柳平平五郎ノ分ハ同月二十四日中村平七出願ノ場所ト重複スルヲ以テ許可ヲ與フヘキモノニアラス

(89)◉不當裁決取消ノ訴

三十二年第百三十七號乃至第百七十二號
三十三年十二月二十四日宣告
（北海道平民三谷彌三衛門外三十五名對仝道廳長
官男爵園田安賢被告從參加人仝道畠山清太郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第二）

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害スル虞アリトノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ニ非ス

（本件判決理由ハ(83)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(90)◉印紙賣捌願却下處分ニ對スル訴

三十三年第百九十三號
三十四年二月十三日宣告
（福岡縣士族永田早苗對熊本稅務管理局
長濱口雄幸竝直方稅務署長八田富代）

判旨○適法ナル資格ヲ有スル先願者ノ提出シタル印紙賣捌願ヲ却下シタルハ違法ナリ

○印紙賣捌願却下處分ニ對スル訴訟ノ被告ト爲ルヘキモノハ稅務署長ニ非スシテ稅務管理局長ナリトス

被告熊本稅務管理局長ハ訴外人櫻井市太郎ハ明治三十三年五月二十二日ヨリ直方町ニ住居シタルハ事實ナリト謂フト雖モ被告提出第一號證及參考書ナルモノヲ閱スルニ該書類ハ櫻井市太郎ノ寄留届ノ有無ヲ證スルニ止マリ單ニ之レノミヲ以テ同人ハ當時直方町ニ住居シタルモノト確認スルヲ得ス又被告ノ提出セル第二號證警察官ノ報告書ニ徵スルモ其記載事項ヲ以テ確實ナル事實ナリト認メ得サルヲ以テ該報告書ヲ以テ櫻井市太郎ノ住居ヲ證スル確證ト爲スニ足ラス以上ノ理由ニ依リ櫻井市太郎ハ其印紙賣捌出願ノ當時未タ直方町ノ住民ニ非サリシモノトノ之レヲ認定スル而シテ明治三十三年四月二十七日附原告ノ印紙賣捌出願ハ廢業者飯野隆一ナル者ノ廢業以前ニ提出シタルモノナレハ之レヲ以テ有效ノ出願ナリト謂フヲ得サルモ被告第三號證ノ如ク明治三十三年五月二十九日ヲ以テ原告カ後ニ提出シタル出願ハ飯野隆一ノ廢業後ノ有效出願ニシテ且其廢業後ハ櫻井市太郎ノ出願ヲ除ケハ原告ノ出願ハ第一ノ出願ナルコト及原告ハ有資格者ナルコトモ亦被告ノ自認スル所ナルハ前說明ノ如ク櫻井市太郎ニ於テハ住居ノ一條件ヲ闕クルモノト爲ス以上ハ被告ハ前記原告ノ出願ニ對シテハ當然之レヲ許可スヘキモノト雖ハサルヲ得ス隨テ被告本件ノ處分ハ失當ノ處分タルコトヲ免カレサルモノトス又直方稅務署長八田富代ハ本訴ノ被告タルヲ免カレサル干否ノ點ニ就テハ本人主張ノ如ク本訴印紙賣捌願ノ許否ハ一ニ熊本稅務管理局長ノ職權ニ屬スルモノナレハ直方稅務署長ハ被告トナルヘキ職責ナキモノトス

(91)◉天龍川漁業許可取消ニ關スル不當處分取消請求ノ訴

三十三年第百九十八號
三十四年五月二十日宣告
（長野縣平民小口保次郎外四名對全縣知事押川則吉）

判旨○府縣知事カ公益上必要ト認メ流網漁業ノ許可ヲ取消シ之ニ要セシ工作物ヲ除去セシメタルハ不當ニ非ス

原告ノ本件流網漁業ハ毫モ流水ノ疏通等ヲ妨ケ諏訪湖沿岸ニ損害ヲ及ホス如キ有害ノモノニ非ス其湖畔耕地ノ浸水ノ如キハ降雨ノ爲メ河川出水ノ結果ニシテ全ク天災ニ原因スルモノナリト主張スルモ本件流網ヲ設置スル諏訪湖ノ吐口字釜口ノ河幅五十間内外平水ニテ二尺三四寸增水ニテ四尺五六寸位ニシテ本件流網設置ノ方法ハ左右兩岸ヨリ河ノ中央迄交互三列ニ設置シ其一列ニハ臨檢見取圖ノ如キ袖網ノ長サ四間餘全體ノ長サ九間餘ナル五六ノ網ヲ井列シ其各列ノ距離僅ニ三十間内外ニ過キサルコト乙第一號證平野村長ヨリ諏訪郡役所ヘ提出シタル圖及ヒ檢證調書ニ依リ明カナリ又乙第四號證ニ依レハ列ノ一端ナル河ノ中央ノ杭ヲ始メ各網間ニ杭ヲ樹テ以テ之ヲ支ヘ凡ソ一列ニ付テ長サ四五尺ノ杭六七本ヲ要スルモノニシテ之ヲ雨潦溷流ニ際シテ施行スルモノナレハ水草等ノ漂流シ來リテ網及其支杭ニ掛ルモノ甚多カルヘキコトハ右臨檢調書ニ參照シテ推知スルヲ得ヘキナリ然シテ諏訪湖ノ地勢ヲ案スルニ之ニ注入スル河川ハ宮川砥川其他數川アリ沿岸ニハ湖南村中洲村其他村落ノ耕地アリテ孰レモ湖水ノ平水面ニ比シ纔カニ一尺内外ノ高サヲ有スルニ過キス而シテ湖水ノ吐口ハ單ニ天龍川釜口ノ一方ノミニシテ殊ニ其吐口即チ本件流網設置ノ場所ハ乙第二號證及臨檢調書ノ如ク頗ル緩勾配ナレハ降雨出水ノ際ニ在リテ一時ニ諏川ヨリ水ヲ注入シ湖水ノ水位ヲ高メ沿岸ノ耕地ヲ浸水スルコトハ免カル可ラサルモノトス斯ノ如キ狀況ナルヲ以テ諏訪湖吐口ノ排水ニ就テハ最モ注意ヲ要シ苟モ排水ヲ妨クルモノハ公益上之ヲ除去シ以テ湖畔耕地ノ被害ヲ除カサル可ラス然シテ本件流網ノ如キハ前段戰述ノ如キ數箇ノ網ヲ各所ニ設置シ其支杭モ亦數十本ヲ要スルモノナレハ自然吐口ノ流勢ヲ弱メ風雨出水ノ際之ヲ設置スルニ於テハ之カ爲メ排水ヲ妨ケ沿岸耕地ニ浸水ノ害ヲ與フル一ノ原因ト爲ルヘキモノト認メサルヲ得ス故ニ本件原告ノ流網漁業ノ許可ヲ取消シ工作物ヲ除去セシムルハ公益上必要ナルニ因リ被告ノ爲シタル處分ハ相當ナリトス

(92)◉鰊漁業製造兼業願拒否指令取消請求ノ訴

三十二年第二百六十六號
三十四年五月二十八日宣告
（北海道平民三浦彦五郎對全道廳長官男爵園田安賢）

判旨○北海道水產物取締規則第一條ニハ漁業ハ其製造業ヲ兼ヌルヘカラサル規定ナシ

○内示訓令回答ノ如キハ法規タル效力ナキモノナレハ關係行政廳以外ノ者ハ其適用ヲ請求スル權利ナシ

原告ニ於テハ漁業ト其製造業トハ必ス之ヲ兼業トシテ出願スヘク從テ山本久右衞門ノ製造願ニ其要件タル乾場ヲ闕ク場合ニ於テハ同人ノ漁業願モ倶ニ之ヲ不成立ト看做シ原告ノ漁業製造兼業願ヲ先願トシテ處分スヘキモノナリト主張シ明治二十一年北海道廳告示第二十二號同年三月十九日附同廳内示明治二十三年三月六日附同廳訓令號外及明治三十年六月五日附同廳内務部ヨリ增毛外五郡役所宛回答ヲ援用スレトモ明治二十一年北海道廳令第十八號北海道水產物取締規則第一條ニハ漁業若クハ水產物ヲ製造セントスル者ハ云々ト規定シ漁業ト其製造業トハ之ヲ兼ヌサルヘカラサル規定ナク同年同廳告示第二十二號書式ニハ何漁業（製造）（兼業）トアリテ製造及兼業ナル文字ニ括弧ヲ施シタルヲ以テ見レハ三箇ノ書式ヲ併合シテ示シタルモノニテ原告主張ノ利益ニ解スヘカラサルノミナラス却テ漁業ト製造トヲ兼業トセサル出願アルヲ認ムヘク其他内示訓令及回答ノ如キハ上級行政廳カ下級行政廳ニ對シテ執務ノ方針ヲ示シタルニ過キスシテ法規タルノ效力ナキモノナレハ關係行政廳以外ノ者ヨリ之レカ適用ヲ請求スルノ權利ナシ又原告ノ山本久右衞門ノ願書ニハ同人ノ捺印ナク形式ニ於テ闕クル所アルモノナリト謂ヘトモ同人ノ出願ハ代人ヲ以テ爲シタルモノナレハ本人ノ捺印ナキハ當然ニシテ形式ニ於テモ闕クル所ナシ然レハ被告ノ裁決ハ相當ニシテ原告ノ請求ハ理由ナキモノトス

(93)◉鰊地曳網漁業出願ニ關スル不當處分取消ノ訴

三十三年第九十一號
三十四年十月二十八日宣告
（北海道平民大山伊作對全道廳檢山支廳長粟津九郎）

判旨○正當ノ理由ナクシテ合法ノ漁業願ヲ拒否シタルハ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ毀損シタル違法處分ナリ（法律第百六號第三）

○差網漁業ヲ許可シタル場所ニ地曳網漁業ヲ許可セサルハ不當ニ非ス

（本件判旨第一ハ(83)判旨第一ト其理由同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

原告ハ原告出願ノ海面ニハ差網漁業ノ許可ヲ得タル者ナシ被告カ許可者アリト謂フハ字五厘澤ニシテ原告出願ノ場所ト同一ニアラスト謂フモ乙第一號證ノ營業箇所トアル欄内ニ柳崎村海面トアルヲ以テ看レハ中村鶴松外十二名ノ者ニ差網漁業ヲ許可シタル場所ハ字五厘澤ノミノ一區域ニ非スシテ柳崎村海面一圓ナリト認メサルヲ得ス而シテ原告出願ノ場所即チ字濵中ノ柳崎村海面ノ一部分ナルコトハ原告ノ提出ニ係ル附屬甲第一號證ノ一及四竝ニ附屬甲第二號三號及四號證ニ依リ明カナルノミナラス原告ニ於テモ曾テ爭ハサル所ナルヲ以テ該場所ハ既ニ差網漁業者ノ許可セラレタル者アリテ其海底ノ沙漠ニシテ鰊ノ群來スル場所ナルト否トハ暫ク措キ差網ヲ以テ漁業ヲ營ミ得ル場所ナルコトハ掩フ可カラサル事實ナリト謂ハサルヲ得ス果シテ然ラハ該場所ニ於テ地曳網ヲ許可スルトキハ差網及地曳網ハ共ニ流動漁具ナルノミナラス異種類ノ網ナルヲ以テ此兩網間ニ紛雜ヲ生シ殊ニ地曳網ヲ曳揚クルニ際シ差網ヲ捲キ去ルノ虞アリテ相互間ノ漁業ヲ妨ケ隨テ公共ノ利益ニ關係ヲ及ホスモノナリト認メサルヲ得ス依テ被告カ爲シタル指令ハ之ヲ取消スヘキ理由ナシ其他工藤嘉四郎ニ地曳網ヲ許可シタリトノ事實ハ乙第四號證ノ一乃至三ニ依リ明カナル如ク錯誤ニ出テタルモノト謂ハサルヲ得ス

(94)◉營業免許拒否ノ裁決取消ノ訴

三十四年第二百十九號
全年十二月十一日宣告
（神奈川縣平民伊原コマ對全縣知事周布公平）

判旨○知事カ三十一年神奈川縣令第十九號第三條第二號ニ據リ公安及風俗ヲ害スル虞アル素行不良ノ事實アル者ニ對シ雇入口入營業免許ヲ拒否シタルハ不當ニ非ス

原告ハ被告カ爲シタル裁決ハ營業免許拒否ノ事實理由ヲ確定セス假定ノ事實ニ對シ判斷ヲ下シタルモノニシテ事實理由ヲ備ヘサル裁決ナリト謂フモ被告ノ裁決ヲ看ルニ前略訴願人ノ夫タル文輔ハ云々訴願人ハ以上ノ如ク素行不良ナル夫文輔ト同居シ且經濟ヲ共通シ夫文輔ノ營業ヲ幇助シ共ニ其行爲ニ與カルノミナラス文輔不在ノ場合ニ於テハ文輔ノ業務行爲ヲ害スルノ虞アル素行不良ノ事實トシテ認定スルニ餘リアリト說明シアルニ依レハ被告ノ裁決ハ原告所論ノ如ク假定ノ事實ニ對シ判斷ヲ下シタルモノニ非スシテ事實理由ヲ具備シタルモノト謂ハサルヲ得ス又原告ハ假リニ夫文輔カ素行不良ナリトスルモ原告カ獨立シテ營マントスル營業ニ對シ何等ノ關係ナキノミナラス之ヲ以テ原告ヲモ亦素行不良ナリト斷スルハ其當ヲ得スト謂フモ甲第二號及第三號證ニ依レハ被告ニ於テ原告カ素行不良ナル夫文輔ト同居シ且經濟ヲ共通シテ夫文輔ノ業務ヲ幇助スルノミナラス場合ニ依リテハ夫文輔ノ業務ヲモ專行スル者ナルカ故ニ原告ノ行爲ヲ以テ公安及風俗ヲ害スルノ虞アル素行不良ノ事實トシテ認定シタルハ不當ナリト謂フヲ得ス既ニ斯ノ如ク被告カ爲シタル事實ノ認定ニシテ不當ニアラサル限リハ本件ハ神奈川縣令第十九號第三條第二號ニ該當スル事實ナルヲ以テ被告ノ裁決ハ勿論伊勢佐木町警察署ノ處分モ亦相當ナリト謂ハサルヲ得ス依テ該處分及裁決ハ共ニ取消ス可キ限リニアラス

(95) ◉營業權出願ニ對スル不法裁決取消及營業許可要求ノ訴

（三十二年第七十四號　三十四年十二月十八日宣告　滋賀縣平民熊田庄吉對北海道廳長官男爵園田安賢）

判旨○町村カ交通上ノ設備トシテ渡船事業ヲ爲スハ普通營利ヲ目的トスル事業ト異ナルヲ以テ之ヲ町村ニ許可スルモ不法ニ非ス（町村制第二條）

原告ハ宮城縣令ハ箇人ニ對スル營業規則ニシテ法人ニ對スルモノニ非スト然ルニ被告カ町村ノ如キ公法人ノ營利ヲ目的トスル事業ヲ許可シタルハ不法ノ處置ナリト謂フト雖モ該縣令ハ渡船營業ニ對スル一般ノ取締規則ナルヲ以テ町村カ渡船事業ヲ爲ス場合ニ於テハ本則ニ準據セサルヘカラス而シテ渡船營業ハ橋梁ニ均シク道路ヲ聯結スル交通上ノ設備ニシテ普通營利ヲ目的トスル事業ノ類ニアラサレハ之ヲ町村ニ許可スルモ法規ニ違反スルモノト謂フヘカラス

判旨○避難ノ爲メ船舶ヲ繫留シ又ハ避難ノ爲メ船舶ノ通行シ得ヘキ場所ニ建網營業ヲ許可セサルハ不當ニ非ス

第一原告ニ於テ明治三十年中ノ出願ニ係ル建網三統ノ位置ハ南ニウスヤ岬突出スレトモ暗礁ニシテ水面ヨリ深キコト數尺ニ過シ風濤ヲ遮キルニ足ラサルヲ以テウスヤ灣一帶ノ漁船ノ避難繫留シ得ヘキ所ニアラスト謂フト雖モ乙第九號及甲第四號圖ニ依ルモ暗礁一帶ノ大部ハ殆ト水面ニ過シ居ルコトヲ推知シ得ルノミナラス甲第十三號寫眞ニ據レハ暗礁ノ箇所ニ一帶ノ白色アルヲ觀ルヲ得ルヲ以テウスヤ灣ハ漁船ヲ繫留シテ避難スルヲ得ル場所ナリト認定ス故ニ被告カ原告ノ出願箇所ヲ以テ船舶繫留ニ妨害アルモノト認メ建網ヲ許可セサリシハ不當ナリト謂フヲ得ス第二原告ハ明治三十年十二月中ノ出願ニ係ルウスヤ岬建網二統ノ位置ハ海上風浪起ルトキハ風浪ヲ遮欄スル暗礁ノ附近最モ激烈ナルカ故ニウスヤ灣內ニ入ラントスル者ハ違ク沖合ヲ迂回スルヲ以テ船舶ノ通路ノ妨害トナル場所ニアラスト謂フト雖モ乙第九號及甲第四號圖面ニ依リ之ヲ觀レハ岬端ヨリ沖合ニ對スル一部ノ處ハ海底ノ深サ五尋餘アリ其幅員モ廣キヲ以テ枠船ノ出入自在ナルヲ以テ認定スルニ足ル既ニ船舶ノ通行自由ナル以上ハ其衝ニ當ル原告ノ出願箇所ニ建網ヲ許可スルトキハ通路ノ妨害トナルハ必至ノ結果ナリ然ラハ原告ノ主張ノ如ク風浪起ルトキハ船舶ハ通行スヘカラストスルモ風浪ヲ避クルニハ必シモ風浪起リタル後ニ通行スヘキモノト限ラサレハ避難ノ爲メ通行スヘキ場所ニアラスト謂フヲ得ス故ニ原告ノ主張ハ理由ナキモノトス

(96) ◉渡船營業免許取消ノ訴

（三十四年第百二十四號　仝年十二月二十六日宣告　宮城縣平民末永重四郎對仝縣知事小野田元熙）

第五門　水利土木ニ關スル件

(1)◉避病院認可書取消ノ訴

二十三年第九號
全年十一月十五日裁決（靜岡縣士族服部德八外四十八名對全縣知事時任爲基）

判旨○避病院新設ノ爲メ縣知事カ許可シタル位置變更ヲ求ムル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(3)判決理由參看）

(2)◉不當ノ新道增設工事差止ノ訴

二十三年第十三號
全年十二月十六日裁決（岐阜縣河村透對全縣知事小崎利準）

判旨○法律第百六號ニ基ク出訴ハ行政廳ノ違法處分ニ由リ毀損セラレタリト主張スル權利自己ニ屬スル場合ナルヲ要ス（法律第百六號）

（第一門第一(8)判決理由參看）

(3)◉西蒲原郡總町村費ニ關スル訴願裁決不服ノ訴

二十四年第五號
全年四月一日宣告（新潟縣平民原源八外一名對全縣西蒲原郡長鄉田兼亮）

判旨○町村聯合會カ水利土功ニ關スル里道ノ修築費ヲ町村費トシテ議決シタルハ違法ニ非ス隨テ郡長カ之ヲ賦課徵收シタル亦違法ニ非ス（二十二年法律第十一號）

（第二門(8)判決理由參看）

(4)◉岡山縣告示第四十號兒島灣開墾許可取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十三年第二十一號
二十四年四月十四日宣告（岡山縣平民林醇平外十九名對全縣知事千阪高雅）

判旨○申立ノ數衍ハ其訴訟目的ノ變更ニ非ス○訴狀ノ全體ニ於テ明瞭ナル申立ハ訂正ノ必要ナシ

（第一門第五(1)判決理由參看）

(5)◉岡山縣告示第四十號兒島灣開墾許可取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十三年第二十一號
二十四年四月十四日宣告（岡山縣平民林醇平外十九名對全縣知事千阪高雅）

判旨○請願規則ハ訴願法ト牴觸セサル故請願規則ニ基キ農商務大臣ニ請願シ其指令ヲ受クタル者ト雖訴願法發布後六十日以內ニ於テハ出訴スルコトヲ得（行法裁判法第十七條第三項法律第百六號）

（第一門第一(17)判決理由參看）

(6)◉岡山縣告示第四十號兒島灣開墾許可取消請求ノ訴（第一門第一(17)第五(1)妨訴抗辯ノ本案）

二十三年第二十一號
二十四年五月十九日宣告（岡山縣平民林醇平外十九名對全縣知事千阪高雅）

判旨○十六年甲第二十七號岡山縣布達ハ公共土木費ノ負擔區域等ヲ定メタルモノニシテ一箇人ノ開墾

起業ニ對シ施行スヘキモノニ非ス

○十年甲第百十六號岡山縣布達ハ土地變換等ニ關シ出願人ニ協議及連署ノ責ヲ負ハシメタル而已ニシテ關係者ニ協議連署ノ權利ヲ與ヘタルモノニ非ス

原告ハ被告縣知事カ明治二十二年中藤田傳三郎ニ兒島灣開墾許可ヲ與ヘタルノ際關係郡村若クハ關係人ノ連署ヲ具ヘサル願書ヲ採用許可シタルハ明治十年岡山縣甲第百十六號布達及明治十六年甲第二十七號布達土木規則第十一條ニ背キタル違法ノ處分ニシテ原告人等ニ於テ協議ヲ受クルノ權利ヲ毀損セラレタリト謂フト雖明治十六年甲第二十七號布達ハ元來公共土木費ノ負擔區域等ヲ定メタルモノニシテ本案一箇人ノ開墾起業ニ對シ施行スヘキモノニアラス又被告ハ明治十年甲第百十六號布達ハ町村境域內ノ土地變換等ニ對スル願人各自出願ノ手續ヲ示シタルマテニシテ兒島灣ノ如キ町村境域外ノ水面ニ適用スヘキモノニアラスト謂フモ該布達ハ管下一般ニ普及スヘキモノニシテ別ニ其明記ナキ以上ハ町村境域外ノ水面ハ布達外ナリト看做スコトヲ得ス故ニ本件開墾出願人ニ於テ關係人ニ協議ヲ遂ケス又連署ヲ求メサリシハ自己ノ責ヲ全フセス該布達ニ違ヒタルモノニシテ被告ノ之ヲ採用シ開墾許可ヲ與ヘタルハ調査順序ヲ誤マリタルモノナリト謂フト雖該布達ハ單ニ出願人其人ニ對シ協議及連署ノ責ヲ負ハシメタルノミニシテ其效力ヲ第三者タル原告人等ニ及ホシ協議連署ノ權利ヲ與ヘタルモノト謂フヲ得ス況復被告縣知事ハ明治二十二年告示第七十二號ヲ以テ實際工事著手ノ前各區域限リ詳細調査ヲ遂クヘク其際自然水利其他被害ノ關係アル者ハ縣廳ヘ可申出旨ヲ公示シタレハ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリト爲スヘキ事實ナキモノトス依テ藤田傳三郎ヘ與ヘタル兒島灣開墾許可ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス

(7)◉違法處分取消ノ訴

二十四年第四十一號
全年九月二十二日裁決（岐阜縣各務郡芥見村外一箇村組合村長龜山謙二對全縣知事小崎利準）

判旨○用水路新設ノ爲メ村ヲ其聯合區域內ニ編入シタルヲ不當トスル事件ハ裁判法第二十二條ノ期間ヲ經過シタルトキハ出訴スルヲ得ス（行政裁判法第二十二條）

（第二門第二(4)判決理由參看）

(8)◉併校土木取消請求ノ訴

二十四年第四十四號
全年九月二十四日裁決（山形縣平民大塚彥四郎對全縣知事長谷部長連）

判旨○縣知事ノ爲シタル小學區畫及其位置分合存廢處分ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(27)判決理由參看）

(9)◉堤防修築費賦課處分取消ノ訴

二十四年第五十一號
二十五年一月十二日宣告（新潟縣平民泉善七外百二十三名對全縣中蒲原郡川東村長伊東清）

判旨○町村內ノ一部ニ限リ利害關係アル營造物ナル堤防ノ修築費ハ其一部ノミニ賦課スルヲ當然トス（町村制第九十九條第三項第百二十七條第八號）

（第二門(18)判決理由參看）

(10)◉違法ノ縣令取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十四年第八十五號
二十五年一月二十一日宣告（高知縣平民桑門瑞雲對全縣知事調所廣丈）

判旨○十七年太政官第三號布達ニ基キテ發シタル伐木停止ノ縣令ヲ取消サンコトヲ求ムルハ法律第百六號第四ニ所謂水利土木ニ關スル事件ナリ（十七年太政官第三號布達法律第百六號第四）

（第一門第一(39)判決理由參看）

(11)◉土木工事ニ關スル違法處分取消ノ訴

二十五年第八號
全年一月二十九日裁決（京都府平民大槻初藏外一名對全府天田郡全町村組合管理者天田郡長柳島誠）

判旨○町村組合ノ管理者タル郡長カ道路開鑿工事受負ニ關シ違法ノ處分ヲ爲シタリト主張スル事件ハ地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ出訴スルヲ得ス（町村制第八十七條訴願法第二條）

（第一門第四(6)判決理由參看）

(12)◉不法裁決取消ノ訴

二十四年第四十二號
二十五年二月十八日宣告（岐阜縣各務郡芥見村外一箇村組合村長龜山謙二對全縣厚見各務方縣郡長阿部直輔）

判旨○除租地ニ課稅徵收シ又用水路敷地成除租前徵收ノ地租金下渡ノ達ヲ受ケ之ニ應セサリシ村長ノ行爲ハ不當ナリ

（第十四門(5)判決理由參看）

(13)◉違法ノ縣令取消ノ訴

二十四年第八十五號
二十五年三月五日宣告（高知縣平民桑門瑞雲對全縣知事調所廣丈）

判旨○係爭中ノ權利ハ之ヲ毀損セラレタリト稱シテ出訴スルコトヲ得ス

（第一門第一(41甲)判決理由參看）

(14)◉郡會議決執行停止不當ノ訴

二十五年第四號
全年四月十九日宣告（福井縣丹生郡會議長佐藤正克對全縣吉田郡長佐藤正克）

判旨○郡會ヵ縣會ニ於テ議決シタル土木費ノ取消ヲ內務大臣ニ請願センコトヲ議決シタルハ越權ナリ隨テ郡長カ其議決ノ執行ヲ停止シタルハ違法ニ非ス（舊郡制第七十五條）

（第九門第二(3)判決理由參看）

(15)◉芝原用水組合總代人員及其選擧區域制定處分不當ノ訴願ニ對スル裁決取消ノ訴

二十四年第五十六號
二十五年四月三十日宣告（福井縣平民山田清兵衞外二名對全縣吉田郡長近藤直一）

判旨○用水組合總代人員及其選擧區域制定處分ニ起因

スル訴ニ就キ訴願期限起算ノ當否ノミヲ爭フハ法律第百六號第四ニ所謂水利土木ニ關スル件ニ非ス（法律第百六號第四）

（第一門第一(44)判決理由參看）

(16)◉石材採掘不當處分取消ノ訴

二十五年第四十號　千葉縣海上郡高神村長宮內
仝年五月三十一日裁決　（千秋對農商務大臣河野敏謙）

判旨○石材拂下處分ヲ不當トシ其取消ヲ請求スル事件ハ法律第百六號第四ニ所謂水利土木ニ關スル事件ノ範圍內ニ入ルヘキモノニ非ス（法律第百六號第四）

（第一門第一(44)判決理由參看）

(17)◉道路區域存續ノ訴

二十五年第十九號　石川縣鹿島郡鹿島路村長三宅
仝年七月四日宣告　（藤遠對仝縣仝郡長大塚志良）

判旨○二十二年法律第十一號ニ基ク水利土功ニ關スル町村聯合會ハ特別ノ法律ヲ以テ廢止スル迄ハ存續ス故ニ其管理ニ屬スル道路事務ニハ制第百十六條ヲ適用セス（二十二年法律第十一號町村制第百十六條）

○條例第一條ノ水利土功トハ水利ニ關スル土功ヲ指シタルモノニシテ道路ニ關スルモノヲ包含セス（水利組合條例第一條）

原告訴訟代理人ハ石川縣鹿島郡西往來道路ノ事務ハ水利組合條例ノ實施セラレタル上ハ町村制第百十六條ノ規定ニ依リ該道路ノ事務ハ原告ニ引繼クヘキモノナリト謂フト雖明治二十二年法律第十一號ハ水利土功ニ關スル町村聯合會ヲシテ町村制施行後ト雖別ニ規定ヲ設クルマテ舊區町村會法ニ依リ之ヲ存續セシムルノ特別法ナルヲ以テ石川縣知事ニ於テ該法律ノ趣旨ニ依リ縣令第七十五號ヲ發布シタル以上ハ假令町村制實施ノ後ト雖別段ノ法律ヲ以テ其存續ヲ廢止セラレサル限リハ本件道路事務ノ如キハ町村制第百十六條ノ規定ヲ適用シ得ヘキモノニ非ス隨テ該規定ニ依リ町村ニ其引繼ヲ爲スヘキモノニ非ス然ルニ原告ハ水利組合條例第一條中水利土功ノ文字アルヲ以テ該條例ハ水利ノミナラス道路ノ事モ亦併セテ規定シタルモノナリト主張スルモ水利土功トハ水利ニ關スル土功ヲ謂フモノニシテ該條例中卷モ道路ニ關スル規定ナキヲ以テ水利組合條例ハ道路ニ關シ法律第十一號ノ所謂別ニ設ケラレタル規定ナリト謂フヲ得ス

(18)◉村役場新築場所不當議決取消ノ訴

二十五年第百二號　廣島縣平民森原鐸司外三名對仝縣
仝年十月十三日裁決　（安那郡山野村會議長宮原幸次郎）

判旨○村役場新築位置ヲ定メタル村會ノ議決ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(53)判決理由參看）

(19)◉町稅戶別割追賦課不當取消ノ訴

二十五年第三十一號　秋田縣平民三津谷重五郎對仝縣
仝年十月二十日宣告　（南秋田郡土崎港町長橋本宗彥）

判旨○裁判所建築費ハ國庫ノ負擔ニ專屬スルヲ以テ町村必要ノ支出ニ非ス（町村制第八十八條）

（第二門(25)判決理由參看）

(20)◉不當命令取消ノ訴

二十五年第三十二號　埼玉縣平民大室榮藏外三
仝年十一月二十六日宣告　（名對仝縣知事久保田貫一）

原告ハ堤塘ノ現形ハ仕樣帳ニ由リ許可ヲ得タル制限內ノ工事ナレハ許可以外ノ工事ニアラスト謂フト雖モ修築ノ爲メ新土ノ舊堤ヲ掩蔽セルニ托シ漫ニ仕樣帳ニ適合スルモノナリト謂フニ止リ舊堤ノ形樣ヲ疏明セス且其提出スル甲第五號證ニ依レハ金田堤ハ東方ニ傾斜ヲ爲シテ盡クルモノナリシヲ見ルニ足リ之ヲ仕樣帳ニ於テ需用スル土坪數ニ照ラスモ甚シキ差違アリテ信ヲ措キ難ク被告モ亦舊堤形ニ就キテハ單ニ島田技手ノ手帳ナル野取帳ヲ引證スト雖モ該帳ハ公簿ト認メ難ク且原告ニ於テ異議アル上ハ之ヲ以テ舊堤ヲ認諾セシメタルノ證左ト爲スコトヲ得サルモノニシテ除却命令ノ尺寸ヲ生スヘキ起點ナキニ因リ確實ニ算出シタル命令ナリト謂フヲ得ス然レトモ原告ノ是認スル乙第四號證ノ二及三ヲ閱スルニ係爭堤ノ敷地ハ善能寺東端三間二分五厘西端二間金田西端二間東端二間ナルコト明白ナリ依テ現形ヲ該證ニ照ラストキハ善能寺東端ハ尙ホ五分七厘ノ餘地アレトモ其西端ハ八分五厘ノ超過アリ又金田西端ハ八分ノ超過ニシテ其東端モ亦六分二厘ノ超過アレハ該超過ハ定限ノ堤敷ニ準據シテ削除スヘキヲ當然ナリトス故ニ該堤ハ善能寺堤西端ヨリ金田堤東端ニ至ル敷地ノ高低ニ依準セル地平線ヲ畫シ該證ノ各定限ニ基キ裏裏ノ高低ヲ平均シ之レニ鰀方ノ合意セル一割二歩法ヲ付シ馬踏五尺ヲ得ルニ至ルモノヲ以テ適當ノ堤形ナリトス而シテ善能寺東端ハ其定限ニ照ラシ尙ホ敷地ニ餘裕アリト雖モ原告ハ已ニ請求ヲ充タスモノナレハ之レヲ增減スルコトヲ得ス依テ是レヨリ東西極端ニ至ルモノハ其定限ト合意トニ基キ更ニ算數上生シタル堤形ノ定度ニ準據シ其定度以外ニ係ルモノハ之レヲ明示シテ除却命令ヲ爲ス可キモノトス

(21)◉違法課稅ノ訴

二十五年第四十六號　秋田縣藤田庄五郎外九名對仝
仝年十二月九日宣告　（縣仙北郡藤木村長川越平助）

判旨○町村內ノ一部ニ於テ專用スル營造物ノ費用ニ非サレハ制第九十九條ヲ適用セス（町村制第九十九條）

○制第百一條ノ規定ニ據ル夫役割ニ付地方稅ノ補助ヲ受クルハ不當ニ非ス（町村制第百一條）

○制第百一條ハ急迫若クハ非常ノ場合ニ非サレハ適用セサル規定ニ非ス（同上）

（第二門(32)判決理由參看）

(22)◉土木ニ關スル違法行政處分取消請求ノ訴

二十六年第四號　京都府天田郡西中筋村長田中
仝年二月四日裁決　（喜間太對仝縣仝郡長柳島誠）

判旨○一郡ノ組合會カ其共有金ヲ以テ鐵道線路ニ關シ奔走スル委員ノ手當金トシテ支出スルヲ不當トスルノ訴ハ法律第百六號第四ニ所謂土木ニ關スル事件ニ非ス（法律第百六號第四）

（第一門第一(74)判決理由參看）

(23)◉第二種太田道路濱原村地內改修工事

邑智郡各村組合負擔解除願ニ付邑智郡長ノ裁決不服ノ訴願ニ對シ島根縣知事ノ却下處分不服ノ訴

二十五年第百四十四號
二十六年二月十五日裁決（島根縣邑智郡濱原村長小野富彭對仝縣知事篠崎五郎）

判旨○土木ニ關シ其管理者ノ處分ヲ違法トセス單ニ地方上級行政廳カ訴願ヲ却下シタル理由ヲ不當トスル請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(76)判決理由參看）

(24)◉水防組合組織ニ對スル違法處分取消ノ訴

二十六年第五號
仝年三月二十四日宣告（茨城縣平民門井唯一郎對仝縣筑壁郡長陽等）

判旨○從來地方稅ヲ以テ其費用ヲ支辨シ來レル水防組合ノ組織ニハ條例第一條ヲ適用セス（水利組合條例第一條）

○水防ニ關スル町村組合ノ組織ヲ許可シタル郡長ノ處分ハ違法ニ非ス（町村制第百十六條）

原告ハ本件水防組合ハ明治二十三年法律第四十六號水利組合條例第一條ニ依リ組織スヘキモノナリト謂フト雖同條ニハ府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ關セサル云云特別ノ事情ニ依リ市町村若クハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得トアリ而シテ本組合ノ事業ハ從來地方稅ヲ以テ支辨シ來ルモノナレハ水利組合條例第一條ニ依ルヲ得ルモノニアラス又町村制第百十六條ニハ數町村ノ事務ヲ共同處分スルタメ云云其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得トアレハ本件水防組合ノ組織ニ對シ被告カ許可ヲ與ヘタル處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

(25)◉普通水利組合規約認可取消ノ訴

二十六年第六號
仝年三月三十日裁決（青森縣平民青山彦左衞門外四名對仝縣知事佐和正）

判旨○普通水利組合規約ヲ縣知事カ認可シタルヲ不當トスル訴ハ法律第百六號第四ニ所謂水利土木ニ關スル事件ノ範圍內ニ入ルヘキモノニ非ス（法律第百六號第四）

（第一門第一(83)判決理由參看）

(26)◉議決變更取消ノ訴

二十六年第四十四號
仝年四月七日裁決（京都府平民柴田新治郎對仝府北桑田郡長辻直方）

判旨○組合小學校新築ニ付組合管理者タル郡長カ町村組合會ヲシテ同一事件ヲ再議議決セシメタルヲ不當ナリト主張スル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(84)判決理由參看）

(27)◉土木ニ關スル違法處分ノ告示取消ノ訴

二十六年第四十一號
仝年五月二十五日宣告（高知縣平民山下治之助外十八名對舊物部川水利土功會管理者仝縣香美郡長桐島祥陽）

判旨○二十二年法律第十一號ニ據テ存續セル水利土功會ハ條例施行後ト雖同法ニ基ク水利組合會ノ設立ニ至ルマテハ有效ニ成立ス隨テ管理者タル郡長カ土木工事ノ議案ヲ該會ニ提出シタルハ違法ニ非ス（二十二年法律第十一號市制第百三十二條町村制第百三十八條）

原被所爭ノ要旨ハ明治二十二年三月法律第十一號ニ從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若シクハ學事ニ關スル町村聯合會ハ云云別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得トアリ而シテ水利組合會議未タ開設ニ至ラサル場合ニ於テハ水利組合條例施行期日以後ニ於テモ尙水利土功會ヲ有效ニ存續スルヲ得ルヤ否ノ論點ニ歸着スルモノトス依テ之ヲ說明セン市制第百三十二條町村制第百三十八條ニ明治十七年五月第十四號布告區町村會法云云此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ストアレハ同制施行ノ日ニ於テハ區町村會法ニ依リテ組織シタル會議ハ總テ廢止ニ歸スルモノナルヲ以テ右法律第十一號及學事ニ關スル會議ニ限リ別ニ規定設立ニ至ルマテ舊法ニ依リテ存續スルヲ得セシムルモノニシテ其之ヲ存續セシムル所以ハ此等ノ行政機關ヲシテ絕止セシメサラシムルノ法意ニ外ナラス然ルニ水利組合條例施行ノ日即チ未タ水利組合會議設立セサルノ時ニ於テ水利土功會ノ存續ヲ止メンカ水利土功ニ要スル行政機關ハ一時絕止ニ歸シ其結果明治二十二年法律第十一號ハ遂ニ其目的ヲ完フスルヲ得サルニ至ラントス故ニ水利土功會議ノ存續期ハ水利組合條例依據シタル會議ノ設立ト同時ニ盡クルモノナリト謂ハサルヘカラス然ラハ本件被告カ明治二十四年六月一日水利組合施行以後水利組合設立前ニ際シ物部川水利土功會議員ヲ召集シ甲第二號證議案ヲ該議會ニ提出シタルモ議決ニ至ラサルヲ以テ乙第三號證ノ照請ヲ爲シ又町村制第百二十六條ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ受ケテ甲第一號證ノ徵稅ヲ命シ物部川土木工事ニ著手シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(28)◉市會ノ議決取消裁決不當ノ訴

二十六年第十四號
仝年七月六日宣告（鳥取縣鳥取市會議長宮崎貞藏對仝縣仝市參事會仝市長田中政春）

判旨○鐵道敷設ニ關シ有志人民ノ請願費用ヲ補助スルハ市ノ必要ナル支出ニ非ス隨テ市會カ之ヲ議決シタルハ違法ナリ（市制第八十八條）

（第九門第一(32)判決理由參看）

(29)◉請取書一覽ノ訴

二十六年第八十六號
仝年九月十八日裁決（岐阜縣平民龜山謙二對仝縣知事曾我部道夫）

判旨○復舊土木工事費及救助義捐金等ノ請取書閱覽ノ請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(93)判決理由參看）

(30)◉學務委員設置規程ニ關スル訴

二十六年第七十八號
二十七年一月十五日宣告（福島縣安達郡荒井村會議長石橋貞幹對仝縣仝郡荒井村會議員田仁井田組合村長石橋貞幹參加人仝縣仝郡長木本貞）

判旨○制第百十六條第二項ニ據ル組合村ト雖教育事務ニ關シ經濟ヲ共通セス各村ニ小學校ヲ設置スルコトヲ協定シタル場合ニ其一箇村カ學務委員設置ノ議決ヲ爲シタルハ違法ニ非ス（町村制第百十六條第二項舊小學校令第二十五條第二項）

（第九門第一(38)判決理由參看）

(31)◉水面埋立工事ニ關スル違法指令取消請求ノ訴

二十六年第百四號
二十七年三月十七日宣告
（愛知縣寶飯郡下地町長深谷米七郎對仝縣知事時任爲基原告從參加人仝縣仝郡鹿菅村長中西致作）

判旨○縣知事カ相當ノ調査ヲ遂ケテ公有水面埋立工事ヲ許可シタルハ違法ニ非ス（二十三年勅令第二百七十六號官有地取扱規則第十二條同年內務省訓令第三十六號第一條）

原告及原告從參加人隣地ノ要領ハ被告カ小柳津治郎右衞門外十名ニ與ヘタル愛知縣渥美郡吉田方村及牟呂村地先豐川口公有水面埋立工事ノ允許指令ハ明治二十三年勅令第二百七十六號官有地取扱規則第十二條及明治二十三年內務省訓令第三十六號第一條ニ違ヒタルモノニシテ本件工事カ原告及從參加人ノ町村ニ妨害ヲ與フルコトハ原告ノ參考書ト從參加人提出ノ鑑定書ニ依リテ明カナリ又被告ハ自ラ原告等町村ヲ以テ關係ヲ有スルモノト認メタルコトハ甲第七號證原告ノ上申書ニ對シ出願者無之云云關係町村ノ意見ヲ聽キ然ル後認可云云トノ理由ヲ以テ却下シタルヲ以テ知ルヘシ然ルニ一同ノ諮問ヲ爲ササリシハ原告ノ權利ヲ毀損シタルモノナリト謂フニ在レトモ被告ハ二十三年內務省訓令第三十六號第一條ニ據リ乙第二號證及乙第三號證ノ如ク關係町村ノ意見ヲ聞キ更ニ乙第四號證及乙第五號證ノ如ク土木監督署ヘ進復ヲ經妨害トナラスト認メ認可シタルモノニシテ原告提出ノ諸證ニ於テハ一モ妨害トナルヘキヲ證スヘキモノナク又原告等ハ自己ノ町村ヲ以テ右第三十六號ノ關係町村ニシテ被告モ之ヲ認メ居レリト謂フモ被告ノ所謂關係町村ナルモノハ直チニ原告及從參加人ノ町村ヲ指シタルモノト認メ難ク且其意見ヲ聞クハ調査上ノ手續ニ過キサレハ被告ノ行爲ヲ違法ナリト謂フヲ得ス

(32)◉償金請求ノ訴

二十七年第二十四號
仝年四月八日裁決（福井縣平民森小治郎大夫外一名對仝縣遠敷郡宮川村長樹木四郎左衞門）

判旨○村長カ爲シタル道路改修處分ノ賠償請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(110)判決理由參看）

(33)◉不當指令取消請求ノ訴

二十七年第十七號
仝年六月九日宣告（埼玉縣葛飾郡加治村長山岸馨三郎對仝縣知事男爵千家尊福）

判旨○縣知事カ縣達ニ基キ復舊工事ト認ムルヲ得サル即チ新設工事ヲ取毀ツ指令ヲ爲シタルハ違法ニ非ス

原告ハ本件道路築立工事ハ甲第三號證縣達第二十二號第二十四條ニ該當スル復舊工事ナルカ故ニ被告ノ許可ヲ得テ後施行スヘキモノニ非スト謂フト雖原告提出甲第四號證甲第五號證甲第六號證甲第七號證等ノ繪圖ハ原告若クハ原告村ノ調製ニ係ルモノナレハ原告主張ノ事實ヲ確カムルノ證據ノ效力ナキモノトス又原告ニ於テ地券發行ノ際調製シタル村繪圖ナリト稱スル甲第八號證及ヒ地租改正ノ際調製シタリト稱スル甲第十一號證圖面ヲ閱スルニ兩圖共ニ堤外ニ突出シタル朱線アルヲ以テ事實河原地ニ通行シ得ルノ道路アリタリト爲スヲ得ルモ之ヲ以テ從來築立ダル道路アリタルモノト認定スルヲ得ス又甲第九號證甲第十號證ハ原告村ニ關係アル者ノ證明ナルヲ以テ確證ト爲スニ足ラス又參考人西久保遲三小山三右衞門西島民造三名ノ陳述ハ何レモ判明ナラサル申立ニ付原告主張ノ如ク從來築立タル道路アリタルモノト認ムルヲ得ス依テ本件所爭ニ係ル道路築立工事ハ第三號證縣達第二十二號第二十四條ニ該當スル復舊工事ニ非スシテ仝縣達第二十條ニ該當スル新設ノ工事ニ屬スルモノトス故ニ被告ニ於テ甲第二號證ノ指令ヲ發シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(34)◉不當處分取消請求ノ訴

二十七年第三十四號
仝年六月十一日裁決（福井縣平民森小治郎大夫外一名對仝縣遠敷郡宮川村長樹木四郎左衞門）

判旨○村長カ爲シタル道路改修處分ハ一箇人ノ所有地ヲ侵害シタルモノト主張シ其處分取消ノ請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(113)判決理由參看）

(35)◉市區改正ニ付移轉料請求却下不服ノ訴

二十七年第八十五號
二十八年三月二十八日裁決（兵庫縣佐用郡三日月村長織田正治對仝縣知事周布公平）

判旨○土木工事ヲ目的トスル町村稅ノ賦課ニ對シテ不服アル者ハ訴願出訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモ町村長ニ之ヲ許ス法令ナシ（町村制第百五條）

(36)◉指令取消ノ訴

二十七年第七十號
二十八年三月十四日宣告（岐阜縣大野郡谷郷村長貞光伊之助外一名對仝縣知事曾我部道夫）

判旨○人民ノ權利ヲ毀損セサル行政廳ノ指令ハ取消スヘキモノニ非ス

原告ニ於テ田地用水ノ爲メ揖斐川ヲ堰留メ流水ヲ使用シ得ルハ古來ノ慣例ニシテ被告カ其流心五間又ハ三間等ノ制限ヲ附シ全流堰留ヲ許可セサルハ原告ノ既得權ヲ害スルモノナリトノ趣ヲ陳述スレトモ當來揖斐川全流ヲ堰留メ得ルノ慣行アリシトハ單ニ其陳述ニ止マリ證中其事蹟アリト認ムル可キモノナキヲ以テ既得ノ權利アリト謂フ可ラス故ニ明治二十七年八月二十日附岐阜縣指令已第六八一九號ノ指令ハ取消ス可キモノニアラス

(37)◉村稅賦課ニ關スル訴願ノ裁決取消ノ訴

二十七年第八十五號
二十八年三月二十八日裁決（田正治對仝縣知事周布公平）

判旨○土木工事ヲ目的トスル町村稅ノ賦課ニ對シテ不服アル者ハ訴願出訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモ町村長ニ之ヲ許ス法令ナシ（町村制第百五條）

（第一門第一(134)判決理由參看）

(38)◉議決取消ノ處分ニ對スル不服ノ訴

二十八年第三號
仝年四月二十日宣告（山形縣會議長丸山晉對仝縣知事木下周一）

判旨○豫算案ニ記載ナキ架橋費ヲ府縣會カ道路橋梁費中ニ加ヘタルハ越權ナリ（二十四年內務省令第十二號第二條）

（第九門第三(4)判旨第一理由參看）

(39)◉命令取消ノ訴ニ關スル妨訴抗辯

二十八年第七號
仝年六月六日宣告（新潟縣平民機部兼吉對仝縣知事龍手田安定）

判旨○知事カ法人タル一村ニ對シテ地方稅ノ補助ヲ取消シ工事ノ成功ヲ命シタル處分ニ付テハ未タ行政處分ヲ受ケサル一部ノ村民ヨリ出訴スルノ權利ナシ

（第一門第一(138)判決理由參看）

(40)◉町會裁決ノ效力ニ關スル訴

二十八年第十三號
仝年六月八日宣告（秋田縣山本郡能代港町會議長谷田部胤道對仝郡仝町長谷田部胤道）

判旨○縣ニ屬スル架橋事業ト雖町村ノ利害ニ關係アル場合ニ於テ其町村會カ意見書提出ノ爲メ起草委員ヲ選定シタルハ越權ニ非ス（町村制第三十五條第二項）

（第九門第一(59)判決理由參看）

(41)◉村稅一部取消ノ訴

二十七年第四十三號
二十八年九月三十日宣告（長野縣平民埴穉齡對仝縣埴科郡阪城村長市川濟雄）

判旨○町村ハ小學校令第三十六條ニ據リ高等小學校ヲ設置シ他村ノ生徒ニ入學ヲ許スヲ得ルカ故ニ其費用ヲ村稅トシテ賦課シタルモ違法ニ非ス（舊小學校令第三十六條）

（第二門(59)判旨第三理由參看）

(42)◉土木ニ關スル不法處分取消請求ノ訴

二十八年第七十號
仝年十月二十四日宣告（福島縣信夫郡岡山村長和合所吉對仝縣知事原保太郎）

判旨○知事カ交通上ノ便益ヲ認メ甲村ノ故障アルニ拘ラス乙村ニ道路開鑿ヲ許可シタルモ法規ニ違背セサルニ於テハ不法ノ處分ニ非ス

原告ニ於テ本件道路ハ原告村ノ內大字山口ヲ經由スルモノニシテ其開鑿ニ係ル道數ハ原告村ノ管理ニ屬スルヲ以テ本村ニ直接ノ利害アル工事ナルニ被告ハ原告村ノ故障アルニモ拘ラス單ニ一部人民ノ請願ヲ容レ輒ク之ヲ許可シタルハ不法ノ處分ナリト謂フト雖本件ノ道路開鑿ハ被告知事ニ於テ交通上便益アルヲ認メ許可シタルモノニシテ又何等ノ法律規則ニ違背スルノ點アルヲ認メス故ニ原告村ノ故障ヲ顧ミス之ヲ許可シタルモ不法ノ處分ナリト謂フヲ得ス隨テ本件ノ許可ハ之ヲ取消スヘキモノニアラス

(43)◉不法處分取消ノ訴

二十八年第百八號
仝年十二月二十一日裁決（長野縣平民若林又吉外三百二十六名對仝縣小縣郡青木村長代理助役金井喜悅）

判旨○學校新築費借入償還金ノ賦課其滯納處分及學校位置ノ變更ヲ不當トスル訴ハ地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ提起スルヲ得ス（行政裁判法第十七條）

（第一門第四(26)判決理由參看）

(44)◉村役場新築位置變更ノ理由質問書ニ依リ答辯請求ノ訴

二十九年第一號
仝年一月二十八日裁決（岡山縣平民小林直一郎對仝縣勝北郡吉野村長丸尾四郎兵衛）

判旨○村長カ村民ヨリ提出シタル質問書ヲ却下セシ處分ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(154)判決理由參看）

(45)◉訴願却下取消請求ノ訴

二十九年第四十三號
仝年四月十三日裁決（千葉縣士族櫻井勇義對內務大臣子爵芳川顯正）

判旨○土地收用ニ關スル審查委員會ノ裁定ヲ不當トスル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(163)判決理由參看）

(46)◉土木工事受負ニ關スル郡長ノ訓令ニ附キテノ訴

二十九年第二號
仝年四月二十四日宣告（岡山縣澁口郡六條院村長大四京平對仝縣仝郡長東馬安太）

判旨○村ノ負擔ニ屬スル土木工事ヲ區ノ請負ト爲スヘシトノ村會ノ議決ハ違法ナリ（町村制第百十四條）

○經濟上利益アリトノ理由ヲ以テ區ノ請負工事ヲ區ノ營造物ノ管理方法ニ關スルモノト謂フヲ得ス（同上）

（第九門第一(65)判決理由參看）

(47)◉不當賦課徵收令狀取消ノ訴

二十八年第百九號
二十九年五月二十六日宣告（奈良縣平民德田音吉外四十九名對仝縣添上郡奈良町長青田吉三郎）

判旨○縣道修築ノ爲ニスル寄附金ハ公共事務ニ該當スル必要ノ支出ナリ故ニ町會ニ於テ之ヲ議決シ其町民各自ノ承諾ヲ要メス町稅トシテ賦課シタルハ違法ニ非ス（町村制第二條第八十八條第一項）

（第二門(69)判決理由參看）

(48)◉水利ニ關スル不當處分取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十九年第四十五號
全年九月二十四日宣告（長野縣平民武田多武二）
（對全縣知事高崎親章）

判旨○村長カ區會ノ議決ニ基キ執行シタル水利ニ關スル處分ニ不服アル者ハ法律第百六號ニ據リ出訴スルコトヲ得（法律第百六號第四）

（第一門第一(168)判決理由參看）

(49)◉**水利ニ關スル不當處分取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯**

二十九年第四十五號
全年九月二十四日宣告（長野縣平民武田多武二）
（對全縣知事高崎親章）

判旨○行政訴訟ハ裁決者處分者孰レヲ對手人ト爲スモ原告ノ自由ナリ

（第一門第三(28)判決理由參看）

(50)◉**訴願書不當却下處分取消請求ノ訴**

二十九年第八十二號
全年十月五日裁決（千葉縣士族櫻井勇義對內務大臣伯爵樺山資紀）

判旨○行政裁判法第十七條第二項ハ同法第十五條ノ範圍內ニ於テ出訴ヲ許スモノトス又期限經過ヲ理由トシテ却下シタル訴願ノ裁決ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ（行政裁判法第十七條第二項第十五條）

（第一門第一(169)判決理由參看）

(51)◉**歩一稅賦課取消訴願ノ裁決不服ノ訴**

二十九年第八十八號
全年十月十五日裁決（京都府小室信夫對全府知事男爵山田信道）

判旨○收用ノ土地ニ對シ歩一稅ヲ賦課シタルヲ不當トスル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ十四日ノ期間內ニ提出スルヲ要ス（市制第百十六條）

○制第百十六條第二項ハ同條第一項ノ場合ノミニ適用スヘキ規定ニ非ス（同上）

（第一門第四(38)判決理由參看）

(52)◉**村會議決取消決定ニ關スル異議ノ訴ニ對スル妨訴抗辯**

二十九年第六十二號
全年十一月二日宣告
（長野縣上水內郡富士里村會議長熊川德太郎對全縣全郡參事會全郡長桑田榮雄）

判旨○郡長カ村會ノ議決ハ公衆ノ利益ヲ害スト認メ再ヒ付議シタルモノニシテ郡參事會及縣參事會ノ裁決共ニ同一ノ理由ニ出ツルニ於テハ假令村長カ郡參事會ノ裁決ヲ請求スル書面中ニ村會ノ處置ハ法律命令ニ背キ云云トアルニモセヨ此一事ヲ以テ制第六十八條第二號ノ後段ニ適合スト謂フヲ得ス（町村制第六十八條第一號）

（第一門第一(173)判決理由參看）

(53)◉**違法處分ニ關スル訴**

二十九年第百十二號
全年十二月十七日裁決（京都府平民岡兵右衛門外二名對全府參事會全府知事男爵山田信道）

判旨○村長カ小學校合併及村役場移轉ニ關スル村會ノ議決ニ基キ其執行ヲ爲サントスルヲ不當ナリト主張スル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(184)判決理由參看）

(54)◉**不當課稅取消請求ノ訴**

二十九年第五十三號
全年十二月二十八日宣告
（新潟縣平民長島龍太郎對全縣北蒲原郡嘉山村長代理助役齋藤堅治）

判旨○區會カ其區全體ノ利害ニ關スル堤防修築費ヲ議決シ之ヲ其區內ノ土地所有者ニ賦課シタルハ違法ニ非ス（町村制第九十九條）

（第二門(75)判決理由參看）

(55)◉**路線變更ノ訴**

二十九年第九十二號
三十年二月十三日宣告（長野縣平民津金万六郎外四十九名對全縣知事高崎親章）

判旨○縣道改修ノ爲ニスル路線ノ選定ハ知事カ調査決定スヘキ職權ニ屬ス

○縣道改修ノ爲ニ一箇人ノ土地ヲ收用スルハ違法處分ニ由ル權利ノ毀損ニ非ス

原告ニ於テ縣會ノ決議ニ依ルトキハ費用少クシテ通路ニ便ナル線ヲ選定スヘキモノナルニ之ニ反シ費用多クシテ通路ニ不便ナル線ヲ選定シタルハ違法ニシテ又之カ爲メ原告ノ所有地ニ潰レ地ヲ生シタルハ權利ヲ毀損シタルモノナリト謂フト雖路線選定ハ專ラ行政上調査決定スヘキ事件ニ屬シ其改修費額ノ如キモ工事施行ノ方法ニ基ク結果ナレハ違法ノ處分ヨリ生シタリト謂フヲ得ス且路線決定ノ上ハ之ニ要スル土地ノ收用ハ公用ニ供スルモノナルヲ以テ違法處分ニ由ル權利ノ毀損ナリト謂フヲ得ス

（第一門第一(195)判決理由參看）

(56)◉**土木費特別賦課ニ關スル不當處分取消要求ノ訴**

三十年第二十三號
全年四月二十九日裁決（德島縣平民眞貝新外三十二名對全縣知事山縣伊三郎）

判旨○縣知事カ土木費ノ現品增課ノ告示ヲ發スルモ事實其賦課ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ不當トシ出訴スルヲ得ス

（第一門第一(195)判決理由參看）

(57)◉**懲戒處分取消ノ訴**

二十九年第百十七號
三十年五月三日宣告（香川縣縣足郡岡田村長阿比野勇對全縣全郡長林正幹）

判旨○避病院設置ニ關シ郡長カ再議ヲ命シタル村會不成立ノ場合ニ於テ當初郡長ヨリ村長ニ對シ其報告ヲ命令セサリシ以上ハ之ヲ爲ササルモ職務怠慢ニ非ス（町村制第六十八條）

（第十四門(30)判決理由參看）

(58)◉**普通水利組合認可取消ノ訴**

三十年第三十二號　（德島縣中西清一外百二十五名對仝縣知事山縣伊三郎）
仝年五月十四日裁決

判旨○普通水利組合ノ認可取消ノ請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(197)判決理由參看）

(59)
◉不法工事差止請求ノ訴

三十年第三十七號
仝年六月十五日裁決
（山形縣飽海郡日向川遊佐兩止滯普通水利組合管理者仝縣仝郡南遊佐村長石山義孝對仝縣知事菊地九郎）

判旨○水害豫防組合ト水利組合トハ各自獨立ス

○水利組合ハ水害豫防組合ノ處分ヲ受クルコトナシ

（第一門第一(199)判決理由參看）

(60)
◉不當命令取消ノ訴

二十八年第九十五號
三十年六月三十日宣告　（新潟縣平民山田勢一郎外三十一名對仝縣知事勝間田稔）

判旨○縣知事カ治水上支障アリト認メ新築堤防ノ撤却ヲ命シタルハ不當ノ處分ニ非ス

本件所爭ノ要點ハ早出川沿岸原告等共有地ニ於ケル新堤ノ築造ハ治水上支障アルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ治水上益アルモ害ナキ旨ヲ主張スト雖鑑定人ニ於テ堤防ノ新築ハ學理上無論治水上ニ支障ナキモノト認定スル能サル旨ヲ明言スルノミナラス昨年七月ハ洪水ノ際新築ノ對岸ニ於テ閾瑕ヲ生シタルハ實地檢證ノ結果ニ於テ爭フヘカラサル所ナリ然ルニ尙原告ノ閾瑕ハ洪水ノ結果ニシテ新堤築造ノ爲ニアラスト謂フト雖閾瑕ノ箇所ハ從來ノ洪水ニ於テ未タ曾テ崩壞シタルコトナシトノ事實又新築堤防ノ爲ニ川敷ノ狹隘ヲ來シタルノ事實ニ徵スレハ單ニ洪水ノミナラス新堤ノ築造モ亦閾瑕ヲ生シタル一大原因ナリト認定セサルヘカラス然レハ被告カ治水上支障アリト認メ新堤ノ撤却ヲ命シタルハ不當ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(61)
◉不法工事差止請求事件ノ裁決ニ對スル抗告

三十年第三十七號
仝年九月二十二日裁決
（山形縣飽海郡日向川遊佐兩止滯普通水利組合管理者仝縣仝郡南遊佐村長石山義孝對仝縣知事菊地九郎）

判旨○行政裁判所ノ裁決ニ對シテハ再審ノ訴ヲ許サス（行政裁判法第十九條）

（第一門第一(201)判決理由參看）

(62)
◉通河錢取立處分請求ノ訴

三十年第七十五號
仝年九月二十七日裁決　（三重縣平民大西駒次郎外十一名對仝縣知事田邊輝實）

判旨○縣知事カ通河錢ノ徵收ヲ許可シタルヲ不當ナリトスル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(202)判決理由參看）

(63)
◉不當處分取消ノ件長野縣知事ノ裁決ニ對スル不服ノ訴

（長野縣平民中島甚助外二十四名對仝縣上水內郡朝陽村長河原田七郎右衞門）

二十九年第四十五號
三十年十一月一日宣告

判旨○區ニ於テ出願築設シタル水利土木ニ關シ區會ノ議決ヲ執行シタルハ不法ニ非ス

（第九門第一(84)判決理由參看）

(64)
◉水利ニ關スル訴

三十年第百二號
仝年十二月一日裁決　（石川縣平民田村伊助外一名對仝縣知事古澤滋）

判旨○水利ノ爲メ人民カ假設シタル工事取拂ノ請求ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(217)判決理由參看）

(65)
◉歲入歲出豫算ヘ前年度繰越金編入事件裁決取消請求ノ訴

三十年第百十五號
仝年十二月十八日裁決　（千葉縣湯淺良輔外九名對仝縣知事柏田盛文）

判旨○前年度繰越金ヲ豫算ニ編入セサリシヲ不當トスル訴願ノ繫屬中更ニ之ヲ豫算ニ編入シタルヲ以テ其目的消滅セリトノ理由ヲ以テ訴願ヲ却下シタル縣參事會ノ裁決ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(220)判決理由參看）

(66)
◉違法夫役割賦課命令取消ノ訴

三十年第四十六號
三十一年二月十九日宣告

（長野縣平民中島甚助外二十四名對仝縣上水內郡朝陽村長河原田七郎右衞門）

判旨○官有ノ堤塘ニシテ其修築費縣稅ノ負擔ニ屬スルモノハ區ノ營造物ニ非ス故ニ其修築費ヲ制第九十九條ニ據ヲ賦課シタルハ違法ナリ（町村制第九十九條）

（第二門(89)判決理由參看）

(67)
◉不當命令取消ノ訴

三十年第八十九號
三十一年三月十五日宣告
（富山縣上新川郡針原村外四箇町組合町村長柳瀨與右衞門對仝縣知事阿部浩）

判旨○縣知事ハ用水路ノ廢ヲ許否スルノ職權アルカ故ニ無許可ニテ新設シタル用水路ヲ舊形ニ復スヘキ命令ヲ發シタルハ不當ニ非ス

原告ニ於テ主張スル要點ハ明治二十八年十月富山縣訓令第百三十二號ハ町村役場ニ對スル制裁ナキ形式上ノモノニシテ被告カ之レニ原キ發シタル復舊命令ハ遵守スルノ義務ナク又所有權ヲ侵サルルコトナシトノ憲法ノ保障ナリト謂フニ在レトモ被告ハ用水路ノ廢ヲ許否スル職權ヲ有スルコト乙第四號證ニ依テ明ナリ然ラハ被告カ本件用水路ノ新設ヲ許可セサル結果トシテ舊形ニ復セシムヘキ命令ヲ發シタルハ其職權內ニ存スル相當ノ處分ナリト謂フヘク隨テ原告ノ訓令ニ制裁ナキヲ理由トシ該命令ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

(68)
◉水利ニ關スル訴

三十一年第三十九號
全年四月二十一日裁決　（石川縣平民田村伊助外一名對全縣能美郡瀨谷村長喜多仁右衞門）

判旨○人民假設ノ水利工事ヲ村長カ襲用シテ縣稅ノ補助ヲ受クルハ不法ナリトノ主張ハ法律第百六號第四ニ所謂水利土木ニ關スル件ニ該當セス（法律第百六號第四）

（第一門第一(229)判決理由參看）

(69)◉宇多川橋梁設計變更ニ關スル許可取消ノ訴

三十年第九十三號
三十一年四月二十二日宣告　（福島縣相馬郡飯豐村長遠藤雄清對全縣知事山田春三）

判旨○鐵道會社カ其線路ニ當ル河川ニ橋梁ヲ架設スル場合ハ收用法第八條ヲ適用セス（二十二年法律第十九號土地收用法第八條前段）

原告ニ於テ本件宇多川架橋設計ハ原告村ニ對シ重大ノ利害關係アルヲ以テ土地收用法第八條ニ依リ手續ヲ盡シタル後被告ニ於テ之ヲ處分スヘキ筈ナルニ被告ハ其手續ヲ盡シタリヤ否ヲ確メス漫然之ヲ許可シタルハ違法ノ處分ナリト謂フト雖土地收用法第八條ハ土地ヲ收用又ハ使用スヘキ場合ニ於テ其所有者又ハ關係人ニ協議ヲ遂クヘキコトヲ規定シタルモノニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニアラス而シテ本件ハ明治二十八年福島縣令第四號ニ依リ處分シタルモノニシテ該令ニ對シ毫モ違法ノ點ナキノミナラス其他ノ法令ニ背戻スルコトナケレハ之ヲ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス既ニ此爭點ニ付キ決定シタル以上ハ其他ノ爭點ニ付當否ヲ說明スルノ必要ナキヲ以テ之カ說明ヲ與ヘス

(70)◉不法裁決取消請求ノ訴

三十年第八十五號
三十一年五月二十四日宣告　（茨城縣平民淺野廣三郎對全縣新治郡參事會全郡長手塚任）

判旨○村長カ土木工事ニ關シ其職務怠慢或ハ越權行爲ニ由リ村ニ對シ損害ヲ釀シタルトキハ之カ賠償ノ責任アリ（町村制第三十三條第百二十九條）

（第十四門(34)判決理由參看）

(71)◉不法工事取除請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

三十一年第四十八號
全年七月九日宣告　（山形縣飽海郡日向川遊佐兩止滯普通水利組合管理者全縣全郡南遊佐村長石山義孝對全縣知事曾根靜夫）

判旨○工事ニ關スル請求書ノ却下ハ法律第百六號ニ所謂行政廳ノ違法處分ニ由ル權利ノ毀損ニアラス（法律第百六號）

（第一門第一(233甲)判決理由參看）

(72)◉水利組合區域變更ノ訴

三十一年第百二十五號
全年十二月二十三日裁決　（埼玉縣平民白石春吉外十七名對東京府知事男爵千家尊福）

判旨○水利組合區域變更ノ請求ニ對シ水利組合條例中出訴ヲ許ス明文ナシ

（第一門第一(238)判決理由參看）

(73)◉舟路浚渫許可取消處分取消請求ノ訴

三十一年第七十六號
全年十二月二十八日宣告　（鐵島縣平民早崎富三郎外一名對全縣知事山縣伊三郎）

判旨○縣知事カ公益上必要ト認メ舟路浚渫工事ノ許可ヲ取消シタルハ違法ニ非ス

原告ノ主張ハ原告カ有スル浚渫工事ノ許可ヲ取消スヘキモノトセハ之レト同一ナル市ノ工事モ許可スヘカラサルニ反テ原告ニ對スル取消處分ヨリ僅カ二箇月程前ニ市ノ工事ヲ許可シタルヨリ見レハ公益上必要ナリトハ單ニ原告ニ係ル處分ノ口實ニ過キスト謂フニ在レトモ被告ハ乙三號證ノ如ク遞信省ノ大阪商船會社ニ對スル照會ニ徵スルモ到底原告ニ許可シタル工事ハ當初ノ目的ヲ遂スル能ハサルノミナラス市ノ計畫ニ係ル同一工事ニ障害アルモノト認メ許可命令書第五項ノ旨趣ニ依リ其許可ヲ取消シタルモノナレハ違法ノ處分ト謂フヲ得ス

(74)◉水車用河水引用許可取消ノ訴願ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴

三十一年第八十五號
三十二年三月二十九日宣告　（長野縣下伊那郡伊賀良村北方外一區代表者全縣全郡全村長久保田宗橘外全縣全郡龍丘村桐林外三區代表者一名對全縣知事園山勇）

判旨○他人ノ受ケタル行政處分ニ據リ權利ノ毀損ヲ理由トスル訴願期限ハ其處分アリタルコトヲ知得シタル日ヨリ起算ス（訴願法第八條）

○區總代ナル者ハ法律上之ヲ認メサルヲ以テ總代カ請願ヲ爲シタルモ區ナル法人カ其處分ヲ知得シタリト謂フヲ得ス

（第一門第四(73)判決理由參看）

(75)◉不法命令取消工事復舊請求ノ訴

三十二年第七十七號
全年十月二十三日宣告　（岐阜縣稻葉郡鵜村長堀江健太郎外二名對全縣知事野村政明）

判旨○八年太政官達第二十九號ニ基キ縣知事カ其職權ヲ以テ發シタル縣令ニ據リ盛土工事ヲ水利上有害ト認メテ取毀チタルハ違法ニ非ス（八年太政官達第二十九號行政警察規則第一條憲法第七十六條第一項）

第一原告ノ明治二十四年岐阜縣令第二十七號ハ一片ノ命令ヲ以テ所有權ヲ侵害スルモノニシテ憲法上之ヲ有效ト認ムルヲ得ス而シテ本件ノ處分ハ其無效ノ縣令ニ基キ爲シタルモノナレハ不法ナリト謂フト雖モ明治二十四年岐阜縣令第二十七號ハ無效ナリト謂フヲ得ス何トナレハ所有權ノ侵スヘカラサルハ原告除遞ノ如クナルモ法令ヲ以テ之ヲ制限シ得ルコトハ法ノ認ムル所ナレハナリ憲法第七十六條ニ「法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有ス」トアリ而シテ明治八年太政官達第二十九號ニハ廣ク人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スヘキノ規定アレハ岐阜縣令第二十七號ノ如キハ當然被告ノ職權ニ屬スル命令ナルヲ以テ之ニ基キ被告カ爲シタル本件ノ處分ハ違法ニアラス第二原告ノ假ニ該縣令ハ有效ナリトスルモ原告カ爲シタル盛土工事ハ水利上有害ナルモノニ非サル旨陳辯スルモ原告村近

鄉ノ地勢タル大體東北方ヨリ西南方ニ向ヒ漸次低下シ地盤ノ傾斜セルコトハ明ナル事實ニシテ本件ノ如ク堤形盛土工事ヲ爲ストキハ水利上近鄉諸村ニ影響ヲ及ホスヘキハ當然ナルヲ以テ該工事タル田地ヲ畑地ニ變換セントノ目的ナルト又惡水防止ノ目的ニ出テタルトヲ問ハス右縣令第二十七號ニ違反スルコト明確ナリ從テ被告ノ處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

(76) ◉水車用河水引用許可取消ノ訴願ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

三十一年第八十五號
三十二年十一月六日宣告
（長野縣下伊那郡伊賀良村北方外一區代表者仝縣仝郡仝村長久保田宗橘外仝縣仝郡龍丘村桐林外三區代表者一名對仝縣知事淺田德則）

判旨○期限經過ノ理由ニ據ル訴願却下ノ裁決ニ對シテハ單ニ期限ノ點ニ止マラス直ニ本案ノ訴訟ヲ提起スルヲ得

（第一門第四(80)判決理由參看）

(77) ◉校舍ニ關スル訴

三十三年第百十五號
仝年七月九日裁決（鳥取縣平民中岡佐藏外三十一名對仝縣鹿足郡日原村長初山秀雄）

判旨○小學校舍ノ位置ノ移轉ヲ請求スル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(274)判決理由參看）

(78) ◉村長解職不當處分取消請求ノ訴

三十三年第八十一號
仝年七月十日宣告（佐賀縣佐賀郡兵庫村長小林祐智）
對仝縣參事會仝縣知事關清英）

判旨○學校建築費ヲ會計年度ヲ異ニスル收入ヨリ支出シタルハ違法ナリ

○村會ノ議決ヲ經スシテ學校建築費豫算外ニ翌翌年度ノ公借償還費ヲ繰入レテ支出シ又其寄附金ヲ募集シタルハ村會ノ權限ヲ侵シタルモノナリ

（第十四門(44)判決理由參看）

(79) ◉村稅賦課ニ關スル訴

三十三年第百二號
仝年七月十日宣告（山形縣平民竹田儀三郎外二名對仝縣東置賜郡大川村長江口勝之助）

判旨○尋常小學校ノ數及位置ニ關シ適法ナル村會ノ議決ニ基ク郡長ノ命令ハ違法ニ非ス（町村制第四十二條舊小學校令第二十六條第二項第三十條第四項）

（第九門第一(110)判決理由參看）

(80) ◉水取樋管ニ係ル訴

三十二年第百三號
三十三年十月三日宣告（福岡縣平民目野新藏外百五十五名對仝縣山門郡長阪本久壽被告從參加人仝縣仝郡柳河町長古賀卓）

判旨○晝夜開閉ノ慣行アルヲ認メ得可キ水取樋ニ其慣行取締ノ爲メ錠鎖ヲ施シタルハ違法ニ非ス

本件原告被告カ爭フ所ノ要點ハ係爭六箇所ノ水取樋ニ關シテ晝夜開閉ノ舊慣アルヤ否ニ在リ依テ之ヲ證人訊問調書ニ徵スルニ原告申請ノ證人下川藤右衞門及野口龍八ノ陳述スル所孰レモ甚タ朦昧ニシテ殆ント其要領ヲ得ス然ルニ被告申請ノ證人吉田孫一郎外六名カ異口同音ニ晝間閉鎖夜間開放ノ慣例アリト謂フ陳述相一致スルノミナラス乙第二號證第一第二及第三ニ依ルモ被告主張ノ如キ舊慣ヲ認ムルニ足ル然ラハ被告カ明治三十年ニ至リ晝夜開閉ノ慣行ヲ取締ル爲メ必要ニ依リ水樋ニ鎚鎖ノ設備ヲ施シタルハ違法ナリト謂フヲ得ス從テ縣知事ノ裁決亦取消スヘキ理由ナキモノトス

(81) ◉伏木港川尻公有水面埋立許可取消請求ノ訴

三十三年第九十號
仝年十月二十六日宣告（富山縣金子重右衞門外九十九名對仝縣知事檜垣直右）

判旨○二十三年內務省訓令第三十六號ハ下級官廳ニ對スル命令ナリ隨テ縣知事カ同訓令ニ違ヒテ公有水面埋立ノ許可ヲ與フルモ人民ハ之ヲ違法トシテ其取消ヲ求ムルコトヲ得ス（二十三年內務省訓令第三十六號第一條）

原告ハ被告カ川尻公有水面埋立ヲ許可スルニ際リ新湊町會ノ意見ヲ聞カサルハ明治二十三年十月內務省訓令第三十六號ニ違背スルモノニシテ隨テ違法ノ處分ナリト謂フト雖右訓令ハ下級官廳ニ對スル命令ニシテ人民ニ對シ效力ナキモノナレハ假ニ被告ニ於テ之ニ違ヒタリトスルモ原告ハ之ヲ違法トシ該處分ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス又原告ハ射水川沿岸ノ漁業者ハ川尻ヲ漁業區域ノ中ニ指定シテ捕魚ノ許可ヲ得日日之ニ從事シ居レハ該水面埋立ニ依リ漁業ヲ失フニ至ルト謂フト雖原告提出ノ甲第二號證漁業願添附圖ヲ見ルニ漁業ヲ許可セラレタルハ落合川中朱線ヲ引キタル場所ノミニシテ其區域川尻公有水面マテニ及ハサレハ是亦本件處分ヲ不當トスル理由ト爲スニ足ラス尙原告ハ其訴狀ニ於テ新湊町カ右內務省訓令ノ關係町ニ該當スルモノナルコト及ヒ本件處分カ原告ノ土地所有權ヲ侵害シ且營業ノ自由ヲ制限若クハ剝奪スルモノナルコトヲ縷陳スルモ既ニ前項ニ說明スル如ク假令被告ニ於テ關係町村ノ意見ヲ問カサルモ之ヲ違法ト爲ス能ハスト決定シタル上ハ此點ハ本件裁判上必要ナキ問題ナルヲ以テ之ヲ審査セス

(82) ◉不當裁決竝訓令取消請求ノ訴

三十二年第九十七號
三十三年十二月十二日宣告（富山縣上新川郡濱黑崎村長永井清吉對仝縣參事會仝縣知事檜垣直右）

判旨○水利組合會カ或旱田ヲ灌漑反別中ニ編入シタルトキハ該旱田ハ組合用水ノ灌漑ヲ受クルモノト認ム

（第十門(15)判決理由參看）

(83) ◉土地侵害原狀回復ノ訴

三十三年第五十九號
仝年十二月十七日宣告（兵庫縣平民殿村文幸對仝縣知事服部一三）

原告ニ於テ本件ノ土地ハ被告カ其附近ノ國道ニ暗渠ヲ埋設シタル爲メ侵害ヲ受ケタルコトヲ主張シテ甲一號證圖面ヲ提出シ圖面中他ノ場所ニハ流水ヲ表示シタルモノアルモ本件ノ地所ニ對スル場所ニ於テ其表示ナキ

ヲ以テ該國調製以後ニ於テ被告カ之ヲ理設シタルモノナリト謂フト雖該圖ハ平面圖ニシテ土地ノ表面ヲ表示シタルモノナレハ之ヲ以テ地下ニ存スル暗渠ノ存在ヲ證明スルヲ得サルモノトス然ラハ被告カ土管ヲ埋設シタリトノ原告ノ主張ノ如キハ單ニ推測ニ止リ根據ナキモノナレハ之ヲ採用スルヲ得ス

(84)◉**强制豫算處分取消ノ訴**

三十三年第二百十號
大正十二年十二月二十四日宣告

（石川縣河北郡森村長田中由太郎外一名對石川縣知事白仁武野村政明）

判旨○小學校令第二十六條第二項ハ小學校ノ校數竝位置ニ關シ知事カ與ヘタル許可ノ公示ヲ郡長ニ命シタルモノニ非ス（舊小學校令第二十六條第二項）

（第十門(116)判決理由參看）

(85)◉**村稅戸別等級割賦課命令取消ノ訴**

三十三年第百十八號
大正十二年十二月二十八日宣告

（長野縣平民須田三良治外五名對長野縣上高井郡豐丘村長宮崎彌作）

判旨○堤防ノ利益ヲ享クル區域ハ其目的トスル所通常ノ出水ノ及フ所ヲ以テ限界トス

○堤塘ハ制第九十九條ニ所謂營造物ナリ（町村制第九十九條）

（第二門(145)判決理由參看）

(85)◉**水利及土木ニ關スル訴**

三十三年第二百二十二號
三十四年二月一日宣告

（茨城縣新治郡高濱町長小松崎美代之助對大正縣知事河野忠三）

原告ニ於テ堤防敷地ハ左右兩岸トモ幅八間ナリト主張シ甲第一號及第二號證ヲ以テ立證セントスルモ甲第一號證ハ登記行政廳ニ提出シタルコトナルヤ判明セサルノミナラス甲第二號證附箋ノ如キハ後日任意ニ作成シタルモノナルヤ知ルヘカラサレハ確實ナル證據ト認ムルヲ得ス而カモ乙第一號證及第三號證ノ反別ハ甲第二號證附箋ノ下ニ記載シアル反別ニ符合シ乙第二號證改租圖及第四號證地押調査圖ハ甲第三號證圖面ト相一致スルヲ以テ之ヲ觀レハ被告カ右岸六間左岸七間ノ堤防敷地ヲ除キ堤外官有地ニ係ル漁業權ヲ許可シタルハ違法ノ處分ニアラサルヲ以テ取消スヘキ理由ナキモノトス尚ホ原告ノ被告ノ處分ニ由リ土木工事ニ必要ナル土取場ヲ失フヘキ旨ヲ謂フモ是レ理ニ一片ノ陳述ニ止マリ毫モ證明スヘキモノナキヲ以テ採用セス

（第二門(290)判決理由ノ一部）

(87)◉**指令取消請求ノ訴**

三十三年第二百七號
三十四年三月二十七日宣告

（長野縣望月眞吉外六名對長野縣知事押川則吉）

判旨○公益上障害ナキニ拘ラス他ニ同一事業ヲ營ム者アルヲ以テ增設ノ必要ナキヲ理由トシ河川引用願ヲ却下シタルハ違法ナリ

被告ニ於テ主張スル所ノ第一本件ノ長野縣河川取締規則第一條ニ依リ願スヘキモノニシテ之ヲ許可スルト否トノ縣知事ノ職權ニ屬スルヲ以テ假令不許可ノ指令ヲ爲スモ違法ニアラスト謂フニ在レトモ長野縣河川取

締規則ニ依レハ其第一條ニ「各川筋ニ於テ左ニ掲ケル事業ヲ爲サントスル者ハ許可ヲ受クヘシ」ト規定シ堤防川除其他各種工作物ノ設置改造及修繕云云トアリ又其第四條ニ「公益上必要ト認ムルトキハ堤防川除其他各種工作物ノ取拂若ハ變更改造ヲ命シ又ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消シ云云」トアリ之ニ依テ之ヲ觀レハ同規則第一條ニ掲ケル事業ハ公益上障害アリテ不許可ヲ必要トスル場合ヲ除クノ外ノ其出願ヲ許可スヘキ法意ナリト解釋セサルヘカラス然ルニ本件ニ就キ被告ノ理由トスル所ハ單ニ他ニ該事業ヲ營ム者アルヲ以テ增設ノ必要ナシト謂フニ止リ別ニ公益上障害アルモノニアラサレハ被告ニ於テ之ヲ許可セサルハ違法ノ處分トスル第二被告ハ河川引用ニ關シ原告ハ當然許可ヲ得ヘキ權利ヲ有セサルモノナルヲ以テ本件ノ處分ハ毫モ原告ノ權利ヲ毀損シタルモノニアラスト辯スルモ既ニ前段ニ於テ說明スル如ク本件ノ事業ハ公益上障害ナキ限リ原告ハ當然許可ヲ得ヘキモノナルヲ以テ之ヲ權利ノ毀損ニアラスト謂フヲ得ス

(88)◉**收用審查會ノ裁決取消請求ノ訴**

三十三年第百十一號
三十四年三月二十九日宣告

（富山縣林久右衛門外十名對全縣收用審查會長全縣知事檜垣直右）

判旨○土地所有者カ收用土地ニ對スル補償金ノ外地方慣習ノ認ムル地上權ニ類似スル權利ノ對價トシテ特ニ補償ヲ求ムルヲ得ス

本件ノ爭點ハ富山縣高岡市中越鐵道株式會社ノ起業ニ係ル高岡伏木間鐵道用地ノ內射水郡伏木町大字矢田村串岡町古國府町新島町地內土地收用ニ關シ土地所有者ノ「ザル代」ト稱スル一種ノ權利ニ付特別ノ補償ヲ請求シ得ルヤ否ニ在リ按スルニ原告主張ノ如ク富山縣伏木町ニ於テハ舊來地上權ニ類似スル「ザル代」ト稱スル權利アリトスルモ斯ル權利ニ付テハ土地所有者ヨリ土地ニ對スル補償金ノ外別ニ補償ヲ請求シ得可キモノニアラス

(89)◉**村稅違法賦課取消ノ訴**

三十三年第二百十一號
三十四年五月三日宣告

（山形縣士族內田熊次郎外一名縣南置賜郡玉庭村長今泉榮）

判旨○小學校設置ニ關スル負擔區域廢止以前ニ於テ村長カ郡參事會ノ許可ヲ受ケ校舍增築費ヲ賦課シタル所置ハ負擔區域廢止ノ爲ニ不法ト爲ラス

（第二門(15)判決理由參看）

(90)◉**違法處分取消ノ訴**

三十三年第二百五號
三十四年五月十三日宣告

（鳥取縣東伯郡中北條村普通水利組合管理者全村長米本政次郎對全縣知事寺田祐之）

判旨○堰留ノ慣行アル部分ニ其工事施行ヲ許可セサリシハ不當ニ非ス

原告ノ中北條村ノミニ今津堰ノ使用權アリテ數十年來全部之レヲ堰留タルモノナリト謂フト雖モ原告カ其立證ニ供シタル甲第一二號證ニ徵スルモ其事實ヲ確實カリト認メ難キノミナラス乙第三號證二十六年以前ノ故形圖ナルモノニ依レハ明治二十六年以前ニ於ケル全部ニアラスシテ其半分ヲ堰留タルモノト認メサルヲ得ス又原告ノ明治二十六年來常ニ水

災ノ際今津堰破壞セシヨリ地方税ノ補助ヲ被告ニ稟請セシニ甲第四號證ノ如ク實施設計ヲ添ヘ送セラレタルハ今津堰使用者ハ中北條村ナルコトヲ證明セシモノナリト謂フト雖モ原告ニ於テモ其成立ヲ認メタル乙追第四號證二十六年水害後ノ設計書ナルモノヲ閲スルニ該設計ハ前キノ甲第四號證附屬設計書ノ分ヲ更正シタルモノナルコト明カナレハ甲第四號證設計書ニ基ク此點ニ於ケル原告ノ主張ハ之ヲ採用スルノ價値ナキモノトス以上ノ理由アルヲ以テ被告カ甲第八號證工事施行稟請ニ對シテ甲第九號證ノ如ク長五十五間六歩ヲ限リ工事ノ施行ヲ許可シ甲第十號證再稟請ニ對シテハ甲第十一號證ノ如ク工事全部施行聞屆ケ難シトノ指令ヲ與ヘタルハ不當ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(91) ● 收用審査會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴

三十三年第二百五十九號
三十四年五月二十三日宣告
（千葉縣平民羽成淸太郎對全縣收用審査委員長全縣知事阿部浩）

判旨○收用審査會ニ對シ物件移轉料ノミヲ請求シタル者ト雖モ審査會カ其主張ノ價格ヲ不相當トシ起業者ノ申請ヲ容レテ收用ノ裁決ヲ爲シタル以上ハ收用法第五十一條ノ範圍內ニ於テ收用ノ請求ヲ爲スコトヲ得（土地收用法第五十一條）

被告ニ於テハ收用審査會ニ對シ本件物件移轉料ノ請求ヲ爲シ收用ノ請求ヲ爲サヽリシ原告カ本訴ニ至リ收用ノ請求ヲ爲スハ不當ナリト謂フト雖モ收用審査會ニ於テ原告主張ノ價格ヲ不相當トシ收用ヲ請求スル起業者ノ申請ヲ容レ收用ノ裁決ヲ爲シタル以上ハ之ニ服セサル原告ニ於テ收用ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ナリ又原告カ殘地ナリト稱スル佐原町佐原イノ四百五十一番地市街宅地九十四坪ノ土地ハ原告ノ所有地ニシテ從來其上ニ釜場、槽場、賣場、井三箇竝ニ住家ヲ設ケ麴ヲ製造シ又ハ住居スル用ニ供シ來リタルモノニシテ佐原イノ四百五十二番地所在倉庫ト分離スルモ其用ヲ廢スルコトナキハ實地ニ照シテ毫モ疑ヲ容レスト謂フト雖モ被告カ大體ヲ認ムル甲第一號證ニ依レハイノ四百五十一番地所在ノ住家其他ノ建造物ハイノ四百五十二番地所在ノ倉庫ト一構ヲ爲シ相俟テ原告ノ酒造營業ノ用ニ供シタルモノニシテイノ四百五十二番地ノ倉庫ヲ分割スルトキハ從來用ヰタル目的ニ供スルコト能ハサルモノト認定スルニ足レリ然レハ原告カ土地收用法第五十一條ニ依リ本件ノ請求ヲ爲スハ相當ニシテ被告ノ裁決ハ理由ナキモノトス

(92) ● 不當命令取消ノ訴

三十三年第百三十三號
三十四年七月四日宣告
（大阪府中河內郡池島村代表者全村長澤井善藏對全府知事菊地侃二被告從參加人全府全郡三野鄕村代表者全村長私市鶴松）

判旨○府令ニ據リ府知事ノ許可ヲ要スル用水井堰ノ變更工事ヲ無許可ニテ爲シタルモノトシ工事ノ復舊ヲ命セラレタル町村ハ法律第百六號ニ據リ出訴スルコトヲ得（法律第百六號第四）

○法律第百六號ニ據ル行政訴訟ハ一箇人ノミナラス公法人亦之ヲ提起スルコトヲ得（同上）

（第一門第一(305)判決理由參看）

(93) ● 不當命令取消ノ訴

三十三年第百三十三號
三十四年七月四日宣告
（大阪府中河內郡池島村代表者全村長澤井善藏對全府知事菊地侃二被告從參加人全府全郡三野鄕村代表者全村長私市鶴松）

第二原告ニ於テ被告府知事ノ命令ハ從來木造ナリシ井堰ヲ石造ニ改メタルハ府令ニ違背スト謂フニ止マルヲ以テ府令第一條ノ事業變更云云ニ該當セスト主張スルモ該命令ノ末文ニ原形ニ復舊スヘシ且原形ノ構造ハ云云ト記載シアルヲ以テ該命令ハ石造ヲ木造ニ改メシムルノミナラス尙構造ヲ變更セシムルノ旨趣ナルコトヲ知ルニ足ル而シテ原形ノ戶前柱及控柱ハ七寸二分角タルヘシトアルニ對シ現在井堰ニハ控柱ナク且戶前柱ハ一尺二寸以上ナレハ新舊構造ノ相異ナルハ疑ヲ容ルヘカラス又舊井堰ノ柱ハ七寸二三分ニシテ控柱モアリシコトハ乙第二號第三號第四號證ニ依リ明瞭ナレハ本件ハ府令第一條ノ事業變更ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ被告カ該府令ニ依リ本件ノ訓令ヲ發シタルハ相當ナリ然レトモ該訓令中堰板ノ高ハ川底ヨリ三尺三寸ト爲スヘシトノ命令ハ果シテ古例ニ依リタルモノナルヤ否立證上明瞭ナラス被告及參加人ハ乙第一號證ニ依リ之ヲ證明セント欲スルモ同證ハ明治十五年六月二十日付福万寺村戶長藤岡甚三郞ノ照會書ニ對シ池之島村戶長澤田玄三郞カ即日古例ノ通三尺三寸ヨリ高張不仕云云ト回答シタルモノノ如クナルモ此ノ如キ一村ノ利害ニ關スル事件ニ付村民ノ意見ヲモ徵スルナク戶長一己ノ意見ヲ以テ輕輕ニ回答シタルモノナレハ證書自體ニ信ヲ置クコトヲ得ス隨テ戶長カ原告村ヲ代表シテ該村ノ意思ヲ發表シタルモノト認定スルヲ得ス又甲第十一號證ニ於テ參加村長村尾景命カ從來ノ木堰ノ高サハ戶板一尺幅ノモノ五枚即川底ヨリ五尺以上ニ至ル能ハサラシメタル構造ナリ云云ト陳述シ此陳述ニモ被告及參加人ノ主張スル如ク容易ニ信ヲ置ク能ハサルモ井堰カ從來三尺三寸張ト確定シ居ラサリシ事實ヲ推測スルニ足ル故ニ被告カ原形ノ通リ三尺三寸張ニナスヘシトノ命令ハ根據ナキモノトス而シテ原告ノ原形ハ五枚張ニシテ高サ六尺少クモ五尺五寸ナリトノ主張モ亦不當ナリ原告ハ甲第三號第四號第五號第六號第八號等ノ諸證ニ依リ之ヲ證明セント欲スルモ該證ニハ五枚又ハ四枚ノ處又ハ二枚取除キ吳レ云云トアルノミニシテ堰板ノ幅ヲ記載セサルノミナラス該證ハ參加村カ原告村ノ四枚若ハ五枚張ノ權利ヲ認諾シテ發シタルモノト認ムル能ハサレハ之ヲ以テ堰ノ高サヲ知リ得サルノミナラス四枚張若クハ五枚張カ原形ナリトノ事實ヲ認ムルヲ得ス故ニ原告ノ主張ハ理由ナキモノトス

（第一門第一(305)判決理由ノ一部）

(94) ● 猪子枠取拂及元杁樋改築命令取消請求ノ訴

三十三年第百七十一號
三十四年七月十日宣告
（東京府平民河村隆實對愛知縣知事沖守固原告從參加人全縣寺田武三郞外一千二百四十二名被告從參加人明治用水普通水利組合管理者全縣碧海郡長高坂景顯）

甲第一號證ハ明治十五年五月十三日四枝下村地內矢作川筋ヨリ新規水路開鑿工事施行方法書ニ對シ西加茂碧海兩郡二十一箇村ノ戶長竝總代ヨリ障碍無キ旨ヲ縣知事ヘ差出シタル受書甲第二號證ハ明治十九年十月六日縣知事ヨリ官有地無代下渡ニ付內務農商務兩大臣ニ差出シタル伺書及之ニ對スル兩大臣ノ指令竝ニ計畫書甲第四號乃至第六號證ハ明治三十二年十月ノ愛知縣布達竝ニ之ニ基ク明治三十三年一月及七月ノ增築改修出願竝ニ之ニ對スル指令ニシテ本件ノ起因ヲ知ルヘキモノハ、甲第七號證ハ明

治二十三年九月發刊ノ西加茂郡ノ測量圖ハ甲第九號第十號第十一號第十六號證ハ愛知縣ノ用紙ヲ以テ製シタル受證帳ハ足帳又ハ正金出納帳愛知縣土木課ト題シ其記事ハ明治二十一年十月ヨリ明治二十三年四月以降ニ渉リ又水源洗床水源洗堰等ノ文字アルニ止マリ甲第十二號證ハ明治十七年流失ノ堤防水路數ノ地積甲第十三號證ハ荒木謙三カ疏水事務擔當ノ年月日甲第十五號證ハ原告カ起業者タル明治三十二年愛知縣廳ノ證明甲第十七號證ハ明治二十年十月ヨリ明治二十三年三月ニ至ルマテ時時上納金ノ領收書及原告ノ援用スル被告ノ乙第一號證ハ甲第二號證ノ伺書ニ添付シタル目論見帳乙第三號證ハ明治二十八年六月十七日付前起業者ナル堀內信カ縣廳ニ差出シタル願書乙第六號第七號第九號證ハ明治二十九年七月ノ實地臨檢復命書牛堰三十尺籠枠三箇ノ取拂命令書工作物取拂調書又原告ノ援用スル被告參加人ノ丁第一號證ハ明治二十三年六月十九日ノ枝下用水工事差止願丁第二號證ハ明治二十六年八月十五日ノ矢作川幹流九歩通堰留及丁第三號證ハ明治三十七年八月三十一日ノ枝下用水水源堰出工事取除願丁第五號證ハ乙第七號證ト同シク又原告參加人ノ丙號各證モ用水關係ノ一端ヲ觀ルヘキニ止マリ要スルニ原上ノ各證ハ明治二十三年三月以前ニ於テ係爭猪子枠ノ現在セシコトヲ見ルヘキ直接ノ證據ニ非ス又甲第三號證水源地附近ノ寫眞圖河中ノ黑點ハ明斷ナラサル之ヲ以テ牛枠ナルヤ確認シ難ク甲第八號證ハ愛知縣ノ用紙ヲ以テ製シ人夫帳愛知縣土木課ト題スルモノニシテ記事中水野熊太郎ノ條下ニ人夫二百五十二人九分賃金三十七圓九十四錢八厘明治二十二年六月二日ヨリ同年九月三日マテニ拂渡シタルコトヲ記シ其肩書ニ水源牛堰ノ四文字アリ之ヲ明治二十二三年中ニ爲シタル修繕工事ナリト謂ヒ且本年五月二十三日付原告ノ設計書ト比較スル被告ノ駁論ニ對シ牛枠一組二人掛トアルハ其實修繕工事ニシテ石材ハ現場ニ存在スル謂ナルニ依レハ齊シク修繕工事ナルニ由リ該記載人員ハ過當甚シキコト又他ノ記載ノ例ニ依レハ人夫ノ用所ハ人員ノ下ニ是ハ云云ト記シ或ハ記セサルモノアリテ特ニ之ヲ肩書ト爲スモノ他ニ十箇所水源洗堰アルモ且該「水源牛堰」ノ人夫賃ノ四字ハ他ノ文字ヨリ墨色濃黑ニシテ後時ノ記入改插ニ係ルコト明カナルハ係爭牛枠ニ對スル正當ノ記事ト認メ難ク又證人荒木謙三ハ明治二十一年十二月頃四五箇ノ牛枠アリシカ其後增シタリト思フト謂ヒ岸田棟三郎ハ明治二十二年前ハ牛枠延長ハ現十五六間アリシト謂ヒ其事實ニ信ヲ措キ難キノミナラス假令之ヲ明治二十三年三月已前ニ現在セシモノトスルモ其箇數又ハ間數ニ於テ本件命令中許可ノ間數以內ナルヲ以テ係爭ノ證據ト爲スニ足ラス甲第十四號證ハ起業者堀內信ト明治用水委員并ニ碧海郡長ノ約束書ニシテ明治二十八年六月十六日前私擅ニ假堰ヲ以テ矢作川ヲ橫斷セシコトヲ推定シ得ヘク又原告ノ援用スル乙第三號證ニ明治二十八年六月十七日起業者堀內信カ明治十三年縣乙第十八號布達ニ心付カス水源杁前ノ儀取計候段深ク恐入早速可取除又用水引入ニ必要ナル導水柵ヲ當分試設仕度旨出願シタルコト又乙第四號證明治二十九年二月二十二日起業者皆川讓三カ用水引入ノ爲中洲ヨリ東岸ヘ三十四間牛導木柵ヲ設立シタシト繪圖ヲ添ヘ歎願シタルコト丁第十號第二號第三號ノ證據ニ對照スレハ其筋ノ許可ヲ得ス私擅ニ工事ヲ施シ却テ係爭猪子枠ハ明治三十三年三月已前ニ於テ設置シアリシモノト推定スルニ足レリ故ニ原告ノ主張スル如ク現在ノ牛枠ハ縣廳施設ノ物ヲ復舊スル工事ナリト謂フヲ得ス又第三元杁樋ノ改築命令ハ猪子枠取除命令ト同時即明治三十三年七月七日ノ命令中ニ在リト雖モ工作物取除及改築ハ云云トシテ條ヲ別テ列記シ各箇ニ執行スヘキコトヲ明示シタルモノナレハ命令取消ノ請求モ亦各別ナラ

サルヘカラス而シテ原告ハ同年九月二十六日ニ至リ之カ取消請求ヲ爲スモノナレハ已ニ法定ノ出訴期間ヲ經過シ出訴スルコトヲ得サルモノトス

(95) ◉不法橋梁工事取除請求ノ訴

三十三年第二百九號　三十四年十月二十三日宣告　（茨城縣北相馬郡北文間村長淺野太市對仝縣知事河野忠三）

判旨○甲村カ乙村ノ地籍ニ跨リ橋梁架設ノ許可ヲ出願シタルトキ知事ヨリ乙村ノ承諾ヲ求ムヘキヲ規定シタル法令ナシ

原告ニ於テハ本件橋梁ノ工事ハ名ハ橋梁ナルモ實體ニ於テハ門樋堰埭工事ナリト謂フモ該橋梁ノ構造ヲ按スルニ其橋柱ハ石材ヲ使用シ東西詰各上流ノ第一ニ於テハ上流ニ面シ側面二寸四分平面三寸六分ノ切欠ヲ設ケ又其中央上流第一ニ於テモ上流ニ面シ左右側面二寸八分平面三寸五分ノ切欠アルコトハ原被告ヨリ提出シタル實地檢查調書ニ徵シ明カナリ然レトモ其他ノ點ニ於テハ甲第十一號證及乙第二號證ニ依リ之ヲ視ルモ普通橋梁ノ構造ト大差アルコトナシ而シテ該切欠ノ爲メ用水汎溢ノ際ニ當リ水流ヲ堰切リ得ヘキコトハ切欠ナキ普通橋梁ノ構造ヨリ多少便利ナルヘキコトハ之レヲ認メ得ヘキモ該石柱ニ切欠アル狀況ト橋脚ノ中間ニ筋違木ヲ設置シ舊來ノ橋梁ノ幅ヨリ一尺ヲ廣ケ之ニ通スル道路ノ幅ヨリ一間ノ廣サヲ有スル等ノ構造ニ參照スルモ未タ之ヲ以テ本件橋梁ハ原告ノ主張スル如ク門樋堰埭工事ナリト認ムルヲ得ス然ラハ原告カ援用スル茨城縣令甲第二十七號第二條第四號樋管堰埭ヲ新設スルニ該當セサルヲ以テ被告ノ處分ハ該縣令ニ違背スルモノニアラス又原告ハ本件橋梁ハ文村ニ於テ原告村ノ地籍ヲ侵シ架設シタルモノニシテ如斯場合ハ被告ハ原告村ニ諮問シ其承諾ヲ要スヘキモノナルニ無斷ニテ文村ニ之レカ架設ヲ許可シ工事ヲ爲サシメタルハ原告ノ權利ヲ傷害スル違法處分ナリト謂フモ本件ノ如キ場合ニ於テ被告ハ原告村ノ承諾ヲ要スヘキモノトノコトハ法律上何等ノ規定ナケレハ被告カ職權ヲ以テ交通上便利アリト認メ之カ架設ヲ許可シタル被告ノ本件處分ハ違法ニアラス左スレハ假令原告カ橋梁架設ノ權利ヲ侵害セラレタリトスルモ本件請求ノ理由ト爲スニ足ラス又原告ハ本件ノ如キ橋梁工事ハ水流遮斷ノ用ニ供シ得ヘキモノナレハ現實原告村ニ水害ヲ惹起サヽルモ水害ヲ惹起シ得ヘキ虞アルヲ以テ原告村自衞ノ權利ヲ侵害セラレタリト主張スルト雖モ是等ハ一ノ臆測ニ過キスシテ被告カ爲シタル本件橋梁架設ノ許可ニシテ違法ナラサル上ハ之ヲ以テ原告ノ權利ヲ毀損セラレタルモノト謂フヲ得ス

（第一門第二(66)判決理由ノ一部）

(96) ◉不法橋梁工事取除請求ノ訴

三十三年第二百九號　三十四年十月二十三日宣告　（茨城縣北相馬郡北文間村長淺野太市對仝縣知事河野忠三）

判旨○土木ニ關スル訴ニ於テ其請求ト目的ヲ異ニスル具申書提出ノ日ヨリ出訴期間ヲ起算スルハ不當ナリ

（第一門第二(66)判決理由參看）

(97) ◉水利組合規約再議更正ノ訴

三十四年第百九十四號　仝年十一月十八日裁決　（山梨縣平民曾雌正資外一名對仝縣知事石原健三）

判旨○水利組合規約ヲ不當トシ再議更正ヲ求ムル事件ニ付出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(310)判決理由參看）

(98)◉縣參事會ノ決定不服ノ訴

三十四年第二百四十六號
全年十一月二十七日裁決（奈良縣平民柏原市造對全縣參事會全縣知事寺原長輝）

判旨○工事受負金竝保證金ヲ償權讓受人ニ支拂セタルヲ不當ナリト主張スル事件ニ付出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(313)判決理由參看）

第六門　土地官民有區分ニ關スル件

(1)◉土地拂下出願ノ件不當處分取消ノ訴

二十三年第八號
全年十一月十五日裁決（東京府平民近藤和定對靜岡縣知事時任爲基）

判旨○土地拂下ノ出願ヲ許可セサル縣知事ノ指令ニ對シ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(2)判決理由參看）

(2)◉不當處分取消授產地下渡ノ訴

二十三年第十六號
全年十二月十三日裁決（千葉縣平民石井總兵衛外四十九名對全縣知事藤島正健）

判旨○土地下渡ノ查定ヲ不當トスル主張ハ法律第百六號第五ニ所謂土地官民有區分ノ查定ニ關スル事件ニ非ス（法律第百六號第五）

（第一門第一(6)判決理由參看）

(3)◉地所所有權ニ關スル不當處分取消ノ訴

二十三年第二十號
二十四年二月二十一日宣告（神奈川縣平民吉田勘兵衛對全縣知事淺田德則）

本訴爭フ所ノ地所ハ原告ノ提供スル甲第一、二、三、四、五、六、七號及第十四、十五、十六、十七、十八號等ノ證據書類ニ依レハ元來吉田新田本高千三十八石三斗七升七合ノ高外地ニ屬スル散在野土取場ニシテ其高ヲ附シ野錢ヲ納メシメタルハ其地ヲ土取場トシテ使用セシメタルヲ使用料ニシテ當時小物成場ト稱スル土地タルヲ證明スルニ足レル者トス而シテ原告カ明治十二年七月十五日神奈川縣廳ニ差出シタル上申書ニ依レハ本訴論地ハ慶應ノ年頃最早御用地ノ旨ヲ以テ砂利掘取差止メラレ慶應二年以後砂利掘取ハ勿論外ニ所用不仕候又該地ハ慶應二年ヨリ始リ同三年ニ至リテ現今地形ノ如ク埋立相成タルモノニハ御坐候トアリテ本訴論地ハ慶應年間砂利掘取場ノ儘御用地ト爲リ爾後原告カ之ヲ使用セサルコトハ原告ノ已ニ自認スル所ナリ而ルニ原告ハ甲第十九號乃至第二十四號等ノ證據書類ヲ提供シ御用地渡去未ヨリ纔一昨年免除云々等トアリ又明治八年度迄納稅義務ヲ盡シアリ又神奈川縣廳カ明治六年ニ在リテ作德手當米ヲ下渡シアリシ等ニ依リ本訴論地ノ民有ニ歸スヘキモノタル旨ヲ主張シ加之本訴論地ト同性質ニ屬スル太田村字天神山及石川中村字大丸山ノ野錢場ハ已ニ民有地ニ歸シタルニ特リ本訴論地ノミ官有ニ歸スヘキ道理ナケレハ本訴論地亦外二箇所ノ土地ト同シク民有ニ歸セシメ原告ノ所有權ヲ認メラルヘキハ當然ナリト陳述スト雖本訴論地ハ元來本高外ノ散在野ニシテ人民ニ使用ノミヲ許シタル野錢場タルノミナラス原告モ自認スル如ク慶應年間砂利掘取場ノ儘已ニ御用地ト爲リ爾後原告使用セサル土地ナレハ其所有權ノ原告ニ歸スヘキ理ナシ而ルニ甲第二十號證等ノ如ク免引ヲ爲シ且原告ニ於テ明治八年迄納稅セシ如キハ開港又ハ維新創業ニ際シ當時其調查ヲ缺キタル嫌アリト雖神奈川縣廳ニ於テ地租改正ノ際其誤謬ヲ調查シ且原告等ヨリ年々上納シタル野錢ハ過納タル旨ヲ以テ下戻シタリト謂フニ依レハ甲第二十號乃至第二十四號證ハ本訴論地ヲ民有ニ歸スヘキ證據トスルニ足ラス又神奈川縣廳カ明治六年ニ在リテ作德手當米ヲ下渡セシハ本訴論地外ニ對スルモノナリト謂フニ依レハ甲第十九號證ハ本訴ノ證

據トスルニ足ラス又太田村字天神山及石川中村字大丸山ノ二箇所ハ當初本訴論地ト其性質ヲ同フセシ本高外ニ脳セル散在野土取場タリシモ其土地ハ曾テ御用地トシテ引上ラレス人民ニ於テ勞費ヲ加ヘ宅地或ハ耕地トナシ又ハ他ニ賣買ヲ爲シタルモノニシテ加フルニ民有地トナシ差支ナキヲ以テ神奈川縣廳ハ明治九年太政官第六十七號布告ニ依リ之ヲ民有ニ編セシメタルモノナルモ之ニ反シ本訴論地ハ神奈川縣廳ニ於テ官民有地區分ノ査定ヲ爲スニ以前已ニ官有地又ハ市街道路河川等トナリテ當初ノ地形性質ヲ一變シ業已ニ天神山大丸山二箇所ノ土地ト同性質ノモノニ非サレハ天神山大丸山二箇所ノ野錢場ノ民有地ニ歸シタルヲ引證シテ本訴論地モ亦民有ニ歸スヘキハ當然ナリト謂フハ其理ナキモノトス故ニ被告神奈川縣知事ニ於テ本訴ノ地所ニ對スル原告ノ所有權ヲ認メス券狀ヲ下付セサリシハ不當ノ處分ニアラス

(4) ◉官有地下戻ノ訴

二十四年第六號決（農商務大臣陸奥宗光）
（廣島縣平民森房登江對）
仝年三月十一日

判旨○土地官民有區分ノ査定後既ニ五年ヲ經タルモノニ對スル請願ハ受理セラレサルモノトス

○法律第百六號施行前ノ同上處分ニ對スル訴ハ同法實施ノ日ヨリ六十日以內ニ提出セサル可ラス（行政裁判法第二十二條）

（第一門第二(2)判決理由參看）

(5) ◉官有地査定不當處分取消ノ訴

二十三年第十九號
二十四年四月十一日宣告（新潟縣高橋捨松對仝縣知事千田貞曉）

被告ニ於テ本訴論地ハ原告ノ所有ニアラスト云フモ被告カ提供シタル乙第七號證六日町村宅地檢査簿中ニ於テ原告宅地圖線內ニ記入シアルヲ以テ觀レハ原告所有地ニ隣スルモノト認ムルヲ得可ク然ルニ被告ハ其圖面ニ下段ト記載シアルヲ以テ原告ノ所有ニアラスト主張スルモ同簿中宅地外ノ道路ヲ示シタルモノハ其箇所ニ道ト記載シアルニ據レハ單ニ下段ト記シタルヲ以テ官有道路敷地ナリト謂フヲ得ス又被告ニ於テ論地ハ明治八年地券地引繪圖面ニ朱線ヲ施シアリ且地引牒外書道路段別五町三段七畝一歩ノ內ニ包含スト云フモ地引牒外書段別ハ實地道路段別ニ適合セス加之地引牒地引繪圖面ハ宅地檢査簿ト同時ニ成レルモノナルニ其宅地檢査簿中ニハ正ニ論地カ原告宅地圖線內ニ記入シアルヲ以テ視レハ地引繪圖面朱線ハ其地ノ私有タルニ拘ラス從來道路ノ形狀ヲ存セルカ儘ニ記載シタルモノト認メサルヲ得ス右ノ如クナレハ論地ハ原告ノ所有地ト爲スヘキヲ被告カ之ヲ以テ官有道路敷地ニ編入ヲ爲シタルハ其査定ヲ誤リタルモノトス

(6) ◉農商務省秋田山林事務所明治十八年民第七十八號布達取消及干涉處分取除ノ訴

二十三年第三十一號
二十四年五月九日宣告（秋田縣神成喜藏對農商務大臣陸奥宗光外一名）

判旨○土地官民有區分査定ノ際民有ト爲スモ其過誤ニ出ツルトキハ之ヲ官有地ト査定スルモ不當ニ非ス

○山林原野ハ農商務大臣ノ主管ニ屬スルヲ以テ大

林區署及縣廳カ同大臣ノ指揮ノ下ニ其官有ノ査定ヲ爲シタルハ越權ニ非ス

明治十二年地租改正ノ際原告提供ノ文政十一年林帳ナルモノハ其僞造タル附箋ヲ撤去シ元帳ハ之ヲ確實ナルモノナリトスルモ公ノ保證ヲ帶ヒサル民間一種ノ私書ニ過キサレハ本訴論地ヲ以テ原告等ノ所有爲スヘキ證ト爲スニ足ラス明治十四年官民有區別調査ノ際原告ヨリ提出シタル嘉永三年杉植立書上帳ナルモノモ前同樣ノ性質ナレハ是亦民有ノ確證ト爲スヘキモノニアラス之ニ反シ被告カ舊藩ヨリ承繼キタル御直山繪圖及能代川上木山繪圖等ノ圖書中ニ記シタル所ニ據レハ被告カ本訴論山ヲ以テ官有地ト爲シタルハ不當ノ處分ニアラス而シテ被告ハ一旦民有ト爲シ地券ヲ下付シタルモ其過誤ナルコトヲ悟リタル以上更ニ調査ヲ遂ケテ官有地ト査定スルモ不當ノ處分ト謂フヲ得ス又原告ノ明治十八年民第七十八號達ヲ以テ爲シタル處分ハ被告ノ越權ナリト云フト雖モ山林原野ハ農商務省官制ニ據リ農商務大臣ノ主管ニ歸シタルヲ以テ山林原野ノ官民有査定モ亦同大臣ノ管掌ニ歸シタルコトナレハ被告大林區署及縣廳カ同大臣ノ指揮ヲ受ケテ官民所屬ヲ査定シタルハ越權ノ處置ニアラス依テ秋田山林事務所明治十八年民第七十八號達ハ取消スヘキ限ニアラス又本訴論山ハ既ニ官有地タルヘキモノナレハ大林區署カ該官林ニ對シテ何等ノ處分ヲ爲スモ原告ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス

(7) ◉不當處分取消請求ノ訴

二十三年第二十五號
二十四年五月十九日宣告（靜岡縣大石日照外二名對仝縣知事時任爲基）

判旨○明治九年內務卿地租改正事務局總裁連署乙第八十七號達ハ社寺ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ開墾シテ田畑宅地ト爲シタルモノニ限リ適用スヘキ仝達ニシテ山林地ヲ包含セス（內務省乙第八十七號達地租改正事務局總裁連署）

原告ニ於テ本訴ノ土地ハ買得ノ地ニシテ其後寄附金ヲ以テ開墾ノ上樹木ヲ植付ケタル確證アルモノナルニ被告カ原告ノ下渡願ヲ採用セサルハ明治九年七月內務卿地租改正事務局總裁連署乙第八十七號達ニ違背スルモノナリト云フト雖モ該達ハ明治七年內務省乙第七十二號達及同九年內務卿地租改正事務局總裁連署乙第七號達ヲ補足シタルモノニシテ社寺ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ田畑宅地ニ開墾セシモノニ限リ本訴ノ如キ山林地ニ關係ヲ有スルモノニ非ス且原告甲第一號ノ一ヨリ同號六マテノ證書ハ新田開發ノ文字アルマテニシテ山林ヲ開キ植附ヲ爲シタル證ト認ムルヲ得ス又原告ニ於テ植付培養ノ事業ヲ目擊シタル保證人アリト云フモ如此ハ山林地處分上ノ確證ト爲シ難ク其他原告提供ノ諸證ハ被告處分ノ際提出セサルモノニシテ且被告乙號證明治九年十一月九日ノ布達ニ依ルモ之ヲ舉テ當時被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト謂フヲ得ス

(8) ◉不當行政處分取消請求ノ訴

二十三年第二十六號
二十四年五月十九日宣告（靜岡縣富士郡白糸村助役村松檢之助對仝縣知事時任爲基）

判旨○高外ニ屬スル雜稅ハ地租ニアラス

○秣場入會ノ事實ハ其土地ノ民有タルヲ證スルニ足ラス

○土地官民有區分査定ノ際提供セサル證據ヲ用ヒテ其處分ノ當否ヲ爭フヲ得ス

原告ニ於テ本訴秣場ハ數百年來自由ニ薪炭ヲ採リ秣ヲ刈リ切替畑ニ爲シ

等種々ニ使用シ來リ又ハ其租稅ヲ上納シ來リタルヲ以テ民有地トシテ下賜ヲ受クヘキモノナリト云フト雖原告カ上納シ來ルト云ヘル租稅ハ高外ニ屬スル雜稅ニシテ其地ニ對スル地租ヲ納メタルモノニ非ス且原告カ提供シタル甲第一號及甲第五號證ハ秣場入會ノ成規ヲ證スルニ止マルモノナレハ其地ノ民有タルヲ認ムルヲ得ス又原告甲第三號證及第二號證ノ一二ハ被告處分ノ際提供セサルモノナレハ之ヲ以テ當時被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト謂フヲ得ス

(9)◉不當行政處分取消請求ノ訴

二十三年第二十七號
二十四年五月十九日宣告
（靜岡縣富士郡白糸村助役村松檢之助對同縣知事時任爲基）

土地官民有區分査定ノ際提供セサル證據ヲ用テ其處分ノ當否ヲ爭フコトヲ得ス

(10)◉不當行政處分取消請求ノ訴

二十三年第二十八號
二十四年五月十九日宣告
（靜岡縣富士郡上井出村長岩崎信吉外六箇村長總代
仝郡白糸村助役村松檢之助對仝縣知事時任爲基）

判旨○侵墾地ニ新稅ヲ課シ村界ヲ定メ新開ヲ禁シ他ノ入會ヲ禁スル等ノ事實ハ其地ノ民有タルヲ證スルニ足ラス

○土地官民有區分査定ノ際提供セサル證據ヲ用ヒテ其處分ノ不當ヲ主張スルコトヲ得ス

原告ニ於テ本訴ノ土地ハ切替畑ニ爲シ又ハ租稅ヲ納メタリト云フモ之ヲ證スヘキモノナク又元祿年間ノ裁許狀ヲ擧テ之ヲ證スルモ同狀ハ侵墾地ニ新稅ヲ課シ村界ヲ定メ新開ヲ禁シ他ノ入會ヲ禁スル等ノ事實ヲ認メ得ヘキモノニシテ其地ノ民有タルヲ證スルニ足ラス又甲第二號證ノ一二ハ被告處分ノ際提供セサルモノナレハ之ヲ以テ當時被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト謂フヲ得ス

(11)◉不當行政處分取消請求ノ訴

二十三年第二十九號
二十四年五月十九日宣告
（靜岡縣富士郡北山村北山本門寺住職榎田日遙外五名總代仝縣平民村松檢之助對仝縣知事時任爲基）

判旨○土地官民有區分査定ノ際提供セサル證據ヲ用ヒテ其處分ノ當否ヲ爭フコトヲ得ス

原告ニ於テ本訴ノ土地ハ買受或ハ寄附等ニテ原告ノ所有地トナリ其後原告先代諸人開墾ヲ爲シ樹木ヲ植付ケタル確證アル者ナルヲ被告カ原告ノ下戻願ニ對シ雖聞届ノ指令ヲ爲シタルハ不當ナリト謂フト雖モ開墾及樹木植付ノ點ハ確證ト認ムルモノ無之買得地又ハ寄附地ト稱スル諸證ハ被告處分ノ際提出セサルモノニシテ且被告乙號證明治九年十一月九日ノ布達ニ依ルモ之ヲ擧ケテ當時被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト云フヲ得ス

(12)◉土地引上處分取消請求ノ訴

二十四年第三十二號
仝年七月九日裁決
（佐賀縣西松浦郡有田町長田代健對仝縣知事樺山資雄）

判旨○民有地ノ所有ヲ確定スル爲ニ爲シタル縣知事ノ處分ニ對スル不服ハ法律第百六號第五ニ所謂土地官民有區分ニ關スル件ニ非ス（法律第百六號第五）

（第一門第一(22)判決理由參看）

(13)◉舊村吏役料地誤謬處分取消ノ訴

二十四年第十五號
二十五年三月七日宣告
（愛媛縣平民萩尾伊代太郎對仝縣知事勝間田稔）

原告ハ係爭地ハ原告等村民ノ祖先ニ於テ寛文年間各其所有地ヲ割出シ村民割作シテ其作米ヲ庄屋給料トセシモノナレハ一村ノ共有地ナリト云フト雖甲第一號ヨリ第二十五號マテノ證據ヲ閲スルニ皆民間ノ私書若クハ係爭後ニ成立タルモノニシテ一モ當時公正ノ確認ヲ得タルモノニ非サレハ之ヲ採用セス已ニ原告等一村共有地タルノ確證ナキ土地ナレハ舊宇和島藩ニ於テ庄屋家督田畑引揚ノ處分ヲ爲シタルモ之ヲ不當ナリト謂ノヲ得ス又舊宇和島藩ニ於テ庄屋世襲ヲ廢シ引揚ケタル土地ノ四分ヲ舊庄屋ニ渡シ其六分ヲ差配役共ノ給料ニ配當シタルハ當時藩廳ノ制度ヲ以テ特ニ差配ナル者ヲ置キ之カ給料ニ充テタル者ナレハ之ヲ原告等村民ノ所有ニ歸シタリト云フヲ得ス而シテ明治五年四月舊宇和島縣ニ於テ其六分ヲ舊庄屋ノ所有ニ歸シタルハ原告立證第四ノ如ク村長中ニ於テ第一條持分ノ田畑近年六分通舊縣ニ於テ取揚ケ買候處吟味有之今般返遣ハシ候事但諸役ハ並ノ通相勤可申事ト達シタルモノニシテ其村長中トアルハ舊庄屋タル者ノ當時村長ト爲リ居ル者ニ宛テタル者ニシテ同證第二條ニ當時免役ノ庄屋共家督前條同樣ニ相心得可申トアリテ當時村長タラサル舊庄屋亦土地ノ返還ヲ受クタルコト明ナリ而シテ仝條末文且ツ代リ相勤居候者ヘ役給免役ノ庄屋ヨリ追テ指圖ニ及候迄相渡置可申事トアルハ當時村長タラサル舊庄屋即免役ノ庄屋ニ於テ當時舊庄屋役ニ代リ村長相勤メ居ル者ノ役給ヲ追テ差圖ニ及フマテ相渡置ヘシトノ意ナルコトモ亦明瞭ナリ而シテ明治六年二月新制度立ヲ區戀改正戸長副戸長ヲ置キ村長ノ稱號ミタルト同時ニ右舊宇和島縣達ノ趣ハ消滅シ尋テ地券發行ニ際シ一般人民ト共ニ舊庄屋等亦各其土地ノ所有權ヲ確定セラルヽニ至リ制度法令ノ結果トシテ其處分既ニ濟タルモノナレハ今更之ヲ處分未濟ナリト謂フヲ得ス又原告ハ被告縣廳カ明治十二年中該地ニ關スル伺書ニ對シ與ヘタル指令ニ基キ證據ヲ發見シタレハ被告ニ於テ之カ更正處分ヲ爲サヽルハ不當ナリト謂フモ甲第一號ヨリ第二十五號マテノ證據ヲ閲スルニ係爭地ハ原告等一村ノ共有地ニ歸スヘキト認ムヘキ確證ナシ故ニ被告縣廳ニ於テ原告ノ願意ヲ却下シタルハ不當ニ非ス

(14)◉官民有地境界査定不當處分取消ノ訴

二十四年第七十七號
二十五年四月四日宣告
（鳥取縣平民永井秀松外三名對福岡大林區署長林務官丸尾漸）

判旨○官民有地區分ノ査定ニ付別ニ告知等ヲ爲サヽルモ査定異議ナキ旨ノ調印記名ヲ爲ス可キ通知ヲ受クタル時ハ出訴期間ハ其時ヨリ進行ス（行政裁判法第二十二條）

（第一門第二(7)判決理由參看）

(15)◉官民有土地境界區分査定違法取消ノ訴

二十五年第一號
仝年四月二十二日宣告
（長野縣平民山口吉亀對仝縣知事淺田德則）

原告ハ本件小海村海神社大門道左側及右側ノ傾斜地ハ原告ノ所有地ニシテ其左側ハ明治九年七月一日掃下ヲ受クタル地ナリ右側ハ甲第二號證ノ如ク原告ノ所有ニ歸シタル地也ト云フト雖原告提出ノ甲第三號證及被告乙第二號證即チ明治四年三月原告及松源寺並ニ村吏員等連署ヲ以テ當中野縣出張所ヘ差出シタル圖面ニ依ルモ又被告乙第三號證地租改正ノ際地

主總代村吏立會取調ヘタル切繪圖ニ依ルモ本件ノ係爭地ハ原告所有ノ區域外ニ在ルヲ認メ得ヘキノミナラス原被双方ヨリ差出シタル明治八年十月二十九日長野縣指令書ニ海神社境内土手ニアル小屋ハ云々社地ニ對シ大ニ風致ヲ損シ存在致シ難證云々漸次取拂可致トアレハ本件大門左側傾斜地ハ海神社境内タルヲ知ルニ足レリ斯ノ如ク大門左側カ神社境内タルヲ以テ視レハ大門右側傾斜地モ等シク神社境内ニ屬スルモノタルヲ推定スヘク而シテ右乙第二號及乙第三號圖面ノ實地ニ適合スルヲ確メ得ヘキニ依リ本件係爭地ハ原告所有地ノ區域内ニ屬スルモノト謂フヲ得サルモノトス

(16) ◉違法處分取消ノ訴

二十五年第十三號
仝年五月七日宣告　（長野縣平民鹽川繁八對仝縣知事淺田德則）

判旨○古昔ノ權原ニ基キ土地ハ甲第十二號證ノ如ク原告所有田畑ノ畦畔ニシテ曾テ隣地所有者ノ求メニ依リ通行道路ヲ開設シ其通行料ヲ收受シ來リシ土地ニテ甲第五號證ノ如ク爰ニ長野地方裁判所ニ於テ提訴ノ裁判ヲ受ケ原告ノ所有地ニ確定シタルモノナリト云フト雖モ原告甲第十二號證小沼村大字鹽野字澤田切繪圖ヲ閲スルニ一般田畑ノ畦畔ハ墨線ヲ施シアルニ拘ハラス本件ニ關スル二千九番二千十番及千九十九番地ノミ朱線ト墨點トヲ施シアルニ依リ之ヲ被告カ提出セル乙第二號證地租改正切繪圖ニ就テ照査スルニ同圖中ニハ右各番地ノ畦畔ハ他ト同ク墨線ヲ施シ別ニ朱線ヲ以テ畦畔外ニ道路ヲ標識シアリ而シテ其道路ハ他ノ爭ヒナキノ官有道路ニ繋屬シアルヲ以テ之ヲ被告乙第三號證明治十九年小沼村ヨリ調出シタル現地目調査地押繪圖并乙第四號證同村調製畦畔野取圖ニ參照スルニ何レモ符合スルヲ以テ視レハ原告甲第十二號證ノ證證タルヲ知ルニ足ルヘク然ラハ被告ハ縣證保存ノ各地圖ニ明載シアル道路ニシテ地籍中ニ脫漏セルモノヲ編入シタル迄ニシテ原告所有ノ畦畔ニ關係ナキモノナルニ依リ原告ノ所有權ヲ害シタリト謂フヲ得ス且長野地方裁判所ノ確定裁判ノ如キハ原告ト當時ノ對手人トノ間ニ關スル私訴ニ止マルモノニシテ該裁判ハ本件ニ効力ヲ及ホササルニ依リ被告カ爲シタル處分ハ不當ニ非ストス

(17) ◉土地官民有區分訂正請求ノ訴

二十五年第十六號
仝年五月十六日宣告　（巖手縣平民畠山憲三對仝縣知事服部一三）

判旨○古昔ノ權原ニ基キ土地所有權ヲ主張スルニハ其土地ニ對シ所有者トシテ權利義務ヲ行ヒタル事實アルヲ要ス

原告ハ甲第一號證ニ依リ係爭地ヲ私有地ト爲サンコトヲ請求スト云フト雖土地ヲ所有スルモノハ之ニ關スル權利義務ノ行爲ヲ要スルハ當然ナリトス然ルニ原告ハ係爭地ノ下與ヲ受ケタリトスル文久三年四月以降之ヲ行ヒタルノ事蹟ナク又之ヲ行フコトヲ得サリシ事故アリト認ム可キ證憑ナキニ由リ單ニ甲第一號證ヲ所持スルノミヲ以テ該地ノ專有權ヲ得タル證左ト爲スニ足ラサルモノトス

(18) ◉土地官民有區分訂正請求ノ訴

二十五年第十七號
仝年五月十六日宣告　（巖手縣平民高橋菊松對仝縣知事服部一三）

判旨○古昔ノ權原ニ基キ土地ノ所有權ヲ主張スルニハ其土地ニ對シ所有者トシテ權利義務ヲ行ヒタル事實アルヲ要ス

（本件判決理由ハ(17)ト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

(19) ◉土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル訴

二十五年第十五號
仝年五月二十四日宣告　（大阪市平民大竹榮則對大阪府知事山田信道）

判旨○官有地拜借願ニ對シ府知事カ誤テ私有地使用ノ許可ヲ與ヘタルハ其所有者ノ權利ヲ毀損シタルモノナリ

被告ハ吉水義圓中島喜助ノ拜借願ニ對シ人民ノ私有地ヲ溝數地ナリトシテ許可シタルモノニ非ス故ニ被告ノ與ヘタル借地許可ノ指令ハ不當ニアラストモ云フト雖原告所有地ノ境界ハ溝數地ニシテ板塀數地ニ非サルコトハ被告ニ於テモ其自認スル處ナリ然ルニ甲第三號證溝數地拜借願書ハ其願地ヲ指示スルニ當リ右ハ從來私所有板塀ノ數地ニ相成候ニ付今回拜借仕云々ト記載シアルニモ拘ラス被告ハ其不注意ヨリ在來板塀所在ノ位置ハ官有地ナルヤ否ノ現狀ヲ調査明示セス官有地タル溝數地使用ノ許可ヲシテ原告ノ私有地ニ及ハシメタルモノナレハ被告ノ處分ハ不當ニシテ原告ノ權利ヲ毀損シタルモノト言ハサルヲ得ス

(20) ◉民有山林違法處分取消ノ訴

二十四年第三十九號
二十五年六月一日宣告　（福岡縣平民篠崎甚三郎對福岡大林區署長林務官丸尾漸）

本件係爭山林ニ於テハ該山林ハ明治十年中遞祿士族郡益雄カ拂下ヲ受ケタル地ニシテ甲第二號證ヲ以テ實地ニ對照スレハ符合シテ疑フヘキナトシ云フニアレトモ甲第二號證ハ側面見取畧圖ニシテ四至ノ境界及樹林ノ種類等ヲ區別シタルモノニアラサレハ其位置境界ヲ確知スルニ由ナシ已ニ甲第二號證ヲ以テ拂下地ノ位置境界ヲ確知シ難シトスレハ同圖ヲ根基トシテ調製シタル圖面及書類ハ一モ本件ノ證ト爲スニ足ラス又其他ノ擧證ニ於テモ原告所有山林ノ位置境界ヲ認ムヘキモノアラサルナリ如此拂下地其モノヽ位置境界ヲ確知スルヲ得サル以上ハ本件杉林ヲ以テ原告ノ所有ナリト主張スルヲ得ス而シテ該拂下地ノ位置境界ヲ實地ニ明瞭ナラシムルモノナキ時ハ其位置境界ハ土地所管廳ノ指定ニ依ルカ又ハ當初拂下ヲ受タル節實地引渡方ヲ爲シタル者ノ證明ニ依ラサルヲ得サルヲ以テ明治十五年十一月福岡縣廳カ地元村吏即チ當初引渡ヲ爲シタル村吏ノ代理人ヲ實地ニ立會セシメテ調製シタル甲第十六號證指定圖ハ原告ニ於テ郡益雄カ同圖ニ調印セスト云ヒ岩下清次郎カ領收シタルコトナシト云フニ拘ハラス同圖ハ郡益雄始メ還祿者ヘ拂下ケタル山林ノ位置境界ヲ指定シタル正當ノ地圖ト認定セサルヲ得ス然ラハ原告所有杉林ハ原告所有ノ山林ナリト謂フヲ得ス

（第一門第二(8)判決理由ノ一部）

(21) ◉不當査定取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十五年第二十六號
仝年七月五日宣告　（岡山縣平民船橋源七外四名對仝縣知事千阪高雅）

判旨○行政裁判法實施前ニ受ケタル行政處分ニ對スル不服ハ同法第二十二條ニ依リ同法實施ノ日ヨリ六十日以内ニ提起スヘキモノトス（行政裁判法

第二十二條）

（第一門第二(9)判決理由參看）

(22)◉官地堤脚ヲ第一二種ノ民地ト爲シタル處分取消方請求ノ訴

二十五年第八十七號
全年九月三十日裁決（千葉縣平民岡田豐吉對內務大臣井上馨外一名）

判旨○縣知事カ爲シタル行政處分ニ對シ內務大臣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス（行政裁判法第十七條第三項）

（第一門第一(51)判決理由參看）

(23)◉民有山林引戻請求ノ訴

二十五年第三號
全年十月十日宣告（長野縣星野悉林外一名對全縣知事淺田德則）

原告陳述ノ要旨ハ本件所爭ノ山林信濃國南佐久郡內山村ノ內第七千八百七十九番字松井日影山林一町四畝二十八歩及第七千九百九十九番同字山林三町七反六畝廿歩ハ往古ヨリ原告寺院ノ私有山林ナルニ明治八年地租改正ノ際村吏ノ取扱其當ヲ得ス誤テ官有ト爲リタルヲ以テ明治九年乙第百三十三號及同十二年二月中郡乙第六號達ニ基キ甲第一號書面ヲ以テ彼告ニ其引直シヲ請求シタリ然ルニ明治二十四年十一月十日彼告ハ願意聞屆難シトノ指令ヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥シタリ然レトモ本件山林ハ甲第三號證ノ如ク原告寺院ヨリ曾テ勘左衞門ナル者ヘ賣渡タルモ其子孫勝右衞門ナル者ヨリ之ヲ買戻タリ是レ該山林ハ私有地ナルカ故ニ自由ニ賣買シタルモノニシテ除地ニ非サルノ證ナリ又甲第四號證ハ原告寺院所有中濫リニ其地ニ入リタル者アルヲ處分シタル證ニシテ是レ亦其私有地ナルヲ證スト云フト雖モ甲第三號證中勝右衞門ナル者ヨリ曾テ其先祖勘左衞門カ原告寺院ヨリ讓受タル處ノ山林ヲ更ニ原告寺院ニ賣渡タルコトハ明記シアルモ當初原告寺院カ私有セル土地ヲ賣渡シ更ニ之ヲ買受タリト認ムヘキ確證ナク又甲第四號證ハ原告寺院ノ山林ニ濫リニ立入タルモノアルヲ處分シタルコトヲ證スルニ過キス故ニ甲第三號及甲第四號證ヲ以テ本件山林ハ原告寺院ノ所有地ナリト認ムルヲ得ス

(24)◉山林原野官私區分違法ノ訴

二十五年第三十六號
全年十一月七日宣告（撮手縣平民半田權藏對全縣知事服部一三）

原告ハ甲號ヨリ癸號ニ至ル證ヲ擧ケ本件土地ハ原告ノ所有地ナリト云フト雖甲號證ニ據ルモ土地ノ所在及其反別境界分明ナラス又乙號證以下出米ヲ記載セル諸證ハ山出米ナルモノカ果シテ原告所有地ニ對スル苅採料タルヲ認メ難ク却テ丙號證中ニ山守五右衞門ヘ爲山出米云々ト有之ニ依レハ山出米ハ山番給米ナルヲ知ルヲ得ヘク而シテ原告已號證ニ八ケ村入合ノ御場所當山守私共ノ千草場境等ノ文詞數所ニ相見ヘ五右衞門ノ所有地タル事ヲ證モ記載セスシテ紙末ニ峠山守五右衞門ト署名シタルニ據ルモ又被告提出ノ第四號證寛保元年御證文寫覺ナルモノ及第五號證原告カ土橋村作十郎ニ宛テタル受取證ニ山番米トアルニ據ルモ原告ハ本訴論地ノ所有者ニアラスシテ山守タル故ヲ以テ山出米ヲ入合村ヨリ領收シ來リシニ過キサルモノト認ムヘク其他原告ニ於テ擧證スル所アリト雖其所有地タルヲ證スルニ足ルモノナキニ依リ本件被告カ原告ニ對シ爲シタル處分ハ不當ナリト謂フヲ得ス

(25)◉細浦山林私有取據願ニ對スル指令不服ノ訴

二十五年第六號
全年十一月十七日宣告（廢手縣平民昆密太郎對全縣知事服部一三）

原告ハ第八號證中ニ貫殿山ト記載シアルコト第九號證山代金四十兩ヲ納メ藏藩ヨリ證書ノ下與ヲ得タルコト及本件山林ノ私有山タルハ自他五ケ村重立タル者數多ノ證人アリ又藏藩山帳ニ細浦山々守原告祖先ノ名目アル等ヲ以テ本件山林所有ノ證憑トシ該山林ハ祖先以來實實ヲ爲サヽルモノナレハ實買證書ヲ有セサルモ藏藩時代ノ慣行及成蹟上原告ノ所有地タルハ明瞭ナリト云フト雖第八號證ノソウリ畑ヘ植付タル小杉ヲ買受タル節ノ私證書ナレハ其證文中貫殿山トアルノミヲ以テ原告ノ所有山林ト爲スヲ得ス又第九號證ハ數代預リ居候所此度御詮金四十兩差上可申候間永御預被下置度旨申上願ノ通被仰付候最炊料木ノ外家作入用並地他拂材木等被出候節者願出可申候トアレハ該山林ヲ藏藩ヨリ拂受タルモノト謂フヲ得ス而シテ同證各文詞ニ徵スルニ原告カ從來藏藩山守ナリシテ當時納金ヲ爲シテ山林預リノ事ヲ永遠ニ維持シ併テ樹木伐採ニ關スル許可ヲ請受タルノミノ事實ヲ見ルヲ得ヘク即チ該山林ハ藩有ナルカ爲メ之カ願ヲ爲シタルノ推定スルニ足ルモノナレハ自他五ケ村ノ者ニ於テ原告ノ所有地タルヲ證シ又原告自身ニ藏藩ノ慣行ナリトシテ陳述スル所アルモ之ニ依リテ原告ノ所有山林ナリト認ムヘカラス要スルニ原告ハ本件山林ニ關シ從來山守タリシ來歷アリテ所有者タルノ成蹟ナキモノナルカ故ニ本件ニ對シ被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト謂フヲ得ス

(26)◉村民一同ニ山林拂下ノ訴

判旨○山林拂下ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ

（第一門第一(61)判決理由參看）

(27)◉民有原野引直ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十五年第六十三號
全年十二月十五日宣告（長野縣小縣郡倭陽村長島垣對全縣知事淺田德則）

判旨○行政官廳ニ於テ同一事件ニ付二回ノ指令ヲ爲シタル場合ニ在リテハ前ノ指令ハ自然其效用ヲ失フヘキヲ以テ行政訴訟ノ出訴期限モ亦後ノ指令ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

（第一門第二(12)判決理由參看）

(28)◉民有地引直ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十五年第八十二號
全年十二月十九日宣告（長野縣平民芳澤長左衞門外四百三十三名對全縣知事淺田德則）

判旨○行政裁判法實施前ニ於ケル土地官民有區分ノ查定ニ對スル不服ハ同法實施ノ日ヨリ起算シ六十日間ニ起訴シタルトキハ出訴期限ヲ經過セス（行政裁判法第二十二條）

（第一門第二(13)判決理由參看）

(29)◉高松神社上地山林下戻ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十五年第百三號
全年十一月二十二日裁決（青森縣平民新井山德松對全縣三戶郡川內村長大久保熊太郎）

二十五年第九十四號（靜岡縣平民中山政太郎對全縣知事小松原英太郎）
全年十二月二十日宣告

判旨○後ノ出願ヲ以テ前ノ出願ヲ改メタル場合ノ出訴期限ハ後願ニ對スル指令ノ日ヨリ起算ス（行政裁判法第二十二條）

（第一門第二(14)判決理由參看）

(30)◉**官山民有地引直方違法處分取消ノ訴**

二十五年第五十三號（山形縣平民村上久四郎外一名對全縣知事長谷部辰連）
全年十二月二十八日宣告

判旨○論地ニ對シ所有權ヲ主張セス單ニ收益權及入會權ヲ主張スル訴ハ土地ノ官民有區分ニ關スル事件ニ非ス（法律第百六號第五）

（第一門第一(70)判決理由參看）

(31)◉**官地堤脚ヲ第二種ノ民地ト爲シタル處分ヲ取消使用繼續請求ノ訴**

二十六年第七號（千葉縣平民岡田豐吉外四百名對全縣知事藤島正健）
全年二月八日裁決

判旨○土地ノ所有權ヲ主張スル者ニ非サレハ土地官民有地區分ノ査定ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリト稱シテ起訴スルヲ得ス（法律第百六號第五）

（第一門第一(75)判決理由參看）

(32)◉**高松神社上地山林下戻ノ訴**（第一門第二(14)妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第九十四號（靜岡縣平民中山政太郎對全縣知事小松原英太郎）
二十六年三月二十七日宣告

原告ハ本件山林ハ原告ノ祖先カ自費ヲ以テ栽培シ代々讓受來リシモノナレハ原告ノ所有ニ歸スヘキモノナリト謂フト雖原告カ立證シタル甲第一號證ハ同證中ニ揭ケタル山野等ヲ社家ノ進止タルヘシト謂ヘルマテニシテ所有ノ證ト爲スニ足ラス甲第二號證ハ神職相傳ノ爲メニ製シタルモノ甲第三號證及同第十一號同第十二號同第十三號ノ諸證ハ正確ノモノト認メ難ク其他本件山林私有ノ證ト爲スヘキモノナキニ依リ被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト謂フヲ得ス

(33)◉**民有地引直ノ訴**（第一門第二(13)妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第八十二號（長野縣平民芳澤長左衛門外四百三十三名對全縣知事淺田德則）
二十六年四月六日宣告

原告ニ於テ本訴論山ハ古來原告等舊三十箇村ノ共有地ナリト謂フト雖原告ノ立證シタル甲第一號證奥山入會一箇所トアルモノハ本訴ノ論地ニ該當スルモノナリトスルモ其肩書百姓持山トアルハ當時ノ筆蹟ト認メ難キノミナラス其脇書ヲ以テ同證中他ノ百姓持山分ニ對照スルニハ村中ニテ所持仕リ云云ト明記シアリ而シテ右奥山ニハ前前ヨリ入會秣田肥薪材木等取來リ申候トノミ記載シアレハ民有タルノ確證トナシ難ク又甲第二號證及第八號證山手米山手稅山稅等ハ高外ノ納稅ニ係ルモノナレハ該納稅ノ廉ノミヲ以テ民有ニ歸スヘキモノニ非ス又其甲第三號證乃至甲第七號證ハ論山ヲ質入トナシ又ハ之ヲ取戻シタル諸證ナリト謂フモ果シテ論山ニ該當スルヤ否ヲ知リ得ヘカラサルノミナラス當時原告村カ私ニ爲シタル契約ナレハ本件ノ證據トシテ採用スヘキモノニ非ス其他一モ民有ノ證左ト認ムヘキモノナキニ依リ被告ノ處分ヲ不當ナリト謂フヲ得ス

(34)◉**民有地引直ノ訴ニ對スル妨訴抗辯**（第一門第二(12)妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第九十一條（長野縣平民瀧澤大造外五名對全縣知事淺田德則）
二十六年四月七日宣告

判旨○一タヒ行政處分ヲ受ケタル後再ヒ同一ノ事實及證據ヲ提出シテ行政處分ヲ求メタル場合ニ於テモ出訴期限ハ先キニ受ケタル行政處分ノ日ヨリ起算スヘキモノトス（行政裁判法第二十二條）

（第一門第二(18)判決理由參看）

(35)◉**民有原野引直ノ訴**（第一門第二(12)妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第六十三號（長野縣小縣郡鹽陽村長島垣）
二十六年五月十三日宣告（長野縣平民瀧澤大造外五名對全縣知事淺田德則）

原告ハ本件係爭地ハ古來原告ノ共有地ナリト云フト雖モ其立證シタル甲第一號證ニ米弐拾八石八斗六升山御年貢トアルハ當藩中本高外ノ課稅ニシテ小物成ニ屬スルコトハ該一號證寶永三年指出帳中村高外ニ右年貢米ヲ記載シアルニ依リテ知ルヲ得ヘク然ラハ所有山野タルノ故ヲ以テ納稅シ來リタル成蹟アルモノト謂フヘカラス旁レニ加フルニ右指出帳中米弐拾八石八斗六升ト記載シタル左腹ニ於テ御札數千三十七枚ト記入シアリ依テ該帳中洗馬山薪取場ニ屬スル納稅ニシテ藩有山林ニ於ケル苅採料ナリト認メサルヲ得ス而シテ原告ハ指出帳中御札數千三十七枚トアルハ其次項金三兩一分二朱ト年貢トアルニ該當スルモノナリト云フモ其記入ノ位置ハ前項ニ屬スル事明瞭ニシテ且原告ハ他ニ次項ニ屬スルモノタルヲ

二十五年第百四十二號
二十六年五月十六日宣告　（栃木縣平民星野常吉外四名對仝縣知事折田平内）

被告ニ於テ本件ハ明治七年一月公債證書ヲ下渡シテ之ヲ結了シ原告ハ其利子モ領收セシモノナレハ若シ之ニ對シ不服アラハ請願規則ニ依リテ出願スルカ將タ行政裁判法實施後其期限内訴訟ヲ爲スヘキモノナリ即チ本訴ニ付テハ訴訟ヲ爲シ得サルモノナルコトハ明治二十五年第二十六號行政裁判所判決例ニ據リテ明瞭ナリト云フト雖本件ハ原告要求ノ山林カ明治八年官林取調ノ際官有地ニ編入セラレタルヲ以テ之ヲ不當トシ新ニ證據類ヲ發見シタルカ爲メニ明治廿五年六月ヲ以テ原告ヨリ民林ニ引直願ヲ被告ニ差出シタルニ被告カ之ヲ聞屆ケサルヲ以テ本訴ヲ提起シタルモノナレハ出訴期限ヲ經過シタルモノナリト謂フヲ得ス然レトモ本訴原告請求ノ要旨ハ本件山林ハ舊下妻藩領有中原告ヨリ金三百三十兩ヲ以テ原告村ヘ下受タルモノナルヲ明治八年官林取調ニ際シ官林ニ編入セラレタルヲ以テ原告ヨリ民有山林ニ引直シテ要求シタルモ遂ニ聽カレスシテ金三百三十兩ヲ藩償ナリト誤認シ公債證書ヲ下付セラレタルモ原告ハ所有權アルモノナルニ付民有地ニ回復アランコトヲ請フト云フニ在レトモ本件山林ハ被告カ提出シタル乙第一號證ノ一原告村當時ノ村吏連署ニテ元下要縣ヘ差出シタル約定書及ヒ乙第一號證ノ二舊下要藩ヨリ原告村ヘ差入タル證書ニ依レハ原告村ハ本件山林反別及立木ヲ引當ニシ金三百三十兩ヲ舊藩ニ調逃シ十七箇年ノ期限ヲ以テ返金ヲ受クルノ約ヲ爲シタルヲ知ルヘク又乙第二號證下要縣書上ケ舊下要藩藩債取調帳抜萃ニ依ルモ十七ケ年期ニテ村受申付云々トアレハ原告ハ永久所有ノ權ヲ獲得シタルモノト認ムルヲ得ス而シテ原告ハ右乙第一號證一二ハ疑フヘキ所アリト云フモ該證ハ大藏省保存書類ノ寫ニシテ官廳ノ所管ニ係ルモノナレハ後ニ作爲シタル所アルモノト認ムヘカラス故ニ原告甲第一號證ニ於テハ明治元年十二月ヲ以テ村下ケ相成リタル如クナルモ其實藩償ノ方ヘ貸入トシテ十七箇年ノ年期ヲ限リ原告村ヘ下渡シタルモノナルヲ以テ乙第一號證一ノ如ク下要縣廢縣ノ後明治四年十二月大藏省達ノ趣ニ依リ原告村ヨリ約定書ヲ徵シタルモノナルコトヲ推定スヘク然ラハ甲第四號證其他納稅ノ證ハ舊藩貸入中原告村ヨリ納メシメタルモノニシテ納租ノ故ヲ以テ原告村ノ所有地ナリト謂フヲ得ス事實斯ノ如クナルニ依リ政府ハ公債證書ヲ原告村ニ下付シ舊藩償ノ處分ヲ結了シタルモノナリ故ニ原告村ニ於テハ本件山林ニ對シ所有權ナキモノトス

(37) ◉官有地ヲ民有地ニ回復スルニ付査定違法處分取消ノ訴

二十五年第三十七號
二十六年五月二十日宣告　（千葉縣平民唐鎌清五郎外三名對仝縣知事兵頭正懿）

判旨○薪秣等苅取ノ爲ニ納稅スルモ土地ニ對シ納稅シタル事實ナキニ於テハ其所有權アリトノ證據トスルニ足ラス

原告ニ於テ本件請求ノ土地ハ舊時高五拾六石六斗八升一合ノ内ニ屬シ古來原告村民カ所有權ヲ保續シ來ルモノニシテ民有ノ成蹟アルモノナリト云フト雖原告提供ノ諸證ヲ閲スルニ甲第一號證里見安房守裁許書ニ如先規西畑内ニ相濟候トアルハ當時ノ爭訟ニ對シ原告村ノ所屬地ナリト定メタル迄ニシテ土地所有ノ證ト爲スニ足ラス甲第二號證坪入改帳ニ八百文山錢トアルモ土地即チ地攅ニ對スル課稅タルヲ判シ難ク甲第三號證ニ高五拾壹石六斗八升壹合山高入トアリ甲第十四號證ニ同額ノ高ヲ記載シ内山高入トアリ又甲第三十五號證ニモ同シク山高入トアルモ甲第五號證高五拾七石六斗八升壹合ト記シタル下ニ此反別拾一町七反三畝二十六歩トアリテ其内書ニ於テハ田畝屋舖ノ外野山反別ヲ記載セスシテ別ニ永一貫二百五十文無口永野錢眞木貳十四東山役トアレハ從前原告ノ負擔シタル山野稅ハ土地ニ對シテ納稅シタルモノニアラスシテ薪秣等苅採ノ爲メニ納來リシコト明瞭ナリ已ニ原告ハ本件土地ニ對シ納稅シタル成蹟ナシトスレハ納稅シタリトノ各證ハ土地ノ所有權アリトノ證據トナスヘカラス又甲第十二號證中ニ何レモ村高内故云々當時地内野山一圓領主拜領ノ内ニ付云々等ノ文詞アリ甲第十五號證中御高山ニテ云々ト記載アルモ其高ト稱スルモノハ毛上ニ課シタルモノニシテ地租ニアラサルコトハ前説明ノ如クナルノミナラス右第十二號證及第十五號證ハ入會爭論ノ際ニ係ルモノニシテ土地ノ所有上ニ關スル爭證ニアラサルニ依リ本件ノ證據トナスニ足ラス其他原告立證ハ何レモ本件土地所有ノ證據トシテ採用スヘキモノナキヲ以テ襲ニ被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト謂フヘカラス

二十六年第八十五號
仝年十月四日裁決　（千葉縣平民岡田豊吉對仝縣知事兵頭正懿）

判旨○同一ノ事件ニ付再ヒ行政訴訟ヲ提起スルヲ許サス（行政裁判法第十九條）

（第一門第(95)判決理由參看）

(38) ◉寶田村共有地所有權回復並縣知事違法ノ指令取消ノ訴

二十六年第八十七號
仝年九月二十一日裁決　（愛知縣愛知郡寶田村長江場清一郎對仝縣知事時任爲基）

判旨○行政處分ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタル出訴ハ之ヲ受理セス（行政裁判法第二十二條）

（第一門第(20)二判決理由參看）

(39) ◉官有地堤脚ヲ民有地ト爲シタル處分取消方請求ノ訴

二十六年第八十五號
仝年十月四日裁決　（千葉縣平民岡田豊吉對仝縣知事兵頭正懿）

判旨○同一ノ事件ニ付再ヒ行政訴訟ヲ提起スルヲ許サス（行政裁判法第十九條）

（第一門第(95)判決理由參看）

(40) ◉寶田村共有地所有權回復並被告縣知事違法ノ指令取消ノ訴

二十六年第百五號
仝年十月十九日裁決　（愛知縣愛知郡寶田村長江場清一郎對仝縣知事時任爲基）

判旨○民事訴訟ハ行政訴訟提起ノ法律上ノ宥恕理由タル障碍即チ天災其他避ク可ラサル事變ニ非ス從テ司法裁判ノ結果ヲ待チタル爲行政訴訟ノ不變期間ヲ遵守スル能ハサリシモ原狀回復ノ理由トナラス

（第一門第(21)二判決理由參看）

(41) ◉官民有區分不當處分取消請求ノ訴

二十六年第六十二號
仝年十月二十日宣告　（巖手縣平民三浦六之助外四名對仝縣知事服部一三）

判旨○除屋敷ヲ士籍外ノ者ニ讓與スルハ舊藩制ノ禁スル所ナリシヲ以テ其賣買ハ效力ヲ有セス

原告等ニ於テ巖手縣東磐井郡生母村大字赤生津字青木十八番馬塞山三等官林反別四町五反三畝二十七歩ノ地所ハ舊仙臺藩士ノ除屋敷ニシテ原告等ノ先代ハ同藩士植木清之通ヨリ讓受爾來地所樹木共自由ニ致シ來リタ

ルモノナリ尤モ舊藩制ニテハ該除屋敷ナルモノハ藩士間ニ於テ自由ニ賣買處分スルコトヲ得タルモノニ有之原告等ノ先代ハ藩士ニハ無之候得共實際代金相渡譲受ケタルモノナレハ原告等ヘ下戻スヘキ筈ナリト云フト雖抑除屋敷ナルモノハ藩士ノ藩主ヨリ拝領シタル地所ニシテ藩士間ニ於テ譲與スルハ舊藩制ノ許ス所ナリシモ其賣買ヲ禁シタルハ被告提出ノ乙第一號證ニ依テ明カナリ而シテ原告等ノ主張スル如ク實際代金ヲ以テ譲受ケタルノ事實アリトスルモ士籍外ノ者ニ譲與スルハ舊藩制ノ禁スル所ナレハ毫モ其效力ヲ有セサルモノトス故ニ被告縣知事カ原告等ノ請求ヲ斥ケタルハ不當ノ處分ニアラス

(42) ◉官民有區分不當處分取消請求ノ訴

二十六年第六十三號　宮城縣士族小山友郷
全年十月二十日宣告　（對全縣知事服部一三）

判旨○藩士ノ所持シタル除屋敷ニシテ沒收セラレタル舊藩ノ封土中ニ在リ且其藩士ニシテ歸農セサリシトキハ共ニ沒收セラレタルモノナリ

原告ハ其仙臺藩ノ時代ニ在リテ本件地所ヲ除屋敷トシテ所持シ居リ維新ノ際之ヲ舊家來海野平八ノ歸農地トシテ預置キタルヲ以テ之ヲ自己ノ所有地ニ引戻スノ權アリト云フト雖舊仙臺藩ハ維新ノ際一旦其封土ヲ沒收セラレ更ニ新封土ヲ下賜セラレタルモ本件地所ハ新封土ノ内ニ屬セスシテ沒收セラレタル封土中ニ存在セリ然ラハ原告カ藩士トシテ所持セシ除屋敷モ共ニ沒收セラレタルモノト謂ハサル可ラス但其際歸農ノ者ニハ除屋敷ヲ與フルノ特例アリタレトモ原告ハ藩士トシテ仙臺ニ移轉シ歸農セサルコト明瞭ナレハ原告ノ此特例ニ與カルノ資格ヲ有セルモノト認ルヲ得ス故ニ被告知事カ原告ノ請求ヲ斥ケタルハ不當ノ處分ニアラス

(43) ◉官有地編入不當處分取消請求ノ訴

二十六年第五十九號　奈良縣平民津田善平
全年十月二十一日宣告　（對全縣知事小牧昌業）

判旨○土地ノ所有權ヲ主張スル者ニ非ラサレハ土地官民有區分ノ査定ニ因リ權利ヲ毀損セラレリト稱シテ起訴スルコトヲ得ス

（第一門第一(100)判決理由參看）

(44) ◉違法處分取消ノ訴

二十五年第三十號　福岡縣平民手島仲太郎
二十六年十一月十四日宣告　（對全縣知事山田爲暢）

判旨○後見人ノ職務權限ニ關スル規定ノ外未丁年者ノ行爲ヲ無效トスルノ法令ナシ

○明治二十二年ノ土地丈量ハ明治八年地租改正ノ際定メタル人民所有ノ土地區域ニツキ其面積ヲ精査シタルニ外ナラサレハ該規定ニ依テ既ニ確定セル明治八年ノ眞形圖ノ正否ヲ爭フコトヲ得ス

原告ニ於テ明治二十二年土地總丈量ノ際調製シタル圖面ハ認諾調印セシコトナク若シ調印アルモ未丁年者ノ行爲ニ係ルモノナレハ無效ナリ結局明治八年調製圖ノ位置ヲ復活シテ丈量法ノ規定ニ依リ訂正ス可キモノナリト云フト雖後見人ノ職務權限ニ關スル規定ノ外未丁年者ノ行爲ハ總テ無效ト爲ス可キ規定ナキヲ以テ該主張ハ採用ス可キモノニアラス又人民ノ所有スル土地及其區域ハ明治八年地租改正ノ際實施セラレタル規定ニ依リ之カ調査ヲ結了シタルモノニシテ該規定中地方官心得書第三十六章十月板倉伊賀守禁制書中ニ山林ノ伐採等ヲ禁制セラレタルニ拘ハラス從來山林ヲ伐採シ來リシハ本件山林カ牧岡神社ノ屬地ニ非サルノ證ナリト云フモ其書ヲ閲スレハ書中ニ當軍勢云々等ノ文詞アレハ一時他人ノ竹木伐採ヲ禁シタルモノニシテ牧岡神社自身ノ伐採ヲ禁シタルモノニアラサルヲ知ルヘク其他原告ノ私有地タルヲ證スヘキモノナキニ依リ被告カ爲シタル處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

(45) ◉山林引戻請求ノ訴

二十七年第六號　大阪府士族水走英忠
全年六月七日宣告　（對全府知事山田信道）

原告ニ於テ係爭山林ハ住古ヨリ私有シ來ルモノナリト云フト雖甲第一號證ハ其書中ニ牧岡山ハ京錢二十貫文ツヽ年々山年貢相納メ候事トアルモ何人ヨリ納稅シタルモノナルヤ又土地ニ對スル租稅トシテ納稅シタルモノナルヤ樹木ノ伐採ニ對シテ納租シタルヤ否ヤヲ知ルニ由サク甲第二號證第三號證ハ原告ノ家ニ差入タル書面ナルモ該山林カ原告ノ私有ナルヲ以テ之ヲ爲シタルヤ否分明ナラス又寛文十二年ニ成レル繪圖面中白色ヲ顯ハシタル處ニ此色社頭神木ノ森刑部家脊山林境トアルモ原告ハ元牧岡神社ノ神職タリシモノナレハ山林ノ收入ヲ以テ家脊ト爲シタルモ知ルヘカラスシテ他ニ所有タリシヲ證ムヘキノ點アルヲ見ス又原告ハ慶長十九年十月板倉伊賀守禁制書中ニ山林ノ伐採等ヲ禁制セラレタルニ拘ハラス從來山林ヲ伐採シ來リシハ本件山林カ牧岡神社ノ屬地ニ非サルノ證ナリト云フモ其書ヲ閲スレハ書中ニ當軍勢云々等ノ文詞アレハ一時他人ノ竹木伐採ヲ禁シタルモノニシテ牧岡神社自身ノ伐採ヲ禁シタルモノニアラサルヲ知ルヘク其他原告ノ私有地タルヲ證スヘキモノナキニ依リ被告カ爲シタル處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

(46) ◉散田前起返リ地所有權ニ關スル不當指令取消ノ訴

二十七年第三十九號　宮城縣平民伊勢久松外四名（對內閣總理大臣伯爵伊藤博文）
全年七月四日裁決

判旨○私人間ニ起レル土地所有權ノ爭ハ土地官民有區分ノ査定ニ關スル事件ニ非ス從テ法令中行政訴訟ヲ許ス明文ナシ

（第一門第一(114)判決理由參看）

(47) ◉民有地回復ノ請求不當ノ指令取消ノ訴

二十五年第六十五號　長野縣平民原伴三外一名（對全縣知事淺田德則）
二十七年七月十日宣告

判旨○古來村持ト唱ヘ村民ニ於テ自己所有ノ如ク自由ニ處分シ來リタル山野ハ民有地ニ編入ス可キモノナリ（明治九年一月二十九日付地租改正事務局別報第十一號派出官員心得書第一條第二條）

被告ハ本件係爭ノ山野ハ舊來外山ト稱シタル入會地ニシテ原告ハ單ニ山手米トシテ高外ニ賦スル小物成ヲ納メ自然生ノ草柴ヲ採伐シ來リタルニ過キスシテ別ニ民有タルコトヲ證スルノ證據ナシ殊ニ原告ノ舉證ニ係ル樹木植付ノアルコトハ之ヲ認メス假令七在リトスルモ是其局部ノ證據トハ爲シ得ヘキモ本件山野全體ニ對スル所有ノ證據トナスニ足ラサルコトヲ主張スト雖モ甲第十號證ノ一嘉永元戊申年十一月十一日付田部村與助ヨリ眞志野名主ニ差出シタル書中ニ其御村持山日向入山ニ而ガヤ以代金カリ度云々トアリ同證ノ二安政六巳未年四月付中金子村名主組頭ヨリ地元眞志野村役人及外入會役人ニ差出シタル書中ニ其御村持青山ノ內御村方山ノ口明五日下リ後苅數八十駄苅取度云々トアリ又甲第九號證嘉永二己酉十二月二十五日付薦高島藩普請方小池瀬矣衛ヨリ南眞志野村名主年寄ニ與ヘタル藩用ノ材木買取代金拂渡覺書中ニ其村持日向入山ヨリ御用材木請取云々トアリ其他甲第十二號證諏訪郡中洲村外數箇村民カ連署ノ保證書中ニ日向入青山ノ兩山ハ原告谷村往昔ヨリ自由進退シ共有ノ所有山ト確認スル旨ヲ記セリ而シテ實地臨檢スルニ甲第二十一號證ノ樹木所在地五十八箇ハ係爭地內ニ散在シ且該樹木ハ其種類位置等ヨリ觀察スルモ全ク植付ニ成リ幾多ノ勞費ヲ要シタルノミナラス其散在ノ狀況ニ依ルニ該植付ノ係爭地全體ニ跨ルモノニシテ決シテ局部ノモノニアラサルヲ知ルニ足レリ是ニ由テ之ヲ觀レハ係爭地ハ即チ舊來村持ト唱ヘ原告村ニ於テ所有地ノ如ク進退シ樹木草茅等ヲ自由ニ處分シ來リタルモノニシテ明治九年一月二十九日付地租改正事務局別報第十一號派出官員心得書第一條及第二條ニ準據シ處分スヘキモノト認メサルヲ得ス故ニ明治二十一年五月十七日付ノ原告出願ニ對シ被告カ明治二十五年五月二十一日付ヲ以テ願ノ趣聞屆難シト爲シタル指令ハ其當ヲ失シタルモノトス

(48) ◉土地官民有區分查定ニ關スル違法處分取消ノ訴

（二十七年第十四號　二十八年二月二十七日宣告　兵庫縣中田日修外六名　對京都府知事渡邊千秋）

判旨○明治八年七月地租改正事務局地所處分假規則ハ內務省乙第七十二號達ノ執行規則ニ過キサレハ該達ニ就キ出願期限ヲ經過スルトキハ地所處分假規則ノ上ニ於テモ亦之ヲ經過シタルモノト云ハサル可ラス

○違例ノ取扱ハ令達ヲ廢止シタルノ證據ト爲スニ足ラス

○行政廳ノ審理ヲ經タル事項ニ非サレハ行政裁判所ハ裁定ヲ爲サス

第一原告ノ本件係爭地ハ原數地ノ換地トシテ賜ハリタル地所ニシテ之ヲ現行法ニ照スニ明治八年七月八日地租改正事務局決議地所處分假規則第三節第二條ノ社寺名受地ニ該當シ且右地所ハ元ト河原ナリシヲ本寺ニテ開墾シ宅地ト爲シタルニ依リ該規則第三節第四條ノ自費ニテ開墾シタルモノニ該當スルヲ以テ原告ノ所有ト爲サヽル可カラスト云フト雖地所處分假規則ハ出張官吏ノ心得書ニシテ內務省乙第七十二號達ノ執行規則ニ過キサレハ該達ニ就キ出願期限ヲ經過スルトキハ地所處分假規則ノ上ニ於テモ亦之ヲ經過シタルモノト云ハサル可カラス而シテ乙第七十二號達ニ就テハ明治九年十月六日內務省乙第百十九號達ヲ以テ出願ノ期限ヲ定メ同年十二月限ト爲シタルニ依リ既ニ其期限ハ經過シタルヲ以テ原告ハ該規則ニ依リ出願スルノ權利ナキモノトス第二原告ハ內務省ニ於テ茨城縣滿願寺及靜岡縣高松神社舊神官中山政太郎ニ對シ明治十年十一月頃ニ至リ乙第七十二號達ニ依テ處分ヲ爲シタリ是レ明治十年八月十一日ノ內務省伺及同年十一月十日ノ太政官指令ニ基キテ爲シタルモノナルコト明カニシテ當時乙第百十九號達ノ期限ハ此伺指令ニ依リ消滅シタルモノナリト云フト雖モ右伺定ハ公布ジタルモノニアラサレハ之ヲ以テ乙第百十九號達ノ期限ヲ廢止シタルモノト謂フヲ得ス而シテ滿願寺上地下戻ハ期限內ニ受理シタルモノナレハ期限ヲ破リタル證據ト爲スノ方ナク又中山政太郎開墾地處分ハ違例ノ取扱ヲ爲シタルモノト謂フ可ク是レ亦期限ヲ廢止シタル證據ト爲スニ足ラス第三原告ハ被告ニ於テ乙第七十二號達ノ開墾地及買得地ニ關シ出願期限ヲ定メタル諸達ヲ管內ニ布達セス故ニ此等ノ諸達ハ原告ニ對シ效力ナキモノナリト云フト雖右期限ヲ定メタル諸達ハ內務省乙第百十九號達ニ依テ明カナレハ該達ハ原告ニ對シ效力ナキモノト謂フヲ得ス第四原告ハ係爭地ノ一部分即三百四十四坪ノ地所ハ原告カ買增シタルモノナレハ假令本訴ハ却下セラルヽモ此部分ハ下戻サヽルヘカラスト云フト雖本件ハ原告カ當法廷ニ於テ始メテ申立テタル事件ニシテ未タ被告行政廳ノ審理ヲ經タルモノニアラサレハ之ニ對シテハ裁定ヲ爲スヘキ限ニアラス

(49) ◉官有溜池拂下取消請求ノ訴

（二十八年第二十四號　全年四月八日裁決　埼玉縣平民橋本彌吉外七十三名　對全縣知事千家尊福）

判旨○縣知事カ官有溜池ヲ一私人ニ拂ヒ下ケタル處分ノ取消ヲ求ムル事件ニ對シ行政訴訟法ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(136)判決理由參看）

(50) ◉土地官民有區分ノ查定ニ關スル違法處分取消ノ訴

（二十八年第二號　全年五月二十七日宣告　愛知縣額田郡宮崎村長梅村角兵衛對全縣知事時任爲基）

判旨○土地收益權アリシトノ推測ハ直チニ所有權ノ存在ヲ推定スルノ證據ト爲スニ足ラス

○高外ニ屬スル雜稅ハ土地所有ノ證ト爲スニ足ラス

原告ニ於テ本件係爭地ハ古來大字石原ノ名受地ニシテ共有山ナルコトハ甲第一號證甲第三號證ノ差出帳ニ依ルモ明確ナリ且甲第四號證年貢可納割付書中ニモ該地ニ對シ雜木林荒場永ト記シテ納稅シ又甲第五號證甲第六號證ノ如ク他村ヘ對シ下草ヲ讓渡又ハ賣渡シタル等ノ事實アリテ該地ヲ自由ニ進退セシモノナレハ石原住民ノ共有地ニ編入アリタシト云フト雖甲第一號證ハ草山四至ノ榜示ヲ定メ之ニ村中ト記スニ止マリ甲第三號證モ亦荒薪ヲ居林又ハ總山ノ內ニテ苅採リタルコトヲ記スルニ止リ共ニ草木ノ收益權アリシヤヲ推測スル可キモ土地ノ所有權アリタリト認ムルニ足ラス甲第四號證二町ノ段別地ハ甲第一號證ノ草山村中ト記スルモノニ適合スルモノト認メ難キノミナラス其永ナル納稅ハ石原村二百六十四石五斗六升五合ノ高外ニシテ雜稅中ニ屬スルモノナレハ土地所有ノ證ト爲スニ足ラス甲第五號證甲第六號證モ亦收益權アリシヤヲ推測シ得可キモ

之ヲ以テ直チニ土地所有ノ權利アルコトヲ證スルニ足ラス依テ被告ノ處分ハ違法ニアラストス

(51)◉縣達取消請求ノ訴

二十八年第十一號
仝年六月二十一日宣告（千葉縣平民平野忠藏外五十四名對仝縣知事兵頭正懿）

判旨○土地官民有區分査定ノ際民有ト爲スモ其過誤ニ出ツルトキハ之ヲ官有地ト査定スルモ不當ニ非ス

（本件判決理由ハ(6)ト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

(52)◉土地官民有區分査定並私有地確定ノ訴

二十八年第三十九號
仝年九月三十日裁決（東京市平民大野安次郎對東京府知事三浦安）

被告ニ於テ本訴所有地ハ被告第四號證乃至第六條證及改租當時ノ調製ニ係ル府縣備付ノ地圖ニ依ルモ舊時ノ用水路敷地ニシテ官有地タルハ疑ナシト云フト雖モ實地ヲ檢證スルニ論地ノ殘分ハ舊水路敷ノ線内ニ係ルヲ認ムルニ足ルヘキモ其區域明瞭ナラサルノミナラス論地中西南ヨリ東ニ折レテ用水路ニ逆スル地ノ如キハ被告第四號證以下ノ地圖ニ依ルモ從來民有地部内ニ屬スルヲ知ルヘク而シテ論地全體ハ水車用引水ノ場所ヨリ水落ノ溝渠ニ至ルマテ總テ水車營業ノ爲メニ構造ヲ施シタル者ニシテ從來原告ニ於テ占有シ居ル事ハ確認スルヲ得ヘクシテ官有地タルノ證據ハ一モ認ムヘキモノナキニ依リ本件所爭地ヲ以テ官有地ナリト謂フヲ得ス

(53)◉民有地回復ニ關スル訴

二十八年第二十五號
仝年十一月九日宣告（愛知縣平民佐藤鍵之丞對仝縣知事時任爲基）

判旨○論地カ古來有租地タリシ事實明瞭ナルモノハ民有地ト査定スルヲ當然トス

○幕政時代ノ村吏タル庄屋ニ於テ署名捺印シタル書面ハ有效ノ證書タリ

被告ハ甲第一號證ヲ以テ假ニ眞實ナルモノトシ且之ヲ公證ノ一ナリトスルモ該證ニハ名受人アルモノハ悉ク記名シアルニ萱野葭野ノ部分ニ限リ名受人ヲ記スヘキ位置ニ單ニ狐島萱野葭野ト書シ且分米二十四石餘ノ下ニハ草野トアリテ其草野ノ文字カ萱野葭野ノ二字ヲ包含シタルモノト認ムルヲ得ス殊ニ御葭野ナル文字ハ普通官有ヲ意味スル記載方ニシテ民有ニ用フルモノニアラス故ニ該地ハ之ヲ官有トシテ見ルノ外ナシト云フト雖甲第一號證正保三年ノ檢地帳甲第三號證慶應三年ノ御免相積帳甲第四號證明治三年ノ物成申付覺甲第五號證明治三年ノ田畑御物成取帳ニ依レハ右地所ハ有租地ナルコト明カナレハ之ヲ官有地ナリト謂フヲ得ス又被告ハ甲第六號證天明六年ノ地所買得證ハ眞實ノモノニアラス何トナレハ若シ之ヲ眞實ナルモノトセハ萱野葭野ノ二字ハ天明六年以前ニ在テハ佐右衛門、伊久八、金兵衛及八人組ノ名受地ナリシ筈ナルヲ以テ甲第一號證中同人等ノ記名ナカル可カラス然ルニ該證ニハ其記名ナク單ニ字名ノミヲ記載セリ又該地ハ八人持ノ共有地ナルニ實主記名ノ所ヲ見レハ共有者タル八人組ノ外ニ猶佐右衛門、伊久八、金兵衛等三名ノ記名アリ果シテ彼等三名モ亦共有者ノ一部分ナリシナラハ十一人持ノ共有トナルヘキ道理ナルニ其八人ノ名ヲ記セスシテ反テ他ノ人名ヲ記シタル如キハ前後矛盾

ノ甚シキモノニシテ全ク價値ナキ書面ナリト謂ハサル可カラス且宇佐美新藏ハ原告ノ祖先ナリト假定スルモ甲第七號證ヲ見レハ新藏ハ一旦養子トナリ天明ノ頃歸リタリトアルノミナレハ土地ヲ買ヒタルハ養子タリシ時ノ事ナルヤ又ハ歸家シタル後ノ事ナルヤ明カナラス故ニ該地ハ原告家ノ所有地ナリト認ムルヲ得スト云フト雖甲第六號證ハ今日ヨリ之ヲ觀レハ其手續ニ關シ缺クル所ナキニアラサルモ當時ノ村吏タル庄屋ニ於テ署名捺印シタルモノナレハ有效ノ證書ト謂ハサル可カラス而シテ甲第七號證法名記ニ於テハ宇佐美新藏ハ天明何年ニ歸家シタルヤ明カナラサルモ甲第十二號證金銀出入帳等ノ事實アルノミナラス甲第五號證明治三年ノ田畑御物成取帳甲第十一號證文久三年ノ御前帳ニモ明カニ佐藤家ノ所有地トシテ記載シアレハ該地ハ原告家ノ所有ニ屬スルモノト認メサルヲ得ス又被告ハ原告ノ諸證ニ記載セル萱野葭野ノ二字カ論地ニ該當スルノ證左ナシ故ニ論地ヲ以テ原告ノ所有地ナリト認ムルヲ得スト云フト雖甲第二號證享和三年ノ古圖甲第十八號證地租改正圖甲第十九號證向島全圖及甲第二十二號證向島村地引繪圖ヲ對照スルニ論地ハ萱野葭野中變形ヲ爲シタル箇所ニ該當シ右地所ノ一部分ナルコト明カナレハ原告ノ所有地ナリト謂ハサルヲ得ス

(54)◉官有地民有地境界査定取消ノ訴

二十八年第八十一號
仝年十二月二十七日宣告（高知縣士族和田直對仝縣知事石田英吉）

判旨○知事カ内務大臣ノ許可ヲ得テ確定シタル圖面ニシテ對手モ其成立ヲ認メタルモノハ反證ナキ限リハ正確ナル圖面ナリトス

○豫審判事カ實地臨檢ノ際境界線ヲ畫定シタル圖面ノ如キハ之ヲ以テ直チニ原告ノ主張スル境界ヲ正確ナリト認ムルヲ得ス

本訴官有地民有地境界査定處分ノ當否ヲ決スルニハ本件係爭地ノ形狀ハ乙第二號證ノ原圖村役場保存ノ圖面ニ符合スルヤ否ヲ識別スルヲ要ス依テ被告提出ノ乙第一號證堂字境内外區分帳付隨ノ圖面ヲ檢閲スルニ該圖ハ被告ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得テ確定シタル圖面ニシテ原告ニ於テモ其成立ヲ認ムルモノナレハ之ニ對シ誤謬ノ點アリトノ反證ヲ得サル限リハ正確ナル圖面ナリト認定セサルヲ得ス而シテ乙第二號證村役場保存ノ原圖ト乙第四號證第一圖ナル被告ノ境界調査實測圖ノ中其孰レカ乙第一號證圖面ニ符合スルヤヲ見ルニ乙第二號證原圖ニ黒線ヲ以テ示シタル係爭地ノ境界線ハ北部道路ノ曲折シタル所ヨリ南部ヘ見通シ一直線ナリトス然ルニ乙第一號證圖面ニ就キ其境界線ニ該當スル所ノ境界線ヲ見ルニ直線ニ非スシテ東部ニ曲折シタル曲線ナル「ヲ知ルヲ得ヘシ又乙第四號證第一圖ノ被告主張ノ境界線ヲ見ルニ乙第一號證圖面ノ如ク其境界線ハ直線ニ非スシテ東部ニ曲折シタル曲線ナリ是レニ由テ之レヲ觀レハ乙第四號證第一圖ハ乙第一號證圖面ニ符合スルモノニシテ本件係爭地ノ境界ハ被告主張ノ境界ヲ以テ實地ニ適合スル正確ナルモノト確定セルヲ得ス故ニ乙第二號證原圖ノ直線ノ境界ハ實地ニ適合セスシテ其誤謬ヲ訂正シタル乙第二號證圖ニ朱點ヲ以テ明示セル曲折シタル訂正線ヲ以テ係爭地ノ境界ナリト査定シタルハ不當ノ處分ナリト云フヲ得ス然ルニ原告ハ甲第二號證乃至甲第五號證等ヲ以テ被告ノ査定處分ヲ不當ナリトシ甲第二號證圖ニ示セルイ印ヨリロ印ヲ經テハ印ニ達スル朱點ノ線ヲ以テ正當ナル境界線ナリト云フト雖モ甲第二號證圖ハ高知地方裁判所豫審判事カ實地臨檢ノ際調製シタルモノニシテ該圖面ハ單ニ實地ノ現狀及ヒ其際立會

面ノ如キハ之ヲ以テ直チニ原告ノ主張スル境界ヲ正確ナリトスル證據ト爲スニ足ラス

本訴官有地民有地境界査定處分ノ當否ヲ決スルニハ本件係爭地ノ形狀ハ乙第二號證ノ原圖村役場保存ノ圖面ニ符合スルヤ否ヲ識別スルヲ要ス依テ被告提出ノ乙第一號證堂字境内外區分帳付隨ノ圖面ヲ檢閲スルニ該圖ハ被告ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得テ確定シタル圖面ニシテ原告ニ於テモ其成立ヲ認ムルモノナレハ之ニ對シ誤謬ノ點アリトノ反證ヲ得サル限リハ正確ナル圖面ナリト認定セサルヲ得ス而シテ乙第二號證村役場保存ノ原圖ト乙第四號證第一圖ナル被告ノ境界調査實測圖ノ中其孰レカ乙第一號證圖面ニ符合スルヤヲ見ルニ乙第二號證原圖ニ黒線ヲ以テ示シタル係爭地ノ境界線ハ北部道路ノ曲折シタル所ヨリ南部ヘ見通シ一直線ナリトス然ルニ乙第一號證圖面ニ就キ其境界線ニ該當スル所ノ境界線ヲ見ルニ直線ニ非スシテ東部ニ曲折シタル曲線ナル「ヲ知ルヲ得ヘシ又乙第四號證第一圖ノ被告主張ノ境界線ヲ見ルニ乙第一號證圖面ノ如ク其境界線ハ直線ニ非スシテ東部ニ曲折シタル曲線ナリ是レニ由テ之レヲ觀レハ乙第四號證第一圖ハ乙第一號證圖面ニ符合スルモノニシテ本件係爭地ノ境界ハ被告主張ノ境界ヲ以テ實地ニ適合スル正確ナルモノト確定セルヲ得ス故ニ乙第二號證原圖ノ直線ノ境界ハ實地ニ適合セスシテ其誤謬ヲ訂正シタル乙第二號證圖ニ朱點ヲ以テ明示セル曲折シタル訂正線ヲ以テ係爭地ノ境界ナリト査定シタルハ不當ノ處分ナリト云フヲ得ス然ルニ原告ハ甲第二號證乃至甲第五號證等ヲ以テ被告ノ査定處分ヲ不當ナリトシ甲第二號證圖ニ示セルイ印ヨリロ印ヲ經テハ印ニ達スル朱點ノ線ヲ以テ正當ナル境界線ナリト云フト雖モ甲第二號證圖ハ高知地方裁判所豫審判事カ實地臨檢ノ際調製シタルモノニシテ該圖面ハ單ニ實地ノ現狀及ヒ其際立會

ハシメタル證人和田忠作等ノ供述ニ係ル境界線ヲ明示シタルモノニ過キスシテ原告ノ主張スル境界ヲ以テ正確ナリトスルノ證據トナスニ足ラス甲第三號證及ヒ甲第四號證ハ原被告雙方主張ノ境界線ニ大差ナシトノ證據トナスヲ得ヘキモ之レヲ以テ境界査定ノ當不當ヲ證スルノ價値ナキモノトス又甲第五號證天正年度ノ檢地帳ニ依レハ地藏堂數地ノ畝歩ニ多少ノ相違アルコトヲ發見シタリトノ證トナスヲ得ルモ之レヲ以テ所爭ノ境界ノ正否ヲ判定スルノ證據ノ效力ナキモノトス

(55) ㊂ 土地官民有區分ニ關スル不當處分取消請求ノ訴

二十八年第百五號
二十九年二月十日宣告　（茨城縣管谷勞兵衛對全縣知事江木千之）

判旨○字ヲ復舊セハ民有ト爲ルヘキコトヲ豫期シ官林ノ引渡ヲ請求スルモ事實土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スルモノハ法律第百六號第五ノ範圍ニ屬ス（法律百六號第五）

（第一門第一(157)判決理由參看）

(56) ㊂ 土地官民有區分査定ニ關スル不法處分取消ノ訴

二十八年第七十三號
二十九年三月十七日宣告　（宮崎縣平民日高誠三對全縣知事千田貞曉）

判旨○地押調査圖中論地ノ記入ニ錯誤アルトキハ之ヲ以テ官民有區分判定ノ憑據トスルヲ得ス

○地形ノミヲ以テ官民有地ヲ區分スルノ證據トスルヲ得ス

○隱田切開處分規則違背ノ處分ニ關スル書類ハ官民有地ヲ區分スルノ證據トスルニ足ラス

本件所爭ノ要點ハ字御堂川七千二百六十四番イ號ノ乙ナル地所カ原告ノ所有地タル七千二百六十四番イ號ニ屬スルヤ將タ五千猛神社七千二百六十番境内ノ一部ナルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ明治二十一年地押調査ノ際調製シタル村役場備付ノ繪圖中ニ七千二百六十四番イ號ノ外同番同號ノ乙ナルモノアルハ元來兩者トモ同一筆ノ地所ナリシモ其乙ナル地所ハ原告ノ先代所有者中之ヲ村内狂言場ニ貸與ヘタル爲メ多年耕耘ヲ施スヲ得ス隨テ自然芝地トナリ他ノ地所ト地種ヲ異ニシタルヲ以テ地押調査ノ際特ニ乙ナル名稱ヲ付シタルニ起因スト云フト雖明治十二年地租改正圖中ニハ七千二百六十四番ノ地所アルノミニシテ原告ノ稱スルイ號ノ乙ニ相當スル箇所ハ五十猛神社ノ境内ニ包含シ居レリ又明治十四年六月中鹿兒島縣ヨリ内務卿ニ進達シタル神社地實測圖ニ依ルモ右ノ箇所ハ神社境内ノ一部ヲ爲シ居レリ而シテ地押調査圖ニハ境内ノ一部ヘ七千二百六十四番イ號ノ乙ナル文字及區畫線ノ記入シアルハ事實ナルモ其地所ハ地租臺帳及野帳ニ記入ナキノミナラス元來イ號ト同一筆ノ地所ナリシコト其他原告ノ所有地タルコトヲ證明スルモノアリサレハ單ニ地押調査圖ニ記入アル事實ノミヲ以テ係爭地カ原告ノ所有ニ屬スルモノト謂フヲ得ス加之被告提出第四號證及富高村々長寺原吉左衛門ノ延岡區裁判所ニ於ケル證言ニ依レハ該地ハ地押調査ノ際地押總代ニ於テ村中ノ共有地ト誤認シ右ノ記入ヲ爲シタルモ其後官有地ナルコト判然セルヲ以テ記入取消ノ手續ヲ爲スヘキニ之ヲ怠リ其儘ニ爲シ置キタルコトヲ覩ルニ足ルヘシ果シテ然ラハ該記入ノ地押調査ノ錯誤ニ出テタルモノニシテ其根據ナキコトヲ知ルヘク隱田ヲ係爭地ノ神社境内ノ一部ナリト認メサルヘカラス然ルニ原告ハ第一該記入ノ原告所有地ノ番號ト符合スルコトヲ主張シ第二地押調査圖ハ官民有區分ノ査定ニ關シ唯一ノ證據ナルコトヲ主張スルモ其圖中ノ記入カ錯誤ニ出テタルコト前述ノ如クナル以上ハ之ヲ以テ本件判定ノ證據トスルヲ得ス第三原告ニ於テ係爭地ハ地形ヨリ之ヲ觀ルモ民有地ニ屬スヘキモノナリト云フモ地形ノミヲ以テ官民有ヲ區分スルノ證據トスルヲ得ス又原告ハ官有地タル神山ハ狂言場及其他ノ地所ト共ニ一圓先代ノ所有ニ屬シタリト云フモ之ニ付何等ノ證據ヲ提出セス第四第五ノ主張ハ隱田切開處分規則ノ違背處分ニ關スル書類ニ基クモノニシテ本件官民有ヲ區分スルノ證據トスルニ足ラス第六原告ハ本件係爭地ノ原告ノ先代黑澤早治ナルモノヨリ古來舞臺敷地ニ貸與シタルコトヲ主張シ第九號證ヲ提出スルモ該證書ハ明治二十七年ニ至リ同人ヨリ差出シタルモノニシテ從來貸與シタルノ證據トスルニ足ラス況ンヤ黑澤早治ハ延岡區裁判所ニ於テ該證ヲ原告ニ與ヘタルコトナキ旨ヲ證言スルニ於テヤ以上原告ノ主張ハ一モ採用スヘキモノナキヲ以テ被告カ原告ノ誤謬地編入願ニ對シ下シタル明治二十八年七月十三日付却下ノ指令及同日付富高村役場ニ宛タル第三八一號達ノ取消スヘキモノニアラス

(57) ㊂ 不當處分取消ノ訴

二十九年第二十號
全年四月八日裁決　（茨城縣海老原兵助對全縣知事江木千之）

判旨○賦課ノ取消ヲ以テ民有地ヲ官有地ト査定シタルモノト謂フヲ得ス

（第一門第一(162)判決理由參看）

(58) ㊂ 官民有地境界査定不當處分取消ノ訴ニ關スル妨訴抗辯

二十九年第十一號
全年五月二十八日宣告　（大阪府平民井守芳雄外五名對全府知事内海忠勝）

判旨○査定處分ヲ爲ス權限ナキ官林境界査定委員ヲ對手トシテ行政訴訟ヲ提起シタルハ不當ナリ（大小林區署官制第一條第三）

（第一門第三(27)判決理由參看）

(59) ㊂ 山林組替歎願ニ對スル不當處分取消請求ノ訴

二十九年第十一號
全年五月二十八日宣告　（大阪府平民井守芳雄外五名對全府知事内海忠勝）

判旨○舊庄屋ノ私宅ニ藏スルモノヨリ寫取リタリト稱スル書類ニシテ其原書存在セサルニ於テハ證據ノ效力ナシ

被告ハ本訴係爭地ハ從前所屬確定セサリシ爲メ乙第一號證ノ如ク明治十六年九月中始メテ和田村ノ地籍ニ編入シタルカ故ニ其所屬未定前ニ在テ和田村ノ地租ト混同シテ皆濟免狀下渡スヘキ筈ナク又乙第二號證檢地奥メ帳ニ據レハ原告カ立證甲第三號乃至第五號ノ年貢中ニハ宮村山ノ年貢ハ包含セサリシヲ確認スルニ足レリト云フト雖乙第一號證達ノ如キハ其以前ニ遡及シテ何等ノ效力ヲモ有セサルモノナレハ是ヲ以テ所屬ヲ證明

スルニ足ラサルナリ且乙第二號證檢地奥メ帳ハ藤庄屋某カ私宅ニ藏スル書類中ヨリ竊取リタルモノト云フニ過キス殊ニ其原書ナルモノ紛失シテ其成立ヲ確認スルニ由ナケレハ被告カ主張スル證據ノ效力ナキモノトス而シテ原告カ立證甲第一號乃至第五號ハ被告ニ於テ其成立ヲ認ムルノミナラス其第一號及第二號ニ依レハ係爭地ハ寶永以降荒山社ノ宮ニ屬シ有租地タリシモノト云ハサルヲ得ス又甲第三號乃至第五號證ニ據レハ弘化四年以來明治七年ニ至ル迄山年貢トシテ米一石七斗二合ヲ原告和田村ヨリ納メタルヲ見ルヘク而シテ此山年貢ノ高ハ甲第一號及第二號中ノ宮付山ニ對スル年貢ト奥山外四箇所及七上ノ山中小松山ニ對スル年貢トノ合計ニ符合スルヲ以テ其七升二合二勺ハ係爭地ニ對スル公租タルヲ認ムルニ足レリ是ニ由テ之ヲ觀レハ本訴係爭地ハ從前荒山社ノ社有ニ屬シ民有地ナリシモ明治八年地租改正ノ際誤テ官有ニ編入シタルモノトス

(60) ◉官民有地經界確定ノ訴

二十八年第九十七號
二十九年七月三日宣告（佐賀縣平民落合定七外八十八名ヲ縣知事田邊輝實）

判旨○隨時作成シ得ヘキ證書ハ證據ノ效力ナシ

○縣廳ノ保存ニ係ル地籍圖ニ官有地ノ所在ヲ表示スルモノナルモ之ヲ以テ官民有地境界ノ證據トスルヲ得ス

本件所爭ノ要點ハ字白岩三千二百八十九番ノ內イ號官有地ト口號原告共有地トノ經界ハ明治十九年地押調查ノ際調製シタル繪圖ノ界線ニ基ク峰筋ナルヤ又ハ明治十八年監督官臨場ノ上建設シタル石塚ノ存在スル峰筋ナルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ該圖口號ノ內ニ落地アリテ後民有宅地トナリタルヲ以テ口號ノ地ハ悉ク民有地ナルカ如ク論スレトモ其宅地ハ何レノ場所ニ該當スルヤヲ證明セサルノミナラス臨檢ノ際落地云々ト申立タル場所ハ原告主張線ノ外ニ在リテ本件係爭地ト關係ヲ有セス甲第九號證ハ田代謙太郎外二名ノ證言ナリトスルモ此種ノ證書ハ隨時作成シ得ヘキモノナレハ證據ノ效力ナシ甲第十號證ハ長崎縣ヨリ佐賀縣ニ引繼キタル地籍圖ニシテ官有地ノ所在ヲ表示スルモノナレトモ之ヲ以テ官民有地境界ノ證據トスルヲ得サルモノトス

(61) ◉山林地官民有區分ニ關スル不當處分取消ノ訴

二十九年第五十一號
全年十月二十一日宣告（茨城縣平民原龍次郎對東京大林區署長松野礪）

原告ノ主張ハ原告所有地大字小貫二百九十二番イロ合併ノ山林ト同字二百九十四番官有地トノ境界ハ松竝木ノ北側ニ在ル竹垣ナルニ被告ニ於テ其竹垣內ニ土塚ヲ築キタルハ不當ナリトスフニ在レトモ乙第七號證小貫三郎ノ證明書ニ依レハ同人所有地ト官有地トノ間ニ存在スル土塚ハ其兩地ノ境塚ナルヲ認ムルニ足リ而シテ乙第一號證實測圖ニ依レハ被告ノ築キタル土塚ハ右境塚ノ線ヲ逆ヒ之ヲ竝置シタル者ニシテ原告所有地內ニ築キタルモノニ非スト認ムレハ本件被告ノ處分ヲ不當ナリト謂フヲ得ス

(62) ◉土地ノ官民有區分查定ニ關スル訴

二十九年第九十四號
全年十一月五日裁決（岐阜縣吉城郡坂上村大字丸山管理者仝縣仝郡坂上村外一ケ村組合長戶田勝之助對農商務大臣子爵榎本武揚）

判旨○官民有區分ノ查定處分ニ對スル行政訴訟ハ職權ヲ以テ其處分ヲ爲シタル大林區署長ヲ對手トセス直ニ農商務大臣ヲ相手取ルハ其手續ヲ誤ルモノトス

（第一門第三(29)判決理由參看）

(63) ◉不當指令取消請求ノ訴

三十年第十七號
全年四月一日裁決（神奈川縣平民鈴木孫兵衛對仝縣知事中野健明）

判旨○拂下ノ土地ニ就キ拂下人ヨリ第三者ニ與ヘタル縣知事ノ指令ヲ取消サンコトヲ請求スル事件ニ對シ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(192)判決理由參看）

(64) ◉官地民有ニ引戻不當處分取消請求ノ訴

二十九年第七十九號
三十年五月二十四日宣告（靜岡縣平民伊藤定藏外七十六名對仝縣知事男爵千家尊福）

判旨○高外ニ屬スル雜稅ハ地租ニアラス

（本件判決理由ハ(8)ト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

(65) ◉土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル訴

二十九年第百七號
三十年六月二十八日宣告
（岐阜縣吉城郡坂上村大字種蔵管理者仝村外一ケ村組合長戸田勝之助對長野大林區署長林務官伊藤重介）

判旨○地押調査ハ官民有地ノ境界ヲ定ムルコトヲ趣旨トシタルモノニ非ス

○開墾屆ヲ差出シタル土地カ論地ノ範圍内ニ在ルト否トヲ問ハス之ヲ以テ原告主張ノ境界線ノ確實ナルコトヲ證スルニ足ラス

原告ハ被告ニ於テ本件官民有山林ノ境界ヲ査定スルニハ地租改正ノ際調製ニ係ル乙第三號證地引圖ハ誤アルカ故ニ明治二十年大藏大臣ヘ伺ヒ其指令ヲ得テ新ニ調製シタル甲第一號證地押調査圖ヲ根據トシ境界ヲ決定シタルハ不當ナリト云フト雖地押調査ノ趣旨ヲ主トシテ官民有土地ノ境界ヲ定ムルニ非サルヲ以テ他ニ有力ノ證據ナキ限リハ單ニ地押調査圖ノミヲ以テ境界上ノ根據ト爲スヲ得ス隨テ甲第一號證圖ヲ以テ乙第三號證圖ノ境界上ノ誤謬ヲ訂正シタルモノト爲スヲ得ス又原告ハ甲第二號證及甲第三號證ヲ以テ明治二十四年十月中既ニ境界ノ定マリタルモノナリト云フト雖該證ハ原告主張ノ事實ヲ說明スルニ足ラス反テ乙第六號證乃至乙第八號證等ノ反證ニ徵スレハ該證ハ官林内ノ立木取調ニ關スルモノト認定セサルヲ得ス又原告ハ甲第四號證ヲ以テ係爭地ヲ占有シタル事實ヲ證スト云フト雖該證開墾屆ナルモノハ字西谷山林ノ何レノ部分ヲ指示シタルモノナルヤ判然セサルノミナラス仮令係爭地ノ範圍内ニ在ルモノトスルモ開墾屆ヲ差出シタルノ故ヲ以テ原告主張ノ境界線ノ確實ナルコトヲ證スルニ足ラス又原告ハ三井某ノ出願ニ對スル指令ヲ援用シテ申立ツルトコロアルモ該指令ハ字屋敷ケ洞官林内ノ立木拂下ヲ許可シタルモノニ止マリ本件係爭ノ境界上ニ付テハ何等ノ關係ナキモノトス之ヲ要スルニ原告提出甲號證ハ總テ原告主張ノ境界線ヲ確實ナリトスルノ證據ト爲スニ足ラサルモノトス而シテ被告提出乙第一號證山林給圖乙第三號證改租地引圖乙第四號證天保年間ノ給圖等ニ徵スレハ字屋敷ケ洞官林ト字西谷民林トノ境界ハ大字丸山境ヨリ下レル尾筋ナルコト地形上各圖何レモ符合スルノミナラス乙第二號證官林取調書上帳ナルモノニ記載シアル境界名稱モ亦前記乙號各圖ニ符合スルヲ以テ見レハ被告カ乙號證ニ基キ爲シタル本件境界査定處分ハ失當ノ處分ナリト言フヲ得ス

(66) ◉土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル訴

二十九年第百十三號
三十年七月二日宣告
（岐阜縣吉城郡坂下村大字洞管理者同縣同郡坂上村外一ケ村組合長戸田勝之助對長野大林區署長伊藤重介）

原告ニ於テ被告ハ明治八九年ノ交地租改正ノ際誤テ天保度ノ給圖ニ基キ調製シタル乙第一號證山林乙給圖第二號證官林取調書上帳乙第三號證地引給圖ニ依リ論爭スレトモ該證ハ根底ヨリ實地ニ相違シ明治二十二年調製ノ給圖ハ正確ナルモノナレハ之ニ依リ境界ヲ定ムヘキハ當然ナリト云フト雖モ明治二十二年調製ノ給圖甲第一號證ノ第一第二第三ハ土地臺帳ヲ調製スルニ際シ實地ト地券面トヲ符合セシメ專ラ一般民有地ノ實況ヲ明確ナラシメンコトヲ目的トシタルコト甲第二號證末尾伺ノ趣開墾地目變換其他異動アル地ヲ除キ町村總地價ニ增減ヲ生セサルモノハ申出ノ通取計不苦旨大藏大臣ノ指令ニ依ルモ明カニシテ官民有地ノ境界ヲ決定スルヲ主意トシタルモノニアラス故ニ該境界ニ就テハ單ニ明治二十二年調製ノ給圖面ノミヲ以テ正確ナルモノナリト謂フヲ得ス而シテ乙第一號證洞山林給圖乙第三號證洞組地引圖ノ假令天保年度ノ舊圖ニ基キ或ハ實地ノ形狀ニ適セサル所アリトスルモ地租改正當時ノ戸長副戸長及總代カ調製連署シテ官簿ニ供シタルモノニ係リ甲第一號證ノ第四及原告提出ノ參考圖ニ符合スルノミナラス乙第二號證ハ乙第一號證ノ四方境界ヲ擧示シタルモノナレハ該各證ヲ以テ本件係爭地境界ノ所在即チ字シヤ洞トノ境界ハ種蔵山峰境ヨリ字下巻ニ下ル尾上ナルヲ認ムルニ足レリ依テ被告カ官民有地境界査定ノ爲メ設立シタル標木ハ民有地ヲ侵害シタルモノニアラサルヲ以テ撤去セシムヘキモノニアラス

(67) ◉土地ノ官民有區分ニ起因スル不當處分取消請求ノ訴

三十年第六十六號
仝年十月八日裁決（神奈川縣平民鈴木孫兵衛對仝縣知事中野健明）

判旨○土地官民有區分ニ關スル伺書ニ知事ヲシテ指令ヲ爲サシメントスル請求ハ法律第百六號第五ニ該當セス（法律第百六號第五）
（第一門第一(206)判決理由參看）

(68) ◉山林境界決定取消ノ訴

三十年第八十一號
仝年十一月六日宣告
（岐阜縣吉城郡船津町大字西俊住區管理者船津町長笠井圓藏對長野大林區署長齋藤祥三郎）

判旨○行政訴訟ノ妨訴抗辯ハ必シモ民事訴訟法ニ於ケルト同一ナルヲ要セス

○所管區域變更ノ爲メ係爭地カ甲署ヨリ乙署ニ移屬シタルトキハ乙署長ヲ訴ノ對手トスルヲ要ス
（第一門第三(34)判決理由參看）

(69) ◉山林境界決定取消ノ訴

三十年第八十一號
仝年十一月六日裁決
（岐阜縣吉城郡船津町大字西俊住區管理者船津町長笠井圓藏對長野大林區署長伊藤重介）

判旨○裁判所カ訴狀中被告氏名訂正ノ申請ヲ許可セストノ決定ヲ與ヘタルトキ該決定ニ對スル故障ノ申立ハ裁判法第四十條ニ所謂審問手續ニ關スル故障中ニ包含セス（行政裁判法第四十條）
（第一門第五(9)判決理由參看）

(70) ◉官民有山林原野經界查定不服ノ訴

二十九年第八十三號
三十年十二月二十七日宣告
（長野縣東筑摩郡岡田村長所道三郎對長野大林區署長齋藤祥三郎）

本件所爭ノ要點ハ字宿澤東山並獨澤南山官林ト原告村有地トノ經界ハ甲第四號證ノ溝口線ニ基キ字三ツ石ヨリ一直線ニ羽生峠ニ至ル線ナルヤ又ハ長野大林區署ノ查定線ニ據ルヘキヤニ在リ而シテ被告ハ甲第四號證ハ其當時苗田澤村地内ニ於ケル入會各村カ秣下草等ノ採收區域ヲ爭フタル際調製シタルモノニシテ即チ甲三號證ハ各村主張ノ區域ヲ表示シ甲四號

證ハ其採收區域ニ對シテ各自妥協ノ上取替セタル文書ニシテ經界ヲ定メタルモノニアラスト謂フト雖甲四號證第二項ノ文意ヲ案スルニ苗田澤村地内ニ於ケル入會各村ニ關係スル決定ニアラスシテ專ラ原告岡田村ト苗田澤村及苅谷原町村トノ經界ヲ決定シタルモノト認ムルニ足レリ而シテ被告ハ甲四號證第二項ニ所謂字三ツ石ヨリ羽生峰本番二百三十番杭ヘ見通ストアルモ地形上實際見通スコトヲ得スト謂フト雖該證ニ所謂見通ストアルハ直線ニ羽生峰ニ至ルノ意ニシテ必スシモ一目羽生峰ヲ見通スノ意ニアラサルモノト認ム又被告ハ其査定線ニハ甲四號證ニ所謂掘割ナルモノ存シ居ルト謂フモ實地ニ就キ之ヲ檢スルニ被告カ査定線ナル乙第一號證石標第四十六番ヨリ同四十三番ニ至ル地上ニ於テ僅カニ凹處アルヲ認ムルモ果シテ人爲ノ掘割ナリト確認シ難ク殊ニ其前後ニ於テ更ニ之ニ對照スヘキ掘割樣ノモノナキヲ以テ之ヲ視ルモ甲四號證ニ所謂掘割ナラサルヲ推定スルニ足レリ之ヲ要スルニ本件係爭地中字三ツ石ヨリ羽生峰ニ至ル官民有ノ經界ハ字三ツ石(乙第一號證石標第百五十番)ヨリ直線ニ羽生峰頂上(乙第一號證石標第百三十八番)ニ至ルモノヲ以テ甲四號證ノ濟口線ニ該當スルモノト認定セサルヲ得ス而シテ原告ハ甲四號證ニ據リテ羽生峰(乙一號證石標第百三十八番)ヨリ同尾根通リ二百八十三間本番二百二十一番杭迄ニ至リ夫レヨリ東方ヘ一直線ニ獅子ケ鼻□以印八番杭ニ逸スル經界ニ付爭フ所アルモ其□以印以東ニ就テハ一ツモ證跡ノ存スルモノ之レナク要スルニ原告ノ申立ハ無證ノ主張ニ過キサルヲ以テ其事實ヲ認ムルヲ得サルモノトス

(71) ◎脫落地編入請求ノ訴

三十年第六十四號
三十一年一月十三日宣告
（新潟縣平民佐藤森内對全縣知事勝間田稔）

(72) ◎土地不當査定處分取消ノ訴（第一門第二(35)妨訴抗辯ノ本案）

二十九年第四十一號
三十一年二月三日宣告
（千葉縣君津郡松丘村岩田寺住職古關寶龍外三名對全縣知事安藤謙介）

被告ニ於テ苗前橋藩領内ノ民有山林ハ租稅ヲ賦課シタル例規ナレハ納稅ノ證據ナキ以上ハ本件係爭地ハ除地ナリ又原告ノ提出シタル各證ハ或ハ岩田寺ノ寺領タリシヲ證スルニ足ランモ新補益山カ私有地タリシコトヲ確ムルニ足ル效力ナシ或ハ處分ノ當時原告ヨリ提出セサリシモノナレハ否認スト謂フト雖モ該地境界標示ノ樹木幷十數座ノ土壇及樹木併列ノ現況ニ由レハ栽培其他勞設ヲ重ヲ林相ヲ容クリタルハ疑フヘキニアラス而シテ苗前橋藩ニ於テ民有山林ニ租稅ヲ課セサルモノアリシコト及其課セサリシ因由アリシコトハ原告甲第十五號證甲第十六號證ノ二及六甲第十號證ヲ以テ頗推スルニ足レリ然レハ則甲第二號證ハ山地ヲ乞ヒ了シタル後ヲ後來ニ對シ之ニ成長スル所ノ樹木ノ使用又ハ保證ノ方法ヲ規定シタルモノニシテ第一號證モ亦之ニ隨伴シタル事實アリシコトヲ見ルニ足ルモノトス故ニ本件係爭地ハ租稅ヲ賦課セサル民有山林ニシテ原告岩田寺ノ所有ナリト認定ス

(73) ◎民有地回復ノ訴

二十九年第百二十五號
三十一年三月三日宣告
（新潟縣平民飛田野喜太郎外九十六名對全縣知事勝間田稔）

判旨○論地ノ民有タル證據確實ナルニ於テハ單ニ古來納租ノ有無ヲ以テ官民有ヲ決スヘキモノニ非ス

○行政訴訟ハ行政處分ノ實體ニ就キ其當否ヲ判斷スルモノナレハ其當時行政廳ニ提出セサル證據ヲ提出シテ裁斷ヲ仰クモ妨ナシ

原告ニ於テハ本件係爭地ハ元ト原告ノ共同稼業場ニシテ雜木下草ヲ伐採シ或ハ薪炭ト爲シ或ハ田畠ノ肥料ト爲ス等一村ノ人民之ニ由リテ生業ヲ立テ往古ヨリ自由ニ進退シ來リタル共有地ナリト主張シ被告ニ於テハ原告ハ本件係爭地ノ所有權アルコトヲ否認セリ按スルニ本件係爭地ハ綱木全村ニ跨リ雜數極メテ多キモ臨檢ノ結果ニ依リ其大體ヲ觀察スルニ官有地ハ點々各所ニ散在シテ民有地ト彼是交錯シ位置混雜形狀頗ル異樣ヲ呈スル等ヲ以テ觀ルトキハ此地一帶官有地ナリシカ將タ民有地タリシヤニ歸セサル可カラス今先ツ原告ノ擧證スル所ニ從ヒ順次說明ヲ下サンニ原告ハ甲第一二號證ヲ以テ元文年中隣接五十澤村ト境界爭論アリシコトヲ證シ現今馬ノ髮立、箕ノ輪峠、三方分並ニ背氷、城ケ澤中又等一帶ノ地ハ原告ノ共有地ナル旨ヲ主張セリ彼テ同證ヲ檢スルニ右論地ハ一旦上ヘ取上ケ後兩村持分ノ割合ヲ定メ再ヒ之ヲ村方ヘ下付セシモノニテ五十澤村證人阿部英太郎ハ右論地ハ五十澤村ニテ其持分ヲ自由ニ進退セシ如ク綱木村ニテモ其部分ヲ自由ニ進退シタルモノニテ五十澤村ノ下付セラレタル部分ハ現今大谷ト稱シ民有地ナル旨ヲ陳述シ甲第十九號證三川村長ノ證明書ニ依ルモ綱木ニ接續セル五十澤ノ部分ハ民有ナルコト明白ニシテ同一論爭地ニシテ綱木ノミ獨リ官有タル可キ特種ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ爲ノ疑立以下一帶ノ地ハ甲第二號證ノ如ク綱木村ノ持分トシテ下付セラレ爾後自由ニ進退シ來リタルモノト認定ス

又原告ハ甲第三號證ヲ以テ地崩澤、杣木澤、大松澤、繁松澤、傳ケ澤、二本杉、才六澤、小三郎澤等一帶ノ地ハ隣接赤谷村ト承應年中境界爭論ヲ爲セシコトヲ證シ右論地ハ原告ノ共有ナルコトヲ主張セリ赤谷村證人井上惣九郎片野辰太郎ハ論地一帶ニ接續セル赤谷村ノ部分ハ現時棚橋、蒲原澤、牛道澤、大道東、大澤、傳ケ澤、瀧ノ澤、孫右衛門澤ト云ヒ民有地ナリト陳述シ甲第十四號證赤谷村長ノ證明書ニ依ルモ該證書ハ信憑ヲ置クニ足レリ又實地臨檢ノ際前現論所ニ於ケル官有地ノ中ニハ元ト數十枚ノ山田タリシ形跡ヲ止ムルモノ數ケ所ニ認メタリ殊ニ源内ニ於テハ官有ノ茅生地中同一茅生地ニシテ外見識別ス可ラサル掌大ノ民有地アリ川入ニ於テハ數十年來手入レシタル桑畑ニシテ一半ハ官有地トナリ一半ハ民有地トナルモノアリ又繁松澤ニ於テハ人家ノ傍現ニ桑畑トナリ桐柿等ヲ植込ミ數十年來耕作シタルモノト認ム可キ地所ニシテ現ニ官有トナレルモノアリ是等實地ノ形狀ト甲第三號證及證人ノ陳述ニ依リ推考スルトキハ此地一帶原告ノ共有タリシモノト認定ス又甲第四號證ヲ以テ元治元年中一本栗ニ於テ村民ト二瓶百太郎トノ間ニ共有私有ノ境界論アリシコトヲ證シ論地ハ原告ノ共有ナリト主張セリ而シテ當時仲裁ノ結果村中持ニ歸シタル一帶ノ地所中荒田澤ノ如キハ現ニ民有トナレルモノニテ他ノ部分カ屬リ官有タル可キ原由存スルヲ見サレハ是亦甲第四號證ノ如ク村民共有ノ地所ト看ルヲ相當トス又原告ハ甲第七號證乃至甲第十號證甲第十七八號證ヲ以テ大ザクレ山、三ノ原山夏伏、下内手、下内澤、喜兵衛田ノ澤、川入、五郎右衛門畑ノ澤、火野林、千鳥澤、背氷、扇平、松根澤、ワサビ澤等ニ於テ

綱木村民カ樹木ヲ賣買シ或ハ鑛山採掘ニ關シ故障ヲ述ヘ若クハ鑛業人ト契約ヲ取結ヒ或ハ他村人民ニ於テ山林ヲ荒ラシタルニ因リ詫書ヲ差入レシメタル等凡テ自由ニ進退シ來リタル事跡ヲ證シ且ツ證據書類ノ全體并ニ實地臨檢ノ結果ヲ引キ前現瞎字地ハ勿論本件係爭地全部ノ原告共有タルコトヲ主張セリ實地ノ形狀ハ前ニ數々說明スル所ナルモ尙之ニ滿レタルモノニシテ最モ較著ナル場所ヲ擧クレハ岩野、地張澤、吉ケ澤附近ニテハ耕地ト其三方ヲ圍繞スル民有山林トノ接際ニ於テ民林ノ溜ニ沿ヒ幅五六間許ナル細長キ一帶ノ官有地ニハ樹痕點々存在シ耕地ヲ掩蔽セシ民林ノ一部ヲ伐採セシモノト認ムルニ足ル可キモノアリ吉ケ澤、藤右衞門澤、大野ノ官有地中ニハ數歩ノ平地畦畔ヲ隔テテ層々階段ヲ爲シ一體ノ山田タリシ痕跡ヲ止ムルモノアリ平三郎外二ケ所ノ官有地ニ於テハ人工ヲ加ヘタルモノト認ム可キ數十年ヲ經過セシ栗林アリ又杉ニ於テハ百數十年ヲ經タリト認ム可キ杉林ノ一旦伐採セシ根株ヨリ蘖ヲ生シ數十年ヲ經テ再ヒ杉林トナルモノアリ民有地ハ多ク杉林トナレルモノナレトモ檜其他雜木生ノモノハ接續ノ官有地ト山相ヲ異ニスル所アラサルハ到ル所皆然ラサルハナシ是等實地ノ形狀及全體配置ノ模樣ヲ以テ前現甲第一號證以下ノ書類ヲ參考シ五十澤村赤谷村證人等ノ陳述ニ依リ同シク薪倉津藩ノ領分タリシ際村ニ於ケル官有地ノ情況ニ徵スレハ作坂、大道上、大道下其他數ケ所ニ於ケル官有地ノ如キ特別ノ由緒アルモノハ格別本件原告ノ請求スル山野ハ凡テ民有ニシテ原告等ハ往古ヨリ自由ニ進退シ來リタル證據アルモノト認定ス

然ルニ被告ニ於テハ原告ニ所有權アルコトヲ否認スレトモ其主張スル所ハ甲第一號證以下ノ書類ハ原告ニ地盤ノ所有權アリシ證據ト爲スニ足ラス又本件係爭地ニ關シテハ古來租稅ヲ納メタル證據ナシト云フニ在リテ甲第十一號證山役ナルモノハ正租ニアラスト答辯スレトモ以上說明ノ如タ本件係爭地ノ原告共有タル證據十分ナルニ於テハ單ニ租稅ノ有無ヲ以テ官民有ヲ決ス可キモノニアラサルカ故ニ山役ノ正租タルヤ否ヤヲ說明スルノ必要ナシ又甲第四號證八號證十號證等ノ如キハ行政處分ノ際提出セサルモノニ係ルテ以テ答辯ノ責務ナシト云ヘトモ行政訴訟ハ處分ノ實體ニ付キ當否ヲ裁斷スルモノナレハ行政廳ニ提出セサル證據ヲ提出シテ判斷ヲ仰クモ妨ケサル所トス

(74)◉不法處分取消山林下戻請求ノ訴

三十年第四十二號（福岡縣士族立花親義對）
三十一年三月八日宣告（福岡縣知事男爵岩村高俊）

第一被告ノ原告提出ノ證據ハ眞正ノモノト認メ難ク隨テ係爭地ノ拜領地タル事實ヲ認ムルヲ得ス又假ニ之ヲ眞正ノモノト爲スモ原告カ舊柳川藩主ヨリ拜領シタリト稱スル溜地山ナルモノハ果シテ本訴請求ノ百三十餘町歩ノ山林ナルヤ明ラカナラスト云フト雖甲第二號證寶曆八年ノ藩廳ノ返證文甲三號證安政六年ノ御山帳甲六號證舊柳川藩ノ寺社持山絵帳甲七號證原告家ノ系圖甲八號證辭令ハ眞正ノモノト認ムヘク而テ此證據ニ依レハ係爭地ハ原告ノ祖先立花勝兵衞ノ拜領地ナルヲ認ムルニ足ル

（第一門第一(225)第三(38)判決理由ノ一部）

(75)◉拜領地查定不服ノ訴

三十年第三十九號
三十一年四月七日宣告（福岡縣士族十時信對仝縣知事男爵岩村高俊）

原告ハ本件係爭地ハ我祖先ニ於テ舊柳河藩主立花某ヨリ拜領シタルモノナリト爲シ甲第一號證乃至甲第三十三號證ヲ提出スト雖其主要ナルモノハ悉ク吉弘儀左衞門ナル者ノ私書ニ屬スルノミナラス其證據ニ於テモ年序ヲ轉倒シ或ハ列次ノ位置ヲ紊リ後年ノ挿入ニ係ルモノアリ又ハ一片ノ殘紙ニシテ其成立及性質ヲ識ルニ由ナク要スルニ拜領ノ事アリタリトスルモ當時ニ於テ筆記セシモノニアラスシテ後年隨時ノ筆記ニ爲リタルモノト認メサルヲ得ス故ニ該舉證ハ原告カ該係爭地ヲ所有シテ藤藩盜賊ニ至ルマテ繼續シテ其權利アリシコトヲ認ムルニ足ルモノナシトス

(76)◉指令取消ノ訴

三十年第九十六號
三十一年七月九日宣告（宮崎縣平民河野松助外百六十五名對仝縣知事樺山資雄）

判旨○山林原野等ニシテ古來人民ニ於テ其所有ノ如ク自由ニ處分シ來リタルモノハ之ヲ民有地ニ編入スルヲ當然トス

（本件判決理由ハ(47)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(77)◉不當返地處分取消請求ノ訴

三十一年第八十七條
仝年十月十二日裁決（北海道檜山支廳長官杉田定一）

判旨○國有未開地處分法ニ基ク北海道廳長官ノ返地處分ニ對スル行政訴訟モ亦行政裁判法第二十二條ニ依リ六十日ノ期限內ニ提起スルヲ要ス（北海道國有未開地處分法第十條第十九條行政裁判法第二十二條）

○行政裁判法第十七條ニ依リ訴願ヲ經スシテ直ニ行政訴訟ヲ提起シタル事件ニ關シテハ訴願法第八條第三項ニ所謂宥恕ノ規定ヲ適用セス（行政裁判法第十七條訴願法第八條第三項）

（第一門第二(43)判決理由參看）

(78)◉官民有土地境界ニ關スル訴

三十一年第四十六號
仝年十月十九日宣告（香川縣平民稻井虎三郎對愛媛縣大林區署長林務官宮島多喜郎）

判旨○土地ノ境界ハ單ニ町歩數ノミニ依リテ查定スヘキモノニ非ス

○土地ノ境界ハ必スシモ實地ノ形狀ニ依リテ定ムヘキモノニアラス

原告ハ其自家寺住職橘溪導ヨリ讓受ケタル字古田前貳千七百三十二番地山林ト猪ノ谷官林トノ境界ハ地籍臺帳ニ基キ各其町歩數ニ相當スル第一號證圖面ノ線ニ據リ決定スヘキモノナリト云フト雖モ土地ノ境界ハ單ニ町歩數ノミニ依リテ定メ難ク隨テ實地測量ノ結果縱令原告所有ノ土地ニ町歩ノ不足ヲ生シ而シテ隣接地ニ餘地アレハトテ是ヲ以テ境界線ヲ正スヘキ證據ト爲スニ足ラス又原告ハ高松地方裁判所判事ノ檢證圖ニ依レハ實際天地印二個ノ溪流記載アリ宜シク該檢證圖ニ據リ天印ノ溪流ヲ以テ境界線ヲ定ムヘシト云フト雖境界ハ必スシモ實地ノ形狀ニ依リ定ムヘキモノニアラサレハ該溪流ヲ以テ境界ナリト認ムルヲ得ス其他原告ニ於テ立證スル所アルモ何レモ本件原告ノ主張ヲ確ムルノ證據ト爲スニ足ラス

(79)◉官民有區分查定不當處分取消ノ訴

三十年第九十一號
三十一年十二月二十六日宣告

（新潟縣岩船郡七ケ谷村長高橋彌之助對長野大林區署長林務官野田勇）

本訴ハ原告ノ提出スル甲第二號證被告ノ提出スル乙第二號證即チ「爲取替申決定書之事」ト題スル證書中「字小川山ノ内小字柴倉澤下ノ蜂ヨリ川西水源ムカケ迄小字合拾五澤」又同山ノ内「小字ホノ出澤下ノ蜂ヨリ川東水源大トチ迄小字合拾六澤」トアリテ係爭ノ境界ハ小川官林ノ中央ヲ貫通セル小川ノ西ハ十五澤目其東ハ十六澤目ヲ以テ境界トスヘキコトハ雙方爭ナキ所ナルヲ以テ右十五澤目十六澤目ナル小字柴倉澤水ノ出澤ナルモノハ官林中何レノ場所ニ該當スルヤ判斷スルヲ緊要トス原告ハ小川官林ノ南端即チ水源ヨリ十五澤目十六澤目ハ被告ノ所謂「ジンナイ」澤「カワヘイ」澤ト稱スルモノニ該當シ被告ノ査定線ニ依レハ論地ノ境界ハ小川四方ハ水源ヨリ二十八澤目其東方ハ二十六澤目ニ當リ實地ニ適合セサル旨主張スト雖澤數ヲ算スルニハ甲第二號證乙第二號證ニモ「小字兩村ニテ唱來ノ分」トアルノミナラス總テ蜂マテ通リタル著シキモノヲ云フコトハ雙方ノ明言スル所ナリ而シテ實地ニ就キ山地ノ形狀ヲ檢スルニ水源ヨリ原告ノ主張ニ係ル十五澤目十六澤目ト稱スル地點迄ハ數多ノ小澤或ハ窪ミノ箇所アルヲ認ムルモ蜂マテ貫通セル著シキ澤ハ雙方唱フル西方ノ「ムカケ」「イッホンマツ」「マサミ」ノ三澤及「大トチ」「大マガリ」「大タイラ」「タキ」「カモノスケ」「大タキ」「コウチ」ノ七澤ノ外之レアルヲ認メス而シテ尚ホ原告ノ主張點ヨリ被告査定ノ地點ニ至ルマテ澤數ヲ點檢スルニ此ノ間又多少ノ小澤ヲ認ムルモ被告主張スル澤數ノ外著シキモノアルヲ見ス是ニ由テ之ヲ觀レハ原告主張ノ地點ハ以テ係爭ノ境界ナリト斷定スルヲ得サルモノトス此他原告ハ林相ノ異ナルコト甲第四號證村上稅務署ニ備ヘアル更正地圖ニ依レハ官民有區分線附近ノ小川ハ屈曲シ原告主張ノ境界線ニ於ケル小川ノ屈曲ト符合スルコト被告査定ノ境界線ヨリ大石川マテハ僅ニ拾丁内外ニ過キスシテ長野大林區署ニ備付ノ官林實測圖ニ小川官林ヨリ大石川マテ里程一里半餘ト記載シアルニ添ハサルコト及甲第七號證等ヲ以テ論述スル所アリト雖林相ニ於テハ原告云フ如ク著シキ差異アルヲ見ス屈曲云々ノ點ハ甲第四號證ニ依ルモ悉ク實地ニ適合スルモノト認メ難キノミナラス數多ノ屈曲アリテ果シテ原告ノ主張點ニ該當スルモノト認メ難シ又小川官林ヨリ大石川マテ里程云々ノ點ニ付テハ材木運搬ノ便否ヲ知ルカ爲メ遠近ヲ平均シ凡ソ官林ノ中央ヨリ其概算里程ヲ示シタルモノナル旨被告ノ申立モアレハ果シテ官林ノ北端ヨリ起算シタルモノト認ムルヲ得ス要スルニ此等ハ被告ニ於テ否認スルノミナラス必竟原告ノ主タル論據ノ助證ニ過キスシテ一モ其主張ノ事實ヲ確認スヘキ證據ト爲スニ足ラス即チ原告ノ主張ハ正當ノ理由ナキヲ以テ採用スルノ限ニアラス

(80) ◉北海道國有未開地貸付取消不法處分取消請求ノ訴

三十二年第十一號
全年三月八日裁決（秋田縣平民齋藤周治對北海道廳網走支廳長三ケ尻忠吾）

判旨○北海道國有未開地處分法第十九條ニ第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得トアルハ行政裁判法第十七條第一項ノ所謂特別ノ規定ニ非ス故ニ該地貸付事件ニ就テモ亦北海道廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス（北海道國有未開地處分法第十九條第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得トアルハ行政裁判法第十七條第一項ノ所謂特別ノ規定ニ非ス故ニ該地貸付事件ニ就テモ亦北海道廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス）

(81) ◉山林下戻請求ノ訴

三十一年第百三十五號
三十二年六月十六日宣告（宮城縣高橋禮孝外三名對農商務大臣曾禰荒助）

原告ハ甲第一號證乃至第四號證ヲ以テ本訴請求ノ原由ト爲スニ付本訴ハ其證據力ヲ判斷スルヲ緊要トス甲第一號證ハ龍澤寺門前ニ建立ノ古牌ト謂ヘルモノニシテ出願山林竹木植立ヲ證スト謂フモ該碑ナルモノニハ「奉請山神塔一文化十二云云杉植立人三十八人二千六百五十本トノミアリテ如何ナル樹木ニ相當スルヤ分明ナラス從テ本件請求ノ證據ト爲スニ足ラス甲第二號證ハ宋永家系錄ト稱スルモノニシテ之ニ依レハ先靈ノ菩提庵ヲ龍澤ト謂ヘル所ニ移シテ龍澤寺ト號シタル事跡ハ見ルヲ得ヘキモ之ヲ以テ果シテ宋永家ノ所有地ヲ寄附シタルノ證ト爲スヲ得ス甲第三號證ハ蘐仙齋藩ノ調製ニ係ル繪圖ニシテ之ニ依レハ論地ニ「龍澤寺山」トアルハ龍澤寺持地ノ意ナリト謂フモ其記載ノミヲ以テ果シテ龍澤寺ノ所有地ナリト認ムルヲ得ス甲第四號證ハ龍澤寺普請諸入用帳ト稱スルモノノ一部ニシテ天保十亥歲ニ樹木賣拂ノ事跡アルカ如キモ右ハ如何ナル手續ニ依リ又何所ノ用木ニ係ルモノナルヤ判明セサルヲ以テ之ヲ以テ本件ノ證據ト爲スニ足ラス要スルニ原告主張ノ事實ハ之ヲ確認スヘキ證據ナシ（町村制第百十五條）

（第一門第二四七判決理由參看）

(82) ◉民有山林下戻不法處分取消請求ノ訴

三十二年第五十五號
全年七月十日宣告（山梨縣平民中田禮吉外三名對全縣知事小野田元熙）

判旨○被告カ一箇人持トシテ處分シタル山林ニ就キ更ニ町村内ノ一部ノ所有ナリト抗辯スルハ不當ナリ（町村制第百十五條）

（第一門第二四七判決理由參看）

(83) ◉土地官民有區分査定ニ關スル訴

三十二年第九十四號
全年十月二十七日裁決（大阪府平民大竹聰則對全府知事菊池侃二）

判旨○寄附地ノ下戻願ヲ却下シタル處分ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ（法律第百六號第五）

（第一門第二五二判決理由參看）

(84) ◉官民未定地査定事件不法處分取消ノ訴

三十一年第六十二號
三十二年十一月六日宣告（岐阜縣平民片野センほか二名對全縣知事野村政明）

判旨○古來水利等ノ爲メ契約ヲ以テ甲村ヨリ乙村ニ貸渡シタル土地ハ民部省達ヲ適用シテ甲村ノ民有地ニ編入スヘキモノトス（四年民部省達第三號）

被告ハ本件係爭地ハ明治四年民部省達第三號ニ依リ乙第一號證ノ如ク領收證ヲ徵シ官ヘ貢上ケノ處分ヲ爲シタルモノナレハ民有ニ編入スヘキモノニアラスト證フト雖モ甲第一號證ニハ「江代米云云下筈輪中大場新田ヨリ小坪新田ヘ相渡シ可申事」トアルノミナラス其他該證書全體ヲ視ルニ村方相對ノ契約ナルコト明確ナリ最其裏面ニ濱洲高須ヨリ脇屋金左衛門外二名尾洲名古屋ヨリ五味所左衛門外一名立會相定メタル旨記載アルモ是レ單ニ前記ノ人名立會タルノ事實ヲ證スルニ過ギサルノミ然リ而シ

テ明治四年民部省達第三號ニ依レハ第一項ニハ「澤地代米舊幕ヨリ渡シ來リ又ハ地頭ヨリ相渡來候分高内引相成候上ハ云々地主共ヘ相當御手當被下候事」云々其第二項ニハ「村方相對示談ニテ他村ノ地所借受ケ云々借受候村方ヨリ地主ヘ相渡來候分御布告ニ基キ從前ノ通取計可申事」トアルヲ以テ本件係爭地ノ如キ村方相對ニテ貸借シタル地所ハ該達ノ第二項ニ屬スヘキモノニシテ其第一項ニ依リ處分スヘキモノニ非サルコト明瞭ナリ然ルニ明治六年岐阜縣令カ右達ニ基キ係爭地ニ對シ買上ケ處分ヲ爲シタルハ其適用ヲ誤リタル違法ノ處分ナリトス然レハ本件官民未定地民有ニ編入ノ件開屆ケ難シトノ處分ハ適法ナリト云フヲ得ス

(85) ◉境界査定不服ノ訴

三十二年第二十九號
仝年十一月十日宣告
（千葉縣平民鈴木米吉對東京大林區署長林務官志賀泰山）

原告ハ本件係爭地ハ官野淺吉外十四名ヨリ買受ケタルモノニシテ原告ノ所有地ナルニ被告カ之ヲ國有林ト査定セシハ不當ナリト云フト雖字坪井ト字川向トカ里俗ヒリ澤ヲ以テ境トシ兩者別異ノ字ナルハ乙第一號證ノ二地租改正全圖ニ照ラシ明カニシテ而シテ係爭地ハ字坪井ノ内ニ在ルモノナリ然ルニ原告ノ擧證中字川向ノ土地ヲ買受ケタルヲ證スルモノアルモ字坪非ノ土地ヲ買受タルヲ見ルニ足ルモノナシ然レハ係爭地ハ原告ノ所有ト認ムルヲ得サルニ依リ本件被告ノ査定ヲ不當ナリト云フヲ得ス

(86) ◉原野引戻ニ關スル處分取消請求ノ訴

三十一年第百四十六號
三十二年十一月二十七日宣告
（茨城縣稻敷郡岡町村助役板倉源十郎對農商務大臣曾禰荒助）

本件原告ハ係爭地ヲ自由ニ進退シタルヲ理由トシテ其所有ヲ證セン爲ニ甲第二號第三號第四號及第八號證ヲ提出セリ依テ該證據ヲ檢スルニ第二號第四號證ハ秣場ノ入會爭論ニ關スルモノニシテ入會村ヨリ野永野錢ヲ取立テタルコト第八號證ハ他人カ内地ニ植付ケタル立木ヲ引取リタルコト第三號證ハ社地ノ境界ヲ定メタルコトヲ證スルニ過キサレハ孰レモ其所有ヲ確ムルニ足ル證據ト認ムルヲ得ス然ラハ第一號ノ如キハ野錢ヲ高ニ結ヒ入レタルコトヲ證スルノミニシテ其反別ノ記載ナキヲ以テ見ルモ此等野錢ノ有無ヲ以テ未タ所有ノ加何ヲ判斷スルニ十分ナル證據ト云フヲ得ス

又原告ハ甲第六號證ヲ以テ係爭地ノ地續ナル他ノ地所ヲ甲第一號證ト同一證ニ依リ下戻シタル一例トシテ論爭スル所アルモ該證據ヲ閱スルニ繩入減地ノ爲ニ代地ヲ得タル如キ特殊ノ事跡アルノミナラス被告ノ主張ニ依レハ尚證據書中持地ノ記載モアリ樹木栽培ノ事實アリタルカ故ニ下戻シタルモノナレハ此ヲ以テ直ニ彼ヲ推論スルヲ得ス其他甲第一號證ヲ補助セシカ爲第七號證ニ依リ野錢高結ノ無地高ニアラサルコトヲ證セントスルモ該證據ハ極メテ間接ニシテ適實ナラサレハ其證據力ニ乏シキモノト認定ス

(87) ◉不當境界線取消ノ訴

三十一年第七十號
三十二年十一月二十九日宣告
（茨城縣平民石塚安太郎外一名對東京大林區署長林務官志賀泰山）

判旨○官民有地ノ境界ヲ査定スルニハ明治二十七年調製ノ改正圖ノミナラス同九年ノ改租圖其他ノ證據ヲ斟酌シテ其當否ヲ判定スヘキモノトス

（本件判決理由ハ(87)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(89) ◉不當境界線取消ノ訴

三十一年第七十二號
三十二年十一月二十九日宣告
（茨城縣平民太田重藏對東京大林區署長林務官志賀泰山）

判旨○官民有ノ境界ヲ査定スルニハ明治二十七年調製ノ改正圖ノミナラス同九年ノ改租圖其他ノ證據ヲ斟酌シテ其當否ヲ判定スヘキモノトス

（本件判決理由ハ(87)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(90) ◉官有地編入不當處分取消民有地編入ノ訴（第一門第三(48)妨訴抗辯ノ本案）

三十一年第七十五號
三十二年十一月二十九日宣告
（長野縣北佐久郡協和村ノ内舊片倉區財産管理者仝村長比田井彈右衛門對仝縣知事押川則吉）

判旨○論地ニ對シ收益權ヲ實行シタル事實ノミヲ以テ其土地ノ所有權ヲ有スルモノト爲スヲ得ス

據ヲ斟酌シテ其當否ヲ判斷スヘキモノトス

原告ニ於テ本件所爭ノ官民地境界ハ明治二十七年調製ノ改正圖ニ依リ定ムヘキモノナリ現ニ官廳ハ之ニ依リ租稅ヲ賦課シ原告ハ之ニ依リ納租ノ義務ヲ負擔スルモノナレハ該圖ニシテ不正ノ事實ニ依リ調製セラレサル以上ハ之ヲ以テ正當ノモノト認メサルヘカラスト云フト雖境界ノ當否ヲ決スルニハ該圖ノミヲ以テ證據力アリト爲スヘカラス明治九年地租改正ノ際調製シタル所謂改租圖及其他ノ證據ヲ斟酌シテ其當否ヲ判斷セサルヘカラス而シテ明治二十七年ノ改正圖ニ依レハ原告主張ノ正當ナルヲ認ムルヲ得ルモ繳納稅務署備付ノ改租圖ニ依レハ原告ノ改正圖ニ依リ其所有地ナリト主張スル字茶園七百五十四番ノ地所ハ字寺山官林二千八百四十六番ノ一部ナルコト明白ナリ而シテ尚實地ニ就キ調査ヲ遂ケ改租圖ノ實地ニ符合スルコトヲ認メタリ尤現今該地所ニハ林木樹立セサルモ數年前伐採セラレ今尚點々散在セル切株ニ徴スレハ該地ニ官林ト同一ノ林相ナリシ樹木ノ生立セシコトヲ推定スルニ足ル又原告ノ改正圖ニ依リ經界線ナリト主張スル道路ハ其實畑ノ畔ニシテ道路ト認メ難キコトモ臨檢調書ニ依リ明瞭ナリ然ラハ改正圖ハ實地ニ適合セシテ本件境界ノ證據トスルヲ得ス隨テ被告カ實地ニ符合スル改租圖ニ依リ境界ヲ査定シタルハ不當ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(88) ◉不當境界線取消ノ訴

三十一年第七十一號
三十二年十一月二十九日宣告
（茨城縣平民谷田部文右衛門對東京大林區署長林務官志賀泰山）

判旨○官民有地ノ境界ヲ査定スルニハ明治二十七年調

原告ノ本件係爭地ハ民有地ニシテ原告片倉區ニ所有權アルコトハ甲第二號證ノ一元祿二年ノ裁許狀ノ二項三項ニ片倉岩下兩村ノ內山云々トアリ又甲第二號證ノ三元祿六年ノ裁許狀ニ兩村ノ內野ニ相定云々トアリ又甲第二號證ノ四元祿八年ノ裁許狀ニ兩村持山云々トアルヲ以テ明瞭ナリト云フト雖內山內野持山等ノ文字ハ入會山ニ對スル稱呼ナルコトハ前記元祿年度ノ各裁許狀全文ノ趣旨ニ徵シテ疑ナキノミナラス元祿八年ノ裁許狀ノ所謂持山ナルモノハ原告提出各證據ニ依ルモ本訴請求地ニ該當スルモノト認ムルヲ得ス又原告ハ甲第二號證ノ二五及六等ノ各證據ニ基キ係爭地ヲ自由ニ進退シ來リタレハ民有ニ屬スヘキモノナリト云フト雖該證據ニ依レハ原告ニ於テ收益權ヲ實行シタル行爲アリタルコトヲ確認スルヲ得ルモ係爭地タル地盤ヲ自由ニ進退シ來リタルモノト言フヲ得サレハ之レカ爲メニ原告ニ所有權アルモノト斷定スルヲ得又原告ハ甲第二號證ノ七八及九等ノ證據ヲ援用シテ本訴ノ土地ニ對シ納稅シタリト主張スルモ右證據ニ記載シアル山稅林地稅ナルモノハ何レノ地所ニ對スル租稅ナルヤ判明セサルヲ以テ該證據ハ所爭ノ所有權ヲ確ムル有效ノ證據ト爲スニ足ラス

(91)◉國有林下戻ノ訴

三十三年第八十二號
仝　年六月六日宣告
（新潟縣平民渡邊致作對農商務大臣曾根荒助）

原告ハ甲第二號證三ノ一、二ヲ以テ原告ノ先代彥右衛門ナル者カ係爭地ヲ買受ケ爾來地租改正ノ際マテ所有シタル旨主張スト雖地租改正以前ニ於テ平木田村內ニ同一字ノ地所數個所ニ存在セシコトハ雙方ノ爭ハサル所ナリ然レハ甲第二號證三ノ一、二ハ其眞否如何ヲ問ハス之ニ記載ノ地所ハ果シテ本件係爭ノ地所ニ該當スルモノト認ムルヲ得サレハ之ヲ以テ原告ノ主張ヲ證スヘキ確證ト爲スニ足ラス

(92)◉官有地民有引戻官民有區分ノ訴

三十二年第六十六號
三十三年七月九日宣告
（兵庫縣平民村井宗三郎外七十八名對仝縣知事大森鍾一）

判旨○土地官民有査定ノ際自ラ其處分ヲ受ケタル者ニ非サレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

（第一門第一(273)判決理由參看）

(93)◉國有原野下戻ノ訴

三十三年第八十七號
仝　年七月十日宣告
（千葉縣市原郡濱津村長柳澤定吉對農商務大臣曾根荒助）

原告ハ甲第一號證ハ國有土地森林原野下戻法第二條第三號ニ該當スル證據物件ナルニ被告カ之レヲ排斥シテ原告ノ下戻申請ヲ却下シタルハ不法ナリト云フト雖モ甲第一號證ヲ閱スルニ此度御林拾參町歩村方惣百姓山ニ相渡云々トアルノミニシテ其場所ヲ明示セス且其反別ヲ本件係爭地ノ合反別ニ比較スルトキハ拾二町歩以上ノ差異アルヲ以テ該證記載ノ地所ハ本件係爭地ニ該當スルモノト認ムルコト能ハサルノミナラス該證ハ弘化年度ノ作製ニ係ルモノトシテハ其筆跡及墨色比較的新ラシク且其表面及裏面ノ文字殊ニ三郎兵衛ナル署名ノ文字何レモ同一筆蹟ナルヲ以テ當時正當ニ成立シタルモノト認ムルコト能ハス故ニ被告農商務大臣カ之ヲ排斥シ原告ノ下戻申請ニ對シ却下ノ指令ヲ與ヘタルハ相當ニシテ該指令ハ取消スヘキ限リニアラス

(94)◉不法裁決取消境界確定請求ノ訴

三十二年第八十八號
三十三年七月十日宣告

（靜岡縣小笠郡日坂東山組合村長工藤銀次郎對仝縣參事會仝縣知事小野田元熙）

原告ハ其主張スル境界線ハ近傍ノ原野ニ於ケル境界線ト同シク分水線ニ依リ古來定マリタルモノトシテ之ヲ證スル爲メ元祿十一年ノ古繪圖明治八年地租改正ノ際調製シタル地引繪圖竝ニ享保十六年遠洲佐野郡東山村指出帳等ヲ提供セリ案スルニ本件係爭地ハ山腹ノ斜面ナナセル原野ニシテ山上御料局測量基標二三二號ヨリ山下東山村ト五和村ノ境界點ニ達スルマテ地形上自然ノ境界ヲ爲スモノ絕ヘテ無ク分水線ノ如キハ原告主張ノ一線ノ一小部分ヲ爲スニ過キサレハ實地臨檢ニ依リテ認定シタル事實ナリトス而シテ元祿十一年ノ古繪圖及明治八年ノ地引繪圖ハ精確ナル實測圖ニ非サルヲ以テ實地ト符合セス又享保十六年遠洲佐野郡東山村指出帳ノ如キ本件係爭地ニ係ル記事ナク皆證據トナスニ足ラス其他原告ニ於テ種種陳述スル所アルモ其主張ニ係ル境界線ヲ正當ト爲スヘキ確證アルコトナシ依テ本件被告ノ裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

(95)◉國有林境界查定不服ノ訴

三十三年第百二十六號
仝年十月二十六日宣告
（奈良縣吉野郡國樔村長森西宇之吉對大阪大林區署長林務官楢山清利）

判旨○論所カ國有林境界查定ノ際官有ト確定シタル處分ニ對スル不服ノ訴ニ於テハ地租改正以前ニ溯テ之ヲ立證スルモ國有林野法ノ禁スル所ニアラス

（第一門第一(22)判決理由參看）

(96)◉民有地引戻ノ訴（第一門第一(13)(14)妨訴抗辯ノ本案）

三十年第五十七號
三十三年十一月十二日宣告
（宮崎縣士族富山佐之助外二百五十六名對仝縣知事園山勇）

案スルニ本件係爭地ハ甲第一號證享保十年御城內幷御城廻竿次帳ニ記載ノ通村民各自ノ名受ニ係ル私有地タルコト明瞭ナリ然リ而シテ舊制ニ在テハ土地所有主ニシテ偶々貢租ヲ怠ル者アルトキハ之ヲ其村方ノ受持ト爲サシメタルノ例ハ甲第二號證ノ第二ニ依ルモ亦明ナル事實ナリトス故ニ係爭地ハ當時村方ノ受持タルヲ以テ地券發行規則ニ示セル書式ニ基キ甲第三號證ニ村中持ト記載セシモノトシテ之ヲ認ムル又甲第三號證ニ村中持ト記載セルモ甲第二號證ノ第二租稅案ノ指令ニ『從來貢租相當作德無之爲メ村方受持ト相成居ル分ハ先以テ村持券狀相渡シ置クヘシ』トアルニ徵スレハ其土地ノ所有權ハ未タ確定セシニアラスシテ假リニ村中持ノ名義ヲ以テ券狀ノ下付ヲ申請セシメタルモノト認定スルニ足レリ被告ハ本件係爭地ハ原告ノ共有地ト認ムヘキ事實ナシト謂フト雖甲第一號證ノ被告モ其成立ヲ認メ係爭地ニ就テハ前段ニ於テ辯明スル如ク來歷分明ニシテ且ツ甲第六號證ニ依レハ舊內山村部落ニ現今在住スル者ノ內九十六名ハ共有權ナシト謂フヲ以テ之ヲ觀レハ係爭地ハ原告等ノ共有ト認定スルヲ相當トス又被告ハ甲第一號證ニ記載ノ地所ハ係爭地ニ恰當スルヲ認メス其實地ニ就テモ亦認ムヘキモノナシト申立ルモ甲第三號證ニ記載ノ土地ハ甲第一號證ト每筆符合シ而シテ之ヲ現今ノ土土臺帳ニ照合スルモ其字名ハ多クハ之ニ適合シ且ツ實地臨檢ニ於テモ字石代田一畝十八歩ノ形狀

チ始メ城門跡其他甲第一號證ニ恰當スルモノ多々アリ殊ニ係爭地ハ舊城砦ニシテ著名ノモノナレハ他ニ類似ノ場所ナキハ勿論其他ノ點ニ於テモ毫モ疑チ容ルヽ所ナシ故ニ係爭地ハ甲第一號證ノ土地ニ該當スルモノト之チ認定ス又被告ハ官地下戻處分ノ農商務大臣ノ所管ニ移リ被告ハ其職權ナキチ以テ對手人トナル能ハスト抗辯スルモ本件ハ既ニ其處分ノ當時ニ在テモ農商務大臣ノ指揮チ受テ之チ爲シタルモノナレハ假令現今ハ同大臣ノ所管ナルモ被告ハ之チ以テ本訴ノ對手人タルチ免ルヽチ得ス

(97) ◉不當處分取消立木下戻請求ノ訴

〃　三十三年第百七十七號
　全年十一月十二日宣告　（千葉縣平民關本米吉外三十九名對農商務大臣林有造）

判旨○國有土地森林原野下戻法發布前既ニ公賣ニ付シテ現存セサル立木下戻ノ請求ハ同法第一條ニ所謂國有ニ屬スルノ要件チ缺クモノトス（國有土地森林原野下戻法第一條第一項）

○同法發布以前ニ在リテハ立木下戻處分ニ關シテ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(280)判決理由參看）

(98) ◉官民有山林境界查定ノ決定ニ對スル不服ノ訴

三十三年第百二十四號
全年十一月十九日宣告　（愛媛縣平民藤本永治對愛媛大林區署長林務官三木隆太郎）

原告ハ本件係爭地ノ境界ハ甲第一號證圖ニ據リテ查定スヘキチ被告ハ之ニ據ラスシテ他ニ境界チ查定シタルハ不當ナリト盲フト雖凡官民有地境界ノ查定チ爲スニハ地元村備付ノ地圖ノ外土地臺帳公證其他ノ證據類ニ依據スヘキハ當然ノ事ナレハ單ニ原告主張ノ甲第一號證圖ノミチ以テ境界查定ノ唯一ノ根據ト爲スコトチ得ス加之甲第一號證圖面ハ明治十二年地租改正ノ際調製シタル原圖（甲第二號證）チ明治二十一年度ニ更正シタルモノニ係リ其更正ハ縣知事ノ認許チ經テ實行シタルモノニモセヨ國有林トノ境界チ變更スルニ主管廳ノ認可チ經ス一方ノミノ任意ニ決定シタルモノナレハ之チ以テ國有林トノ境界チ定メタル確證ト爲スコトチ得ス然ルニ被告提出ノ乙第一號證明治六年十二月戶長小野信愛ノ取調書乙第二號證明治十二年調製ノ官林臺帳及附屬圖ハ字崩レノ四至ノ境界チ明示シ係爭地ノ西北ノ神門村ニ接スルコトチ認メシメ明治十二年地租改正ノ際調製シタル圖面ト符合ス左レハ被告カ明治二十一年更正ノ圖面チ排斥シ明治六年調製ノ官林臺帳及其他ノ公簿圖面ニ據リテ係爭地ノ境界チ查定シタルハ不當ト謂フチ得ス其他原告提出ノ甲第三號證ハ原告カ字崩レ二千二百七十六番イ號山林チ買受ケタルチ證スルノミニテ該地ト國有林トノ境界チ確認スヘキ證據トナラス甲第四號證ハ明治十二年地租改正ノ際調製シタル圖面タルチ證シ甲第五號證ハ圖面ノ更正チ爲スニ知事ノ認許チ經タルコトチ證スルノミニテ俱ニ本件チ斷定スヘキ證據ト爲スニ足ラス

(99) ◉立木代價付拂戻ノ訴

三十三年第二百三十號
全年十一月二十一日裁決　（栃木縣平民小笠原富門對農商務大臣林有造）

判旨○山林立木拂戻處分ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ（三十二年法律第九十九號）

（第一門第一(283)判決理由參看）

(100) ◉官民有地境界查定處分取消ノ訴

三十三年第百三十七號
全年十一月二十六日宣告　（高知縣平民矢野祥太郎對高知大林區署長林務官山根龜吉）

原告ハ甲號數證チ提出シ本件係爭地ハ原告ノ所有ナル旨主張スト雖モ其主要ナル甲第二號證ニ依レハ論地ノ三方即チ東、南、西ノ境界ハ大野山官林ナルコト一目瞭然タリ然ルニ甲第四號證ニ依レハ東ト南ノ二方ハ官林境ナルモ西ハ（公有地界）トアリテ甲第二號證ノ圖面ニ符合セス加之甲第二號證ハ地租改正當時ノ切圖ナレハ其形狀ハ同改正全圖ノ部ト符合スヘキハ當然ナルニ被告カ中村稅務署ノ照查チ經テ差出シタル地租改正全圖寫ト符合セサルコト原告モ認ムル所ナリ然レハ甲第二號證圖面ノ如キハ地形ノ大體チ見ルチ得ヘキモ之チ以テ本件境界ニ於ケル微細ノ點チ定ムヘキ確證ト爲スニ足ラス其他原告提出ノ證據ハ被告ノ查定チ不當トスルノ確證ト認メ難キチ以テ原告ノ主張ハ採用スルチ得サルモノトス

(101) ◉土地官民有區分查定不服ノ訴

三十三年第四十八號
全年十二月三日宣告　（福島縣平民石井利左衛門對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本訴論地ハ山野地租改正ノ際誤テ官有地ニ編入セラレタルモノニシテ祖先以來原告家ノ所有地ナリト主張スト雖原告ノ立證シタル第一號證戶中村差出帳ハ假ニ之チ正確ノモノト爲スモ該帳ニハ單ニ百姓林四個所壹人持分ト アルノミニシテ他ニ何等ノ記載ナキニ依リ該山林カ果シテ字川別官林ニ該當スルヤノ之チ認ムルニ由ナク又第二號證安永八年ノ免狀第三號證文化五年ノ浮役錢請取證第四號證山林借用證文モ假ニ其事實チ認ムルモ右百姓林四個所中字川前官林ニ該當スルチ認ムヘキ證據ナキチ以テ是亦立證ノ價値ナシ其他尙舉證シタルモノアルモ何レモ證據力薄弱ニシテ本件原告ノ主張チ認ムヘキ證據ト爲スニ足ラス

(102) ◉境界審查不當處分取消ノ訴

三十三年第　百　號
全年十二月二十一日宣告　（青森縣西津輕郡鰺戶村長工藤武雄對青森大林區署長林務官道家充之）

本件原告ハ西津輕郡鰺戶村地內南禿官有地ノ境界查定ニ由リ村中持ナル字東禿三百一番地及西禿八十一番地ニ侵入セラレタリト主張シ村役場備付ノ番繰給圖ナルモノチ以テ立證セントス依テ番繰給圖ノ提出チ命シ之チ檢閱スルニ原告ノ主張ニ對シ證據トナルヘキモノ毫モ之ナキノミナラス該圖調製ノ根據極メテ不明ナルチ以テ到底本件訴求ノ理由アルモノト認ムルチ得ス

(103) ◉不法處分取消山林下戻請求ノ訴

三十三年第二百一號
全年十二月二十四日宣告　（福島縣士族佐野友四郎對農商務大臣林有造）

原告ハ本件係爭地ハ曾テ原告ノ先代佐野貞次郎ヨリ元會津藩廳ヘ立替タル軍用金百兩ニ對スル元利金ノ代償トシテ慶應四年中同藩廳ヨリ先代貞次郎ヘ下附セラレタルモノナリトシ其事實チ證明センカ爲メ提出シタル甲第二號證チ閱スルニ該證ハ鑑定官村田民治ニ於テ裏書最モ若ク到底確證ト認ムルコト能ハスト鑑定シタル如クニシテ當時正當ニ成立シタルモノト認ムルチ得ス又其他原告ノ提出ニ係ル甲一號及三號證ハ既ニ甲二號證ニシテ前述ノ如クナル以上ハ自ラ本件ニ對シ證據トナスノ價値ナシ故ニ被告農商務大臣カ原告ノ下戻申請ニ對シ聞屆ケ難シトノ指令チ與ヘタルハ相當ニシテ該指令ハ取消ス可キ限リニアラス

(104) ◉原野民有下戻申請不許可ニ對スル訴

三十三年第百九十一號
仝年十二月二十四日宣告　（茨城縣新治郡東村長中村源助對農商務大臣林有造）

原告ハ甲第一二號證甲第四號乃至八號證甲第三十一號證及甲第三十三號證ニアル如ク原告村大岩田カ元祿年度以來明治八年頃ニ至ル數百年ノ間十五石三斗四升ノ永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ本訴論地ニ對シ上納シ來リタルモノナリト云フモ該甲號數證ヲ閲スルニ右十五石三斗四升ノ石高ニ對スル永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ納メ來リシコトハ見ルヲ得ヘキモ何レノ原野ニ對シ納メタルヤ毫モ徵スヘキ記載ナシ甲第三號證ニ依レハ大岩田村高ノ内十五石三斗四升ヲ南野ノ野錢高トシテ上納シ來リタル事蹟アリテ原告ノ謂フ如ク右野錢ハ南野ト稱スル原野ニ對シ納メ來リシモノナルヤモ知ルヘカラス然レトモ本訴論地ハ字南野ト稱シタリトノ事實ハ之ヲ認ムヘキ確證ナク原告カ其立證トスル甲第九號證ニハ南原付ヨリ大竹橋マテトアリ甲第十號證ニハ南野境竹來ヨリ大岩田マテ二冊ノ内トアリテ其南原トアルハ南野ヲ云フモノナリトスルモ單ニ是等ノ記載ノミヲ以テ本訴論地ハ字南野ト稱シタリト斷定シ難シ原告ハ古來十五石三斗四升ノ永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ上納セシ事實アリテ甲第三十二號證ニ依リ該野錢ハ論地ニ對シ上納シタルモノト認ムルノ外ナシト云フモ該證ハ明治九年ニ於テ原告村ノ各村民所有ノ宅地田畑敷歩番號等ヲ取調ヘタルモノニ過キサレハ之ニ原野ノ記載ナキトノコトヲ以テ大岩田ニ於テ他ニ原野ヲ所有セサリシモノト認ムルヲ得ス假リニ原告村ニハ古來他ニ原野ナシトスルモ直チニ之ヲ以テ右永壹貫五百三十四文ハ本訴論地ニ對スル貢租ナリト斷定シ難シ甲第十六號證二十三號證二十六號證ハ孰レモ一私人ノ作製シタル證明書ニ過キサレハ證據ノ效力ナシ之ヲ要スルニ原告カ永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ納メ來リシ事實ハ之ヲ認メ得ルモ該野錢ヲ本訴論地ニ對シ納メタリト認ムヘキ確證ナシ左スレハ假令論地ニ今尚屋敷跡古井戸墳墓地等ノ形蹟存在セリト雖モ是等ハ原告村民ノ祖先カ果シテ設ケタルモノナルヤ亦立證スヘキモノナケレハ此形蹟ヲ以テ原告村大岩田ノ民有地タリトノ證據トナスニ足ラス

(105) ◉官有土地竝立木下戻請求ノ訴

三十三年第二百十九號
仝年十二月二十六日宣告　（栃木縣上都賀郡菊澤村長稻葉初一郎對農商務大臣林有造）

原告ニ於テハ甲第一號證乃至甲第三號證ニ據リ本件山林ノ民有タルコトヲ主張スト雖甲第一二號證ハ紙質ノ古ヒタル點合ニ鑒色新ラシクシテ其日附ノ當時ニ成立シタルモノト認メ難ク甲第三號證ハ苗木植付ニ關シテ賞狀ヲ受ケタルコトヲ證スルマテニシテ土地竝立木ノ民有タルコトヲ見ルヘキ文詞ナキヲ以テ原告ノ主張ヲ正當ト認メ難シ然ラハ被告カ原告ノ申請ヲ却下シタルハ相當ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

(106) ◉土地返還命令取消要求ノ訴

三十三年第百九十七號
三十四年一月十四日宣告　（北海道平民古澤倉松對全道廳長官男爵園田安賢）

判言○或目的ノ爲メニ北海道國有原野ノ貸付ヲ受ケタル者カ起業方法書ニ指定シタル設備ヲ爲サヽルトキ北海道支廳カ其土地返還命令ヲ發シタルハ正當ナリ（北海道國有未開地處分法第十條）

原告ニ於テハ甲第五號證ノ一乃至ヌ及甲第六號證ニ據リ漁網漁船ノ準備ヲ爲シ起業方法書ノ通成功シタリト主張スレトモ甲第五號證ハ差網割水產物營業人組合經費者クハ北海道水產稅納付ノ領收證ニシテ是等ノ設目ハ通常漁業者ノ負擔スル所ナレハ之ニ據テ乙第一二號證起業方法書ノ如キ漁網漁船ヲ設備シタル事實ヲ認メ難ク甲第六號證ハ錬差網漁業ヲ爲シ稅金及諸費ヲ納付シタル證明書ニシテ漁業ヲ爲シ稅金ヲ納ムルノ事實ハ前段說明ノ如ク漁網漁船ヲ設備シタル事實ヲ認メシムルニ足ラス又原告ハ岩尾村字雄冬ノ原告居宅ニ漁具ノ貯藏ヲ爲セリト云フモ無證ノ陳述ニ過キサレハ其主張ヲ眞實ト認メ難シ然ラハ原告ハ起業方法書ノ如ク漁網漁船ヲ設備セサルモノナルヲ以テ增毛支廳カ北海道國有未開地處分法第十條ニ依リ土地返還命令ヲ發シタルハ相當ニシテ取消スヘキ理由ナキモノトス

(107) ◉土地官民有境界查定取消竝境界確認ノ訴

三十二年第二百三十一號
三十四年二月一日宣告　（宮崎縣士族松崎千三郎對鹿兒島大林區署長林務官永田正吉）

原告ニ於テ本件係爭地ハ大洲道ノ北部ニ接シ元民有九百三十三番九百三十五番六反七畝弐拾歩ノ地ナリシヲ訂正シテ乙第九百四十一番地ノ第二ト爲シタルモノニシテ原告ハ四野茂一郎ヨリ該地ヲ買受ケ所有シ現今ハ又之ヲ第二第三ニ分裂セシモノナルヲ被告ハ境界查定ノ結果第二第三ノ土地ハ官有ナリト決定シ查定標一號乃至二十號ヲ建設シ以テ原告ノ權利ヲ侵害シタル趣ヲ主張スト雖其甲號證ハ總テ人民相互間ノ關係ヨリ成立シ若クハ村内ノ取調書ニシテ村長ノ證明アルニ止リ上司ノ承認ヲ經タルモノニアラサルヲ以テ官民有區分ノ查定ヲ不當ナリトスル證據ト爲スニ足ラス又原告ハ乙第五號證官田村役場備付明治十一年ノ調製ニ係ル切圖ニ於テ黑線ヲ畫シ九百三十五ト記載シアルモノヲ採用シ證據トスレトモ乙第四號證同年村方ヨリ提出シタル大洲稅務署備付ノ圖面ニ依レハ大竹村九百四十二番ノ官林境界ハ管田村民有地ニ接シ原告主張ノ地位ニ於テ民有地ノ介在セル形蹟ナキヲ以テ乙第五號證ニ黑線ヲ畫シ九百三十五ト記載シアルハ全ク私ノ記入ナルコトヲ推知シ得ヘシ之ヲ要スルニ原告ノ各證據ハ本件係爭地ノ民有タルコトヲ立證スルモノナシ

(108) ◉土地ノ官民有境界查定取消竝境界確認ノ訴

三十二年第二百三十二號
三十四年二月一日宣告　（宮崎縣士族岡野幸郎對鹿兒島大林區署長林務官永田正吉）

原告ハ本件係爭地ノ境界ハ甲第一號證圖ニ據リテ查定スヘキヲ被告カ之ニ據ラスシテ漫ニ境界ヲ查定シタルハ不當ナリト言フト雖凡官民有地境界ノ查定ヲ爲スニハ地元村備付ノ地圖ノ外土地臺帳公簿其他ノ證據類ニ依據スヘキハ當然ノコトナレハ單ニ原告主張ノ甲第一號證圖面ノミヲ以テ境界查定ノ唯一ノ根據ト爲スコトヲ得ス加之甲第一號證圖面ハ明治十二年地租改正ノ際調製シタル原圖（甲第二號證）ヲ明治二十一年ニ更正シタルモノニ係リ其更正ハ縣知事ノ認可ヲ經テ實行シタルモノニモセヨ國有林トノ境界ヲ變更スルニ主管官廳ノ認諾ヲ經ス一方ノミノ任意ニ決定シタルモノナレハ之ヲ以テ國有林トノ境界ヲ定メタル確證ト爲スコトヲ得ス然ルニ被告提出ノ乙第一號證明治六年十二月戸長小野信愛ノ取調書乙第二號證明治十二年調製ノ官林臺帳及附屬圖ハ字葛籠内ノ四至ノ境界ヲ明示シ乙第三號證地租改正圖ハ圖中千九百六十九番民有地ニ沿ヘル溪流ヲ上リタル所ヨリ左右ニ界線ヲ劃シ西方ハ字倉谷ニ連結スルヲ證スルニ足ル左レハ彼告カ明治二十一年更正ノ圖面ヲ排斥シ明治六年調製ノ官

林簿帳及其他ノ公證圖面ニ據リテ係爭地ノ境界ヲ査定シタルハ不當ト謂フヲ得ス其他原告提出ノ甲第三號證ハ原告カ字葛籠内千九百七十一番山林ヲ讓受ケタルヲ證スルノミニテ該地ト國有林トノ境界ヲ確認スヘキ證據ト爲スニ足ラス

(109) ◉國有林下戻ノ訴

三十三年第二百三十五號
三十四年二月十五日宣告　（廣島縣賀茂郡賀永村長渡橋後五郎對農商務大臣林有造）

本件原告被告カ爭フ所ノ要點ハ舊御建山ナル八幡山官林ト苗上三永村ノ共有地ナリシ岡野原山ト交換ヲ爲シタル事實アリシヤ否ニ在リ原告カ土地交換ノ事實ヲ直接ニ證明セントスル甲第一號第四號乃至第六號證ニ係ル鑑定人ノ鑑定ハ區々ニシテ一樣ナラス即チ年度相當或ハ明治以前ノ成立ト認ムル者アレハ又慶應或ハ明治早々ノモノナリト云ヒ甚シキハ最近ノ成立ト云フト雖其成立カ最近ノモノニアラスト云フ點ニ至テハ多數鑑定ノ一致スル所ナリ又甲第八號證享保年度ノ上三永村御建山野山腰林御改帖及甲第九號證安永年度ノ上三永村差出シ帖捺ヲ檢スルニ御建山二箇所トアリ然ルニ甲第十號證ニ依レハ官ヨリ拂下テ受ケタル岡野原山ヲ他ヘ賣拂書入タル等ノ事跡アリ

前記ノ證據ニ徴シテ土地交換ノ事實ヲ按スルニ上三永村ニ於ケル御建山即チ官林ハ元來二箇所タルヘキニ一私人カ官林岡野原山ノ拂下ヲ得テ更ニ他ヘ賣却シタルコトアルヲ以テ之ヲ觀レハ當時二箇所ノ官林中八幡山事實ヲ認ムルニ足ル然ラハ即チ原告主張ノ如ク官林ト民有地ノ交換願ヲ許可シ官林ヲ引渡シタルモノト認ムルヲ得ヘク從テ被告カ原告ニ對シ國有林下戻不許可ノ處分ヲ爲シタルハ正當ナリト云フヲ得ス

(110) ◉官林部分木請求ノ訴

三十三年第六十二號
三十四年二月二十二日宣告　（福岡縣平民平島榮三郎外六名對農商務大臣林有造）

原告ハ甲號數證ヲ提出シテ本訴ノ請求ヲ爲スト雖其主要タル甲第一號及三號證ヲ熟檢スルニ其用紙ハ古キモノナルモ其墨色新シクシテ年度ニ相當セサルヲ以テ甲第一號及三號證ハ其當時眞正ニ成立シタルモノト認メ難シ甲第二號證ハ假令眞正ノモノトスルモ「右割米ノ内ヨリ年々向五ケ年之間杉拾萬本ツヽ差立申候事」トノミアリテ何レノ地ニ對スルモノナルヤ毫モ見ルヘキモノナクレハ之ヲ以テ本件ノ確證ト爲スニ足ラス其他原告提出ノ證據ハ勘證ニ過キサレハ既ニ主要ノ證據ヲ排斥シタル上ハ之レニ對シ一々說明ヲ與フルノ要ナキモノトス

(111) ◉民有地引戻請求ノ訴

三十三年第二百六十九號
三十四年三月二十七日宣告　（巖手縣正法寺代表者勝木堪宗對農商務大臣林有造）

原告主張ノ要點ハ本件山林ハ貞和四年黑石家長部家ノ寄附ニシテ往古ヨリ一般ニ拜領山ト稱シ處分シ來リタルモノナレハ民地トシテ下戻サルヘキハ當然ナリト云フニ在レトモ甲第一號證ハ原告前代ノ緣起覺書ニシテ該書中黑石家及長部家ヨリ山林ヲ寄附シタル記事アルモ單ニ之ヲ以テ地盤ヲ所有シタル事實アリト認ムルヲ得ス甲第三號證乃至甲第七號證ハ木材ヲ賣拂シ又ハ川下ケ等ヲ爲シタル事アルニ止リ何レノ山林ノ木材ナルカ知ルヲ得サルモノニシテ本件山林ノ所有權實行ノ證トナラス然レハ本件ハ國有土地森林原野下戻法第二條ニ該當スル證據書類ナキヲ以テ被告ノ處分ヲ不當トスル理由ナキモノトス

(112) ◉國有原野引戻申請ニ對スル不許可處分取消請求ノ訴

三十三年第二百四十一號
三十四年四月十七日宣告　（新潟縣士族戚本昌平對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本件請求ノ山林ハ甲號各證ノ如ク祖先以來ノ所有ニシテ其地内ヲ現今ノ鳥坂神社即チ往時馬頭觀音ノ堂宇地ニ充タリシニ明治九年地租改正ノ際誤テ官有地ニ編入セラレタリト云フト雖甲第一號證ハ觀音屋敷ノ年貢米十个年分ヲ赤谷村長三郎受取向後ハ戚德院ヨリ納租スヘキ答ニ相定觀音ハ永代ニ戚德院ニ相渡ストノ文言ニシテ該地ハ觀音ニ附屬スルノ意思ナルニ過キス甲第二號證田畑賣渡證書ハ假リニ其事實アリトスルモ本件係爭地ノ字名ニ適合セサルモノナレハ證據ト爲スヘカラス甲第三號第四號第五號第十一號第十二號證ノ杉木賣極證書及各借金證書モ亦假リニ其事實アリトスルモ該證ノミヲ以テ抵當ノ樹木ハ果シテ原告ノ所有タルコトヲ認ムルニ足ラス甲第七號第八號證ハ自家ノ帳簿ニシテ單ニ赤谷村上納トノミ記載シ係爭地ニ對スル納租ナリト認ムルコトヲ得ス甲第十三號證モ亦自家ノ帳簿ニシテ假令ヒ杉木植付ノ事實アリトスルモ費用ノ支出又ハ勞力ノ方法明瞭ナラス之レノミヲ以テ自發栽培ノ證ト爲スニ足ラス甲第十六號證ハ赤谷村總代ト原告トノ間ニ成立シタル約定ニシテ本件ノ證據ト爲スヘキモノニアラス甲第十號第十四號證ノ地圖ハ原告ノ所有ノ地所又ハ立木タルヲ見ルヘキ點ナク甲第十五號證ハ觀音林神明林ヲ列記シ其神明林ニ就キ右先先ヨリ賞院御持分云々ト記載シ觀音林ニ其記載ナキハ却テ原告ノ持分ナラサルコトヲ推定シ得ヘキノミナラス從來ノ所有地ニシテ其地内ニ馬頭觀音ノ堂宇ヲ設ケ以テ今日ニ至リタルモノトセハ該地ヲ官有地トシ本件ノ請求地外ト爲スヘキ理由ナク要スルニ本件請求ノ山林及立木共原告ノ所有ナリト認定スヘキ證憑ナキモノトス

(114) ◉不當處分取消官有地下戻ノ訴

三十三年第一百八號
三十四年四月十九日宣告　（福島縣安積郡三代村長二瓶貞四郎對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本件所爭ノ字熊ノ森外十四筆ノ山野ハ舊字向山等ノ地所ニ該當スルモノニシテ古來之ヲ村山村林ト唱ヘ自由ニ處分進退シ來リタル處實政九年舊會津藩ノ林制改革ニ依リ藩林ヲ特定シ之ヲ御林ト稱シ御林ヲ除クノ外ハ總テ地下持山ト稱シ地下村ノ自由進退ニ一任スルコトヽナリ原告村ノ所有權一層確實トナレリ而シテ此制度ハ享和二年ニ至リ廢止セラレタルモ原告村ハ依然舊政制度ノ下ニ於テ本件山野ヲ持山トシテ所有シ來レルコトヲ主張シ被告ハ舊字熊ノ森等ノ山野カ現今字向山等ノ地所ニ該當スルコトヲ認ムルモ原告ニ於テ山野ヲ所有シタルノ事實ヲ認メスト抗辯セリ依テ原告提出ノ甲第一號證乃至第二十二號證中本件所爭ノ要

分取消請求ノ訴

三十四年第一一號
仝年四月一日宣告　（福島縣田村郡郡路村長渡邊仝對農商務大臣林有造）

原告ハ甲第一號乃至三號證ヲ以テ本訴ノ請求ヲ爲スト雖モ其主要タル甲第一號證ヲ熟檢スルニ墨色及紙質ニ就テ視ルモ其成立確實ノモノト認メ難キヲ以テ本件ノ證據ト爲スニ足ラス又原告ハ明治七年申論地ニ對シ一旦公有地ナル地券ヲ下付セラレタリトノコトヲ以テ原告ノ所有タルコトヲ主張スルモ其後山野地租改正ノ際官有ト認メラレ官地ニ編入セラレタル上ハ更ニ民有ノ證據ヲ提出セサル限リハ單ニ地券下付ノ一事ヲ以テ原告ノ主張ヲ認ムルヲ得ス其他原告ニ於テ論證スル所アルモ既ニ甲第一號證ヲ排斥シタル以上ハ說明スルノ要ナキモノトス

(113) ◉民有地引戻請求ノ訴

三十三年第二百四十一號
三十四年四月十七日宣告　（新潟縣士族戚本昌平對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本件請求ノ山林ハ甲號各證ノ如ク祖先以來ノ所有ニシテ其地内ヲ現今ノ鳥坂神社即チ往時馬頭觀音ノ堂宇地ニ充タリシニ明治九年地租改正ノ際誤テ官有地ニ編入セラレタリト云フト雖甲第一號證ハ觀音屋敷ノ年貢米十个年分ヲ赤谷村長三郎受取向後ハ戚德院ヨリ納租スヘキ答ニ相定觀音ハ永代ニ戚德院ニ相渡ストノ文言ニシテ該地ハ觀音ニ附屬スルノ意思ナルニ過キス甲第二號證田畑賣渡證書ハ假リニ其事實アリトスルモ本件係爭地ノ字名ニ適合セサルモノナレハ證據ト爲スヘカラス甲第三號第四號第五號第十一號第十二號證ノ杉木賣極證書及各借金證書モ亦假リニ其事實アリトスルモ該證ノミヲ以テ抵當ノ樹木ハ果シテ原告ノ所有タルコトヲ認ムルニ足ラス甲第七號第八號證ハ自家ノ帳簿ニシテ單ニ赤谷村上納トノミ記載シ係爭地ニ對スル納租ナリト認ムルコトヲ得ス甲第十三號證モ亦自家ノ帳簿ニシテ假令ヒ杉木植付ノ事實アリトスルモ費用ノ支出又ハ勞力ノ方法明瞭ナラス之レノミヲ以テ自發栽培ノ證ト爲スニ足ラス甲第十六號證ハ赤谷村總代ト原告トノ間ニ成立シタル約定ニシテ本件ノ證據ト爲スヘキモノニアラス甲第十號第十四號證ノ地圖ハ原告ノ所有ノ地所又ハ立木タルヲ見ルヘキ點ナク甲第十五號證ハ觀音林神明林ヲ列記シ其神明林ニ就キ右先先ヨリ賞院御持分云々ト記載シ觀音林ニ其記載ナキハ却テ原告ノ持分ナラサルコトヲ推定シ得ヘキノミナラス從來ノ所有地ニシテ其地内ニ馬頭觀音ノ堂宇ヲ設ケ以テ今日ニ至リタルモノトセハ該地ヲ官有地トシ本件ノ請求地外ト爲スヘキ理由ナク要スルニ本件請求ノ山林及立木共原告ノ所有ナリト認定スヘキ證憑ナキモノトス

(114) ◉不當處分取消官有地下戻ノ訴

三十三年第一百八號
三十四年四月十九日宣告　（福島縣安積郡三代村長二瓶貞四郎對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本件所爭ノ字熊ノ森外十四筆ノ山野ハ舊字向山等ノ地所ニ該當スルモノニシテ古來之ヲ村山村林ト唱ヘ自由ニ處分進退シ來リタル處實政九年舊會津藩ノ林制改革ニ依リ藩林ヲ特定シ之ヲ御林ト稱シ御林ヲ除クノ外ハ總テ地下持山ト稱シ地下村ノ自由進退ニ一任スルコトヽナリ原告村ノ所有權一層確實トナレリ而シテ此制度ハ享和二年ニ至リ廢止セラレタルモ原告村ハ依然舊政制度ノ下ニ於テ本件山野ヲ持山トシテ所有シ來レルコトヲ主張シ被告ハ舊字熊ノ森等ノ山野カ現今字向山等ノ地所ニ該當スルコトヲ認ムルモ原告ニ於テ山野ヲ所有シタルノ事實ヲ認メストト抗辯セリ依テ原告提出ノ甲第一號證乃至第二十二號證中本件所爭ノ要

點ニ最モ適切ナル甲第四號證及甲第二十二號證ニ付原被主張ノ當否ヲ說明センニ甲第四號證官要志中ニ「御林山ノ外地下持山ニ相成山稅年々定數ヲ以テ相納メ勝手次第ニ材木ニ致候」云々トアリ又甲第二十二號ノ二舊會津藩主松平家々政實記第二百五十五卷寬政九年八月ヨリ十二月ニ至ル紀事中ニ「御國山被仰付其餘ノ地下持林ニ被仰付(中略)諸木賣出候村益ノ分何レモ內端ニ見込村毎ニ山役申付云々」トアリ而シテ本件山野カ御林即官林ニアラサルコトハ甲第七號第九號及第十六號證ニ依リ明瞭ナレハ原告カ寬政以前ニ於テ之ヲ所有シタル事實ハ判明セサルモ寬政九年ノ改革ニ依リ原告村ノ持山トナリタルノ事實ヲ推定スルヲ得ヘク且爾來原告村カ此權利ヲ持續シタルコトハ甲第二十二號證ノ三家政實記第二百六十五卷享和二年正月中ヨリ六月ニ至ル紀事中ニ原告村ノ屬スル安積外五組ノ是迄ノ通リ可成置云々ト記載アル事實及甲第六號第十號第十一號等ノ諸證ニ依リ之ヲ認定スルニ足ル被告ハ之ニ對シ地下持山ナルモノハ山役銀ヲ徵收シテ設定シタル一種ノ地上權ヲ表スルモノニシテ所有權ヲ意味スルモノニアラスト主張スルモ當時官府カ地下持山トシ一定ノ山役ヲ申付地下村ノ勝手次第ニ任シタルハ即チ其所有權ヲ認メタルモノト解釋スヘクシテ地上權ノ設定ナリト謂フヘカラス尙ホ被告ハ甲第四號證ノ成立ヲ非認スルモ被告ノ爭ハサル甲第二十二號證ト對照スレハ其記載ノ事實カ眞正ナルコト疑ヲ容ルヘカラス又原告ハ甲第一號證御年貢米勘定帳甲第二十一號證ノ二租稅皆濟目錄ニ依リ論地ニ對シ小割米及山役ヲ負擔シタルコトヲ主張シ被告ハ之ニ對シ小割米山役ハ論地ニ對シ納メタル正租ニアラサレハ所有ノ證トスルニ足ラスト論辯スルモ前述ノ如ク論地カ舊藩ノ證書ニ依リ原告村ノ所有トナリタルコト明瞭ナル以上ハ縱令之ニ對シ正租ヲ納メタル事實證據上判明セサルモ原告ノ所有地ニアラス

(115) ◉國有林ノ內樹木下戻ノ訴

三十三年第百七十三號
三十四年五月八日宣告

(秋田縣南秋田郡飛川村長代理助役佐藤鶴松對農商務大臣林有造)

原告ハ甲號數證ヲ提出シテ本訴ノ請求ヲ爲スト雖モ其主要タル甲第五號證ニハ「雜木ノ分永綴其村渡世山ニ拜領被仰付候間以來別シテ出精御山所御取立」云々トアリ甲第八號證ニモ同樣ノ文面アリテ其後段ニ至リ「御山所守護致シ」云々又「以來尙更出精守護可致」云々トアル趣旨ニ依テ見レハ右渡世山ト稱スルモノハ被告陳述ノ如ク官山保護等ノ義務ヲ負擔セシメ薪炭等ノ山稼ヲ許可シタルニ止マリ全然其樹木ニ對シ所有權ヲ附與シタルモノトハ認メ難ク故ニ維新後山林制度ノ變革ト共ニ渡世山ノ制度消滅シタル今日ニ於テ尙ホ所有權アリト主張スルハ理由ナキモノトス其他原告ニ於テ論證スル所アルモ既ニ本件主要ノ證據ヲ排斥シタル上ハ一々說明スルノ限ニアラス

(116) ◉不當處分取消ノ訴

三十三年第二百十六號
三十四年五月八日宣告

(巖手縣士族南部濟大對農商務大臣林有造)

原告ハ本件山林ハ原告ノ祖先以來代々所有シ來リタル屋敷地ナリ然ルニ明治八年地租改正及同十一年山林原野區分調査ノ際誤テ官有ニ歸シタルモノナルヲ以テ其下戻ヲ請フト雖本訴山林ニ對シテ所有權アリトノ原告ノ主張ハ單ニ無證ノ陳述ニ止マルヲ以テ其請求ヲ採用スルニ由ナキモノトス

(117) ◉御料地拂下ノ訴

三十四年第十四號
仝年五月八日裁決

(愛知縣平民日比金十郎外二名對御料局長男爵岩村通俊)

判旨○御料地拂下ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ

(第一門第一(292)判決理由參看)

(118) ◉國有林野境界查定不服ノ訴

三十三年第二百五十八號
三十四年五月二十二日宣告

(青森縣平民三上源助對青森大林區署長林務官道家充之)

原告ハ甲號數證ヲ提出シテ本訴ノ請求ヲ爲スト雖モ其主要タル甲第一號證及甲第二號證ノ一竝ニ其二ニ依レハ單ニ仕立山一个所云々或ハ抱山一个所トアリ而シテ其區域ニ付記載スル所ナキニアラサルモ其所在地ハ果シテ本件係爭ノ東目屋村大字中畑字外山十一番地及同上九番ノ一部ニ該當スルヤ之ヲ確認スヘキ證據ナキノミナラス却テ乙第二號證ノ一乙第二號證ノ二等ノ各證ニ依レハ係爭地ハ大字中畑部內ニアリテ甲第一二號證ノ地所ニ相當スルモノニアラサルコトヲ認ムルニ足ルヲ以テ原告ノ主張ハ採用スルヲ得サルモノトス

(119) ◉官有山林民有引戻ノ訴

三十三年第二百七十二號
三十四年五月二十四日宣告

(茨城縣塚原庄作對農商務大臣林有造)

原告ハ甲第一號證乃至第六號證ヲ以テ本件係爭地ハ原告先代カ累ト衞守ナル者ヨリ買受ケ爾來所有シ來リタル旨主張スルモ右甲號數證ヲ閱スルニ甲第一號證ハ原告村內薗新子村ノ地租改正

(120) ◉國有林境界查定不服ノ訴(第一門第五(292)妨訴抗辯ノ本案)

三十三年第百二十六號
三十四年五月二十八日宣告

(奈良縣吉野郡國樔村長代理助役松岡悅藏對大阪大林區署長林務官福山清利)

本件所爭ノ要點ハ奈良縣吉野郡中龍門村大字色生殿川國有林ト同縣同郡國樔村大字新子外五大字共有柴杉山トノ境界ハ被告查定ノ如ク同所大谷分流點ヨリ同郡小川村大字小栗栖村境ニ達スル境界線ナルヤ將タ原告主張ノ如ク大谷分流點ヨリ左折シ大窪ヨリ同郡小川村大字鷲家口村境ヲ貫通シタル境界線ナルヤニ在リ原告ハ其主張ヲ證スル爲甲第一號證乃至甲第二十四號證ヲ提出スレトモ甲第一號證ハ原告村內薗新子村ノ地租改正

圖ト稱スルモノニシテ甲第二十二號證ニ依リ上市稅務署備付ノ地圖ト符合スルコトヲ認メ得ヘキモ乙第一號證中龍門村内舊色生村地租改正地引圖ト論地ニ該當スル部分ニ於テ牴觸セリ而シテ甲第一號證ハ乙第一號證ノ如ク年號ノ記入ナク又村總代ノ連印ナク形式ニ於テ缺クル所アルノミナラス後段說明ノ如ク他ニ之ヲ助クル有力ノ證憑ナキヲ以テ乙第一號證ニ比較シテ信憑力劣ルモノト謂ハサルヲ得ス甲第二號證ハ地押圖ニシテ舉寬甲第一號證ニ據テ作ラレタルニ外ナラサレハ甲第一號證ニシテ既ニ前顯說明ノ如クナル以上ハ是亦有力ナル證據ト認メ難シ甲第三號證ハ文政年間原告村内舊新子村外五个村ヨリ舟津新三郎ヘ論所ニ付賣買ヲ爲シタル書類ニシテ原告ハ之ヲ以テ植樹權ハ之ヲ賣渡シタルモ地盤ハ原告ニ留保シタル證據トスルモノナレトモ乙二號證舟津新三郎ヨリ辻甚太郎役所宛差出シタル申立書ニ依レハ當時ノ御林檢地帳ニハ大久保大谷即チ査定線ヲ以テ境界トナセル事實原告村内舊六个村ハ大久保大谷ヲ二个所トシ大久保平即チ原告線ヨリ以南ニ付苦情アリシ事實及檢地帳ノ通リ受取ル爲メ出金シタル事實ヲ認ムヘク從テ甲第三號證ハ原告舊六个村ノ苦情ヲ鎭制スルニ出テタル一時ノ權宜處分ニシテ原告舊六个村ノ權利ヲ認メテ眞實ニ爲シタル賣買ト認ムルヲ得サレハ之ニ據テ論所カ原告ノ所有タルコトヲ證明スルニ足ラサルノミナラス是兩證ヲ對照スルトキハ乙第二號證ノ大久保大谷ハ二个所ニアラスシテ甲第三號證ノ大久保ノスソ大久保ナルコトヲ知ルニ足レリ甲第四號證ハ柴杉山ヲ山本甚三郎ニ賣渡シタル書類ニシテ同書ニハ四至ノ境界ヲ表示シ東ハ御林山限リトアレトモ殿川國有林ト柴杉山トハ大體南北相接シ論所ヲ査定線ノ如クセサレハ東西相接スル境界ヲ生セサルニ依リ之ニ據テ論所ヲ包括シテ柴杉山ノ全部ヲ賣渡シタルモノト認メ難キノミナラス乙第四號證山本甚三郎ノ下戻願附

圖面ノ朱線驚家口村境ニ出テスシテ中黑村ニ出テタルヲ以テ見レハ甲第四號證ニハ論地ヲ包括セサルモノト認ムルニ足レリ甲第五號證及甲第六號證ノ一ハ中龍門村長代理助役ノ證明書ニシテ村長若ハ助役ハ境界ヲ證明スル職權アルモノニ非サレハ宣誓ヲ經サル一個人ノ證明ニ均シク信ヲ認ムルニ足ラサルノミナラス該證明ノ根據トシタルモノハ甲第六號證ノ二三ニシテ同證ニハ大久保大谷ヨリ戀越石迄若クハ南ハ大窪大谷水流マテトアルノミニシテ大久保大谷ハ二个所ト認メ難キヲ前說明ノ如クナルヲ以テ甲第五六號證ハ共ニ採用シ難シ甲第七號證八號證及甲第二十一號證二十二號證ハ延寶八年ノ境界爭論ニ關スル書類圖面及證明書ニシテ同證大久保大谷限大久保大谷ト中ヲ限リ若クハ大谷限リトアルハ一个所ニシテ二个所ノ地名ニアラサルコト前說明ノ如クナル以上ハ是亦原告ノ主張ヲ確ムルニ足ラス之ヲ要スルニ甲第一號證ハ舊記ニ照シテ據ル所ナキニ反シ乙第一號證ハ乙第二號證ノ趣旨ニ適ヒ更ニ乙第四號證即チ原告ノ先代權利者タリシ山本甚三郎ノ圖面ニ依テ承認セラレタルモノナルカ故ニ乙第一號證等ニ依レル査定處分ハ相當ニシテ原告ノ主張ハ理由ナキモノトス此他ノ原告證據ハ訴訟ヲ爲スニ付テノ村會ノ決議ニ關スル書類、査定處分ニ付テノ林區署トノ往復書、地引圖地籍圖ニ付テノ中龍門村役場トノ往復書、舟津新恭ノ官林下戻申請又ハ同人ノ論所賣買ニ關スル書類等ニシテ爭點ニ直接ノ關係ナク又ハ效力微弱ニシテ前顯乙號證ノ效力ヲ破ルニ足ラサルモノナレハ一々說明セス

(121) ◉官林民地引戻ノ訴

三十三年第百二十八號
三十四年五月二十八日宣告
（福島縣相馬郡玉野村長佐藤正信對農商務大臣林有造）

原告ハ本訴請求地ハ遠ク數百年來原告玉野村ノ所有ニシテ爾來經ヌル使用收益シ來リタルモノナリト主張シ甲第一號證乃至甲第三號證及甲第六號證乃至甲第十八號證ヲ提出シタルニ依リ其證據ヲ閱スルニ甲第一號證ニハ公有地玉野村内山反別未定ナル旨記載アルノミニシテ何レノ場所ヲ指示スルヤ明カナラス之レニ準聯スル甲第二號證一筆限帳二百五十番字トヤカハナ百五十二番字イタキ山百五十三番字副靈山百五十四番字小坂山百五十五番字石ノドツ百五十六番字靈山百五十七番字フタツクボトアルモ右七字カ現今ノ三字即チトヤカハナ靈山副靈山ニ變遷シタリトノ事實ヲ視ルヘキ確證ナク原告ハ甲第九、十號證ノ圖面ヲ以テ右變遷ノ事蹟ヲ立證セントスルモ該九號證ニハ靈山副靈山ヤキコツレ板木山ノ四字ヲ記載シアルニ止マリ又右十號證ノ圖面ハ原圖ナク明治七年ノ頃取扱人カ單ニ其記臆ニ依テ調製シタルモノニ過キサレハ孰レモ甲第二號證ニアル七字カ現今ノ三字ニ變遷シタリトノ證據トスルニ足ラス甲第三號證ハ下草刈取ニ關スル記事ニ過キス甲第六號證乃至甲第八號證ハ領分境若クハ下草ニ關スル記事ニ止マリ又甲第九號裏書及甲第十二號證乃至甲第十六號證ハ孰レモ領分境ニ關スル記事ニシテ山林地盤ノコトニ關係ナキモノナレハ原告ノ主張ヲ確カムル證據トスルニ足ラス其他甲第十七號證ノ下草刈取ニ關スル記事ノ如キモ本訴請求地ニ關スルモノナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナク甲第十八號證ハ爲取替書ト題スル書面ニシテ是亦相馬領福島領雙方ノ入會ヲ定メタル文面ニ止マレハ孰レモ原告所有ノ證據ト爲スニ足ラス以上說明スル如ク原告提出ノ甲號數證ハ原告村ニ於テ古來ヨリ本訴請求地ヲ所有シ來リシ事實ヲ證スルニ足ラサルヲ以テ原告ノ請求ハ其理由ナキモノトス

(122) ◉脫落民有地引戻編入請求ノ訴

三十三年第百三十六號
三十四年五月二十八日宣告
（茨城縣平民松塚卯助外九名對內務大臣男爵末松謙澄）

原告ハ原告提出附屬書及ヒ甲號各證ニ依リ本件係爭地ヲ原告等ノ民有ニ編入セラレタリト云フト雖本訴係爭地ハ附屬書第二號乃至第四號證及ヒ甲第一號證乃至甲第四號證等ニ徵シテ一旦民有地ト爲リシコトアル事實ハ認メ得ラルヽモ其後賣買讓與等ノ結果初メ何人ヨリ何人ノ所有ニ移轉シ又更ニ轉々シテ何人ヨリ原告ノ所有ニ歸シタルモノナルヤ其等ノ事實ニ關シテハ根據トスヘキ確證亦モアラサルヲ以テ原告本訴ノ要求ハ之ヲ採用スルニ由ナキモノトス

(123) ◉民有地不當査定取消ノ訴

三十三年第百八十四號
三十四年五月三十一日宣告
（新潟縣北蒲原郡堀越村長樋口壽平對農商務大臣林有造）

原告提出ノ甲號各證ヲ按スルニ單獨ニ就テ之ヲ判斷スレハ原告ノ主張ヲ確ムルニ充分ナラスト雖モ甲第六號證ニハ「一御用之竹木竝雜木ニ而モ御林當村ニ無御座候」「一當村ニ百姓山御座候云々」「山名ハ菱ケ嶽ト申候云々」甲第十一號證ニハ「一米貳石六升里村持山山手米御口米共云々」甲第十二號證ニハ發テ論山ヲ賣却セントスルニ當リ一部村民ノ故障顯ハレテ是等甲號數證ヲ綜合シテ甲第一號甲第九號等ノ各證ニ參照シ考按スレハ原告カ古來論地ヲ所有スルノ事實ヲ認定スルニ足ル然レハ原告ハ明治三十二年法律第九十九號ノ下戻條件ニ適合スルモノトシ請求スヘキ權利アルヲ以テ被告ハ之ヲ拒ムヲ得サルモノトス

(124) ◉山地竝ニ立木取戻ノ訴

三十一年第五十三號
三十四年六月三日宣告

（嚴手縣士族岩城基規後見人今藤平民高橋隆信對農商務大臣林有造）

原告ハ係爭山林ハ維新ノ際一旦沒收セラレタルモ其後伊達家ノ重臣ヨリ辨事役所ニ請願シ再ヒ原告ニ下渡サレタルモノニシテ其事ハ甲第七號證ニ依リ明カナリト主張スルモ該證願文ニ「舊領郡村居住ノ臣屬何分多人數ニテ悉皆新封ノ地ヘ爲取移可申樣無之且是迄士卒ニテ耕耘罷在候テ爲取移候得者自然人員相減田畑荒廢ノ基ニ相成且強テ取移候ニモ新封內之內ニハ新封丈ケ人員有之以前ノ臣屬不殘扶助仕候儀行屆可申樣無御座」云々「藩士陪隷共郡村居住ノ內地所ニテ相與ヘ置手自耕耘仕有テ以テ相續罷在候分御座候右ハ其地所ニ直々相耕シ相當ノ租稅相納歸農仕候樣被成下度」云々「山林所持仕又ハ除地ト唱郡村高外ノ屋敷地ヲ所持仕居候分御座候處右ノ前々ヨリ高外ニテ無租稅ノ分御座候間是迄ノ儘被相任被下追々多分ノ開墾相成候儀モ御座候ハヽ其節租稅被召上候樣被成下度」云々トアリ而シテ其末文取締ノ藩々ヘノ達ニ「伊達龜三郎舊領上地ノ內舊藩士陪隷從前土着自分耕耘致居候者歸農願出候得ハ聞屆ケ遣シ相當ノ租稅爲相收戶口共追テ可相屆住居屋敷山野等凡テ高外ノ分ハ當分ノ所爲活計持主ヘ與ヘ置可申候」云々トアルヲ以テ之ヲ觀レハ右請願ノ趣旨ハ舊領ノ藩士陪隷ヲシテ其地ニ歸農セシメ以テ自活ノ途ヲ得セシムルニ在リ又辨事役所ニ於テモ歸農ヲ條件トシ之ヲ聞屆ケタルモノト認メサルヲ得ス然ルニ原告家ハ當時歸農ヲナシタルノ事實ナク隨テ此恩典ニ浴スルノ道理ナキニ依リ本件山林ヲ下渡ザレタルモノト認メ難ク已ニ此事實ニシテ認メ難キ以上ハ甲第一號證乃至甲第六號證及甲第八號證乃至甲第十一號證ハ假ニ信憑スヘキモノトスルモ該山林沒收前之ヲ所有シタル事實ヲ證スルニ過キサレハ本件ノ證據ト爲スノ價値ナク又甲第十二號證ハ沒收後再ヒ所有シタル事實ヲ證スルモノナルモ該證ハ唯明治六年中岩城數馬ノ所有ニ係ル岩谷野町字舘下柄抄ク城ノ立木ヲ買取リ郡役所外二个所ヲ建築シタリト云フニ過キサル何等ノ根據ナキ證明ナレハ之ヲ證據トシテ採用スルヲ得ス

(125) ◉國有山林及地上立木下戻ノ訴

三十三年第九十二號
三十四年六月三日宣告
（福岡縣朝倉郡秋月町長久野安藝對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲號諸證ヲ以テ本訴ノ山林ハ文政年間村渡山トシテ下附ヲ受ケ明治七年迄正租ヲ納メ共有シ來リタル民有ノ山林ナルヲ以テ被告ハ當然下戻スヘキモノト主張シ被告カ本件山林ニ對シ村渡山トシテ受ケタル事實及ヒ租稅ヲ納メタル事跡ナシ甲號證ハ總テ其成立ハ認ムルモ立證ノ趣旨ハ認メス要スル所原告ハ主張ノ事實ヲ證明スルニ足ルモノナシト論辯セリ按スルニ甲第八號證ハ文化年間舊秋月藩ノ郡奉行タリシ非上正敏ノ手控帳ニシテ純然タル公簿ニアラサルモ其成立ハ被告モ認ムル所ニシテ古簿册タルコト疑ナシ且其記事モ一個ノ私事ニアラスシテ公事ヲ書留置キタルモノナリ而シテ其記事中ニ「公儀山在渡山引分ケ山年貢ノ事」ト題シ「一御領內山々都テ公儀山ニ付年年大造ノ郡夫ヲ以テ仕立根サラヘ致來リ候ヘ共松雜木ハ都テ百姓依願渡來リ差テ御用ニハ不相成（中畧）依之御用材木引除跡不殘在渡山ニ相成一村限リ家別持高ニ應シ割渡聊山所年貢上納相定メ云々」トアリテ舊秋月藩內ノ在渡山ナルモノハ官地ニアラスシテ而カモ在渡山ニ山年貢ヲ納メタル事實ハ之ヲ認ムルニ足レリ然ラハ甲第一、四、五、六、七、九、十號證ニ於テ納付シタル山運上又ハ山稅ナルモノハ官地ニアラサルモノニ對シ納メタル租稅ニシテ即國有土地森林原野下戻法ニ所謂正租ヲ納メタル證アルモノト謂ハサルヘカラス被告ハ甲第三號證ニ御林又ハ御用鉄ト記載シアルヲ以テ係爭地ハ官林ニシテ民林ニアラスト論シ又其表紙ノ側ラニ「村渡山別册有」ト附記シアルヲ以テ見レハ村渡山ハ別ニアルモノナリト辯スルモ其御林又ハ御用鉄トアル文字ノミヲ取リ解釋スレハ或ハ然ルカ如シト雖其實體タル土地ニ就キ之ヲ精査スレハ本證ノ土地ハ甲第一號證ノ坪數ト全然符合シ殊ニ甲第一號證ハ純然タル公簿ニシテ該簿ニハ單ニ林又ハ鉄ト記載シアリテ毫モ官有ノ形跡ナキモノナレハ其當時私有ノ田畑ヲ御田地ト稱セシ習慣ニ由リ字ヲ冠セシモノト解釋セサルヘカラス又村渡山別册有ト表紙ニ附記シアルモ既ニ本證ノ土地數筆カ其坪數ニ於テ一步ノ差異ナク甲第一號證ニ符合スル以上ハ此一事ヲ以テ民有ニアラスト謂フヲ得ス

(126) ◉山林及地上立木下戻ノ訴

三十三年第九十三號
三十四年六月三日宣告
（福岡縣朝倉郡秋月町長中野芳太郎對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲號數證ヲ以テ本訴ノ山林ハ文政年間村渡山トシテ下附ヲ受ケ明治七年迄正租ヲ納メ共有シ來リタル民有ノ山林ナルヲ以テ被告ハ當然下戻スヘキモノト主張シ被告ハ原告カ本件山林ニ對シ村渡山トシテ受ケタル事實及ヒ租稅ヲ納メタル事跡ナシ甲號證ハ總テ其成立ハ認ムルモ立證ノ趣旨ハ認メス要スル所原告ハ主張ノ事實ヲ證明スルニ足ルモノナシト論辯セリ按スルニ甲第八號證ハ文化年間舊秋月藩ノ郡奉行タリシ非上正敏ノ手控帳ニシテ純然タル公簿ニアラサルモ其成立ハ被告モ認ムル所ニシテ古簿册タルコト疑ナシ且其記事モ一個ノ私事ニアラスシテ公事ヲ書留置キタルモノナリ而シテ其記事中ニ「公儀山在渡山引分ケ山年貢ノ事」ト題シ「一御領內山々都テ公儀山ニ付年年大造ノ郡夫ヲ以テ仕立根サラヘ致來リ候ヘ共松雜木ハ都テ百姓依願渡來リ差テ御用ニハ不相成（中畧）依之御用材木引除跡不殘在渡山ニ相成一村限リ家別持高ニ應シ割渡聊山所年貢上納相定メ云々」トアリテ舊秋月藩內ノ在渡山ナルモノハ官地ニアラスシテ而カモ在渡山ニ山年貢ヲ納メタル事實ハ之ヲ認ムルニ足レリ然ラハ甲第一、四、五、六、七、九、十號證ニ於テ納付シタル山運上又ハ山稅ナルモノハ官地ニアラサルモノニ對シ納メタル租稅ニシテ即國有土地森林原野下戻法ニ所謂正租ヲ納メタル證アルモノト謂ハサルヘカラス被告ハ甲第三號證ニ御林又ハ御用鉄ト記載シアルヲ以テ係爭地ハ官林ニシテ民林ニアラスト論シ又其表紙ノ側ラニ「村渡山別册有」ト附記シアルヲ以テ見レハ村渡山ハ別ニアルモノナリト辯スルモ其御林又ハ御用鉄トアル文字ノミヲ取リ解釋スレハ或ハ然ルカ如シト雖其實體タル土地ニ就キ之ヲ精査スレハ本證ノ土地ハ甲第一號證ノ坪數ト全然符合シ殊ニ甲第一號證ハ純然タル公簿ニシテ該簿ニハ單ニ林又ハ鉄ト記載シアリテ毫モ官有ノ形跡ナキモノナレハ其當時私有ノ田畑ヲ御田地ト稱セシ習慣ニ由リ字ヲ冠セシモノト解釋セサルヘカラス又村渡山別册有ト表紙ニ附記シアルモ既ニ本證ノ土地數筆カ其坪數ニ於テ一步ノ差異ナク甲第一號證ニ符合スル以上ハ此一事ヲ以テ民有ニアラスト謂フヲ得ス

(127) ◉國有原野下戻ノ訴

三十三年第百八十八號
三十四年六月三日宣告
（福島縣田村郡山根村長渡邊與次郎對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲第一號證乃至甲第六號證ヲ以テ磐城國田村郡山根村大字早稻川字西片草百二十七番外八十八筆國有原野面積百九十五町三反一畝二十四歩ヲ地租改正以前ニ於テ一村總持トシテ所有シ來リタル事實ヲ證シ以テ本件原野ハ原告ニ下戻サルヘキモノナリト主張シ被告ハ甲第一號證ヲ絕對ニ否認シ從テ甲第二號證以下ハ本件原野ノ下戻ヲ請求スルニ足ルヘキ

效力ナシト答辯セリ按スルニ甲第一號證ハ文政五年林山繩引覺帳ト題スルモノニシテ原告代理人カ云フ所ニ依レハ該簿ハ舊庄屋ノ宅ニ在リタル控帳ナレトモ何ノ必要ニ由リ何年頃ニ調製シタルモノナルヤ不明ナリ而シテ其記事ヲ見ルニ始メ個人持ノ山及林ヲ掲記シ其末尾ニ右私持地ニ相違無御座候何某ト一人別ニ記載シ帳簿ノ終末ニ至リ係爭地ニ該當スト云フ箇所ヲ掲記シ右ノ地所一村惣持地ニ相違無御座候早稲川村組頭早川九右衛門ト記載シアルニ止リ其性質如何ヲ知ルニ由ナキモノナレハ證據トシテ取ルニ足ラス甲第三號證ニ山野丈量野取帳甲第五號證ハ一村合帳ニシテ該帳簿ハ地券渡方ノ爲メ又ハ地租改正ノ必要ニ依リ作製シタル公簿ナルモ之ニ係爭地ヲ一村總持ト記載スルハ何レモ相當ノ根據ナカラス然ルニ原告カ其根據トスル所ハ唯甲第一號證アルノミ而シテ該證ハ既ニ前段ニ於テ說明スル如ク證據力ナキモノナレハ從テ本證モ亦證據ト爲スヲ得ス甲第四號證ハ地租改正事務局ノ達書ニシテ甲第六號證ハ地券發行ニ關スル地所取調規則ナレハ之ヲ以テ本件係爭地ノ所有ヲ證スル效力アルモノト謂フヲ得ス

(128) ◉違法處分取消山林下戻請求ノ訴

三十三年第二百二號
三十四年六月三日宣告
（福島縣大沼郡川路村大字大石代理人仝縣仝村及氷玉村組合村長長嶺直寧對農商務大臣平田東助）

被告ハ本件請求ノ目的物ノ原告カ所有シ來リタル事實竝ニ之ニ對スル納稅ハ正租ナルコトヲ認ムヘキ證左不十分ナルノミナラス乙第一號證加々山潛龍ノ覺書中一堺ノ儀ハ云々一山所ノ儀ハ云々トアリテ村方ノモノナルコトハ認メラレストモ其一ハ地堺掟ノ件其二ハ入合ヲ爲サセサルコト又松木伐採等ノ仕末方ヲ定メタルモノニシテ原告ノ所有權ナキコトヲ認ムルニ足ラス却テ同書中原告ノ證據ト爲ス一右山ノ儀手元開發爲引拂候節ハ前々通廢田ニテ無異儀可相返事右戸澤山開發云々ノ記事アルコト竝ニ該書ハ嘉永五子閏二月二十六日加々山潛龍ヨリ當時ノ肝煎菊地東吾竝ニ村役人村中ニ對シ且前書ノ通相違ナキ旨ヲ御用場齊藤林右衛門ナル者ニ對シ述ヘタルモノナルコト及其首領項ニ一南ハ上夕澤新落堀切西ハ田方切東戸澤川堺山ノ下借受耕作爲致云々等ノ文詞アルニ徴スレハ村方ヨリ公然該地ヲ加々山潛龍ニ貸與ヘタル事實アリテ土地ノ所有權ヲ行使シタルモノナルコトヲ認ムルニ足レリ隨テ甲第一號證皆濟手形ノ戸澤山年貢モ民有地タル該山ニ對シテ納付シタルモノト認定ス

(129) ◉箕面山森林下戻請求ノ訴

三十三年第二百六十五號
三十四年六月三日宣告
（大阪府平民樋上顯定外三名對農商務大臣平田東助）

本訴ノ要點ハ係爭山林ハ一般ノ寺領即チ寺ノ公領ニ屬スヘキモノナルヤ將タ特ニ寺ノ私有ニ屬スヘキモノナルヤヲ判斷スルニ在リ依テ本件主張ノ證據タル甲第一號證ヲ按スルニ文簡ニシテ趣旨明確ナラス且「當寺山林之事云々被任證文旨如有來被仰付云々」トアル其證文ヲ提出セサルニ付寺有トナリタル原因ヲ知ルニ由ナク從テ其性質判明セスト雖モ其文中「自然從他鄉盜荊候者被搦推此方へ可承候云々」トアリテ恰モ領主支配地ノ如ク保護ノ法ヲ示シ又甲第三號證ニハ「當寺山林御年貢來之事云々折紙之以筋目前々ノ如ク除之云々」トアリ又原告論旨ノ如ク甲第一號證ニ依リ年貢ヲ課セラレ後年ニ至リ之ヲ免除セラレタルモノトセハ其免除以前ニ在テハ年貢ヲ納メタルヘキ筋ナルニ拘モ其證跡ナク又甲第四號證以下數證ニ論地ニ對シ進退云々或ハ甲第八十四號證以下ノ如ク論地ニ對シ永請ヲ許シタル等ノ事ハ寺領管理權ノ範圍內ニ屬スルモノト認ムヘキモノナレハ之ヲ以テ私有ノ證ト爲スニ足ラス是等ニ依テ係爭山林ノ性質ヲ考フルニ甲號各證ハ原告ノ主張ヲ認ムヘキ確證ト爲スニ足ラサルノミナラス以上ノ事實理由ニ依レハ別ニ原告瀧安寺ノ私有タル證據ノ見ルヘキモノナキ限リハ社寺上地ノ處分ノ法令ニ所謂除地ト稱スヘキモノニシテ一般ノ寺領即チ公領ノ部類ニ屬スヘキモノト認メサルヲ得ス然リ而シテ社寺上地處分ニ關スル法令ニ依レハ寺領ハ一般ニ上地セシメ特ニ社寺ニテ直作シ又ハ小作セシメ或ハ年貢諸役百姓同樣勤ムル等私有ノ證アルモノニ限リ所有スルヲ許ストノ趣旨ナレハ本件山林ノ如キ特ニ私有タルノ證據ナキモノハ上地ヲ命セラルヘキハ當然ナルヲ以テ被告カ不許可ノ處分ヲ爲シタルハ違法ナリト云フヲ得ス

(130) ◉國有林下戻請求ノ訴

三十四年第七十九號
仝年六月十三日宣告（廣島縣安佐郡大森村長宮本省三對農商務大臣平田東助）

原告ハ廣島縣安佐郡大森村字押手山國有山林段別百五十四町九段五畝一歩ノ地所ハ昔年ヨリ原告村ノ共有ナリシカ福島家安藝國ニ國入後憲野山即遊獵場トセラレ御留山ト稱シ獵留ノ山野ト爲リタリ然レトモ其半腹ヨリ下ハ從前ノ如ク自由ニ進退シ尙其內欠ケ平トチノトフ、中ノ谷ナル三小字ハ鎌札料ヲ徵收シ上町屋村下町屋村ニ苅草ヲ爲サシメ來リシニ文化十一年ヨリ下町屋村ト爭論ノ末更ラニ該山ノ半腹ヨリ上ノ下渡シヲ受ケ所有セシヲ明治十二年官有ニ編入セラレタルモノナレハ其下戻ヲ請求スト主張シ甲第一號乃至第四號證ヲ提出セルヲ以テ之ヲ閱スルニ甲第一號證ハ享保三年原告村ノ御建山御留山野山腰林改帖ノ書上控ニシテ押手山ナル御留山ノ半腹ヨリ下ニテ肥柴草ヲ苅取ルコトヲ記載スルニ止リ甲第二號證ハ「其村ト下町屋村草苅場及差繩候ニ付其村御留押手山以後凡半腹ヨリ上工下證ハシ候」ト記載シアリテ草ノ苅取場ヲ下證シタルモノト認メ得ヘキモ其土地ヲ下與シタルモノトハ認メ難ク甲第三號證甲第四號證モ亦柴草苅取場所取極ノ爲取替書及其地圖ニ過キスシテ共ニ土地ノ所有權ヲ認ムルノ證據ト爲スヘキモノニアラス依テ被告ノ處分ハ不當ニアラサルモノトス

(131) ◉境界查定取消ノ訴

三十三年第二百三十九號
三十四年六月十五日宣告（高知縣平民有光光興對高知大林區署長林務官山根龜吉）

本件所爭ノ要點ハ原告所有地ノ東ニ當ル境界即被告ノ管理スル字赤野濱林ノ西端ニ於ケル境界ニ付テノ論爭ナリ而シテ原告カ當法廷ニ於テ主張シタル境界線ヲ實地ニ就キ調查スルニ原告主張ノ如クスルトキハ檢證調書附屬圖ニ示ス如ク官林中ニ存スル十六本ノ松樹ハ原告所有地內ニ入ルコトヽナリ隣地ヲ侵害スルモノナルヲ以テ正當ノ境界ト認ムルヲ得ス又原告ハ更ニ實地ニ於テ右附屬圖ニ示ス如キ境界ヲ主張スレトモ其ノ境界ハ弓形ノ如キ形狀ニシテ斜線ニモアラス又直線ニアラス而シテ此ノ如キ形狀ハ地租改正圖又ハ地押調查圖ニモ適合セサルノミナラス原告ノ提出シタル何レノ圖面ニモ符合セサルモノナレハ此主張モ亦理由ナキモノトス

(132) ◉境界查定取消ノ訴

三十三年第二百四十三號
三十四年六月十五日宣告（高知縣平民有光光興對高知大林區署長林務官山根龜吉）

本件原告所有地ト被告ノ管理スル字住吉馬場東濱林トノ境界ニ付爭フ所二點アリ其第一點ハ原告所有地ノ北方ニ當ル爭ナリ而シテ原告ハ北ハ川竝日影林限リトアリ尙日影林境本六本云々トアルハ現今境界ニ存在スル

六本ノ松樹ヲ指シタルモノナリト云フト雖檢證調書ニ依レハ六本ノ松樹アルコトハ事實ナルモ極印アルモノハ一本モ存在セサルノミナラス原告第四號松ト第五號松トノ中間ニ二三年前伐採シタル松ノ切株現存スル事實ニ徵スレハ從前ニ在リテハ其數六本ニ止マラサルヲ知ルヘク且同種ノ松樹ハ官林中ニ多々現存スルノ狀況ナレハ原告ノ指定シタル六本ノ松樹ハ官林ノ南端ニ外ナラスシテ之ヲ境木ナリト認ムルヲ得ス第二ノ爭點ハ其南方ニ當リ被告ノ建設シタル第八號乃至第十一號標杭ノアル地點ハ本件官民有林ノ境界ナルヤ否ニ在リ被告ハ乙第三號官林圖ニ於テ其南方ニ袖形ノ地アルヲ以テ之ニ依リ査定シタルモノナリト云フト雖官林圖ハ官民立會ノ上作製シタルモノニ非サレハ之ヲ以テ直ニ官民有地境界ノ標準トスルヲ得サルノミナラス該圖ニ依ルモ其袖形ノ形狀ハ査定ノ境界ト符合セス且實地檢證調書及附屬圖ニ依リ之ヲ觀ルモ査定ノ地點ニ何等境界トナルヘキモノアルナシ而シテ原告ノ提出シタル甲第二號第五號及第六號證等ノ公簿ニ於テ南西ハ濱限トアルヲ以テ他ニ反對ノ證據アラサル限ハ原告所有地ト濱地ノ中間ニ官林ノ存在ヲ認ムルヲ得サレハ被告ノ此點ニ於ケル査定ハ不當ナリトス

(133) ◉山林境界不法査定ノ訴

三十三年第二百六號
三十四年六月十八日宣告　（群馬縣平民飯塚物吉（對東）京大林區署長志賀泰山）

原告ハ甲弟一號乃至六號證ヲ提出シ被告カ發第二〇五號ヲ以テ上野國多野郡三波川村字アナノ澤國有林ノ境界ヲ査定シタルハ不法ニシテ本訴山林ノ境界ハ字大クエ澤通リナル旨主張スルヲ以テ甲號各證ヲ按スルニ甲第一號證ハ被告カ發シタル本件境界査定通告書甲第三號證ハ原告カ官林盜伐被告事件ノ豫審決定書甲第四號證ハ先キニ原被告間ニ起リシ伐木損害要償事件ノ豫審決定書甲第五號證ハ其控訴ニ對スル判決正本甲第六號證ハ見込圖ニ過キサルモノニシテ是等ノ孰レモ本件係爭ノ事實關係ヲ證明スヘキ具トナスニ足ラス甲第二號證ハ右伐木損害要償事件ニ付當該官ノ作リタル檢證調書ニシテ其所記ノ如ク假令杉樹ニ境界ニ關スル文字ノ記載アリトスルモ何人カ如何ナル場合ニ於テ之ヲ爲シタルモノナルヤ認メ難キニ依リ之ヲ以テ本訴ノ證據トナスニ足ラス然リ而シテ被告ノ査定線ハ被告提出ノ乙號證ニ依ルモ符合セサル點アルノミナラス被告ハ明治三十三年十二月二十六日附ヲ以テ「官民有區分境界査定ニ關スル國有林字名及地番變更訂正ノ義ニ付上申」ト題シ當裁判所ニ書面ヲ提出シ後ニ至リ公廷ニ於テ之ヲ取消シタルモ其書面中「國有林ヲ先キニ群馬縣多野郡三波川村字アナノ澤トセシハ全ク調査上ノ誤謬ニシテ其實同縣同郡同村字竹谷戸第三千六百七十七番國有林ニ有之候云々」ト言明シタル事實モアリテ被告ノ査定ハ正確ヲ缺ク所アルカ如シト雖モ本訴ニ於テハ前說明ノ如ク原告ノ主張ヲ認ムヘキ證據ナシ

(134) ◉山林下戻請求ノ訴

三十四年第五十二號
仝年六月十八日宣告　（盛岡縣平民千葉等怡外三名對農商務大臣平田東助）

原告ハ本訴備後國壁三郡三次町字中所四百四十六番地ノ山林八段六畝十四歩ハ舊藩主淺野長治ニ於テ先考長晟報德ノ爲メ風源寺ヲ創建シ境內地面一萬坪即段別三町三段三畝十歩ヲ附與セラレシモノヽ內ニ屬シ明治九年地租改正ノ際現境內及共葬墓地又ハ有稅耕地ト爲セシ殘地ニシテ境外上地ノ處分ヲ受ケタルモノナリ而シテ風源寺ノ所有地タリシコトヲ覺ヘキ數多ノ證據ハ明治十六年火災ノ爲メ燒失シタレトモ尙數證アリトシテ甲第一號證乃至第六號證ヲ提出セリ因テ之ヲ閱スルニ其第一號乃至第三號證ハ這般ノ山林下戻申請書指令書及交付書ニシテ土地所有ノ證ト爲スヘキモノニアラス第五號第六號證ハ上地處分ニ由リ官有地ニ編入セラレタル事實ヲ證スルニ過キス又第四號證ノ棟札ナルモノハ原物ノ提出ナキヲ以テ其眞僞ヲ判定スルニ由ナキノミナラス假リニ之ヲ眞正ノモノナリトスルモ裏面ニ「寺境御免地一萬坪永山門免齋供之資」トアリテ免租地ナリシコトヲ知リ得ヘキモ私有地トシテ之カ讓與ヲ受ケタルノ證據ト認ムルニ足ラス

(135) ◉國有森林下戻請求ノ訴

三十三年第二百四十五號
三十四年六月二十九日宣告　（秋田縣平民菅太郎（右衛門外二名對農商務大臣平田東助）

原告ノ主張ハ本件山林ハ元タツチラ澤石倉前平ト稱シ原告先代助右衛門多郎右衛門多郎兵衛三名ノ共有ニシテ其事實ハ第一號證文化五年田林永代取替證文第二號證天保五年田林永代賣渡證文及第四號證嘉永四年役內村山帳ニ依リ明ナリト云フニ在レトモ該山帳ニハ「、タツチラ澤石倉前平林主助右衛門佐五右衛門太兵衛六之丞一、同澤之內林主太郎右衛門權右衛門一、タツチラ澤石倉前平林主六兵衛ト記載シアリテ係爭地ハ右助右衛門等ノ外尙他人モ之ヲ所有シ居レリ然レハ第一號證及第二號證ハ假ニ之ヲ正確ノモノトスルモ原告先代カ係爭地全部ヲ所有シタル證ト爲シ難ク又之ヲ其一部ヲ所有シタル證トシテ見ルモ其何レニ該當スルヤ知ルヘカラサレハ之ニ對シテモ證據ト爲スニ足ラス

(136) ◉國有林土地下戻申請不許可ノ行政處分取消要求ノ訴

三十三年第二百三十七號
三十四年七月二日宣告　（德島縣平民瀨谷辰之助對農商務大臣平田東助）

判旨○官有ト訂正シタル土地ニ對シ自己ノ所有權ヲ主張スル者ハ更ニ他ノ證據ヲ以テ官有地ト訂正シタルコトノ誤謬ナリシ事實ヲ證セサル可ラス

原告ノ本件係爭地ハ原告ノ被相續人タル瀨谷忠助ノ所有ニ屬シタリシニ地租改正ノ當時誤テ官有地ニ編入セラレタルニ依リ瀨谷忠助ノ權利ヲ承繼シタル原告ハ當然其所有者タルヘキニ被告カ下戻申請ヲ容レス不許可ノ處分ヲ爲シタルハ違法ナリト爲シ甲第一號證乃至甲第五號證ヲ以テ瀨谷忠助カ地租改正ノ當時ニ於テ本件係爭地ノ所有者タリシコトヲ證セントスルモ甲第一號證ニハ「暮坪之林金子三分ニ相讓リ申候處實正ニ御座候云々」甲第二號ニハ「暮坪向前ノ林（中略）山境ハ上ニ岩下ニ杉有リ東ハ大石アリ上ヘハソヲ境ニ御座候云々」甲第三號證ニハ「一金壹分也但シ境ノ儀ハ刈明境ニ御座候云々」甲第四號證ニハ「一金三兩三分也大久保山一ケ所右ハ今度午御年貢ニ相詰リ（中略）右山境ノ儀ハ入ハ蔭右衛門山小ツヲ境上ハ柏屋平三郎山境下ハ林藏山平間境今標ニ相定メ云々」トアリテ甲第一號證甲第二號證及甲第四號證ニ記載スル地名ハ本件係爭地ノ字名ト一致セサルノミナラス甲第一號證ニハ土地ノ境界ヲ記載セス甲第二號證乃至甲第四號證ニハ境界ヲ記載スルモ其記載ヲ分ナラスシテ共ニ其土地カ本件係爭地ニ該當スルコトヲ證スルニ足ラス又甲第五號證ノ第一第三及第四ニ記載スル土地ノ地番ハ本件係爭地第一第三及第四ノ地番ト符合セス甲第五號證ノ第二ニ記載スル土地ノ反別ハ本件係爭地第二ノ反別ト符合セサルカ故ニ同一ノ土地ト認ムルヲ得サルノミナラス該證ニハ所有者ヲ記載スヘキ場所ニ瀨谷忠助ト墨書シタルヲ朱字ニテ官有地ト訂正シアルカ故ニ該證ハ其記載ノ土地ヲ以テ一旦瀨谷忠助ノ所有ナリトシテ取調ヘタルモ後ニ至テ官有地ト訂正シタルコトヲ證スルニ過キスシテ原告

ニシテ之ヲ以テ其被相續人タル福谷忠助ノ所有權ヲ有セシコトヲ證明セントセハ更ニ他ノ證據ヲ以テ官有地ト訂正シタル旨ヲ證セサルヘカラス然ルニ原告ハ此點ニ於テ何等ノ證據ヲ提出セス結局原告ノ主張ハ其據ル所確的ナラサルヲ以テ原告ノ請求相立タス

(137) ◉杉立木下戻請求ノ訴

三十三年第百七十八號
三十四年七月四日宣告　（福岡縣平民梅根健次郎外三十一名對農商務大臣平田東助）

原告提出ノ甲第一號證ノ一乃至三十二舊秋月藩廳ヨリ原告ノ祖先舊桑野村及小野谷村々民三十二名ニ下付シタル賞與狀ニ「杉苗百本拜領仕立地ヲモ被貸渡候成長之上子孫迄ニ取用可申候事」トアリ甲第二號證舊秋月藩ニ其山林ヲ福岡縣廳ニ引渡ス際調製シタル炭山葺山渡方其外殘分取調子帳ニ桑野村中桑野村ノ內嘉麻峠一、杉山一ケ所但借捨ノ節御貸與仕立杉伐殘小野谷村中、桑野村ノ內嘉麻峠、二、杉山一ケ所但右同斷トアリ而シテ甲第六號證明治八年ノ地租改正圖ニ字嘉麻峠ト記載シタル杉林一ケ所之レアルニ參照スレハ甲第一號證ノ杉苗仕立地ハ甲第二號證ニ「桑野村中」「小野谷村中」トシテ二筆ニ記載シタル杉山ニ該當スルヲ認ムヘク又其嘉麻峠ハ即甲第六號證ノ嘉麻峠ナリト認メサルヲ得ス

被告ハ甲第一號證ハ眞正ノモノニアラサレハ證據力ナク又甲第二號證ハ公簿ニアラス且村ノ名受ニシテ個人ノ名受ニアラサレハ個人持ノ證據トナスニ足ラスト云フモ甲第一號證ハ證書其物ニ就キ之ヲ觀察スルモ又鑑定人三名ノ見ル所ニ依ルモ眞物ト認メサルヲ得ス甲第二號證ハ舊秋月藩廳ヨリ福岡縣ニ差出シタル山林取調帳ナレハ公簿ト謂フヘク又其「桑野村中」「小野谷村中」ナル記載ハ一見村受ノ如キ觀アルモ北村有ニアラサルヲ觀レハ或ハ所有者ノ多人數ナルカ爲メ斯ク記載シタルヤモ知ルヘカラサレハ直ニ之ヲ以テ個人持ニアラサル證ト爲スヲ得ス又被告ハ乙第一號證宮野村々民田中新次郎外一名カ營林主事杉村俊吉ノ尋問ニ對シ答ヘタル問答筆記ヲ以テ現今ノ嘉麻峠官林ノ杉ハ文政七八年頃舊秋月藩ニ於テ栽培シタルモノナル事右杉ハ仕立杉トハ全然別物ナル事仕立杉ト稱スルモノハ嘉麻峠官林ヨリ東北ニ當リ道ヲ隔テ左ニアリテ明治八年地租改正前殆ト皆伐採シタル事其場所ハ現今畑ニ成リ居ル事右畑地ハ地租改正前共ニ嘉麻峠ト稱ヘシモ改正ノ際之ヲ區別シ今ノ官林ノミ嘉麻峠ト爲シタル事大屋伊右衛門ナル者舊秋月藩廳ヨリ現今ノ嘉麻峠官林ノ樹木ノ拂下ヲ受ケタル事實アル事ヲ立證セントスルモ無證ノ陳述ナレハ之ヲ證據トシテ採用スルヲ得ス

(138) ◉官林ヲ民有ニ下戻請求ノ訴

三十三年第二百七十號
三十四年七月六日宣告　（栃木縣折原憲蔓對農商務大臣平田東助）

本件原告被告カ爭フ所ノ要點ハ蘿ニ原告カ被告ニ向テ下戻ヲ申請シタル土地ヲ自由ニ進退シタルノ確證アルヤ否ニ在リ依テ其證據トシテ提出シタル甲號諸證ヲ檢閱スルニ第一號及第二號證ニハ殿入松山或ハ殿入天神山トアリテ係爭地ハ其何レニ該當スルヤ他ニ之ヲ立證スルモノナク又第三號乃至第七號證ニ至リテハ單ニ草山或ハ收納米トノミアリテ其場所ノ何レタルヤ益明瞭ナラサレハ原告ノ訴求ハ申請地ニ對シテ自由進退シタル確證アルモノト認ムルヲ得ス。

(139) ◉土地官林下戻請求ノ訴

三十四年第三十四號
仝年七月十日宣告　（長野縣兎川祐長對農商務大臣平田東助）

原告ハ本件請求ノ山林ハ寬永年中市左衛門ナル者ヨリ譲リ受ケ爾來原告

寺院ニ於テ引續キ所有シ來リタル旨主張シ其證據トシテ甲第一號乃至甲第七號證ヲ提出スト雖モ右數證ノ中甲第一二號及ヒ甲第六七號證ハ古筆了信ノ鑑定ニ依レハ其日附當時ニ於テ成立シタルモノト認ムルヲ得ヘキモ甲第四號及甲第五號證ノ一、二ハ湯淺圭造古筆了信ノ鑑定ノ結果ニ參照スレハ執レモ其證書日附ノ當時ニ於テ成立シタルモノト認メ難シ而シテ甲第一號證ニハ單ニ小り數山云々トアリ甲第二號證ニハ藤井入阿多羅澤一ケ所云々トアルニ過キス又甲第三號證ニハ藤井入山トアルノミニシテ乙號證圖面ニ依レハ原告ノ請求山林以外ニ字アタラ澤ナル數筆ノ山林各所ニ散在セルヲ以テ右數證ニかり數山若クハ藤井入トアルニ依リ之ニ記載セルかり數山若クハ藤井入山カ本件請求ノ山林ニ該當スルモノトハ認メ難シ甲第六七號ノ各證ニ記載アル唐松三千本ノ如キハ果シテ本件請求ノ山林ニ之ヲ植付ケタルモノナルヤ知ルニ由ナシ以上ノ如クナレハ原告ノ本訴請求ハ其理由ナキモノトス

(140) ◉官有地ヲ民有地ニ引戻請求ノ訴

三十三年第七十四號
三十四年七月十日宣告　（福島縣安積郡赤津村長眞田健三對農商務大臣平田東助）

判旨○地下持山ト稱スル制度ニ據リ民有タル證據ノ存スル土地ハ納租ノ有無ヲ問ハス之ヲ下戻スヲ正當トス

被告ニ於テハ本件宇薙ノ山千九十四番地官有草山外十五筆ノ官有林野カ原告ノ所有タルヘキコトヲ否認スレトモ甲第十七號官要志中ニ「御林山ノ外地下持山ニ相成山稅銀年々定數ヲ以テ相納メ勝手次第ニ材木ニ致候」云々トアリ又甲第十八號證ノ二舊會津藩主松平家々政實記第二百五十五卷寬政九年八月ヨリ十二月ニ至ル記事中ニ「御園山被仰付其餘ハ地下持林ニ被仰付（中略）諸木實出候村益ノ分何レモ内端ニ見込村毎ニ山役申付」云々トアリ而シテ本件林野カ御林即チ藩有ニアラサリシコトハ甲第三號證ノ一二甲第十號證及甲第十三號證ニ依リ明瞭ナレハ寬政八年ノ改革ニ依リ原告村ノ持山トナリタル事實ヲ推定スルヲ得ヘク且ツ爾來原告村カ此權利ヲ持續シタルコトハ甲第十八號證ノ三家政實記第二百六十五卷享和二年正月ヨリ六月ニ至ル記事中ニ原告村ノ屬スル安積外五組ハ是迄ノ通リ可成證云々ト記載アル事實及甲第四號證ノ一甲第五號證等ニ依リ之ヲ認定スルニ足ル被告ハ之ニ對シ寬政ノ改革ニ於テ御園山及地下持山ナルモノハ松山ニ關スルモノニシテ假ニ一歩ヲ讓ルモ本山ニ關シテハ施行セラレタルモノニシテ野山草山薪炭山等ニハ關係ナシ從テ本件山野ノ如キハ地下持山トシテ下渡サレタルモノニアラスシテ普通ノ野山トシテ村方ニ其毛上ヲ刈取ラセタルニ過キスト云ヒ乙第一號乙第二號證ノ一二ヲ提出シ尚甲第十七號證及甲第十八號證ノ一二三ニ付引用シテ論辯スル所アレトモ乙第一號證ハ近頃ノ作成ニ係リ乙第二號證ハ出所確カナラサルヲ以テ甲第十七號證及甲第十八號證ニ比シテ遜色ナキ能ハス故ニ甲乙兩證矛盾ノ場合ニ於テハ彼ヲ捨テ、此ヲ採リ難シ而シテ甲第十七號證及甲第十八號證ノ二ニハ前段摘示ノ如クアルヲ以テ御園山ノ外ハ總テ地下持山トシテ處分シタルモノト認ムヘク被告摘示ノ他ノ記事ヲ以テ右認定ヲ打消スニ足ラス又地下持山ナルモノハ山役銀ヲ徵收シテ設定シタルモノナレハ原告ニ於テ山役銀ヲ納メタルコトヲ立證セサルヘカラスト云フモ山役銀ヲ以テ地下持山設定ノ要件トスルトノ事跡ノ徵スヘキモノナキヲ以テ山役銀ハ地下持山ニ對スル租稅ト看做スヘク而シテ地下持山ノ制度ニ依リ原告ニ於テ本件山野ノ所有權ヲ得タルコト前々段說明ノ如クナル以上ハ租稅ノ納否ハ不必要ノ爭ナルカ故ニ說明ヲ與ヘス

(141)
◉山林下戻ノ訴

三十四年第二百二十九號
三十四年九月三十日宣告

（栃木縣平民小笠原宮門
對農商務大臣平田東助）

原告ハ栃木縣下都賀郡三鴨村大字甲三千二百四十六番地山林一町五反七畝一歩ハ慶長十三年領主城代小笠原内記一族ノ縁故ニ依リ盛光院ニ寄附セラレタル境内三町歩餘ノ内ナルヲ以テ明治三十三年法律第九十九號ニ基キ原告ニ下戻サルヘキモノナリト云ヒ甲第一號證乃至甲第十一號證ヲ提出シテ主張スル所アリト雖甲第一號證ハ「宮屋敷如先々諸役有間敷候依先規之通無相違つけ可進候爲其如此手形出シ候以上慶長十三年四月四日小笠原内記貝木村盛光院」トアリテ該地ハ宮屋敷ニシテ先々ノ如ク諸役ヲ免除シ先規ノ通寄附スル旨ノ書面ナルコト知ルヘシ而シテ其末尾ニ盛光院トアルハ六所大明神ノ別當職タル盛光院ニ宛テタルモノト認ムルヲ相當トス然レハ原告ハ之ヲ以テ自己ニ受ケタル寄附證ナリト謂フヲ得ス甲第二號證ハ貝木村石高帳ノ寫ニシテ原告カ係爭地ナリト指示スル點ハ「一宮林三町餘御除地別當盛光院持」トアリテ神社ノ宮林タルモノナレハ原告私有ノ證トナラス甲第三四號證及甲第六號證ハ宮林ヲ抵當トシ通貸ヲ借用シタルノ證書ナルモ其土地ハ前段ニ說明スル如ク六所大明神ニ受ケタル除地ナルヲ以テ原告ノ自由進退地ト認ムルヲ得ス甲第五號證ハ神社並院跡記錄ニシテ該錄寺ニ依レハ盛光院ハ六所大明神ノ別當職タルコト明ニシテ且ツ正德三年山奉行ヘ願出タル事項中ニ「木數〆四十本右ハ當祠正一位六所大明神位イ金不足ニ付宮林ノ内ニテ右ノ木被下置候ハヽ、眞木ニ仕借金濟申度奉存候被下置候ハヽ、雖有奉存候伐取跡ニ苗木植付可申候以上別當盛光院」トアリテ宮林ハ原告私有ニアラサルコト明白ナリ甲第七號證乃至甲第十一號證ハ本訴係爭地カ根元ニ於テ原告ニ所有ノ事實ナキモノナレハ之ニ對シ說明スルノ要ナキモノトス

(142)
◉立木無代價下戻ノ訴

三十三年第二百三十一號
三十四年九月三十日宣告

（栃木縣平民小笠原宮門
對農商務大臣平田東助）

原告ハ栃木縣下都賀郡三鴨村大字甲三千二百四十三番地ハ慶長年間ヨリ原告祖先ニ於テ拜領シ累代自費ヲ以テ苗木ヲ植付及ヒ看護ヲ爲シ來リタルニ明治五年上地ヲ命セラレ困難相極リタルニ依リ自費栽培ノ絲放ヲ申立明治十七年杉五百八十七本檜三本椚百五十一本ハ無代價ニテ下渡相成リタリ然レトモ其際調査漏ノモノ立木一千一百十二本アルヲ以テ之ヲ原告ニ下戻スヘシトノ判決ヲ請フト云ヒ甲號各證ヲ提出シテ其事實ヲ證明セントスルモ本件ノ土地ハ六所大明神ノ宮屋敷ニシテ原告ノ私有ニアラス而シテ原告カ本訴ニ引用スル明治三十三年第二百二十九號行政訴訟事件ノ甲第五號證中正德三年山奉行ヘ願出タル事項ニ「木數〆四十本右者當村正一位六所大明神位イ金不足ニ付宮林之内ニ而右立木被下置候ハヽ眞木ニ仕賣掃借金濟申度奉存候被下置候ハヽ、雖有奉存候伐取候跡ニ苗木植付可申候以上別當盛光院」トアルニ依レハ則チ盛光院ハ別當職タル神社財產ノ管理權ヲ以テ伐木ヲ出願シ又神社ノ負債ヲ辨濟シテ其伐本跡ヘ苗木ノ植付ヲ爲スコトヲ申立タル事實ナリ然レハ本訴ノ立木ハ原告カ自費植付ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス

(143)
◉境界查定不服ノ訴

三十三年第二百五十一號
三十四年九月三十日宣告

（福島縣平民菊地豫太郎對
福島大林區署長林駒之助）

原告ニ於テハ被告ノ爲シタル境界查定ヲ不當トシ原告所有字甲子山ト官有字朝日山及字小白森字大白森トノ境界ハ甲第二號證ノ如ク自然ノ溪流及南會津郡界ヲ以テ境界ト爲スヘキモノナリト主張スト雖其根據トスル主要ナル證據ハ甲第二號證ニシテ同證ハ畢竟明治二十二年ノ調製ニ係ル地押圖ニ非サルト證明ニ外ナラス而シテ地押圖ハ明治十六年ノ調製ニ係ル地籍圖ト論地ノ境界符合セサル所アルニ拘ラス之ヲ訂正シタルモノト認ムルニ足ルヘキ事由ヲ證明スルモノナシ尤甲第四號證及證入星孫八ノ陳述ハ原告利益ノ證明者ノハ證言ナリト雖乙第七號證南會澤村地籍圖三十五番字界峠上方ニハ嘗ニ西白河郡鴇生村トシテ境界ヲ示セルニ過キスシテ甲子山タルコトヲ明示セサルヲ以テ甲第四號證ノ根據ナキ證明ニシテ星孫八ノ陳述モ亦同シク相當ノ根據ナキ證言ナレハ共ニ信用シ難シ然レハ地籍圖ト地押調查圖ト互ニ牴觸スル場合ニ於テ當時ノ作成ニ係ル地籍圖ニ重ヲ置クヲ相當トス而シテ實地ノ形狀ニ於テモ將タ甲子山ノ反別ニ於テモ查定境界線ハ略地籍圖ノ形狀反別ニ適合セルモノト認ムルニ足ルヲ以テ地押調查圖ニ據レル原告ノ攻擊ハ理由ナキモノトス

被告ニ於テハ字江森山ノ境界ニ關スル原告ノ請求ヲ排斥シ江森山ハ東北二面赤澤國有林ヲ以テ包圍セラレ字大白森ニ境ヲ接セスト云フト雖乙第一號證官林圖及明治十六年ノ調製ニ係ル鴇生村全圖ニ據ルモ江森山ハ西北背線ヲ以テ大白森ニ隣接セルコト明ニシテ地押調查圖ノ境界線ノ形狀モ亦略之ト異ナルコト無キ而シテ該背線ハ實地ノ形狀ニ於テ白水川ニ該當スルモノナレハ江森山ノ四北方面ハ白水川ノ溪流ヲ以テ其境界ト爲スヘキハ當然ニシテ之ヲ越エテ赤澤國有林ノ境界ヲ定メタルハ理由ナキモノトス又被告ハ江森山東南方面ニ於ケル查定線ハ國ヨリ官林圖、地籍圖等ニ據リ定メタル所ナレトモ地押圖ニ照シテモ江森山ト赤澤トノ境界ヲ表示シタル點線ニ相當スト云フト雖圖面及實地共ニ山河自然ノ形狀ニ據リ境ヲ定メタルニアラス從ツテ境界トシテ特徵ノ見ルヘキモノナケレハ查定線ハ果シテ地押圖ノ點線ニ該當スルモノト認メ難シ然レトモ東南阿武隈川ニ合流スル赤澤ノ溪流ヲ以テ江森赤澤ノ境界ナリトスル原告ノ主張モ亦不當ナリ何トナレハ地籍圖ニ於テハ東南方面江森赤澤ノ境界線ハ黑線ニシテ溪流ヲ表示スヘキ背線ヲ以テセサルノミナラス地押圖ニ於テモ該溪流ハ赤澤國有林ノ一部ヲ貫流スル溪流タルコト明カニシテ原告ノ主張線ハ何等ノ根據ナキモノナレハナリ按スルニ地押調查圖ニ於テ江森山ノ東南方面ノ境界ヲ表示セル點線ハ其形狀ニ於テ略官林圖及地籍圖ノ同方面ニ於ケル境界線ニ相當スル而シテ實地臨檢ノ結果ニ依レハ阿武隈川ニ沿ヒ白河ニ通スル街道ヲ下ル十數町ニシテ川ヲ隔テヽ對面ノ山林中樹木ノ伐痕アリテ點々山頂ニ達スルコトハ被告ノ爭ハサル所ナリ此ノ伐痕ヲ傳フテ登ルトキハ一條ノ劃線ヲ形成スルコトヲ得ルモノニシテ境界ヲ表示スル爲メニ存在スルモノト認ムルニ足レリ原告ハ之ヲ以テ江森山三番四番ノ境界ヲ表示スル爲メ設ケタルモノナリト云フモ何等據ルヘキ證據ナシ卽地押調查圖ニ於ケル江森山ト赤澤トノ境界ヲ表示シタル點線ハ自然ノ地形ニ基ツキタルモノニアラサレハ實地ニ於テ境界ヲ標識シタルモノアルヘシト看ルハ相當ナレハ前現伐痕ノ年輪及時代ニ徵シテ該伐痕線ハ地押圖ノ點線ニ該當スルモノト認定ス從テ四番ノ地盤ハ點線以内ニ包括セラルヽモノト認ムルニ付甲第六號證ニ付テハ說明ノ要ヲ認メス之ヲ要スルニ江森山ノ境界ハ地押調查圖ニ依テ定ムヘキモノニシテ原被雙方ノ主張ハ共ニ不當ナリ

(144)
◉不當處分取消原野下戻ノ訴

三十三年第百七十二號
三十四年十月四日宣告

（千葉縣香取郡山倉村大字小川區代表者
小村長磯部和助對農商務大臣平田東助）

判旨○秣苅取ヲ許シタル事實ハ毛上ニ關スル權利ヲ證シ得ヘキモ所有ノ事實ヲ確ムル證據ト爲スニ足ラス

原告ハ本訴請求地ハ古來原告ハ小川區ニ於テ所有シ來リ該地ニ對スル租稅モ甲第一號乃至第七號證ノ如ク野永又ハ野稅ト稱シ原告小川區ニ於テ上納シ來リタリト主張スルモ右甲號數證ヲ因スルニ之カ記載ノ簡所ニハ字番號畝歩等ノ記載ナキヲ以テ該野永若クハ野稅ハ何レノ地所ニ對スルモノナルヤ之ヲ確認スルニ由ナク本訴請求地ノ以外ニ原告小川區所有ノ原野ナキノ事實ヲ以テ甲第一號證乃至第七號證ニ記載シアル野永若クハ野稅ハ本訴請求地ニ對シ納付シタルモノトハ認メ難シ又原告ハ淺間窪谷ノ山ノ地所ハ古來隣村大寺村ニ秣苅取ヲ許シ其報酬トシテ年々草代ヲ徵收シ且ツ原告小川區ニアル本橋ノ改築修繕ヲ爲サシメ來リタル事實ニ依ルモ該地ノ原告小川區ノ所有タルコト明カナリト云フモ右大寺村ニ秣苅取ヲ許シタル事實ハ毛上ニ關スル權利ヲ證シ得ヘキモ未タ所有ノ事實ヲ確ムル證據ト爲スニ足ラス又甲第八號證ノ裏書狀ニハ「芝地ハ境無之入會野ト相見候云々元來爲入會野ハ野林共總入會秣可苅之但有來候立木ハ可爲如前々自今以後新開林一切不可致之」トアリテ入會秣場ノ裁許ニシテ地盤所有ノ確證ト爲スヲ得ス甲第十號證ニハ民有地ト記載シアルモ後ニ官命ニ依リ爲シタル訂正ノ誤ナルコトヲ證スヘキ他ノ確證ナキ以上ハ單ニ該記事ノミヲ採テ原告ノ主張ヲ確ムルニ足ラサルモノトス

(145) ◉保安林解除請求ノ訴

（東京市平民小原勝五郎
對農商務大臣平田東助）

原告ハ曩ニ東京府廳ヲ原告ノ出願ヲ却下スルニ際シ係爭山林ヲ多摩川水源ノ涵養ニ必要ナキ箇所ナリトシ之ヲ其理由ト爲シタルニ拘ハラス今回被告ニ於テハ該山林ヲ多摩川水源ノ涵養ニ必要ナル箇所ナリトシ保安林ニ編入シタルハ其理由前後相容レサルモノニシテ不當ノ處分ナリト云フト雖モ假令東京府廳カ係爭山林ヲ多摩川水源ノ涵養ニ必要ナキ箇所ナリトシ之ヲ理由トシテ原告ノ出願ヲ却下シタリトスルモ之カ爲メ後日ニ開リ之ト反對ナル事實ヲ認メ得可カラスト爲スヲ得サルノミナラス曩ニ東京府廳カ原告ノ出願ヲ却下シタル際果シテ係爭山林ヲ以テ多摩川水源ノ涵養ニ必要ナキ箇所ナリトシ之ヲ却下ノ理由ト爲シタルヤ否此點ニ付テハ原告ニ於テ何等證明スル所ナク却テ原告代理人ノ當法廷ニ於ケル申立ニ依レハ當時東京府廳ハ原告ノ出願ニ對シ單ニ之カ却下ヲ爲シタルニ止マリ何等ノ理由モ付セサリシコト明瞭ナリトス左レハ原告主張ノ論旨ハ一モ根據ナキモノナルヲ以テ被告カ爲シタル保安林ノ編入ハ之カ爲メ取消シ得ヘキモノニアラス

(146) ◉不當境界査定告示取消ノ訴

三十二年第百五號
三十四年十月二十五日宣告

（福島縣南會津郡田島町大字栗生澤區共有地管理者仝町
長鈴木弘二對東京大林區署長島田剛太郎原告從參加人
仝縣知事
有田義資）

原告ハ本件係爭ノ境界ハ原告主張ノ如ク男鹿嶽ノ壹番岳ヨリ其峯通リ弐番岳ヲ經テ參番岳ノ頂上ニ到リ所謂三方界ヨリ右折シ「カラタキソヲ」ノ

條通リ大ホツチ山ノ頂上ニ通スル線ニシテ其事實ナルコトハ原告ノ提出ニ係ル諸證ニ徵シ明瞭ナリト云フト雖モ甲第一號證ハ原告ノ調製ニ係ル見取圖ニ過キサレハ採テ以テ裁判ノ資料ニ供スルコトヲ得ス甲第二號證ハ栗生澤ノ測量圖ニシテ甲第三號證ニ基キ調製シタルモノナレハ甲第三號證ト共ニ說明スヘシ甲第三號證ノ測量土圖ニシテ明治十一年八月山野改正ノ際丈量シタル野取帳ナリト云フモ果シテ野岩兩國ノ國境殊ニ本件係爭ノ境界ヲ丈量シタルモノナルヤ否本證自體ノミニ就テハ之ヲ知ルニ由ナシ依テ本證ニ基キ調製シタル甲第二號證ヲ栗生澤地籍圖ナル甲第四號證ト對照スルニ彼是其形狀大ニ異ナル所アリ即チ栗生澤横川兩村境界線ノ方位ノ如キ甲第四號證ニ在テハ卯ヨリ酉ノ方位ニ向ヒ屈曲シアルニ拘ラス甲第二號證ニ在テハ辰巳ヨリ戌亥ノ方位ニ向ヒ屈曲セリ又字桑澤ノ位置ノ如キモ甲第四號證ニ在テハ三方界ニ接近シアルニ拘ハラス甲第二號證ニ在テハ三方界ノ北東木ノ股矢澤ノ兩字ヲ經テ其次ニ位セリ而シテ甲第四號證ハ那須郡百村ノ人民總代及同村戸長竝ニ南會津郡栗生澤村ノ人民總代及同村戸長等ノ記名調印アルモノナルニ反シ甲第二號證ハ何人ノ記名調印モナキモノナリ依テ甲第二號證ハ信ヲ措クニ足ラス隨テ甲第三號證モ又野岩兩國ノ國境殊ニ本件係爭ノ境界ヲ測量シ其方位問數ヲ記載シタルモノト認ムルヲ得ス甲第四號證ハ前述ノ如ク百村横川栗生澤三村ノ人民總代及同村戸長等ノ記名調印アルモノニシテ最モ信ヲ措クニ足ルモノナリ然ルニ原告ハ本證ノ三方界ニ該當スル箇所ヲ以テ男鹿嶽三番岳ノ頂上ニシテ所謂三方界ナリト主張セントスルモ前顯既明ノ如ク本證ニ於ケル栗生澤横川兩村境界線ノ方位ハ卯ヨリ酉ノ方位ニ向ヒ屈曲シアルニ反シ實地ニ於テハ男鹿嶽ノ三番岳ヨリ大ホツチ山ヘノ方位即チ原告主張ノ栗生澤横川兩村境界ノ方位カ辰巳ヨリ戌亥ノ方位ニ向ヒアルコトハ臨檢調書ニ徵シ原被雙方ノ是認スル所ナリ左レハ原告カ本證ノ三方界ニ該當スル箇所ヲ以テ男鹿嶽三番岳ノ頂上ニシテ所謂三方界ナリトノ主張ハ其當ヲ得ス依テ本證ハ原告ノ主張ニ副ハサルモノナリトス甲第五號證ハ百村ノ地圖ニシテ甲第六號證ハ百村ノ舊擔當人松本駒重及月井柳平ノ證明書ナリ原告ハ之ニ依リ水ノ股川及蛇尾川ノ間ニ經ル峯ヲ以テ男鹿嶽ノ三番嶽即チ所謂三方界ナルコトヲ證明セントスルモ甲第五號證ニ對シテハ乙第三號證ナル反證アルヲ以テ此兩號證ヲ彼是對照スルニ其形狀互ニ異ナル所アリ而シテ乙第三號證ハ百村ノ改租圖ニシテ那須郡百村ノ地租改正擔當人及同村戸長同郡木綿畑村地租改正擔當人及同村戸長同郡鳴田村地租改正擔當人及同村戸長竝ニ同郡湯宮村戸長等ノ記名調印アルモノナルニ反シ甲第五號證ハ一個人タル月井柳平及月井兼吉ニ於テ之ヲ勝寫シタリトノ記入アルニ止リ村總代又ハ村役人等ノ記名調印ナキモノナリ依テ甲第五號證ハ信ヲ措クニ足ラスシテ原告ノ主張ヲ確ムル材料ト爲スヲ得ス甲第六號證ニ付テハ乙第六號證ナル反證アルノミナラス證人訊問ノ結果竝ニ前顯甲第五號證ト乙第三號證トヲ比較シタル結果ニ依ルモ正確ニ事實ヲ證明シタルモノト認ムルヲ得ス甲第七號證ナル證審決定書ニ依リ被告人等カ免訴ノ宣告ヲ受クタルハ原告主張ノ如ク地盤カ民有地ニ屬スル故ニ非スシテ盜伐其モノニ付キ證憑不十分ナリト云フニ在レハ原告ノ主張ヲ證明スル具ト爲スニ足ラス甲第八號證ナル參謀本部ノ調製ニ係ル二十萬分ノ一ノ地圖竝ニ甲第十號證ナル下野國全圖ハ孰レトモ正確ナル測量ヲ經テ調製シタルモノト認ムルヲ得サレハ共ニ信ヲ措クニ足ラスシテ原告ノ主張ヲ確ムル具ト爲スヲ得ス其他原告ハ乙第三號證及證人訊問調書ヲ引用シテ木ノ股川及蛇尾川ノ間ニ經ル峯ヲ以テ三番嶽即チ所謂三方界ナリト主張セ

ントスルモ乙第三號證ニハ木ノ股川及蛇尾川ノ間ニ當リ男鹿嶽山ナルモノアルモ原告主張ノ如キ男鹿嶽ノ三番岳ナリト認メ得ヘキモノナシ又證人訊問調書ニ月井柳平カ「木ノ股川ト蛇尾川トノ間ニ聳ユル峯ヲ三方界ト思フ」ト答ヘタル所アルモ其「思フ」トハ證人自己ノ推察ニ過キスシテ事實ヲ明確ニ證言シタルモノト云フヲ得ス要スルニ原告ノ提出ニ係ル甲第一號證乃至甲第八號證及甲第十號證ハ何レモ原告ノ主張ヲ確ムル具トナスニ足ラスシテ其他ノ原告ノ主張モ亦前顯說明ノ如ク其理由ナキモノナルヲ以テ被告カ爲シタル査定處分ハ之カ爲メ取消シ得可キモノニアラス

(147) ◎官林樹木下戻請求ノ訴

三十三年第七號
三十四年十月二十九日宣告（秋田縣秋山熊吉對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲第一號證ニ依リ本訴樹木ノ下戻ヲ請求スト雖モ甲第一號證ハ僞造ニシテ眞正ノモノニアラサル旨既ニ當城控訴院ノ確定判決モアリテ本件ノ證據トシテ正確ノモノト認メ難シ

(148) ◎不當處分取消原野下戻請求ノ訴

三十四年第六十二號
全年十月二十九日宣告（茨城縣平民中澤倉之助對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲第一號乃至第五號證ニ依リ本訴原野ノ下戻ヲ請求スト雖モ其主要ノ證據タル甲第一二號證ハ其紙質及墨色ニ徵スルモ正確ノモノト認メ難キノミナラス假令其成立眞正ナリトスルモ唯漠然甲第一號證ニハ「山崎天神社地續原一圓ハ見捨地ニ被仰付候云々」甲第二號證ニハ「右之荒畑地並ニテ不動建場惡敷願有之候ニ付谷上被下候云々」トノミアリテ其位置竝ニ區域判明セスシテ而シテ原告ハ別ニ立證スル所ナキヲ以テ果シテ本訴ノ請求地ニ該當スルモノナルヤ確認シ難シ然ラハ甲第三號乃至五號證ハ正眞ノモノトスルモ單ニ是等ヲ以テ本訴請求ノ證據トナスニ足ラス

(149) ◎私木引渡請求ノ訴

三十三年第二百六十一號
三十四年十一月十四日宣告（歷手縣士族山邊直正對農商務大臣平田東助）

本件ハ文化六年以降原告ニ於テ其所有地ニ杉栗數萬木ヲ植立之ヲ舊南部藩政府ニ差上度出願シテ獻木ト爲リタル後現今ニ至リ其存在スルモノニ就キ爭訟スルモノナリ而シテ其要點ハ獻木ナルモノハ舊藩制度ニ於テ之ヲ悉皆木ト云ヒ所有權ヲ移シタルニアラス植林ノ保護ヲ受クルマテニテ明治八年歷手縣第百四十四號達ニ基キ民有ニ歸スヘキモノナリヤ否又官木タルヘキモノハ明治二十五年十月伐採シタル杉四尺廻リ以上栗五尺廻リ以上ノ尺度ニ由リ定マルモノナルヤ或ハ安政二年前後ノ樹齡區別ニ由テ定マルモノナルヤ否ニ在リ第一歷手縣明治八年第百四十四號達ハ歩合植立木ノ拂下出願者ノ心得方ニシテ本件ハ原告カ成立ヲ認メタル乙第三號證乙第四號證中爲ス志奉差上度云々ノ文詞ニ徵スレハ植立ノ杉栗定數ヲ全ク獻納シ即所有權ヲ移轉スル一種ノ方法ヲ履行シタルモノナリ隨テ該縣達ヲ適用スヘキモノニアラス第二明治二十五年杉四尺廻リ以上栗五尺廻以上ヲ伐採シタルハ官民有木ヲ區別シタル結果ナリトノ原告ノ主張ハ其證左ナキノミナラス其後原告カ官民有木ヲ區別スル標準木ヲ定ムル爲メ大林區署ト協定シ而シテ其協定ハ安政二年以後ノモノニ付協定シタリトノ供述ニ依レハ安政二年以前植立ノ杉栗ニシテ尚右尺度以下ノ官木アルコトヲ認メ官民有ノ區別方法ヲ協定シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ原告ノ陸中國磐手郡瀧澤村第十地割三百二十九番ノ內十八號湯船澤靈山民林七町八段三畝二十五歩ノ地域ニ存在スル立木全部下戻シノ請求ハ

(150) ◎不當處分取消山林下戻請求ノ訴

三十四年第八十一號
三十四年十一月十六日宣告（千葉縣寒川郡清海村長吉野甚一郎對農商務大臣平田東助）

判旨○山役ナル名稱ヲ以テ毛上ノ收益ニ對シ納メタル稅金ハ國有土地森林原野下戻法第二條第二號ノ正租ト認ムルヲ得ス（國有土地森林原野下戻法第二條第二號）

原告ハ本件係爭山林ハ明治八年マテ原告ノ自由ニ進退シタル共有林ナリシニ誤テ官林ニ編入セラレタルモノナルヲ以テ下戻ヲ受クヘキ權利アルコトヲ主張シ第一號乃至第九號證ヲ以テ原告ハ係爭地ニ付明治八年マテ正租ヲ納メ來リタルコトヲ證セムトスルモノナリ原告カ第一號乃至第九號證ニ掲クル稅金ヲ納メタルコト並ニ原告モ亦之ヲ認ムルカ故ニ結局本件ノ爭點ハ原告カ納メタル稅金ハ明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法第二條第二號ノ所謂正租ナリシヤ否ヤニ在ルモノトス而シテ第一號證及第六號證乃至第八號證ニ於テ山錢、山稅又ハ地稅ト稱スル所ノモノハ第二號證乃至第五號證ニ於テ山役ト稱スルモノト同一ノモノヲ指稱スルモノナルカ故ニ原告ノ納メタル稅金カ正租ナリシヤ否ヤ右山役ナルモノハ毛上ノ收益ニ對スル稅金ナルヤ將タ山林其物ニ對スル稅金ナルヤヲ決スルコトニ依テ定マルヘキモノナリ依テ按スルニ第九號證ハ「一永三百二十五文山役是ハ當村內字鬼子澤山ヱ上ケ郷ト唱拾七ケ村入會薪取來リ右山役當村限リ上納仕來申候」トアルヲ以テ原告カ納メタル山役ナルモノハ原告カ他村ト共ニ鬼子澤山ニ入會ヲ爲スカ爲ニ納メタル稅金ナリト謂ハサルヘカラス而シテ他村ト共ニ鬼子澤山ニ入會ヲ爲スノ故ヲ以テ納ムル稅金ハ即チ毛上ノ收益ニ對スル稅金ニ外ナラサレハ之ヲ以テ明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法第二條第二號ノ正租ナリト認ムルヲ得ス

(151) ◎違法處分取消山林下戻請求ノ訴

三十四年第三十九號
全年十一月二十二日宣告（福島縣士族初瀨川健增對農商務大臣平田東助）

右原告ハ本件係爭地カ原告ノ所有ニ係リ地租改正ノトキマテ之ニ付テ山年貢ヲ納メタルコトヲ主張シ第一號證乃至第三號證ニ記載スル土地ニシテ原告カ本件係爭地ニ該當スト爲ス所ノモノヲ見ルニ其字各本件係爭地所在ノ字名ト符合セス原告ハ之ヲ以テ地租改正ノ際改稱シタルモノナリト言フモ其事實ヲ認ムル可キ何等ノ證據ヲモ提出セサルヲ以テ第一號證乃至第三號證ニ依テハ原告カ本件係爭地ヲ所有シタリシ事實及之ニ付テ山年貢ヲ納メタリシ事實ヲ認ムルコト能ハス又第四號證ハ原告ノ納付シタル山稅ノ總額及苗小谷村ヨリ納メタル山稅ノ總額ヲ記載スルニ止マリ其納メタル山稅ハ何レノ山林ニ關スル租稅ナルヤヲ知ルヲ得サルヲ以テ原告カ本件係爭地ニ付テ山稅ヲ納メタルノ證ト爲スコト能ハス結局原告ノ主張ハ一モ其據ルヘキ所アルヲ見ス

(152) ◎官林立木下戻事件不當處分取消ノ訴

三十四年第六十九號
全年十一月廿八日宣告（茨城縣根本謙久之丞對農商務大臣平田東助）

判旨○國有土地森林原野下戻法第二條ニ所謂所有ノ事實トハ實際ニ其事實アルヲ謂フモノニシテ單ニ

所有ニ歸スヘキ希望アルモノヲ包含セス（國有土地森林原野下戻法第二條）

本件ハ茨城縣多賀郡高原村字小松澤二百六十四番官林二百十四町九段一畝五歩ニ存在スル杉立木一萬千本ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其理由トスル所ハ甲第一號證舊水戸藩東郡奉行桑原幾太郎ヨリ下付セラレタル畧付ニ『天保年中多賀郡高原村字小松澤御立山植立ノ節前前ヨリ杉苗木ヲ心懸ケ置郡合一萬千本植付獻納ニ差出此先無事成木相成候節ハ縦ヘ子子孫孫タリト雖萬一浮伏等有之候時ハ此畧付ヲ以テ願出申可シ其上ハ御筋ヘ申立可下渡者ナリ』トアルニ依リ該立木ハ原告ノ所有ニ歸スヘキモノナレハ國有土地森林原野下戻法第二條ニ所謂所有ノ事實アルモノナリト謂フニアレトモ同法第二條ノ所有ノ事實トハ實際ニ其事實アルヲ謂フモノニシテ本件立木ノ如キ未タ所有ニ至ラサルモノハ之ニ該當セス

（153）◉官有山林下戻請求ノ訴

三十四年第九十八號　（秋田縣平民堀川龍助對）
仝年十一月二十八日宣告　（農商務大臣平田東助）

本件ハ原告ヨリ被告ニ對シ明治三十四年一月三十一日付指令ヲ取消シ秋田縣仙北郡田澤村田澤字倍田二十一番官有山林反別一町八反歩同村同字二十二番官有山林反別一町二反歩立木共原告ニ下戻スヘシトノ判決ヲ請求スルモノニシテ原告ハ本訴地所ハ甲第一號證ニ記載セル他ノ地所ト共ニ古來郷有地ナリシヲ嘉永五年中狩人分ケト爲シ漆ヲ植付ケタルヲ以テ村民各箇ノ所有ト爲リ地券發行ノ際ニハ各自ニ地券ヲ下付シ明治十三年度山野區分調査ノ際ニモ之ヲ民有ト爲シ本訴地所ヲ除クノ外他ノ三十三筆ハ現今皆村民ノ所有タリ然ルニ原告ハ山野區分調査ノ際他行不在ニシテ實地立會ヲ爲ササリシヨリ誤テ官有ニ編入セラレタルモノナリト主張シ甲第一號證甲第二號證ヲ提出セリ被告ハ本訴地所ハ茨藩ヨリ引繼ノ運上山ナリ運上山ノ官有ナルコトハ該圖ノ凡例ニヨリ明カナリ又甲第一號證中『倍田内川ヨリ猿倉マテ』トアレトモ『右猿倉マテ』ハ後ノ記入ニ係リ信ヲ置キカタク倍田内川トアルノミニテハ本訴地所ヲ指シタルモノト認メカタシト主張セリ因テ案スルニ甲第一號證ハ或部分ヲ除ケハ被告モ其成立ヲ認ムル所ニシテ而シテ該證奥書ニ『郷地之内前條ノ通符人分ケ致シ割合等無之事ニ相定メ植立候事ニ取極申候』トアレハ該證前文ニ記載スル倍田内川即チ原告カ漆植立ヲ爲シタル地所ハ郷地ニシテ運上山即チ官山ニ非サルコト明カナリ被告ハ字倍田ト稱スル地所ハ運上山圖中ニ記載スル地所ニシテ即チ運上山ナリト謂フモ該圖ニ民有地ヲモ記入シアルコトハ被告モ認ムル所ナレハ同圖ハ運上山ノミヲ記載セルモノト認メカタキヲ以テ甲第一號證ニ記載セル字倍田内川ハ同證ニ依リ郷地ナリト認メサルヲ得ス又右奥書中符人トアルハ箇人ト謂フト同意義ナルコト原被陳述ノ符合スル所ニシテ其『郷地之通符人分致シ』トハ郷地ヲ箇人ニ分割所有スルノ意ニ解釋セサルヲ得ス而シテ原告カ本訴地所ニ對シ甲第二號證字倍田ノ地券ヲ受ケタルコトハ被告モ認ムル所ナレハ原告ハ即チ甲第一號證ニ依リ分割所有セシ倍田内川ノ地所ニ對シ本訴地所ノ地券ヲ受ケタルコト知ルヘシ以上ノ理由ナルヲ以テ本訴地所ハ原告ノ所有ニシテ誤テ官有ニ編入セラレタルモノト認定ス

（154）◉國有林下戻申請不當處分取消ノ訴

三十四年第百三號　（和歌縣山平民安部有慶）
仝年十一月二十八日宣告　（對農商務大臣平田東助）

本訴ハ原告ヨリ被告ニ對シ和歌山縣西牟婁郡湊村大字湊六百五十七番字神田國有林荒反別九反九畝歩ノ下戻申請ニ對スル不許可ノ處分ヲ取消シ

右國有林ヲ原告ヘ下戻スヘシトノ判決ヲ請求スルモノニシテ即チ原告ハ本訴山林ハ同村ノ鬮鶏神社ノ境外上地ナリ右鬮鶏神社ハ往昔新熊野十二社權現ト稱シ原告祖先熊野別當湛增カ其所有地湊村片山里即チ現今ノ鬮鶏神社境内及ヒ本訴山林内ニ造營シタルモノニシテ本訴山林ハ即チ原告祖先ノ所有ナリシモノナリト主張シ第一號證乃至第十五號證ヲ提出シ被告ハ熊野別當湛增カ造營シタル新熊野十二社權現カ現今ノ鮮社鬮鶏社ナリトスルモ其境内地カ原告祖先ノ私有地ナリト認ムルコトヲ得ス又本訴山林ハ元新熊野十二社權現ノ境内地ナリトスルモ其下戻ハ原告一己ノ資格ニ於テ請求スルコトヲ得サルモノナリト抗辯セリ因テ按スルニ原告ノ提出スル諸證ノ中本訴山林カ原告祖先ノ所有ナリシコトヲ證セントスルモノハ第一號證ノ二乃至六ニ過キス而シテ該證中一モ本訴山林カ原告祖先ノ私有ナリシコトヲ認ムヘキモノナク唯タ第一號證ノ二ナル由緒書ニ原告ノ祖先ナリト云フ湛增カ片山里ヘ新熊野十二社ヲ造營スルハ必スシモ其造營者ノ私有地ニ限ラサルヲ以テ別ニ該神社境内カ原告祖先湛增ノ私有ナリシコトヲ立證セサル以上ハ單ニ其神社ヲ造營セシノミヲ以テ該境内カ原告祖先湛增ノ私有ナリシモノト認ムルヲ得ス又原告ノ第一號證ノ六ノ二ニ依リ本訴山林ノ檢地ヲ受ケタリト云フモ其檢地ハ該神社境内トシテ之ヲ受ケタルモノニシテ原告祖先ノ私有ナリトシテ之ヲ受ケタルモノニアラサレハ是レ亦原告祖先ノ私有ナリシコトヲ證スルニ足ラス之ヲ要スルニ原告ノ諸證ハ總テ本訴山林カ原告祖先ノ私有ナリシコトヲ證スルニ足ラス

（155）◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百四十三號　（巖手縣平民館澤鶴藏對）
三十四年十一月二十八日宣告　（農商務大臣平田東助）

原告ハ陸中國巖手郡太田村大字猪去第二地割十五番三助山官林ノ内小字外明通リ小名高森山林大凡段別一町八段歩境界東長根切西道切南上鹿妻山境切北道切及同所小字内明通リ小名日カケ平山林大凡段別一町歩境界東長根切西澤切南長根切坂上鶴根切北道切ノ地所ハ天保十年五月買受ケ又同所小字内明通山林大凡段別七町七段歩境界東細越御山長根切西澤切南澤切北根堀場長根上ハ木落シ横道下ハ澤切ノ地所ハ慶應三年二月買受ケ内明通ヘハ明治五年杉植付ヲ爲シ現ニ生育セルモノ二百本其他雜木共毎年手入ヲ施シ地租改正前ハ之ヲ所有シ來リタルモノナレハ該山地並ニ立木共下戻ヲ請求スト甲第一號證乃至第四號證ヲ提出シ被告ハ右買受ケノ事實ヲ認メス又甲第一號證甲第三號證ハ其成立ヲ認メス且場所ハ出訴ノ山林ニ適合セサルヲ以テ請求ニ應シ難シト抗辯セリ依テ按スルニ原告ノ主要ナル甲第一號證甲第二號證ハ假令其成立ヲ正當ノモノナリトスルモ證書面記載ノ地所名カ本件請求ノ地所ニ適當スルコトヲ對照スヘキ證據無キニ因リ該地所ハ原告ノ所有地ナリト認ムルニ由ナシ

（156）◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百四十四號　（巖手縣平民館澤寅藏對）
三十四年十一月二十八日宣告　（農商務大臣平田東助）

原告ハ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第二地割九十番大澤官林ノ内字姥懐ノ内小字姥懐山林反別六町歩ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要トスル甲第一號證ハ假リニ正確ノモノトスルモ該證ニ記載ノ土地ハ其位地ヲ對照シテ之ヲ明確ナラシムルニ足ル證據ノ認ム可キモノナキヲ以テ原告請求地ニ該當スルモノト認ムルヲ得ス

（157）◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百四十五號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民佐々木善右衛門對農商務大臣平田東助）

原告ハ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第三地割九十番大澤官林ノ內字姥懷ノ內小字姥懷山林反別十三町歩境界東澤切西横根切南嶺切北澗切ノ地所ハ慶應三年三月買受ケ又同所小字廢子山林反別四町歩境界東澤切西道切南洞切北カマ澤切ノ地所ハ明治四年十二月買受ケタルモノニシテ遙々杉木植立其他ノ雜木ニ至ルマテ買得以來手入ヲ施シ用材薪炭等自由ニ伐採處分シ地租改正當時マテ之カ所有權ヲ有シタルモノナレハ該山林並ニ立木共下戻アリタシト請求シ甲第一號乃至第五號證ヲ提出セリ被告ハ右買受ノ事實ヲ認メス又甲第一號證甲第二號證ハ其成立ヲ認メス且其調所ハ出訴ノ山林ニ適合セスト抗辯ス依テ案スルニ原告ノ主要トスル甲第一號證甲第二號證ハ假令其成立ヲ正當ノモノナリトスルモ證書面記載ノ地所カ本件請求ノ地所ニ適當スルコトヲ對照ス可キ證據ナキニ因リ該地所ハ原告ノ所有地ナリト認ムルニ由ナシ

(158) ◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百四十六號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民館澤仁太郎對農商務大臣平田東助）

本訴ハ原告ヨリ被告ニ對シ陸中國巖手郡太田村大字猪去第二地割十五番三助山官林ノ中小字根堀場凡反別三町五反歩ノ下戻申請ニ對スル不許可ノ處分ヲ取消シ右山林ヲ原告ニ下戻ス可シトノ判決ヲ請求スルモノニシテ而シテ原告ハ本訴山林ハ原告カ仝村館澤久吉亡祖父小右衛門ヨリ買受ケ地租改正マテ所有シ來レルモノニシテ元原告ノ所有ナリシモノナリト主張シ被告ハ原告カ本訴山林ヲ買受ケ所有シタル事實ハ之ヲ認メス又其場所モ實地ニ適合セスト抗辯セリ因テ按スルニ原告ハ本訴山林ヲ買受ケ地租改正マテ所有セリト云フモ其買受ケタル證書ハ燒失セリト云ヒ之ヲ提出セサレハ果シテ本訴山林ヲ買受ケタルモノナリヤ之ヲ知ルニ由ナシ

(159) ◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百四十七號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民館澤助右衛門對農商務大臣平田東助）

本件ハ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第二地割十五番三助山官林ノ內小字一盃森山林大凡五町五反歩ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要ノ證據ハ甲第一號證山林買得證文ナルモ之ニ記載シアル地所カ果シテ請求地ニ該當スルヤ他ニ確カナル證據ノ對照スルモノナキヲ以テ之ヲ認ムルニ由ナク隨テ該證ヲ假ニ眞正ノモノトスルモ本件ノ證據ト爲スニ足ラス

(160) ◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百四十八號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民館澤三治對農商務大臣平田東助）

原告ハ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第二地割十五番三助山官林ノ內小字瀨波澤山林大凡反別九町壹反歩仝小字姥懷山林大凡反別壹町歩仝小字明通リ山林大凡反別五町五反歩仝小字大膳澤山林大凡反別九町歩ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要トスル甲第一號證ヲ假リニ正確ノモノトスル該證ニ記載ノ土地ハ其位置ニ對照シテ之ヲ確認スルニ足ル證據ナキヲ以テ原告請求地ニ該當スルモノト認ムルヲ得ス

(161) ◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百四十九號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民天沼定吉對農商務大臣平田東助）

本件ハ甲第一號乃至第五號證ニ依リ巖手縣巖手郡太田村上鹿要第四地割百九番壓澤官林ノ內大字程堀山林大凡反別四町八反二畝二十四歩ハ原告ノ

(162) ◉官地下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百五十號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民天沼定吉對農商務大臣平田東助）

本件ハ巖手縣巖手郡太田村大字上鹿要第二地割九十八番ノ內十一三澤官林ノ內小字飯森澤山林捨五町貳反歩下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要ノ證據ハ甲第一號證山林買得證文ナルモ之ニ記載シアル地所カ果シテ請求地ニ該當スルヤ他ニ之ヲ認ムルニ由ナク隨テ該證ハ假ニ眞正ノモノトスルモ本件ノ證據ト爲スニ足ラス

(163) ◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百五十一號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民佐々木善左兵衛對農商務大臣平田東助）

本件ハ陸中國巖手郡太田村大字猪去第三地割九十番大澤官林ノ內小字作リ道山林大凡反別捨六町五反歩下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要ノ證據ハ甲第一號證山林買得證文ナルモ之ニ記載シアル地所カ果シテ請求地ニ該當スルヤ他ニ確カナル證據ノ對照スルモノナキヲ以テ之ヲ認ムルニ由ナク隨テ該證ハ假ニ眞正ノモノトスルモ本件ノ證據ト爲スニ足ラス

(164) ◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百五十二號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民館澤久吉對農商務大臣平田東助）

判旨○御山守ナル言辭ハ普通ノ意義ニ於テ私有タルノ事實ヲ證スルニ足ラズ

本件ハ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第二地割捨五番三助山官林ノ內小字館澤官林大凡捨四町歩同小字根堀場山林大凡壹町五反歩ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其理由トスル所ハ甲第一號證弘化四年ノ御代官所惣御山木數改壹上帳ニ原告ノ祖先小衛門ナル者「三助山御山守」ト記載シアルヲ以テ本件山林ニ對シ所有權アリト云フニアレトモ「御山守」ナル言辭ハ他ニ其記載カ私有ノ證タルヲ證スヘキモノナキ以上ハ之ヲ普通ノ意義ニ解スルノ外ナキニ依リ單ニ之ノミヲ以テ所有權ヲ與ヘシモノト認ムルヲ得ス

(165) ◉官地民有事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百五十三號
三十四年十一月二十八日宣告（巖手縣平民佐々木金太郎對農商務大臣平田東助）

原告ノ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第三地割九十番地大澤官林ノ內小字糸カ瀨流山林九町壹反歩ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要タル甲第一號證ハ假ニ正確ノモノトスルモ該證ニ記載シアル土地ハ其位置ヲ對照シテ之ヲ確認スルニ足ル證據ナキヲ以テ原告請求地ニ該當スルモノト認ムルヲ得ス

(166) ◉官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴

三十三年第百五十四號
三十四年十一月廿八日宣告（巖手縣村上久藏對農商務大臣平田東助）

原告ハ陸中國巖手郡太田村大字上鹿要第十九地割七十三番小和田山官林

段別五町七段一畝廿四歩境界東道切西猪去御山境南細越ヨリ道北道切ノ地所ハ文政六年四月買受其後三回ニ杉植立ヲ爲シ該樹ハ勿論其他ノ雜木ニ至ルマテ年々手入ヲ施シ地租改正ノ際ニ至ルマテ自由ニ處分シ來リタルモノナレハ該山地并ニ立木共ニ下戻シアリタシト請求シ甲第一號乃至第三號證ヲ提出セリ被告ハ右買受ケ及杉樹植立ノ事實ハ認メス又甲第一號證ノ成立ハ認メス且其ケ所ハ出訴ノ山林ニ適合セスト抗辯ス依テ按スルニ原告ノ主要トスル甲第一號證ハ假令其成立ヲ正當ノモノナリトスルモ證書面記載ノ地所カ本件請求ノ地所ニ適合スルコトヲ對照スヘキ證據無キニ因リ之ヲ以テ原告ノ所有地ナリト認ムルニ由ナシ

(167) ㊞ **官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴**

三十三年第百五十五號
三十四年十一月二十八日宣告　（巖手縣平民中村久三郎　對農商務大臣平田東助）

本訴ハ原告ヨリ被告ニ對シ陸中國巖手郡太田村大字上鹿妻第四地割百九番蟹澤官林ノ內小字上蟹山林凡反別九町九反貳畝拾九歩ノ下戻申請ニ對スル不許可ノ處分ヲ取消シ右山林ヲ原告ニ下戻スヘシトノ判決ヲ請求スルモノニシテ而シテ原告ハ本訴山林ハ祖先傳來ノ所有山林ニシテ同山林內ニハ神社一箇所墓地二箇所アリ其神社ハ慶長年間原告祖先ノ創設ニ係リ其後屢堂宇ヲ改造セシモ其費用ハ原告之ヲ支辨セリ又其墓地ノ內一ケ所ハ現ニ原告之ヲ所有シ他ノ一ケ所ハ分家中村松太郎ノ墓地ニ同人ヘ讓與セリ又本訴山林內ニハ文政三年原告四代前ノ祖久兵衛ニ於テ杉苗ヲ植立現ニ生育繁茂セルモノ五百本アリ安政三年三月亡父久之丞ニ於テ杉植立ヲ爲シ目下生育セルモノ五百本アリ其他ノ樹木ハ祖先以來用材薪炭材トシテ隨意ニ處分シ來レリ又本訴山林ハ文政十一年三月原告四代前ノ祖久兵衛ニ於テ盛岡市井筒屋善助ニ他ノ田畑宅地等ト共ニ一時賣渡シ更ニ弘化三年三月之ヲ買戻シ地租改正マテ原告ノ所有ナリシモノナリト主張シ甲第一號證乃至第六號證ヲ提出シ被告ハ原告カ本訴山林ヲ所有シタリトノ事實ハ之ヲ認メスト抗辯セリ因テ按スルニ原告ノ主要ナル證據タル甲第一號證ハ假リニ眞正ナリトスルモ單ニ「御山壹ケ所有之內無高畑五切有之」ト記載セルノミニシテ其山ノ字及四至ノ境界ヲ記載セサレハ果シテ本訴山林ニ該當スルヤ否之ヲ知ルニ由ナシ又本訴山林內ニ神社アリトスルモ原告祖先ノ創設及ヒ原告一己ノ所有ニ係ル證ナク又本訴山林內ニ原告ノ墓地アリトスルモ本訴山林全部カ原告所有タル證トナスニ足ラス又本訴山林內ニ杉樹ヲ植付ケ其他ノ樹木ハ用材薪炭材トシテ隨意ニ處分シ來レリト云フモ其立證ナク其他甲第二號證乃至第六號證皆本訴山林カ原告所有タルコトヲ證スルニ足ラス

(168) ㊞ **官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴**

三十三年第百五十六號
三十四年十一月二十八日宣告　（巖手縣平民樋下春藏　對農商務大臣平田東助）

原告ハ陸中國巖手郡太田村大字上鹿妻第四地割百九番蟹澤官林ノ內小字程堀山林大凡反別一反二畝二十八歩境界東嶺限リ西細越道限リ南程堀洞限リ但細道限リ北大洞南ノ大長根限リノ地所ハ祖先傳來ノ財產ニシテ一時他人ニ賣却セシモ更ニ買受ケ弘化二年及萬延元年ノ兩度ニ杉樹植立ヲ爲シ現ニ存在シ其他雜木ノ如キモ杉樹ト共ニ手入ヲ爲シ地租改正ノ際マテ所有シ來リタルモノナレハ該山地并ニ立木共下戻アリタシト請求シ甲第一號證ヲ提出セリ被告ハ右買受ノ事實ハ認メス又該證ノ成立ヲ認メス且其箇所ハ出訴ノ山林ニ適合セスト抗辯ス依テ按スルニ甲第一號證ハ假令其成立ヲ正當ナリトスルモ該證書面記載ノ地所カ本件請求ノ地所ニ適當スルコトヲ對照スヘキ證據無キニ因リ該地所ハ原告ノ所有地ナリト認ムルニ由ナシ

(169) ㊞ **官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴**

三十三年第百五十七號
三十四年十一月二十八日宣告　（巖手縣村上與五郎　對農商務大臣平田東助）

原告ハ巖手縣巖手郡太田村大字上鹿妻第四地割百九番小字蟹澤官林ノ內蟹澤山林大凡反別二町六反四畝十歩ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要トスル甲第一號證ハ假リニ正確ノモノトスルモ該證ニ記載ノ土地ハ其位置ヲ對照シテ之ヲ確認スルニ足ル證據ナキヲ以テ原告請求地ニ該當スルモノト認ムルヲ得ス

(170) ㊞ **官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴**

三十三年第百五十八號
三十四年十一月二十八日宣告　（巖手縣山口仁助　對農商務大臣平田東助）

本件ハ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第四地割四十六番狼子澤官林ノ內小字小增平山林三町五反歩ノ下戻ヲ請求スルモノニシテ其主要ノ證據ハ甲第一號證山林貸得證文ナルモ之ニ記載シアル地所カ果シテ請求地ニ該當スルヤ他ニ確カナル證據ノ對照スルモノナキヲ以テ之ヲ認ムルニ由ナク隨テ該證ハ假ニ眞正ノモノトスルモ本件ノ證據ト爲スニ足ラス

(171) ㊞ **官地民有下戻事件不當處分取消ノ訴**

三十三年第百五十九號
三十四年十一月二十八日宣告　（巖手縣平民山口仁助　對農商務大臣平田東助）

本件ハ甲第一號證乃至三號證ニ依リ巖手縣巖手郡太田村大字猪去第三地割九十三番大澤官林ノ內字姥懷ノ內小字赤根山反別三町歩ノ原告ノ所有ナリシニ誤テ官有ニ編入セラレタルヲ以テ其下戻ヲ請求スト云フニ在リ依テ之ヲ案スルニ本件主要ノ證據タル甲第一號證ハ假令其成立眞正ナリトスルモ該證ニ記載アル地所ハ他ニ之ヲ確カムルモノナキ限リハ其位置明確ナラサルヲ以テ果シテ原告ノ請求地ニ該當スルモノナリト認ムルヲ得ス原告ハ實地臨檢ニヨリ之ヲ證セントスルモ裁判所ハ實地ニ就キ之ヲ檢スルモ之ヲ確認スルニ由ナキモノト認ムルヲ以テ之ヲ排斥シタル上ハ他ノ各證據ニ對シテハ一々說明スルノ必要ナシ

(172) ㊞ **官地引戻事件不當處分取消ノ訴**

三十三年第百六十號
三十四年十一月二十八日宣告　（巖手縣平民山口久之助　對農商務大臣平田東助）

本件ハ甲第一號乃至四號證ニ依リ巖手縣巖手郡太田村大字猪去小字八幡平山林反別七町五反歩ハ原告ノ所有ナリシニ誤テ官有ニ編入セラレタルヲ以テ其下戻ヲ請求スト云フニ在リ依テ之ヲ案スルニ本件主要ノ證據タル甲第一號證ハ假令其成立眞正ナリトスルモ該證ニ記載アル地所ハ他ニ之ヲ確カムルモノナキ限リハ其位置明確ナラサルヲ以テ果シテ原告ノ請求地ニ該當スルモノナリト認ムルヲ得ス原告ハ實地臨檢ニヨリ之ヲ證セントスルモ裁判所ハ實地ニ就キ之ヲ檢スルモ之ヲ確認スルニ由ナキモノト認ムルヲ以テ之ヲ排斥シタル上ハ他ノ各證據ニ對シテハ一々說明スルノ必要ナシ

(173) ㊞ **官有原野民有下戻ノ訴**

三十四年第三十六、三十七號
仝年十二月四日宣告

（千葉縣安房郡健田村大貫區財產管理者健田村長佐藤伊太郎　對農商務大臣平田東助）

判旨○山役米ハ普通地盤ニ對スル租稅ニ非サルヲ以テ之ヲ納メタルノ事實ハ論地ノ民有タルヲ證スル

ニ足ラス

○地押帳ニ有稅公有地村中進退トアルモ當時ノ法令ニ依レハ所有主未確定ノ土地ハ假ニ公有地ノ名稱ヲ付シ關係村ニ保管セシメタルモノナレハ之ヲ以テ民有ノ證トス爲スニ足ラス

原告ハ本訴請求地ハ古來租稅ヲ上納シ自由ニ進退處分シ來リタルモノニシテ原告ノ所有ナリト主張シ甲第一號證乃至第八號證ヲ提出セリ依テ該證ヲ檢スルニ甲第一號證年貢可納割付書ニ記載シアル米十三石七斗九升九合ノ山役米ハ本訴請求地ニ對シ納稅シタルモノナルヤ明確ナラス假リニ原告主張ノ如ク本訴請求地ニ對シ上納シタルモノトスルモ山役米ハ普通地盤ニ對スル租稅ニアラサルヲ以テ他ニ立證ナキ限ハ之ヲ以テ正租ナリト云フヲ得ス甲第二號證ノ一租稅割賦課帳甲第二號證ノ二甲第六號證各租稅皆濟帳甲第七號證田方貢米割賦帳ニ米十六石二斗九升九合ノ天保十一年度ニ成立シタル甲第一號證ニ米二石五斗山年貢米十三石七斗九升九合山役米トアル石數ヲ合計シタルモノニ過キサレハ依然山役米上納當時ト何等異ナル處ナク既ニ前說明ノ如ク該十三石七斗九升九合ノ正租ニアラサル以上ハ之ヲ以テ本訴請求地ニ對シ正租ヲ上納シタルモノト認ムル能ハス甲第三號證地押帳ニハ本訴請求地ハ村持ト記シアルモ該證ハ明治六年ノ成立ニシテ此記載ハ如何ナルモノニ基キタルヤ知ルニ由ナク全ク原告ノ村方ニ於テ作成シタルモノニシテ政府ノ公認ヲ經タルモノニモアラサレハ該記載ヲ以テ民有ノ證據トスルニ足ラス甲第四號證甲第七號證ニハ安東村外九ケ村ヨリ米十三石七斗九升九合ヲ山札米トシテ徵收シ之ヲ上納シタル如キ記載アルモ個ハ入會ノ事實ヲ證スルニ止リ該十三石七斗九升九合ノ正租ニアラサル以上ハ是亦民有タルノ證據トナシ難シ甲第八號證ニ有稅公有地村中進退トアルモ該證ハ明治七年原告ノ舊大貫村ニ於テ調成シタル地價帳ニシテ其當時ノ法令ニ依レハ所有主ノ未タ確定セサルモノハ假リニ公有地ノ名稱ヲ付シ關係村ニ保管セシメタルモノナレハ之ヲ以テ民有ノ證トスルニ足ラス其他原告ハ本訴請求地ニ苗木ヲ栽植シタリト云フモ單ニ陳述ニ止マリ何等ノ證據ナシ要スルニ本件ハ原告ノ所有地ナリト認ムヘキ證左ナキヲ以テ被告カ原告ニ對シ原野下戻ノ件聞屆ケ難シト指令シタルハ不當ナリト云フヲ得ス

(174) ◉國有土地下戻申請ノ訴

三十四年第百五十三號
（愛知縣士族横井幀太郎對）
仝　年十二月五日宣告　（內務大臣男爵內海忠勝）

原告ハ愛知縣名古屋市花車町番外三十二番道路二十二坪七合同所番外三十三番道路六十七坪八合五夕ノ土地ハ甲第一號證ヲ以テ買受ケタル屋數畑二反四畝十一歩二厘ノ內ナリシニ明治九年地租改正ノ際誤テ國有道路數ニ編入セラレタルヲ以テ之レカ下戻ヲ申請スト云ヒ甲第一號證乃至甲第五號證ヲ提出シ被告ハ本訴ノ土地ヲ原告カ明治九年ニ所有シアリタル證據ナシト答辯セリ原告ハ本件請求地ハ明治十一年十二月甲第一號證ヲ以テ大谷謙造ナル者ヨリ買得シタル地所ノ內ニ包含スル旨主張スルモ其請求地ハ明治九年ニ國有道路數ニ編入セラレ道路トシテ當時ヨリ使用セラレツヽアリシコトハ原告モ認ムル所ナレハ他ニ反證ナキ限リハ本件請求地ハ甲第一號證ノ地所內ニハ包含セサルモノト認メサルヲ得ス然レハ甲第一號證ハ本件下戻ヲ請求スル確證トナスニ足ラス其他ノ各證ハ孰レモ甲第一號證ニ付從スルモノナルヲ以テ說明スルノ必要ナシ

(175) ◉山林境界查定不服ノ訴

三十四年第十二號
仝年十二月九日宣告　（山形縣平民入間三郎對宮城大林區署長林務官有田正盛）

原告ハ被告カ羽前國西村山郡川土居村大字入間字ヲタ清水字岩清水字樺立字小中平字山ノ神ナル國有林ノ境界ヲ查定スルニ方リ原告ノ所有ナル同村同大字平七百九十四番字平林山林同所千七百九十三番字中林山林同所千七百九十三番ノ二字兀山山林ノ內ヲ前記國有林ノ內ナリトシ其境界ヲ查定シタルヲ以テ右查定ヲ變更シ字平林被告查定圖第一起點ヨリ西ニ向ヒ境ヲ境トシ屈曲シテ兩山ノ低キ所ヨリ樋老木ヲ見通シ標杭、ブナ老木ヲ經栗老木ニ至リ山ノ中腹ヨリ屈曲シテ小峯ヲ通リ岩清水澤ノ岸ニ至リ又屈曲シテ東角ニ向ヒ直線ニ查定圖第十四點ノ所ニ至リ南ニ屈曲シコノ清水澤ヲ下リ澤ノ落合ヨリ北ニ向テ小峯ヲ通リ查定圖第二十九點ヲ以テ境界トセンコトヲ請求シ被告ハ係爭地ハ國ヨリ前記國有林ノ內ナルヲ以テ原告ノ請求ニ應シカタキ旨答辯セリ因テ按スルニ第一、原告ハ本訴係爭地ノ內被告カ字樺立字小中平ナル國有林ノ內ナリト云フ場所ハ原告所有ナル字中林山林ノ內ナリ又被告カ字山ノ神國有林ノ內ナリト云フ場所ハ原告所有ナル字兀山山林ノ內ナリト主張スルモ之ヲ證セントシテ提出スル甲第二號證甲第三號證甲第七號證ノ各圖面ニハ字中林字兀山ナル山林ノ境界線記入ナキヲ以テ其境界分明ナラス又原告ハ甲第八號證甲第十一號證甲第十五號證ニ依リ該山林ノ前々所有者荒木權兵衛以來右係爭地ニ於テ所有權ヲ實行シ其係爭地內ニ於ケル栗實拾取ノ權ヲ他人ニ與ヘタルコトアリ又其雜木ヲ他人ニ賣渡シ伐採セシメタルコトアリト云フモ該證ニハ場所ノ記載詳ラカナラサルヲ以テ其所有權ヲ實行シ來レリト云フ場所ハ果シテ係爭地ニ該當スルヤ否分明ナラス其他原告ノ提出スル證證皆其主張ヲ證スルニ足ラサルヲ以テ前記係爭地ハ原告所有ナル字中林字兀山山林ノ內ナルヤ否分明ナラス其他原告ノ提出スル甲第二號證甲第三號證甲第七號證ノ各圖面ニハ字中林字兀山ナル山林ノ境界線記入ナキヲ以テ其境界分明ナラス又原告ハ甲第八號證甲第十一號證甲第十五號證ニ依リ該山林ノ前々所有者荒木權兵衛以來右係爭地ニ於テ所有權ヲ實行シ其係爭地內ニ於ケル栗實拾取ノ權ヲ他人ニ與ヘタルコトアリ又其雜木ヲ他人ニ賣渡シ伐採セシメタルコトアリト云フモ該證ニハ場所ノ記載詳ラカナラサルヲ以テ其所有權ヲ實行シ來レリト云フ場所ハ果シテ係爭地ニ該當スルヤ否分明ナラス其他原告ノ提出スル證證皆其主張ヲ證スルニ足ラサルヲ以テ前記係爭地ハ原告所有ナル字中林字兀山ナル山林ノ內ナリト認定スルコトヲ得ス第二、被告ハ本訴係爭地ノ內原告カ字平林山林ノ內ナリト云フ場所ハ字キヲタ清水字岩清水ナル國有林ノ內ナリト主張スルモ之ヲ證セントシテ提出スル乙第一號證地引繪ハ唯タ朱線ヲ以テ字平林山林ノ境界ヲ盡スルノミニシテ其朱線ハ實地何レノ所ニ該當スルカ其詳細ニ至ツテハ之ヲ確知スルコトヲ得ス又其乙第二號證地押調查圖ハ各山林字限リノ界線ヲ盡スルノミニシテ其界線ハ實地何レノ所ニ該當スルカ更ニ之ヲ知ルヲ得ス而シテ大字平林山林ノ前所有者入間清右衛門カ明治廿七年十月ヨリ明治廿八年十月マテノ間ニ於テ數次ニ數人ヘ該係爭地內ノ樹木ヲ賣渡シ伐採セシメタルコトハ甲第十二號證乃至甲第十四號證ト實地ニ其伐採ノ存在セルニ依リ分明ナリ又該係爭地ノ原告カ主張スル境界線ニ境界標杭アリ此標杭ハ右平林山林ノ前所有者カ私擅ニ建設スルモノナルカ爲メ原告主張ノ通リ明治十二年中當該官吏立會ノ上建設セシモノナルカ分明ナラスト雖モ該標杭ノ現存シ且近時ノ建設ニアラサルコトハ被告モ爭ハサル所ナリ是レ等ノ事實ニ依リ考覈スレハ右係爭地ハ從來字平林山林ノ所有者カ同山林ノ內ナリトシ公然所有權ヲ實行シ來レルモノナルヲ以テ他ニ明確ナル反證ナキ限リハ原告主張ノ通字平林山林ノ內ニシテ原告ノ所有ナリト認ムルヲ適當ナリトス

(176) ◉國有民有山林境界查定取消ノ訴

三十四年第百四十九號
仝　年十二月十日宣告　（岐阜縣田中榮太郎對石川大林區署長林務官松本收）

判旨○國有林野法第七條ノ出訴期間モ亦民事訴訟法第百六十七條ノ規定ヲ準用シ伸張日數ヲ加算スヘキモノトス（三十二年法律第八十二號國有林野

法第七條民事訴訟法第百六十七條）

○土地官民有區分ノ査定ヲ誤リタル爲メ之ヲ取消シ再査定ヲ爲スニ當リ其通知ヲ爲ササルモ之ヲ違法トシテ出訴ヲ許スノ規定ナキヲ以テ再査定取消ヲ請求スルノ理由ト爲スニ足ラス

被告ニ於テ原告ハ明治三十四年四月二十六日本件境界査定ノ通知ヲ受ケ同年七月二日本訴ヲ提起シタルモノナレハ明治三十二年法律第八十二號國有林野法第七條ノ出訴期限ヲ經過シタルモノナリト抗辯スレトモ民事訴訟法第百六十七條ヲ準用シ原告ノ住所地ヨリ本裁判所ニ達スヘキ規定ノ伸長日數ヲ計算スレハ尚ホ四日ヲ餘マシ出訴期間ハ未タ經過セシモノニ非サルヲ以テ被告ノ抗辯相立タス

原告ノ甲第一號乃至第三號證ヲ提出シ岐阜縣飛騨國吉城郡上宝村大字鼠餅區字瀧ケ洞國有林ト宇岩屋ケ谷第七百八十一番民有林トノ境界ハ明治二十五年別紙甲第一號證繪圖面「イロ」線ノ通リ已ニ査定濟ナリシニ被告ニ於テ該査定ヲ取消シタリト云フモ其通知ヲ爲サルニ由リ取消ノ效力有者ナル原告ニ立會セシメタル場所ハ川向フニシテ唯彼是ヲ指示シ遠望セシメシノミ且實地ノ踏査ヲモ爲サス僅カ一丁以内ニ三四本ノ標杭ヲ建テタルニ過キスシテ該繪圖「ハニ」線ノ如ク査定ノ通知ヲ爲シタレトモ其「イロ」線ヨリ北西ハ數十年前ノ作小屋米搗場ノ殘壓畑形等現存シ民有ノ證アレハ不當ノ査定ナリト主張シ被告ハ爲メ其「ハニ」線ノ方位ニ於テ全體三百間許ノ内四十八間ヲ査定シ通知シタルモノナレハ其殘部ハ査定未了ナリ而シテ該査定ハ乙第一號證乃至第三號證ニ基キ境界標杭ヲ建設シタルモノナレハ至當ノ處分ナリト答辯ス按スルニ原告ハ第一明治二十五年査定ノ通知ナカリシユエ取消ノ效力ナシト辯論スレトモ査定取消ノ通知ナキモ之ヲ違法トシテ出訴スルコトヲ得ルノ規定ナキヲ以テ本件ノ査定取消ヲ請求スルノ理由ト爲スニ足ラス第二明治三十四年二月ノ査定及通告ハ甲第一號證ノ「ハニ」線ヲ全通セシモノニ非サルハ被告ノ答辯ニ依リ明カナレハ本件ノ訴訟ハ四十八間ノ査定取消ニ止マルモノナリ而シテ原告ノ該査定ヲ不當ナリトシテ提出スル證據ハ新調ノ見取圖ニシテ再査定ノ當否ヲ爭論スルノ價値ナキモノトス

(177) ◉内務省指令取消埋立地下戻ノ訴

三十四年第百四十八號
全年十二月十二日裁決（神奈川縣平民佐藤藤兵衛）
（對内務大臣男爵内海忠勝）

判旨○埋立地下戻ノ申請却下ヲ不當トスル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(309)判決理由參看）

(178) ◉山林下戻ニ關スル訴

三十三年第百六十一號
三十四年十二月十四日宣告
（兵庫縣宍粟郡三河村ノ内船越村瑠璃寺住職廣澤堂興外三名對農商務大臣平田東助）

本件係爭ノ山林カ舊來瑠璃寺ノ所有ナリシコトハ甲第一號乃至第十七號證ノ通リナレハ其下戻アリタシトノ原告ノ請求ニ對シ被告ハ甲第三號第四號第五號證ノ成立ハ認ムル所ナルモ該證ノ寺領ノ保證ニシテ私有權ヲ附與シタルモノニ非ス其他ノ各證ニ就キテモ私有タル事實ヲ認ムヘキモノナキヲ以テ之ヲ却下アリタシト答辯セリ案スルニ甲第三號證ハ寛永十

年七月十六日當時ノ領主松平石見守輝澄カ花押ヲ爲シ瑠璃寺ニ贈與シタル證文ニシテ其文中如前之四方一里中殺世禁斷幷ニ山林竹木可爲寺中之計他之妨一切不可有之トノ文句ト其末段外ニ從先規爲寺領以門前之内高五十石右寄進候右之證文度々披見ノ上今以如此者也トノ文句ヲ對照シ尚ホ甲第七號證甲第八號證ヲ參酌スルトキハ一方ニ於テハ前々ノ通リ山林竹木ハ寺中ノ計ヒ即チ寺中カ前々ノ通リ全然自由ニ進退處分シ得ルコトヲ承認シ他方ニ於テハ先規ニ從ヒ別ニ寺領トシテ高五十石ヲ寄進シ以テ寺有ト寺領トノ區域ヲ判明ナラシメタルモノト解釋スルヲ相當トス然ラハ甲第四號證及甲第五號證ノ朱印ノ如キハ前例ヲ踏襲シテ高五十石ヲ寄進シ幷山林竹木ハ寺中ノ計ヒタルヘキコト相違ナキ旨ヲ保障シ併テ一里四方ノ地所ニ對シ諸役ヲ免除シタルニ過キスシテ其寺領タリシ性質ヲ失ハシメタルモノト認ムルヲ得ス

(179) ◉國有林下戻不許可ノ處分ニ對スル不服ノ訴

三十四年第八十九號
全年十二月十四日宣告（新潟縣平民五十嵐啓八郎）
（對農商務大臣平田東助）

被告ハ本訴ノ山林ハ原告人ノ出訴ニシテ原告外二人ニ下戻スヘシトノ請求ナレハ不法ナリ共有地ニ基ク訴訟ハ共有者全體ナラサレハ其效ナシ故ニ本訴ハ却下アルヘキモノナリト主張ス然ルニ本件ノ目的物ハ分割シ得ヘキ性質ノモノナレハ他ノ共有者ニ於テ出訴セサルモ之レカ爲メ原告ニ出訴權ナシトニ云フヲ得ス

又原告ハ新潟縣中頸城郡明治村大字玄能地内第千九百四十二番字筋山國有林三十六町六反一畝二十四歩檜木凡五萬七千七十本第千九百四十三番字切篠國有林七町三反八畝二十七歩雜木凡一萬五千本ノ地所ヲ民有ニ引直ノ請求ヲ爲スモノニシテ其理由トスル所ハ該山林ハ舊來六ケ村ノ入會山ニテ當代定納トシテ米十石ヲ上納セシニ明治八年之ヲ各村ニ分割シ即チ原告村ノ配當タル前記反別ニ對スル右代金三圓九拾五錢ヲ原告及風間歷三大瀧義吉ニ於テ分擔納租シタルモノナルニ地租改正ノ際誤テ官有地ニ編入セラレタルモノナレハ甲第一號證乃至第五號證ニ依リ原告外二名ニ下戻シアリタシト云フニ在リ被告ハ原告ノ甲第一號乃至第三號證ノ記事ハ雜稅タルコト明カナルニ因リ假リニ其成立ハ眞正ニシテ且本訴ノ山林ニ適當スルモノトスルモ民有ノ證ト爲ラサルモノナリト抗辯ス依テ本按甲號各證ヲ閲スルニ第一號證安政二年ノ卯年免相慶應二年ノ卯年免相中ニハ御林ノ内當代米定納ト記シ明治八年十二月各村ノ百姓總代及戸長ノ願書中ニハ町田村官林ノ儀地元村外四ケ村從前保護致シ來候故ヲ以テ云々ト記シ第二號證明治六年ノ租稅割賦帳ニハ林萱稅ト記シ第三號證明治七年ノ租稅皆濟帳ニモ林萱稅ト記シ第四號證ハ山林地株ナルモノ分割ノ遂害幷町田官林ノ内開墾ノ分無代下渡ノ達書第五號證ハ明治七年分ノ官林石代金ノ請求書ニシテ該諸證中御林又ハ官林ノ文字アルノミナラス其記事モ亦官有地タルコトヲ推知スヘキモノアリテ原告等ノ所有ト認ムヘキモノナシ

(180) ◉原野下戻請求ノ訴

三十四年第百三十五號
全年十二月十七日宣告
（新潟縣北蒲原郡黒代村大字次第濱代表人）
（黒代村長吉田耳吉對農商務大臣平田東助）

本件請求ハ新潟縣北蒲原郡黒代村大字次第濱地内原野四拾八町三反八畝五歩ハ舊新發田藩主ノ時ヨリ大繩切替畑ト稱シ原告ノ所有ナレハ之レヲ下戻サレタシト云フニ在リ然ルニ其主要ノ證據タル甲第一號證ノ二、三

次第濱村耕地小前下調寄付帳ヲ原告ニ於テ改租ノ際係爭地反別、高、貢米、總米、地代等ヲ記シ之ヲ民有トシテ書上ケタル書類ノ控ニシテ當時之ヲ民有トシテ書上ケタル事實認ムヘキモ直ニ之ヲ以テ其記載ノ事實アリタルモノト認メ難ク又甲第三號證次第濱村田畑屋敷其外地所帳ハ後ニ原告ニ於テ係爭地ヲ使用シタル事實アリトスルモ直ニ之ヲ以テ分收ヲナシタルモノト認ムルヲ得ス故ニ該證ハ本件ノ證據トナスニ足ラス又甲第四號證ハ原告自製ノ見取圖ニシテ眞ヲ措キ難キノミナラス假令ヒ猶ホ實地ニ畦畔ノ跡アリトスルモ單ニ之レノミヲ以テ開墾シタルモノト云フヲ得ス

(181) ◉違法處分取消山林下戻請求ノ訴

三十四年第十八號
仝年十二月十九日宣告
（福島縣岩代國耶麻郡關柴村大字下柴部落法定代理人仝）
（縣仝國仝郡仝村長小林久摩吉對農商務大臣平田東助）

本件ハ原告ニ於テ福島縣岩代國耶麻郡關柴村大字關柴字羽山堂四千九拾貳番國有山林拾壹町七反歩、字二本木澤四千九拾三番國有山林拾參町歩字大ケ澤四千九拾四番國有山林九町五反歩、字熊ケ澤四千九拾五番國有山林貳拾壹町六反歩、字小館四千九拾六番國有山林貳拾壹町歩、字大館四千九拾七番國有山林貳拾四町歩、字大野四千九拾八番國有山林七拾五町歩、字二重平四千百番國有草山五拾貳町八反貳畝貳拾七歩、字片木平四千百四番國有潤葵林八拾町壹畝拾歩ノ地所カ舊來我所有ナリシコトハ甲第一號乃至拾九號ノ證ノ通リナレハ下戻アリタシト請求シ被告ハ原告提出ノ甲號證ハ其私有ナル證スルニ足ラサレハ本訴ヲ却下アリタシト答辯ス依テ審按スルニ第五號第九號第十二號ノ一二及第十九號ヲ以テ眞正ノモノト認ムルコトヲ得ス原告ハ甲第二號證乃至甲第十九號ヲ以テ第二十號證及追第一號證乃至甲第十六號證ヲ以テ其事實ヲ證セントスルモ甲第一號證乃至甲第十九號證ハ鑑定人ノ鑑定ニ依ルモ其成立正確ノモノト認ムルコトヲ得ス甲第二十號證追第四號證及追第五號證ハ田ノ實ケ迫七畝六歩ノ內切畠云々ト記載スルモ其經界ヲ示ササルカ故ニ原告先代カ田ノ實ケ迫ニ於ケル切畠若干ニ對シテ權利ヲ有シタルコトハ本證ニ依テ之ヲ認ムルコトヲ得ヘキモ之ニ依ヲ原告ノ先代カ本件係爭地ヲ所有シタルコトヲ認ムルコトヲ得ス原告ハ甲第二號證乃至甲第十九號ヲ以テ證スル實實又ハ調査ナル事實ハ甲第二十號證ニ於テモ亦之レカ記載アルヲ以テ甲第二十號證ト甲第二號證乃至甲第十九號證トハ相聯絡スルモノノ字名ニ關スルモノナレハ本件係爭地ニ適用スヘキモノニアラス第十五號證ノ一覽文五年ノ柴山村土地帳ナルモノハ單ニ山トノミアリテ字名ノ記載ナク甲第十九號證政方雜誌ナルモノハ甲第十三號證ノ成立不確ナル上ハ對照ノ用ヲ爲サヽルニ由リ右數證ハ本件ノ證據トナシ得ス又甲第十二號證ハ明治四年十二月ノ山年貢皆立人別帳ナルモ何レノ山ニ相當スルモノナルヤヲ知ルニ由ナク甲第九號證ハ明治六年ノ山所取調帳ト題シ字二重平及片木平外三字ノ地券下渡ノ願書甲第十五號證ノ二ハ天明二年ノ書上ケニシテ共ニ村方ノ書上控ニ止リ他ニ參照スヘキモノナキニ因リ直チニ該證ノミヲ以テ本件山林ハ民有ナリト認ムルニ足ラス

(182) ◉國有林下戻請求ノ訴

三十四年第五十一號
仝年十二月二十日宣告
（廣島縣平民佐々木清太郎外十四名對農商務大臣平田東助）

原告ハ本件係爭山林ハ原告先代ヨリノ所有地ニシテ明治九年迄ハ其實租ヲ納メ來リタリシニ明治十年ニ至リ故ナク官林ニ編入セラレタルモノナルカ故ニ之レカ下戻ヲ受クヘキ權利アルコトヲ主張シ甲第一號證乃至第二十號證及追第一號證乃至追第十六號證ヲ以テ其事實ヲ證セントスルモ甲第一號證乃至甲第十九號證ハ鑑定人ノ鑑定ニ依ルモ其成立正確ノモノト認ムルコトヲ得ス甲第二十號證追第四號證及追第五號證ハ田ノ實ケ迫七畝六歩ノ內切畠云々ト記載スルモ其經界ヲ示ササルカ故ニ原告先代カ田ノ實ケ迫ニ於ケル切畠若干ニ對シテ權利ヲ有シタルコトハ本證ニ依テ之ヲ認ムルコトヲ得ヘキモ之ニ依ヲ原告ノ先代カ本件係爭地ヲ所有シタルコトヲ認ムルコトヲ得ス原告ハ甲第二號證乃至甲第十九號證ヲ以テ證スル實實又ハ調査ナル事實ハ甲第二十號證ニ於テモ亦之レカ記載アルヲ以テ甲第二十號證ト甲第二號證乃至甲第十九號證トハ相聯絡スルモノ

ト爲シ甲第二十號證ニ於テ經界ノ記載ナキモ甲第二號證乃至甲第十九號證ニ於テ之レカ記載ヲ爲シタル以上ハ甲第二號證乃至甲第十九號證記載ノ經界ヲ以テ甲第二十號證ニ記載シアル土地ノ經界ト見ルヘキコト當然ナリト主張スト雖既ニ甲第二號證乃至甲第十九號證ヲ以テ成立正確ナラスト爲シタル以上ハ其記載シタル經界モ亦之ヲ以テ正確ノモノト爲スコト能ハサルカ故ニ此點ニ對スル原告ノ主張ハ其理由ナキモノトス追第三號證ノ二及追第八號證ハ前者ハ原告ノ先代カ田ノ實ケ迫切畠七畝六歩ニ付貢租ヲ納メタルコトヲ證シ後者ハ明治元年溫井組ニ於テ若干ノ貢租ヲ收納シタルコトヲ證スト雖共ニ原告ノ先代カ本件係爭地ニ付貢租ヲ納メタルノ證ト爲スニ足ラス追第三號證追第七號證追第十六號證ハ單ニ御建山ノ必スシモ官林ニアラサルコトヲ明ニスルニ止リ直接本件ノ事實ヲ證セス其他ノ證據ハ專ラ傳聞又ハ所信ヲ記シタルニ過キスシテ之ヲ以テ原告カ本件係爭地ヲ所有シタルノ證ト爲スニ足ラス結局本件ハ原告ノ主張ヲ證スルニ足ルモノナシ

(183) ◉國有林下戻請求ノ訴

三十四年第五十九號
仝年十二月二十日宣告（廣島縣平民木本豐助外一名對農商務大臣平田東助）

原告ハ本訴ノ山林廣島縣佐伯郡水內村字根武谷國有林反別二百六町一反歩ハ元來原告祖先ノ所有ナリシ處盜伐ヲ防クニ困難ナルニ依リ山方役ニ出願ノ上御建山ノ名稱ヲ申受ケ其木材ハ藩廳ノ御用トシテ買上ケシタル次第ナルニ御建山ノ名稱殘リ居リシ爲メ誤テ官有ニ編入セラレタルヲ以テ甲第一號乃至第十八號證ニ依リ其下戻ヲ請求スト云フニ在リ案スルニ係爭山林カ原告祖先ノ出願ニ依リ單ニ名稱ノミ御建山トナリシトノコトノ其事實ヲ認ムヘキ證據ナキヲ以テ採用スルニ由ナク原告ハ甲第十二號證ヲ以テ之ヲ證セントスルモ該證ハ慶應二年中藩廳ヘ書上ケノ記帳寫ト稱スルモノニシテ其原書ハ廣島縣廳ニ存在スト云フヲ以テ同縣廳ニ其提出ヲ命スルモ存在セスト回答セルノミナラス其成立ニ付テハ明治三十四年當廳第五十一號ノ件ニ於テ鑑定セシメタル結果不正ナリトノ鑑定モアリテ本件證據トシテ正確ノモノト認メ難シ又甲第一號乃至第六號證ハ其眞否ニ付二號證ヲ除クノ外鑑定人ノ鑑定區々ニ渉リ一致スル所ナキノミナラス假令眞正ノモノトスルモ就レモ建山諸荷物或ハ板勘定帳ニシテ別ニ反證ノ採用ス可キモノナキ以上ハ其當時普通建山ノ木材ニ關スル勘定ヲ記載シタルモノト認ムヘキニ依リ之ヲ以テ原告主張ノ確證ト爲スニ足ラス其他原告提出ノ證據ハ多ク不正ナリトノ鑑定アルノミナラス假リニ眞正ノモノトスルモ告助證ニ過キサルヲ以テ一々說明スルノ必要ナキモノトス

(184) ◉國有林民地ニ引戻シ申請不許可指令ニ對スル訴

三十四年第百二十三號
仝年十二月二十日宣告（新潟縣平民佐藤牛之十外三十名對農商務大臣平田東助）

判旨○收益上ノ分配方法ヲ定メ又ハ毛上ヲ抵當ト爲シタルノ事實ノミヲ以テ論地ヲ所有シ若クハ自由ニ進退シタリトスル證據ト爲スニ足ラス

本訴ハ新潟縣南蒲原郡笹岡村大字檜山字眞平八百三番國有森林反別十町歩ヲ仝村仝大字ノ地主タル原告ニ下戻ヲ請求スルモノナリ而シテ原告カ主張スル所ハ本訴山林ハ往古ヨリ原告等ノ共有ニシテ自由ニ進退シ來リタル事實ノ甲第一號證乃至甲第八號證ヲ以テ證スルニ足レリト云フニ在リ被告ハ之ニ對シ本訴山林ハ原告等ノ共有權アルモノニ非ス甲號證ノ所

謂新林山ハ本訴山林ニ適合スルヤ否不明ナリト答辯セリ

案スルニ本訴山林ハ假リニ實地ニ適合スルモノトスルモ甲第一號證ハ「差上申新林山以來取扱定之事」ト題シ「一以來仕法百貫文ニ壹拾候節ハ云々」トアリテ收益上ノ分配方ヲ定メタルニ過キサレハ土地所有ノ事實ヲ證スルニ足ラス甲第二號證ハ負債ノ抵當證書ニシテ其文中「此引當檜山物新林當毛不殘金子不濟内ハ決シテ立入リ申間敷云々」トアリ而シテ其境文中「御掛檪ヘ新林當毛引當才覺爲仕度段御覽立御聞濟之上云々」トアリテ甚筋ヘ窺ヲ遂ケ毛上ヲ抵當ト爲シタルモノナレハ是ヲ以テ本訴ノ土地ヲ自由ニ進退シタリトスル證據ト爲スヲ得ス甲第三號證甲第四號證ハ山蠟買ヲ納付シタル證ナルモ正租ト認メ難キノミナラス孰レノモノニ該當スル租稅ナルカ知ルヲ得ス甲第五號證甲第六號證甲第八號證ニ於テ主要トスルノ點ハ皆村方自由進退又ハ村中持トアルヲ以テ原告等個人ノ共有權ヲ主張スル證トナラス

第七門　選擧、選擧名簿、公民權及住民權ニ關スル件

第一　市町村、沖繩縣ノ區、北海道一級二級及同區ニ關スル件

(1)◉公民權有無爭論ノ訴

二十三年第三號
仝年十一月廿一日宣告
（靜岡縣平民澤田寧對仝縣敷知郡濱松町長内田正）

判旨○町村制第七條第二項ニ一戸ヲ構ヘトアルハ戸主ト非戸主トヲ問ハス一戸ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ云フ（町村制第七條第二項）

○所得稅法ハ徵稅上單ニ戸主ヲ以テ納稅者ト認ムルニ過キス故ニ實際ニ納稅ヲナシタル者ハ亦納稅者タルノ資格ヲ有ス

本案ノ要點ハ戸主タルト否トニ依リ公民タル資格ノ有無ヲ爭フニ在リト雖抑町村制第七條ニ依レハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘタルハ戸主ト非戸主トヲ問ハス一戸ヲ構ヘトアルハ戸主ヲ問ハス一戸ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ云フモノニシテ本案原告人ニ於クルヤ明治十七年濱松町元魚十一番地ニ於テ自ラ宅地ヲ購求シ家屋ヲ建築シ今日ニ至ルマテ諸般ノ義務ヲ負擔シ所謂一戸ヲ構ヘテ獨立ノ生計ヲ營ミタル事實アルコトハ即甲第一號乃至十五號證ヲ以テ之ヲ證明スルヲ得ヘシ殊ニ當時戸主ニ於テ一戸ヲ構ヘクル者ト認メタルコトハ戸數割ヲ賦課シタルヲ以テ之ヲ視ルモ明カナリトス又被告人ハ同二十年父子同居シタル以來ノ納稅殊ニ所得稅ノ如キハ戸主即チ父和四郎ノ名ヲ以テ徵收スヘカリシニ非戸主即チ原告人ノ名ヲ以テシタルハ當該吏員ノ不注意ニ出テタルモノナレハ原告人ノ納稅資格ニ算入スヘカラストニフト雖所得稅法ハ徵稅上單ニ戸主ヲ以テ納稅者ト視ルニ過キスシテ實際ノ納稅者タル資格ヲ失フ者ニ非サルヲ以テ原告人ノ納稅ハ之ヲ納稅資格ニ算入シ得ヘキハ當然ノ事ナリトス故ニ被告人ニ於テ原告人ヲ選擧人名簿ニ記入セサリシハ不當ノ處分ナリトス

(2)◉違法選擧取消請求ノ訴

二十三年第一一號
仝年十二月廿六日宣告
（千葉縣平民押尾忠治外三十一名對仝縣印幡郡彌富村村會議長檜垣榮三郎）

判旨○村會ハ町村制第七條ニ基キ其議決ヲ以テ町村公民ノ資格ヲ得ルニ必要ナル年限ヲ特免スルコトヲ得（町村制第七條）

本件原告ノ申立ル所ハ檜垣榮三郎ハ常設學務委員選擧ノ當時公民タルノ要素ヲ缺クノミナラス町村制第七條二箇年ノ制限ヲ特免シタルコトナシトフニ在レトモ檜垣榮三郎ハ常設學務委員當選前明治二十二年六月ニ於テ前戸主ノ動不動産全額ヲ相續シ且原告カ村會ニ於テ檜垣榮三郎ヲ村長ニ選擧シタルヲ不當トシ本年四月訴願ヲナシタル際村會カ明治二十二年九月二十七日本村常置委員選擧會ニ際シ前ノ議長村會ノ決議ヲ得テ特免シ以テ本村學務委員トナシタルハ確然タル公民ニシテ彌富人民カ一般ニ了知シ居ルハ論ヲ俟タサルモノナリトノ裁決ヲ爲シタルニ據レハ彌富

村會ニ於テ議決ヲ以テ二箇年ノ制限ヲ特免シタルモノト認定セサルヲ得ス故ニ公民權ナキ者ト認ムルヲ得サルモノトス

（第一門第一(12)判決理由ノ一部）

(3)◉市會選舉無效一件府知事ノ裁決不法ノ訴

二十三年第十四號
二十四年一月廿九日宣告（東京市平民田中榮助外二名對東京府知事侯爵蜂須賀茂韶）

判旨○選舉人中納稅額ヲ詐稱シテ選舉名簿ニ登載セラレタル者アルニ就テノ異議ハ名簿等級ノ當否ニ關スル事件ナルヲ以テ市制第十八條ヲ適用ス（市制第十八條）

○市制第二十條ハ何等ノ制限ナキヲ以テ甲級選舉ノ選舉掛ヲ乙級ヨリ選任スルモ違法ニ非ス（市制第二十條）

原告ニ於テ一級選舉人中納稅額ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ登載セラレタル者アルヲ以テ其選舉ヲ無效ニ歸シ確定名簿ヲ修正スヘシト云フト雖詐稱ニ依リテ一級名簿ニ登載セラレタル者アルニ付テノ異議ハ即チ名簿等級ノ當否ニ關スル事件ナルヲ以テ市制第十八條ニ依ラサルヲ得ス而シテ原告ハ同條規定ノ期限ヲ經過シタルモノナレハ訴願ノ效ヲ失ヒタルモノトス又原告ニ於テ一級選舉ノ選舉掛ヲ他級ヨリ選任シタルハ選舉ノ定規ニ違背スルモノナリト云フモ市制第二十條ニ於テハ每級各別ニ選舉掛ヲ選任スヘキノ制限ナキニ依リ定規ニ違背シタリト謂フヲ得ス

(4)◉區會議員選舉取消ノ訴

二十三年第一號ノ一（茨城縣平民德宿善吉外一名對同縣平民田中榮助外二名）
二十四年二月三日宣告（茨城縣平民德宿善吉外一名對全縣平民和田房吉）

判旨○區會議員ノ當選ヲ不當トシ其取消ヲ請求スル事件ニ就テハ選舉掛長ニ非サレハ對手人ト爲スヘキモノニ非ス

（第一門第三(2)判決理由參看）

(6)◉不當處分取消請求ノ訴

二十四年第七號
仝年三月十二日裁決（新潟縣平民田中恒三對仝縣中頸城郡長遠山千里）

判旨○府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴ハ町村制第百二十條第三項ニ基キ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以內ニ提起スルヲ要ス（町村制第百二十條第三項）

（第一門第二(3)判決理由參看）

(7)◉村會議員選舉會取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十三年第三十號
二十四年三月三十一日宣告
（埼玉縣平民駒井勇吉外十一名對仝縣高麗郡高麗川村長神田竹次郎）

判旨○總代タリシ資格ノ有無ニ拘ハラス訴願ヲ經タル選舉人ハ其資格ヲ以テ選舉ノ效力ヲ爭フコトヲ得（町村制第二十九條）

（第一門第一(16)判決理由參看）

(8)◉村會議員選舉會取消請求ノ訴（第一門第一(16)妨訴抗辯ノ本案）

二十三年第三十號
二十四年四月廿八日宣告
（埼玉縣平民駒井勇吉外十名對仝縣高麗郡高麗川村長神田竹次郎）

判旨○町村會議員ノ選舉人名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無效ト爲リタル場合ヲ除クノ外選舉ヲ行フ每ニ新ニ調製ス可キモノトス（町村制第十八條）

原告陳述ノ要點ハ明治二十二年四月中ノ初度ノ選舉ハ無效ナルヲ以テ町村制第十八條末項ニ從ヒ當時ノ選舉人名簿ニ依リテ再選舉ヲ爲スヘシト謂フト雖元來制第十八條末項ノ主意ハ町村會議員選舉ノ當時當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ定規ニ違背シタルコトアルカ爲メ選舉無效トナリ改選ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ其選舉ノ事業全ク結了シタル後ニマテ及フヘキニアラス而シテ其一旦結了シタル後ニ至リ改選若クハ臨時補闕選舉ヲ爲ス場合ニハ每回必ス新ニ選舉人名簿ヲ調製スヘキコトハ同條第一項ニ町村長ハ選舉ヲ行フ每ニ云々トアルニ依リ明瞭ナリトス故ニ明治二十三年六月中ノ選舉ニ方リテハ制第十八條末項ニ依リ舊名簿ヲ用フヘキニアラスシテ同條第一項ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘキモノトス又原告ハ明治二十二年町村制施行ノ當初議員十二名ナルヘキヲ十八名トシテ選舉セシメタルハ不當ト謂フト雖制第百三十一條ニ初メテ議員ヲ選舉スルニ付町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長ノ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シトアルニ依リ舊戶長ノ爲シタル處置ハ之ヲ不當ト謂フヲ得ス依テ被告村長カ明治二十三年六月二十八日ニ爲シタル選舉ハ取消スヘキ限ニアラス

(9)◉公民權有無不當ノ訴

二十四年第四號
二十四年六月四日宣告（鹿兒島縣肝屬郡鹿屋村長永田翁助對仝縣士族吉原彌兵衛）

判旨○幼時ヨリ親戚ノ家ニ同居同爨シ獨立ノ事實ナキ者ハ町村制第七條ニ所謂一戶ヲ構ヘタル獨立ノ男子ト謂フヲ得ス（第七條第二項）

本件原被告所爭ノ要點ハ被告吉原彌兵衛ハ町村制第七條第二項一戶ヲ構ヘト云ヘル要件ヲ具フルモノナルヤ否ニアリトス而シテ被告ニ於テハ幼ニシテ父母ヲ失ヒタルヨリ其叔父吉原彌藏ノ家ニ在リテ養育ヲ受ケタリシモ成長ノ後其家ニ同居シアルハ叔父吉原彌藏カ一ノ嗣子ナク且彌藏カ妻ハ病身ナルヨリ叔父カ家事ヲ補助スルカ爲メニシテ自己獨立ノ業ヲ營

ミ獨立ノ生計ヲ營ムヲ得ルノ能力アルハ被告カ明治十九年以來茶業組合ノ組長及蠶業組合幹事ニ當選シ其他公務ヲ奉シタルト一戸主ニシテ地租十圓以上ヲ納メ來ルヲ以テ知ルヲ得ヘク其戸數割戸別割ヲ納メサルハ明治十七年以後本縣規則ノ然ラシムル所ナリト云フト雖被告ハ幼時叔父吉原彌藏ノ家ニ於テ養育ヲ受ケタル以來依然共居同爨シ獨立ノ事實ヲ表明スルモノ無之ニ依リ町村制第七條第二項ノ一戸ヲ構ヘタルモノト認ムルヲ得ス故ニ被告ハ公民權ヲ有セサルモノトス

(10) ◉村會議員選舉不當取消ノ訴

二十四年第十號
全年七月三日宣告　（鹿兒島縣平民地福順助外五名對全縣姶谷郡谷山村長伊地知季治）

判旨○選舉掛定員中一時闕席シタル者アルノ故ヲ以テ其選舉ヲ取消スヲ得ヘキモノニ非ス（町村制第二十一條）

原告ニ於テ戸長役場員カ執務時間ニ職役ヲ離レ人民ヲ招集シテ村會議員選舉ノ事ニ干渉シ又投票用紙ニ被選人名ヲ記載シテ封緘ノ上配付シ又投票用紙ヲ濫用シ及選舉會場ニ出頭ノ途中他人ノ投票ヲ改書シタル等ノ申立ハ其事實明確ナラサルノミナラス各選舉人ニ於テ規定ニ從ヒ自身ニ投票ヲ了シタル上ハ其選舉ハ無效ナリト謂フヲ得ス其他原告ハ選舉掛定員中闕席ノ者アルニ拘ハラス選舉事務ヲ執行シ又ハ無資格者カ選舉會場ニ立入タリト云フモ選舉掛定員中一時闕席シタルモノアルノ故ヲ以テ其選舉ヲ取消スヲ得ヘキモノニアラス又其無資格者カ選舉場ニ入リタリトノ申立ハ其證トナスモノナク且古垣與右衛門外一人カ分會選舉場ニ在リシコトハ原被雙方ノ認ムルトコロナルモ右兩人ハ選舉權ヲ有スルモノナルニ依リ町村制第二十一條ニ背キタリト謂フヲ得サルモノトス

(11) ◉公民權ノ有無ニ付縣知事ノ裁決不當ノ訴

二十四年第二十九號
全年九月二十五日宣告　（長野縣平民秋山清作對全縣北佐久郡岩村田町長遠藤善九郎）

判旨○町村制第五十六條第二項ニ依リ公民權ヲ得タル收入役ハ當然選舉權ヲ有ス（町村制第五十六條第二項第六十二條第三項）

原告陳述ノ要點ハ町村制第五十六條第二項中但書ノ規定ハ之ヲ收入役ニ適用スヘキモノニアラス又假令ヒ有給町村長有給助役收入役等公民權ヲ有スルモノトスルモ町村制第十二條ノ選舉權ヲ有スルモノニアラストフニ在リト雖モ町村制第六十二條第三項ノ規定中單ニ第五十六條第二項ヲ適用ストアリテ其但書ヲ適用セストノ明文ナキノミナラス當選ト云ヒ選任ト云フモ皆モ其意義ニ異ナルトコロナシ又原告ハ第五十六條第二項ノ所謂ル公民權ナルモノハ町村制第七條ノ要件ヲ具備シタル普通公民權ト異ナルモノナリト主張スルモ町村制中二種ノ公民權アルヘキノ理由ナク隨テ町村制第五十六條第二項ニ依リ公民權ヲ得タル收入役ハ同法第十二條ニ規定シタル選舉權ヲ有スルモノト爲ササルヲ得ス故ニ被告ニ於テ收入役阿部龜助ヲ町會議員選舉人名簿ニ登載シタルハ之ヲ不當ナリト謂フヲ得ス

(12) ◉村會議員選舉取消ニ關スル訴ニ對スル妨訴抗辯

二十四年第四十三號
全年十二月二十六日宣告

（千葉縣平民檜木德太郎外八名對全縣武射郡睦岡村會議長富谷啓藏）

判旨○村會議員ノ選舉效力ニ起因スル訴訟ニ於テハ選舉掛長タル村長ヲ對手人ト爲ス可キモノトス

○訴狀送達前對手ノ資格ヲ繼承シタル者ハ當然被告タルノ責務アリ

（第一門第三(5)判決理由參看）

(13) ◉違法選舉取消ノ訴

二十四年第七十二號
二十五年三月十九日宣告　（千葉縣平民白鳥斧藏外三名對全縣長柄郡茂原町長泉澤金六）

原告ニ於テハ被告ノ明治二十四年五月二十八日ニ發シタル通知書ヲ以テ公告文トナシ同月二十七日付掲示書ハ町役場書記ノ關係ナク後日被告カ自由ニ作爲シ得ヘキモノナレハ原告人等カ法律ニ依リ得タル權利ヲ減殺シタルモノナリト云フト雖モ其公告文ノ原稿及清書トモ被告ノ自筆ナルモ固ヨリ其職務上ノ行爲ナルニ由リ單ニ町役場書記カ之ニ關係セサルノ故ノミヲ以テ被告カ後日自由ニ作爲シタルノ證左ト爲スニ足ラス依テ町村制第十九條ノ期限ニ違背シ原告ノ權利ヲ減殺シタルモノト言フ可カラス

(14) ◉不當選舉取消ノ訴願栃木縣參事會裁決不服ノ訴

二十五年第拾號
全年四月十九日宣告　（栃木縣平民渡邊逸六郎平對全縣那須郡金田村會議長全村助役藤田勇馬）

判旨○他ノ要件ヲ具備スルモ一戸ヲ構フルノ事實ナク（第一門第三(5)妨訴抗辯ノ本案）ンハ町村制第七條ニ所謂獨立ノ男子ニ非ス（町村制第七條）

本件所爭ノ主點ハ原告カ町村制第七條獨立ノ男子タル實ヲ具フルモノナリヤ否ニ歸セリ而シテ被告ハ原告カ獨立ノ男子タルヲ主張シテ原告ノ現ニ居住スル家屋ハ原告ノ所有ナリ原告所有ノ土地ヨリ生スル收益ハ低度ノ生計ヲ營ムニ難カラサルナリ故ニ原告ハ獨立ノ男子ナリト云フト雖町村制第七條第二項ニ此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ云々トアルニ依レハ原告カ家屋ヲ有シ若クハ土地ノ所得ヲ有スルモ一戸ヲ構ヘタルノ實ヲ具備セサル以上ハ未タ以テ獨立ノ男子ト稱スルヲ得ス而シテ原告ノ舉證ニ依ルニ金田村ノ戸別割ハ明治二十二年以來戸主六郎ヨリ納メ來レリト云フヲ以テ之ヲ栃木縣內町村戸別割賦課法ニ照依スルニ戸別割ハ地方稅ノ戸數割ニ附加スルモノニシテ其同縣戸數割賦課法第一條ニ戸數割ハ本籍寄留戸主非戸主自家借家ノ別ナク每戸現住者ニ賦課ストアレハ金田村カ同村戸別割ヲ戸主六郎ニ課シタルハ六郎カ戸主タルノ故ヲ以テ之ヲ賦課シタルニ非ス一戸ヲ構ヘタルモノト認メタルモノニシテ之ニ反シ原告ニ課セサルハ原告カ一戸ヲ構ヘサルモノナルコトヲ知ルニ足ルヘク且其同村確定選舉名簿中ニ原告ヲ加ヘサルモノヲ以テ之ヲ觀ルモ原告ヲ以テ獨立ノ男子タルニ關クル所アル者ト認定スヘキニ依リ金田村會カ原告ヲ名譽職村長ニ選舉シタルハ其當ヲ得タルモノト謂フヘカラス

(15) ◉村會議員選舉取消不服ノ訴（第一門第三(5)妨訴抗辯ノ本案）

二十四年第四十三號
二十五年六月二十三日宣告
（千葉縣平民松本德太郎外八名對全縣武射郡睡岡村會議長富谷啓藏）

判旨○村會議員ノ選舉ニ當リ四名ノ選舉掛中二名ノ關席者アルモ町村制第二十條ニ所謂低數ヲ下ラサルヲ以テ其選舉ハ違法ニアラス（町村制第二十條）

○選舉終了後投票者自ラ代人ヲ以テ投票シタリトノ陳述ハ法律上何等ノ效力ヲモ生スルモノニ非ス（町村制第二十二條）

○一封中ニ二票ノ投票アルニ於テハ二票共ニ無效ナリ故ニ是等ノ投票ハ被選舉人各自ノ得票中ヨリ除去シ殘ル正當ノ投票ヲ以テ投票數ヲ定ムヘキモノトス（町村制第二十三條）

第一被告ニ於テ選舉掛已定ノ四名中三名ハ卒然病氣ト唱ヘ退席シタルヲ以テ殘ル一名ナシテ選舉錄ヲ調製セシメ且高點者ヲ揭示セシメタルハ失當ナリト云フト雖町村制第二十條ハ村長ニ於テ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シテ選舉掛ヲ爲ス可キコトヲ規定シタルニ止マリ其關席ヲ生シタル場合ニ臨ミ之ヲ補充セサレハ效力ナシトノ規定ニアラサルヲ以テ町村制規定ノ二名ヲ下ラサル間ハ失當ト言フ可カラス明治二十四年四月十一日被告ヨリ郡長松崎省吾ニ答申シタル書中鈴木健藏ハ補闕投票點檢中退席シ鈴木祥英ハ此點檢ヲ了リ退席シ高知尾竹三郎ハ補闕增員ノ兩選舉投票點檢ノ上當選者ヲ定メ投票ヲ封入シタル後選舉錄ヲ調製シ午後七時過退席シ翌日選舉錄ニ調印セシモノナルハ其自陳スル所ニシテ伊藤

(16)◉不當命令取消ノ訴

二十五年第四十八號
全年六月二十九日裁決
（熊本縣山鹿郡來民町會議員原田眞二外八名對全縣山鹿菊地合志郡長小橋元雄）

判旨○町會議員ノ改選ニ際シ町長カ郡長ノ訓令ニ基キ前ニ行ヒタル議員退職者ノ抽籤ヲ取消シ更ニ抽籤ヲ行ヒタル處分ニ對シテハ町村制第三十七條ノ手續ヲ履行シタル上ニ非サレハ出訴スルコトヲ得ス（町村制第三十七條）
（第一門第四(8)判決理由參看）

(17)◉不當裁決取消ノ訴

二十五年第百五號
全年十二月三日宣告
（福島縣平民大竹久太外一名對全縣會津郡檜澤村會議長兒山榮一）

判旨○郡長カ發シタル村會議員選舉取消ノ調令ニ對シ調第百二十條ニ基キ縣知事ニ訴願シタル場合ニ於テ其裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スヘキモノトス（町村制第百二十條）
（第一門第一(60)判決理由參看）

(18)◉村會議員選舉人名簿登錄請求ノ訴

二十五年第六十四號
全年十一月二十一日宣告
（新潟縣平民宮崎芳謙對全縣中頸城郡里五十公野村長渡部直三郎）

判旨○人民相互ノ私約ニ成レル私立會社ハ制第十二條末項ニ所謂法律ニ從テ設立シタル會社ニ該當セス（町村制第十二條末項）

原告ニ於テ宮崎社ハ縣知事ノ認可ヲ經テ設立シタル會社ナレハ町村制第十二條ノ末項ニ規定セル法人トシテ村會議員ノ選舉權ヲ有スヘキモノナリト謂フト雖宮崎社ハ人民相互ノ契約ニ由リ組織シタルニ在テ法律ニ據リ組織シタルモノニアラス故ニ被告カ宮崎社ヲ以テ一ノ會社トシ納稅ノ義務ヲ負擔セシメタルコトアルモ之ヲ以テ法人タルノ資格ヲ有シ村會議員ノ選舉人名簿ニ登錄スヘキモノナリト謂フヲ得ス

(19)◉村會議員選舉ノ效力ニ關スル不當裁決取消ノ訴

二十五年第五十六號
全年十二月十日宣告
（佐賀縣平民中野平治兵衛外四名對全縣杵島郡武雄町長木村保太郎）

判旨○町會議員選舉ニ際シ選舉掛長カ記臆ノ爲メ選舉人名簿ニ標點ヲ施コシテ投票ヲ受理スルハ町村制ノ命スル所ニ非サルヲ以テ其標點ナキ投票ト雖モ之ヲ無效ト爲スヲ得ス（町村制第二十二條）

○投票ヲ終リテ當選者決定セサル場合ニ於テ決定後直ニ當選ノ告知ヲ爲シタルトキハ制第二十八

條ノ規定ニ違背セス（町村制第二十八條）

原告ハ武雄町町會議員半數改選ノ際選舉人名簿ニ附點シテ受理シタル投票ハ百二票ヲ數ヘタルモ開廻調査ニ當リ百三票入函アルヲ發見シ卽チ選舉人ナキ一票ノ存スルニモ拘ハラス被告選舉掛長カ該一票ヲモ併セテ有效ト決定シタルハ町村制第二十二條ニ違背スルモノナリト謂フト雖選舉人名簿ノ附點ハ町村制ノ命スル所ニアラス單ニ掛長ノ記臆ノ爲メニセシモノナレハ假令該附點ノ數ト實際投票トノ間ニ一票ノ差異アルモ別ニ其不正タルノ證據ナキ以上ハ之ヲ以テ無效ノ投票ナリト謂フヲ得ス又原告ハ被告カ四月十三日選舉ヲ終リタル後直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知セス三日間モ遲延セシハ町村制第二十八條ニ違背スト謂ヘトモ當選者未タ定マラサルノ間ハ之ヲ告知スルノ途ナク同月十五日當選者ヲ決定シ然ル後之ヲ告知セシモノナレハ之ヲ以テ該條ニ違背スト謂フヲ得ス又原告ハ被告カ選舉錄ニ掛長當選者ヲ定メ雖ク只得點數ヲ記載シ其筋ヘ伺ヒ裁決ヲ乞フト謂フハ町村制第二十三條ニ投票ノ受理幷ニ效力ニ關スル準項ハ選舉掛假リニ之ヲ該決スト雖明文ニ違背スト謂フト雖選舉錄ノ記事ハ當日ノ騷亂ヲ記載スルニ過キス而シテ實際其筋ヘ何等ノ伺ヒヲモ爲セシコト無ク同月十五日ニ至リ選舉掛更ニ開會討議シテ當選者ヲ決定セシモノナレハ町村制第二十三條ニ違背スト謂フヲ得ス

(21)◉村會議員半數改選及補闕選舉全會取消請求ノ訴

二十五年第五十二號
全年十二月十二日宣告（茨城縣平民海老原彦重郎外二名對全縣眞壁郡伊讀村長瀧端善七郎）

原告ハ本件村會議員選舉錄ノ表面ニハ唯無資格者ノ退場ヲ命スト記載シアレトモ卽第三號證被告村長ヨリ眞壁郡長ニ差出シタル證明書ニ記載シアル如ク無資格者ハ選舉結了後ニ至リ漸ク退場シタリト謂フト雖甲第三號證ハ選舉錄調製ノ後被告村長一箇人ノ作爲シタルモノニ止マリ之ヲ以テ先キニ正當ノ手續ヲ以テ調製シタル選舉錄登載ノ事實ヲ確實ニシタルモノト謂フヘカラス何トナレハ該選舉錄ヲ見ルニ單ニ無資格者ニ退場ヲ命シタルコトハ明カナレトモ尙他ニ原告ノ主張スルカ如キ事實アリシモノト認ムル能ハサレハナリ又甲第一號證甲第二號證證明ヲ以テ富田定之助鹽澤善作ハ出席投票シタルモノニ非スト謂フト雖該證明書ハ其提出者富田定之助鹽澤善作ニ於テ隨意ニ之ヲ作爲シ得ヘキモノナレハ之ヲ以テ選舉當時ノ事實ヲ證スルモノトナスヲ得ス而シテ其他原告ノ證據書類ニ徵スルモ本件村會議員選舉ハ違法ノ選舉ナリト認ムヘキ事實ナキヲ以テ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

(22)◉村會議員不正選舉取消訴願ニ對スル縣參事會カ與ヘタル裁決不服ノ訴

二十五年第百十八號
全年十二月二十日裁決（群馬縣邑樂郡小泉村長若旅九八郎對全縣木村春吉外一名）

判旨○制第三十七條ニ據ル村會議員選舉取消ノ訴訟ニ就キ村長ハ村內ノ人民ヲ被告ト爲スヲ得ス（町村制第三十七條）

（第一門第三(8)判決理由參看）

(23)◉町會議員選舉效力ニ關シ縣參事會裁決ニ對スル訴

二十五年第七十二號
全年十二月二十三日宣告（秋田縣平民宮腰與三郎對全縣山本郡能代町長島田治右衛門）

判旨○町會議員選舉ニ起因スル訴訟ニ於テ單ニ訴願權ノ有無ノミヲ爭ヘル請求ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ

（第一門第一(68)判決理由參看）

(24)◉町會議員選舉ニ關スル不當裁決取消ノ訴

二十五年第百十三號
全年十二月二十六日宣告（縣手縣平民齋藤潔外二名對全縣知事服部一三）

判旨○選舉會取消ノ請求ヲ改メテ縣知事ノ裁決取消ヲ請求スルハ訴訟原因ノ變更ニ外ナラス

（第一門第五(4)判決理由參看）

(25)◉選舉ニ關スル訴願ノ上訴

二十五年第五十四號
二十六年一月二十一日宣告（東京市士族高村武成對東京府知事高田鐵之助）

判旨○選舉人名簿ノ確定ハ無資格者ニ資格ヲ附與スルノ效果ヲ生スルモノニ非ス（市制第十八條第八條第十二條）

被告ニ於テ明治二十五年五月三十日市會議員選舉ノ際梅木忠藏ハ二級選舉人タルノ資格ナク佐藤伊八ハ市制第七條ノ要件ヲ有セサルモノニシテ共ニ其選舉名簿ニ登錄セラレタルハ事實ナルモ該名簿ハ制第十八條ニ依リ四月二十五日ヨリ七日間關係者ノ縱覽ニ供シ五月十九日ヲ以テ確定シタル名簿ニ依テ選舉ヲ執行シ民已小次郎ハ有效投票ノ多數ヲ得テ當選シタルモノナレハ該選舉ハ亳モ選舉ノ規定ニ違背セシコトナシ元來原告所爭ノ主要ハ選舉權ノ有無及選舉等級ノ當否ニ在リ若シ是等ノ點ニ對シ異議アラハ縱覽期限內ニ申立テ爲ササル可カラス然ルヲ期限經過後ニ至リ訴願セシハ其效ヲ失ヒタルモノナリト云フト雖市制第十八條ハ確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス又此確定名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス可キ規定ニ過キス而シテ同制第七條ニ市公民タルノ資格ヲ定メ第八條及第十二條ニ公民タル者ハ選舉權ヲ有スル原則ヲ規定シタルモノナレハ該資格ナキ者ハ則チ選舉權ナキモノナリトス故ニ無資格者ニシテ選舉名簿ニ登錄セラルヽコトアリシトスルモ名簿確定ノ效力ニ因リテ有資格者ト爲ルコトヲ得ス然ルニ本件ノ二級選舉ニ於テ梅木忠藏佐藤伊八カ爲シタル投票ハ無資格者ノ投票ニシテ且其投票ハ何人ノ得票ニ歸シタルヤ之ヲ知ルニ由ナキモノナレハ該二級選舉ハ有效ニ當選ノ效果ヲ生ス可キ理由ナキモノトス

(26)◉選舉名簿縱覽期限違法ノ訴

二十五年第七十四號
二十六年一月二十六日宣告（新潟縣平民增田九平治對全縣中頸城郡高志村長塚田吉藏）

判旨○縱覽期限ハ選舉名簿ヲ變更シタルノ故ヲ以テ延長スルヲ得ス（町村制第十八條）

○村會ノ裁決ヲ經ス村長カ獨斷ヲ以テ選舉名簿ヲ變更シタルハ違法ナリ（仝上）

本件選舉會ニ對シ原告ニ於テハ被告カ選舉名簿縱覽期限滿了ニ先タツコト一月明治二十五年三月四日ニ至リ二級選舉名簿中ニ登錄セシ橋口瀧市

外一名ヲ一級選舉名簿中ニ繰入シ爲メニ兩名簿ノ變更ヲ爲シタルニ縱覽期限ヲ延長セシテ選舉會ヲ執行シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ縱覽期限ハ法律上ノ規定ニ係ルモノナレハ選舉名簿ヲ變更シタルコトアルカ爲メニ縱覽期限ヲ延長スルコトヲ得ス然レトモ選舉人名簿ノ訴願訴訟ノ結果ニ依リ修正ヲ加フル外私擅ニ變更ヲ爲ス可キモノニアラス然ルニ被告ハ村會裁決ノ手續ヲ經ス獨斷ヲ以テ二級選舉人ヲ一級ニ繰上ケ變更シ能ハサル名簿ヲ變更シ其告知ヲモ爲サヽルハ不當ナル旨原告ノ陳述ニ對シ被告ハ何等ノ抗辯ヲ爲サヽルヲ以テ之ヲ觀レハ被告ハ違法名簿ノ修正ヲ爲シタルモノト認メサルヲ得サルニ依リ本件選舉會ハ被告カ違法ノ行爲ニ原因シタル選舉人名簿ニ據リテ選舉ヲ執行シタルモノニシテ適法ニ成立シタル選舉會ナリト謂フヘカラス

(27)◉村會議員選舉會取消ノ訴

二十五年第八十三號
二十六年一月二十七日宣告
（和歌山縣平民笠松兵左衛門對仝縣那賀郡上岩出村長岩崎平六右衛門）

判旨○選舉名簿ハ其縱覽期限中ナルト期限後ナルトヲ問ハス法律ニ基ク訴願若クハ訴訟ノ結果ニ依ルニ非サレハ加除訂正ヲ爲スコトヲ得ス（町村制第十八條）

原告總代八ハ嚴キニ本件ニ付村會及郡參事會ノ職務ヲ行フ郡長ニ訴願ヲナシタルトキハ原告等ノ總代委任ヲ以テ訴願ヲ經遂シタルニ依リ原告等總人員ハ出訴權アリト雖モ今回立證トシテ提出セル甲第四號訴願書ニハ笠松宮三郎久保定吉福田右平中井定四郎前田福松五人ノ署名ノミニシテ別ニ總代タリシ證據ナキニ依リ右五名ヲ除ク外原告八十四名ハ其訴願ヲ經盡シ出訴權アリト謂フ可カラス又被告訴訟代理人ニ於テハ町村會議員ノ選舉人名簿ハ縱覽期限後ニ至ルモ若シ誤謬ヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正スルヲ得ヘキモノナリト云フモ町村制第十八條ノ規定ハ其名簿縱覽中及期日後ニ至テハ法律ニ基キ訴願裁決ノ結果等ニ依ルニアラサレハ濫リニ加除訂正ヲ爲シ得ヘキモノニアラス然ルニ被告ハ選舉人名簿縱覽期日後ニ至リ自己ノ見込ヲ以テ甲第二、三號證ノ如ク加除訂正ヲ爲シ其名簿ニ據リ本件選舉ヲ執行シタルモノナレハ明治二十五年三月上岩出村ニ於テ開キタル村會議員選舉會ハ適法ニ成立シタルモノト謂フヘカラス

(28)◉町會議員選舉效力ニ關シ縣參事會裁決ニ對スル訴ニ付補充判決ノ請求

二十五年第七十二號
二十六年一月三十一日宣告
（秋田縣平民宮腰與三郎對仝縣山本郡能代町長田島治右衛門）

判旨○請求ノ事項ニ對シ既ニ判定ヲ與ヘタルトキハ補充判決ヲ爲ス必要ナシ

（第一門第一(73)判決理由參看）

(29)◉村會議員不正選舉取消ノ訴ニ對スル縣參事會裁決不服ノ訴

二十六年第二號
仝年二月三日裁決
（群馬縣邑樂郡小泉村長若旅九八郎對仝縣知事中村元雄）

判旨○村會議員ノ選舉ニ關スル縣參事會ノ裁決ニ不服ノ訴ハ其裁決ノ日ヨリ出訴期限ヲ起算ス（町村

制第百二十條第三項）

（第一門第二(15)判決理由參看）

(30)◉村會議員半數改選選舉會取消ノ訴（第一門第一(59)妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第九十號
二十六年二月二十三日宣告
（千葉縣平民佐久間清藏外十八名對仝縣東葛飾郡塚田村長藤井三郎）

判旨○二級選舉ノ當選者未定ノ間一級選舉ヲ行ヒタルハ違法ナリ（町村制第十九條第二項）

本案原告ニ於テ被告ハ有效投票ノ一票ヲ燒棄シタレハ選舉ノ效力ニ異動ヲ生シタリト謂フト雖雙方陳述スル投票ノ全數ニ適合スル現票ノ存在スルニ依レハ之レヲ燒棄シタル事實アリト認メ難ク隨テ選舉ノ效力ニ異動ヲ生スルノ理由ナキモノトス又被告ニ於テ二級一級選舉ノ事實ハ假令原告陳述ノ如クナルモ町村制第十九條ニ違背セス村長ノ職權ヲ以テ施行シタルモノナレハ過誤ニ非スト謂フト雖町村制第十九條ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フノ規定ニシテ其選舉ヲ行フハ當選者ヲ定ムルニ外ナラサルモノナレハ未タ其當選者ノ定マラサル前ニ於テ選舉ヲ完了シタルモノト謂フ可カラス依テ村長ハ職權內トシテ該順序ヲ變更スルコトヲ得サルモノナレハ右事實ハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノナリトス

（第一門第一(78)判決理由ノ一部）

(31)◉村會議員選舉取消ノ訴ニ付追加判決ノ請求

二十五年第九十號
二十六年三月三日裁決
（千葉縣東葛飾郡塚田村長藤井三郎）

判旨○本案判決ノ理由ニ影響セサル新證據ヲ提出シテ追加判決ノ請求ヲ爲スヲ得ス

（第一門第一(79)判決理由參看）

(32)◉村會議員選舉無效投票取消事件ノ仲間判決

二十五年第七十三號
二十六年三月十一日宣告
（熊本縣士族木原覺八對仝縣上益城郡濱町村長下田弘治）

判旨○納稅額ニ據リ選舉人ノ等級ヲ設ケタル町村稅負擔ノ多少ト選舉權トヲ伴ハシメンカ爲ニ過キサレハ選舉人ハ己ノ屬セサル級ノ選舉ニ關シテモ亦訴願訴訟ヲ爲スコトヲ得（町村制第二十九條）

（第一門第一(81)判決理由參看）

(33)◉違法選舉取消并再選舉ヲ要ムル訴

二十五年第九十五號
二十六年三月十一日宣告
（熊本縣士族野田小三郎外六名對仝縣上益城郡福田村長上田貞雄）

判旨○村會議員選舉會ニ於テ選舉掛長タル村長カ一時退席ノ際助役ヲシテ假リニ其事務ヲ取扱ハシメタルハ違法ニ非ス（町村制第二十條）

○村會議員選舉會ニ於テ村役場吏員ヲシテ會場ノ

取締ヲ爲サシメタルハ違法ニ非ス（町村制第二十一條）

原告代理人ハ被告及助役大津山經賢兩名ニ於テ選舉掛長ノ事務ヲ執リタルハ違法ナリト云フト雖被告ハ大津山經賢ヲシテ掛長タル被告ノ職席間選舉場內ノ取締ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ假リニ之ニ其事務ヲ取扱ハシメタルモノナレハ被告ノ行爲ハ町村制第二十條ノ規定ニ違背シタルモノト謂フヲ得ス又町村制第二十一條ノ規定ハ要スルニ選舉開會中其選舉執行上無關係ナルモノヲシテ其會場ニ入ルコトヲ許サヽルノ精神ニ出テタルモノナレハ被告カ會場取締ノ必要ヲ認メテ役場吏員タル收入役上村喜平ヲシテ會場入口ニ於テ番號札ヲ選舉人ニ渡サシメタルハ該條ノ規定ニ違背シタルモノト爲スヲ得ス又上村喜平カ選舉人津崎庄次郎ニ番號札ヲ渡ス際其投票ヲ擅リ替ヘタリト言フ原告主張ノ事實ハ其確證ナキノミナラス假令其事實アリト爲スモ當時何等ノ異議ナクシテ選舉ヲ終了シタル上ハ選舉ノ效力ニ影響ヲ及ホサヽルモノトス

(31) ◉村會議員投票效力ニ關スル訴

二十五年第九十六號　二十六年三月十三日宣告　（山形縣西置賜郡豐原村長中村俊章對仝縣平民佐藤米五郎）

判旨○行政訴訟ハ行政上ノ處分ニ對シ之カ救正ヲ求ムルニ起因スルモノナレハ一私人ヲ被告トシテ提起シ得ヘキモノニ非ス（第一門第三(9)判決理由參看）

(35) ◉町會議員選舉人名簿ニ關スル訴ニ對スル妨訴抗辯

二十五年第百二十五號　二十六年三月十五日宣告　（石川縣羽咋郡高濱町長雄谷助次郎對仝縣知事鈴木大亮）

判旨○行政訴訟ノ出訴期限モ民事訴訟ト同シク里程ニ對スル伸張日數ヲ加算ス（第一門第二(16)判決理由參看）

(36) ◉郡參事會ノ裁決取消ノ訴

二十六年第四十號　仝年三月十五日裁決　（長野縣平民出羽澤岩次郎外二名對同縣上伊那郡長丸山英一郎）

判旨○訴願ヲ經タル後ニ非サレハ出訴ヲ許サヽル事件ニ就テハ訴願期限ヲ經過シタルトキハ提起スルヲ得ス（町村制第二十九條）（第一門第四(11)判決理由參看）

(37) ◉村會議員一級二級選舉ノ效力ニ關スル妨訴抗辯

二十五年第百二十一號第百二十七號第百二十八號第百三十號併合二十六年三月十八日宣告　（石川縣羽咋郡高濱町長雄谷助次郎外一名對同縣參事會議長鈴木大亮）

判旨○選舉ノ效力ニ起因スル訴願ニ對シ縣參事會カ爲シタル裁決ヲ不當トスルノ訴ニ於テハ縣參事會長ハ被告タルノ責務アリ（第一門第三(10)判決理由參看）

(38) ◉村會議員選舉效力ニ關スル訴

二十五年第百二十五號　二十六年三月十五日宣告　（石川縣羽咋郡高濱町長雄谷助次郎對仝縣知事鈴木大亮）

判旨○行政訴訟ノ出訴期限モ民事訴訟ト同シク里程ニ對スル伸張日數ヲ加算ス（第一門第二(16)判決理由參看）

(36) ◉郡參事會ノ裁決取消ノ訴

二十六年第四十號　仝年三月十五日裁決　（長野縣平民出羽澤岩次郎外二名對同縣上伊那郡長丸山英一郎）

判旨○訴願ヲ經タル後ニ非サレハ出訴ヲ許サヽル事件ニ就テハ訴願期限ヲ經過シタルトキハ提起スルヲ得ス（町村制第二十九條）（第一門第四(11)判決理由參看）

(37) ◉村會議員一級二級選舉ノ效力ニ關スル妨訴抗辯

二十五年第百二十一號第百二十七號第百二十八號併合二十六年三月十八日宣告　（石川縣羽咋郡高濱町長雄谷助次郎外一名對同縣參事會議長鈴木大亮）

判旨○選舉ノ效力ニ起因スル訴願ニ對シ縣參事會カ爲シタル裁決ヲ不當トスルノ訴ニ於テハ縣參事會長ハ被告タルノ責務アリ（第一門第三(10)判決理由參看）

(38) ◉村會議員選舉效力ニ關スル訴

二十五年第六十九號　二十六年三月二十九日宣告　（熊本縣菊池郡戸崎村長猿渡榮平對仝縣山鹿山本菊池合志郡長小橋元雄）

判旨○住居ノ移轉ハ戸籍法ニ關スル公式ノ手續ヲ行フニ非サレハ公認スヘキモノニ非ス

被告ニ於テ內田岩八ハ合志郡泗水村大字住吉二百四十二番地ニ居住シナカラ菊池郡戸崎村ニ於テ住民タルノ權利ヲ行ヒタルハ全ク誤謬ニ歸ス可キモノニシテ既ニ戸崎村ニ住居セサル以上ハ同村ノ公民タルヘキ要件ノ一ヲ闕キタルカ故ニ同村ニ於テ選舉權ヲ有スルノ理由ナシト謂フト雖明治二十五年五月一日ヲ以テ行ヒタル戸崎村村會議員半數改選ノ際內田岩八ハ既ニ戸崎村ノ住居ヲ廢シ泗水村ニ住居ヲ占メタルモノナリトノ事實ヲ確ムルニ足ルヘキ證據ナシ而シテ住居ノ移轉ハ戸籍ニ關スル規定ニ從ヒ公式ノ手續ヲ行フニ由リ始メテ確認セラルヽ可キモノタルニ內田岩八ニ於テハ未タ曾テ住居移轉ニ關スル公式ノ手續ヲ爲シタルコト無キノミナラス現ニ戸崎村ノ負擔ヲ分任シ尙ホ且明治二十三年二月同村消防編制以來三番組消防夫ニ選舉セラレ明治二十五年改選ノ際ニモ其選ニ當リ現ニ勤續中ニ在ル等ノ事實ニ依リテ之ヲ觀レハ內田岩八カ戸崎村ノ住民トシテ權利義務ヲ行ヒタルハ一里道ヲ隔ル隣村ニ家屋アルノ一ヲ以テ全ク誤認ニ歸ス可キモノト爲スヲ得ス從テ內田岩八カ選舉權ヲ行ヒタル故ヲ以テ該村村會議員ノ半數改選ハ無效ナリト爲ス可キモノニアラス

(39) ◉町會議員選舉取消ノ訴

二十五年第九十三號　二十六年四月十四日宣告　（神奈川縣平民尾島角藏對仝縣高座郡藤澤大阪町會議長背水察善）

判旨○町會議員選舉會ニ於テ豫告ノ投票時間ヲ延長シタルハ違法ニ非ス（町村制第十九條）

○選舉ニ關係ナキ者ト雖モ選舉場取締ノ爲ニ入場セシメタルハ違法ニ非ス（町村制第十八條第二十一條）

○改選議員ノ投票ト增加議員ノ投票トヲ區別セサル選舉ハ違法ナリ（町村制第十六條）

○町會議員ノ選舉ハ匿名投票ナルヲ以テ無資格者カ投票ヲ爲シタルノ事實アルトキハ選舉全部ヲ無效トス（町村制第二十四條）

原告ハ第一被告ハ明治二十五年四月十一日ヲ以テ來ル十九日午前八時ヨリ藤澤大阪町町會議員半數改選及增加議員ノ選舉ヲ執行ス二級ノ投票時間ハ午前八時ヨリ午後二時迄一級ノ投票時間ハ午後四時ヨリ五時迄トス閉場ハ第六時ト定ムト告示シナカラ其當日ニ至リ二級選舉ノ時間ヲ午後三時迄トシ仍ホ午後八時迄ト再延シ一級選舉時間ヲ午後十時三十分ヨリ十一時三十分迄ト變更シタルハ町村制第十九條ニ背反スルモノナリト謂フト雖被告ハ既ニ投票日時告示ノ但書ニ時間ノ便宜變更スルコトアルヘキ旨ヲ豫告シタルノミナラス告示ノ日時ニ選舉會ヲ開始シ中途會場ニ於テ暴行者アリタルカ爲メ止ムヲ得ス時間ヲ延シタルモノナレハ町村制第十九條ノ規定ニ違背シタルモノト謂フヲ得ス第二原告ハ被告カ無資格者タル山本德太郎ヲ選舉場內ニ入ラシメタルハ制第十八條及第二十一條ニ違背スルモノナリト謂フト雖町村制第十八條ハ選舉人名簿ノ調製及縱覽ニ關スル規定ニシテ本件ニ關係ナク第二十一條ハ選舉場ノ取締其他投票整理ノ爲ニ選舉長及選舉掛ニ於テ必要ト認メ入場セシムルニ至ルマテ制限

スル規定ニアラサルカ故ニ被告カ選舉掛ト合議ノ上取締其他投票整理上必要ヲ認メテ山本德太郎ヲ雇ヒ入レ之ヲ選舉會場ニ入ラシメタルハ不法ト云フヲ得ス又山森德次郎ノ投票ヲ代書セシムルニ方リ同人ヲ勸誘シ其意ニアラサルモノヲ投票セシメタリト云フモ其事實ヲ證明スルニ足ルヘキ證據ナシ故ニ町村制第二十一條ニ違背シタルモノトナスヲ得ス第三被告ハ始メ改選增加ヲ區別シテ記載スヘキ投票書式ヲ公民ニ示シタレトモ開國ノ上其投票ヲ檢閱スルニ改選增加ノ區別ヲ爲サスシテ記載シタル投票數多アリ之カ書式ヲ示シタルハ被告カ一時ノ用意ニ出町村制中改選增加ヲ區別シテ投票スルノ規定アラサルヲ以テ選舉長ハ選舉掛ト合議ノ上投票得點多數ノ者ヨリ順次改選增加議員ヲ定メ投票記載ノ始三人ヲ改選議員トシ殘三人ヲ增加議員トシテ其投票得點ヲ算スルニ選舉ノ結果ニ於テハ毫モ異動アルコトナシ故ニ不法ニ非スト云フト雖モ町村制第十六條ノ規定アル以上ハ改選ト增加トハ任期ニ差異ヲ生スヘキモノナレハ選舉ノ結果ニ於テ異動ナキト否トニ拘ラス其投票ハ各之ヲ區別セサルヘカラス故ニ被告カ投票得點多數ノ者ヨリ順次改選議員ト增加議員トヲ定メタルハ不當ニアラストヲ得ス第四被告ハ松崎久右衛門カ其男辰五郎ヲシテ入レシメタル投票ハ其後辰五郎ヲ呼出シ投票紙ニ記載シタル者ノ人名ヲ聞取リ其投票ヲ除却シ正當ノ投票ヲ以テ當選者ヲ定メタルモ選舉ノ結果ニハ毫モ異動ヲ生セス而シテ町村制第二十四條ハ其結果ノ如何ヲ問ハス選舉全部ヲ無効トスヘシトノ規定ニアラサルヲ以テ之カ效力ヲ決スルハ選舉ノ結果ニ異動ヲ來タスヤ否ニ在レハ不法ニアラスト謂フト雖モ町村會議員ノ選舉ハ無記名投票ニ依ルカ故ニ投票中孰レカ無資格者ノ投票ナルヤヲヲ判別スルニ由ナキヲ以テ投票人タル松崎辰五郎ノ申出ノミニ依リテ其投票ヲ除却シタルモ果シテ其投票ハ辰五郎ノ入レタルモノナルヤ否ヤヲ知ルヘカラサルノミナラス代人ナシテ投票ヲ爲サシメタル事實アル以上ハ選舉ノ定規ニ違背シタルモノナルニ依リ結果ノ如何ニ拘ラス其選舉ハ適法ノモノト云フヲ得ス

(40) ◉村會議員無效取消ノ訴

二十六年第五十一號
全年四月十九日裁決（岐阜縣平民古川藤次對全縣下津郡羽澤村會議長服部信遂）

判旨○選舉效力ニ起因スル行政訴訟ハ出訴期限經過ノ後提起シ得ヘキモノニ非ス

（第一門第二(19)判決理由參看）

(41) ◉村會議員半數改選ノ選舉取消ノ訴

二十五年第百三十五號
二十六年四月二十九日宣告（長崎縣士族松尾信知對全縣南高來郡南有馬村長小田莊藏）

判旨○村長ト雖モ名簿修正ノ意見アレハ其確定前即チ縱覽期限內ニ之ヲ村會ニ付シテ裁決ヲ求ムルヲ要ス故ニ縱覽期限後ニ提起シタル訴願ノ裁決ニ基キ名簿ヲ修正シタルハ違法ナリ（町村制第十八條第三十七條）

○適法ニ裁決書ヲ交付セス又ハ其告知ヲ爲サヽレハ裁決タルノ效果ヲ生セス（町村制第百二十條）

被告ニ於テ名簿訂正ノ訴願ニ對シテハ四月九日裁決ヲ爲シ且其告知ヲ爲シタルモノナレハ裁決ノ效ナシト謂フ可カラス又同月二十日二十一日ノ村會議員半數改選ノ選舉ハ確定名簿ニ依リ爲シタルモノナレハ違法ニア

ラス假リニ原告ノ言ニ任セ名簿ニ不正アリトスルモ其一事ハ選舉ノ全部ヲ打破スルニ足ラス元來別案件タル名簿訂正ト選舉ノ效力トヲ混シテ論スル可キモノニアラサレハ漫リニ別種ノ理由ヲ以テ直チニ選舉取消ヲ要求スル可キ者ニアラスト云フト雖選舉ヲ行フトキ選舉掛長ハ已ニ確定シタル名簿ニ照ラシテ投票ヲ受ケ可キハ町村制第二十二條ニ規定スル所ナリ而シテ本件ノ事實ハ當初四月一日ヨリ同月七日ニ至ル選舉人名簿縱覽期限中關係者ノ爲シタル訴願及期限滿了後ニ係ル四月八日ヲ以テ村長ヨリ與村辰男外三名ノ公民權ヲ特免ス可キ旨提出シタル議案ニ對スル四月九日ノ村會裁決ニ依リ名簿ヲ修正シ之ヲ確定名簿ト爲シ以テ選舉會ヲ開キタルモノナレトモ名簿修正ノ申立ハ縱覽期限中ニ於テ爲ス可キモノナルハ同制第十八條ノ規定ニ依ル可キヤ當然ナリトス故ニ村長ト雖名簿修正ノ意見アラハ該期限中之ヲ村會ニ付シ裁決ヲ求ム可キモノニシテ期限滿了後ニ至リ裁決ヲ求メ得可キモノニアラス然ルニ村會モ亦併テ之ヲ受理シ名簿ニ記載ス可キモノト裁決シ其他ノ訴願ニ於テモ石田安太郎又ハ石田角太郎石田永十カ選舉者本人ト家族ト地租ヲ合算スルモノ及地租ヲ有セス失格者ノ誤載或ハ脫落等有之箱當訂正相成度トノミ記載シ誰人ニ對シ何等ノ理由ヲ以テ訂正ス可キ歟ヲ區別セサル訴願ニ對シ申立ノ通訂正ス可キ者又ハ報告書ノ通リトノミ裁決シテ選舉人ハ一二級ノ何レニ記載ス可キ者ナルヤヲ決定セス且裁決書ヲ利害ノ關係者ニ交付セス又其告知ハ四月九日ヲ以テ三宅文叔外數名ヨリ名簿訂正ニ關スル訴願書提出シタルヲ以テ本月九日當村會ニ於テ相當裁決ヲ爲セリ其詳細ハ當役場備付訴願ニ對スル裁決告知原簿ニ依リ承知ス可キ旨ヲ公布式ニ依リ公示シタルニ過キサルモノナルニ因リ該裁決ハ適法ニ效果ヲ生ス可キ理由ナキモノナレハ本訴甲第七號證甲第八號證ニ關スル二百四十八名ハ名簿縱覽期限後即チ名簿確定後ニ於テ擅ニ加除修正セラレタル違法ノ人名簿ニシテ町村制第十八條ノ規定ニ從ヒ同制第三十七條第一項ノ裁決ニ依リ選舉前十日ヲ限リ修正ヲ加ヘ確定シタル名簿ナリト謂フヲ得ス然ルニ被告カ明治二十五年四月二十日同二十一日ノ兩日ヲ以テ執行シタル南有馬村々會議員半數改選ノ選舉ハ該違法ノ名簿ニ照ラシタル選舉人ナシテ投票セシメタルモノナレハ違法ノ選舉ヲ執行シタルモノナリト謂フ可カラス

(42) ◉村長解職ニ關シ秋田縣參事會ノ裁決不服ノ訴

二十六年第十八號
全年五月一日宣告（秋田縣山本郡鵜川村長代理助役兒玉久左衛門對同縣同郡長御代弦）

判旨○豫審判事カ重輕罪事件ニ付被告人ヲ訊問スルハ町村制第九條第二項ニ所謂裁判上ノ訊問ナリ（町村制第九條第二項）

○有給村長ニ選舉セラレタル者ト雖モ其當選ニ應シ知事ノ認可ヲ得タルトキハ町村制第五十六條第二項ニ依リ公民權ヲ得ルヲ以テ名譽職村長ト同シク同制第九條末項ノ規定ヲ適用スヘキモノトス（町村制第五十六條第二項同第九條末項）

本訴原被告カ法律ノ解釋ヲ異ニシ爭フ所ノ要點ハ町村制第九條第二項裁判上ノ訊問ノ豫審中ノ訊問ヲ包含スルヤ有給村長ニシテ同制第九條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ解クヘキモノナルヤノ二點ニ歸着スル而シテ原告ニ於テ豫審ハ裁判ノ準備ナリ其裁判所內ニ設クルノ故ヲ以テ裁判ナリト云フハ實ニ皮想ノ見ナリト云ハサルヘカラス豫審訊問ヲ裁判所上ノ訊問

トス云フハ可ナルモ未タ之ヲ裁判上ノ訊問ト云フヘカラス故ニ町村制第九條第二項ニ依リ裁判上ノ訊問ナリトシテ公民權ヲ停止スルニハ公判ノ訊問ニ係リタルモノナラサルヘカラスト云フト雖豫審判事カ重輕罪被告事件ニ付被告ヲ訊問スルハ即チ刑事訴訟ノ手續ニ於ケル裁判上ノ訊問ニシテ單ニ公判ニ付シタル場合ニ限リ裁判上ノ訊問ナリト云フコトヲ得ス又原告ハ町村制第五十五條ニ町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニアラストアリ其第五十六條第二項ニ有給町村長及有給助役ハ其公民タル者ニ限ラストアリ是明カニ名譽町村長ハ公民ニ限リテ任スヘク有給町村長ハ公民タル者ニ限ラサルコトヲ規定セルモノナレハ隨テ第九條末項ハ有給町村長ニ適用スヘキモノニアラスト云フト雖町村制第五十六條第二項但書ニ有給町村長ハ當選ニ應シ認可ヲ得タルトキハ其公民タルヲ得トアルヲ以テ之ヲ見レハ有給町村長ハ其町村公民タル者ニ限ラス之ニ任セラルヽヲ得ヘク其公民權ヲ有セサル者ヲ選擧シ其當選ニ應シテ府縣知事ノ認可ヲ得タルトキハ同時ニ町村公民タルノ權ヲ得ル者ナレハ公民權得有ノ上ニ於テハ前後ノ別アルニ拘ラス町村公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ルノ點ニ於テハ名譽職町村長ト異ナル所ナキヲ以テ町村制第九條末項ヲ有給村長ニ適用スルハ正當ナル法律ノ解釋ナルニ鵜川村會ニ於テ原告ノ職務ハ解ク可キモノニ非スト議決シタルハ法律ニ違背シタルモノト謂ハサルヲ得ス

(43) ◉村會議員一級選擧投票ノ效力ニ關スル訴（第一門第三(10)）

（妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第百二十一號
二十六年五月六日宣告（石川縣羽咋郡若部村長北村善太郎對仝縣知事三間正弘）

判旨○制第二十三條第二項第四ニ所謂他事ヲ記入スルトハ投票中選擧ニ害アル事若クハ選擧ニ必要ナキ雜事ノ記入ヲ云フ（町村制第二十三條第二項第四）

○村會議員選擧ニ於テ村會議員投票明治年月日ト印刷セル用紙ヲ以テ爲シタル投票ハ制第二十三條第二項第四ニ該當セス（町村制第二十三條第二項第四）

被告ハ町村制第二十三條ニ被選擧人氏名ノ外他事ヲ記入シタル投票ハ無效トスヘキコトヲ規定セルヲ以テ何事ニ限ラス被選擧人氏名以外ノ事ヲ記入シタル投票ハ同條第二項ノ四ニ該當シ總テ無效タルヘシト云フト雖該規定ハ選擧ニ害アル事ヲ記入シ若クハ選擧ニ必要ナキ雜事ヲ記入シタル場合等ヲ指スモノニシテ投票用紙タルノ性質ヲ明確ナラシムル爲メノ記入ノ如キハ之ニ該當スト謂フヘカラス又被告ハ衆議院議員選擧法第五十一條府縣制第三條郡制第十八條ヲ引援シテ論スルト雖町村會議員ノ選擧ハ町村制ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ他ノ法律ヲ引援シテ論スヘキニアラサレハ村會議員投票明治二十五年月日ト印刷セル用紙ヲ以テ爲シタル投票ハ町村制第二十三條第二項ノ四ニ該當スルモノト謂フコトヲ得ス

(44) ◉村會議員一級選擧ノ效力ニ關スル訴（第一門第三(10)）

（妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第百二十七號
二十六年五月六日宣告（石川縣羽咋郡邑知村長舘中良藏對仝縣知事三間正弘）

判旨○制第二十三條第二項第四ニ所謂他事ヲ記入スルトハ投票中選擧ニ害アル事若クハ選擧ニ必要ナキ雜事ノ記入ヲ云フ（町村制第二十三條第二項第四）

○村會議員選擧ニ於テ村會議員投票明治年月日ト印刷セル用紙ヲ以テ爲シタル投票ハ制第二十三條第二項第四ニ該當セス（町村制第二十三條第二項第四）

(45) ◉村會議員二級選擧ノ效力ニ關スル訴（第一門第三(10)）

（妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第百二十八號
二十六年五月六日宣告（石川縣羽咋郡北邑知村長舘中良藏對仝縣知事三間正弘）

判旨○制第二十三條第二項第四ニ所謂他事ヲ記入スルトハ投票中選擧ニ害アル事若クハ選擧ニ必要ナキ雜事ノ記入ヲ云フ（町村制第二十三條第二項第四）

○村會議員選擧ニ於テ村會議員投票明治年月日ト印刷セル用紙ヲ以テ爲シタル投票ハ制第二十三條第二項第四ニ該當セス（同上）

（本件判決理由ハ(43)ト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

(46) ◉村會議員二級選擧投票ノ效力ニ關スル訴（第一門第三(10)）

（妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第百三十三號
二十六年五月六日宣告（石川縣羽咋郡若部村長北村善太郎對仝縣知事三間正弘）

判旨○制第二十三條第二項第四ニ所謂他事ヲ記入スルトハ投票中選擧ニ害アル事若クハ選擧ニ必要ナキ雜事ノ記入ヲ云フ（町村制第二十三條第二項第四）

○村會議員選擧ニ於テ村會議員投票明治年月日ト印刷セル用紙ヲ以テ爲シタル投票ハ制第二十三條第二項第四ニ該當セス（同上）

（本件判決理由ハ(43)ト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

(47) ◉村會議員選擧無效投票取消ノ訴（第一門第二(8)）

（妨訴抗辯ノ本案）

二十五年第七十三號
二十六年五月八日宣告（熊本縣士族木原覺八對仝縣上益城郡濱町村長下田弘治）

判旨○カロイ等ノ文字ヲ記入シタル投票ハ制第二十三條第二項第四ニ所謂他事ノ記入アルモノニシテ無效ナリ但其記入ノ文字カ投票用紙ノ表面ニ在ルト裏面ニ在ルトヲ問ハス（町村制第二十三條

第二項第四）

被告ハ本件所爭ノ投票ニカロイ等ノ文字記入アルコトヲ發見シタルハ明治二十五年八月一日ニ至リ原告代人ヨリ投票調査ノ發ヲ申出テ之レカ調査ヲ爲シタル際發見シタルモノナレハ該投票ハ完全ナル投票ナリト言ハサル可カラス又假リニ原告云フ如ク選舉當時ニ其記入アリタルモノトスルモ法律ノ禁スル他事記入ナリト謂フヲ得ス何トナレハ町村制第二十三條第二項四ノ他事ヲ記入スルモノトハ一ノ意味ヲ有スル文字ノ記入アル場合ヲ指シタルモノナレハナリ且投票用紙ハ表面カ肝要ニシテ裏面ハ關係ナキモノナリト言フト雖被告カ自ラ當裁判所ニ提出シタル明治二十五年五月二日付ノ郡長ヘ差出シタル伺書及ヒ同月三日付ノ郡役所指令ニ徵スレハ投票ノ文字記入ハ同年八月一日ニ至リ始メテ之ヲ發見シタルモノニ非スシテ本件村會議員選舉結了ノ日即チ明治二十五年五月二日ニ於テ發見シタルコト明カナレハ其文字ノ記入ハ選舉執行ノ當時既ニ成リタルモノニシテ後日之ヲ作爲シタルモノト認ムルヲ得ス又投票ニ記載シアルカロイ等ノ文字ハ雖ヲ記入シタルモノナレハ右投票ハ即チ他事ヲ記入スルモノニシテ町村制第二十三條第二項四ノ規定ニ違背シタル無效ノ投票ナリトス又記入ノ文字カ投票用紙ノ表面ニ記載シアルモ其裏面ニ記載シアルモ是レ等シク投票中ニ他事ヲ記入スルモノナレハ本件記入ノ文字カ投票用紙ノ裏面ニアルノ故ヲ以テ法律ノ規定ニ違背シタルモノニ非スト言フヲ得ス

(48) ◉村會議員選舉取消請求ノ訴

二十五年第百三十九號
二十六年五月八日宣告　（熊本縣士族大野德行對合縣合志郡眞城村長宇野熊三郎）

判旨○選舉掛協議ノ上同一地内ニ於テ豫定シタル選舉會場ヲ改ムルハ制第十九條ニ反スルモノニ非ス（町村制第十九條）

○一定ノ投票用紙ヲ製シ選舉人ノ望ニ任セ其使用ニ供シタルハ違法ニアラス

○選舉掛ノ補助ヲ爲サシムルハ村役場吏員ヲ選舉會場ニ列セシメタルハ違法ニ非ス（町村制第二十條第二十一條）

○選舉掛助手カ選舉ノ自由ヲ妨クサル範圍内ニ於テ選舉人ノ指名ニ從ヒ投票ノ代書ヲ爲シタルハ違法ニ非ス（町村制第二十二條）

原告ハ被告ニ於テ平眞城村役場ヲ本件選舉會場ト爲ス旨町村制ノ規定ニ從ヒ七日前ニ之ヲ公告シタリ然ルニ當日ニ至リ俄然會場ヲ巡査駐在所ニ變更シタルハ町村制第十九條ノ規定ニ違背スルモノナリト謂ト雖選舉會場ヲ巡査駐在所ト改メタルハ選舉當日雨天ニ付選舉掛協議ノ上定メタルモノニシテ且該巡査駐在所ハ初メ會場ト定メタル平眞城村々役場ト同地内ニ在ルコトハ乙第九號證選舉錄ニ徵シテ明カナリ故ニ村役場ト巡査駐在所トハ其建物入口等ヲ異ニスルモ等シク皆同一ノ地内ニアルモノナレハ之ヲ以テ選舉ノ場所ヲ變更シタルモノト爲ス可ラス隨テ町村制第十九條ニ從ヒ更ニ場所公告ノ手續ヲ爲スヘキモノト謂フヲ得ス又原告ハ被告ニ於テ役場ノ印ヲ押捺シタル投票用紙ヲ選舉人ニ配付シタルハ違法ナリト云フト雖一定ノ投票用紙ヲ設ケ選舉人ノ望ニ任セ其使用ニ供スルハ毫モ法律ニ違背スル廉ナシ又原告ハ被告ニ於テ選舉掛ノ外ニ名簿照合者及選舉掛助手ナル者ヲ設ケ村役場屬吏ヲ以テ之ニ充テ選舉會ノ役員ヲ組織シタルハ町村制第二十條ニ違背スルモノナリト云フト雖選舉會ニハ選舉人ノ外ニ

人ハ之レニ臨ムコトヲ得サルモノナレハ名簿照合者及ヒ助手二名ヲ選舉會ノ役員ニ列セシメタルハ町村制第二十一條ニ違背スト云フト雖町村制第二十條ノ規定ハ選舉掛長及ヒ選舉掛ニ關スル規定ニ止リ選舉掛ノ職務ノ補助ヲ爲サシムル者ノ設定ヲ禁スルノ規定ニアラサルヲ以テ名簿照合者及ヒ助手ヲ設ケタルハ同條ノ規定ニ違背シタルモノト謂フヘカラス然ルニ原告ハ選舉錄ノ末尾ニ選舉人名簿照合者合志俊平ト記載シアルノ一事ヲ以テ同人カ主トシテ名簿照合ノ事務ヲ執リタルモノナリト主張スト雖單ニ右ノ一事ヲ以テ原告ノ主張スル如キ事實ナリト確認スルヲ得ス故ニ合志俊平ハ選舉掛長ノ名簿照合ノ事務ヲ補助シタルモノト認メサルヲ得ス又町村制第二十一條ノ規定ハ選舉事務整理ノ爲メ必要ト認メ入場セシムルモノニ至ルマテ之ヲ制限スル規定ニ非サルヲ以テ被告ニ於テ其必要ヲ認メテ役場吏員ヲ名簿照合者及ヒ助手トシテ選舉會場ニ入場セシメタルハ違法ナリト謂フヲ得ス又原告ハ選舉掛助手ヲシテ選舉掛ノ面前ニ於テ選舉人ノ投票ヲ代書セシメ以テ選舉ヲ行フタルハ町村制第二十二條ニ違背シタル無效ノ選舉ナリト云フト雖モ選舉掛助手ニ於テ毫モ選舉ノ自由ヲ妨クルノ行爲アリタルモノト認ムル能ハサルヲ以テ選舉人ノ指名ニ從ヒ代書ヲ爲シタル如キハ町村制第二十二條ノ規定ニ背反シタルモノト謂フヘカラス又原告ハ時計ノ指針ヲ引戻シテ選舉時間ヲ延長シタリト云ヒ選舉錄ハ選舉會ノ當日製シタルモノニ非ス又之レカ期讀ヲ爲サヽリシト云フト雖モ是レ皆原告無證ノ陳述ニ止マルヲ以テ其事實アリタルモノト認ムルヲ得ス

(49) ◉町會議員選舉人名簿ニ關スル裁決ヲ不當トスル訴

二十五年第百二十五號
二十六年五月二十五日宣告　（石川縣羽咋郡高濱町長雄谷助次郎對金縣知事三間正弘）

判旨○他ノ委任ヲ受クルト否トヲ問ハス選舉人名簿ノ正否ニ關シテハ制第十八條第三十七條ニ依リ關係者ニ於テ訴願ヲ提起スルノ權利アリ（町村制第十八條第三十七條）

原告ハ本件岡部信太郎カ當初高濱町長（提起シタル訴願ハ一人ノ資格ヲ以テ爲シタルモノナレハ郡參事會縣參事會ニ對シ五十三名ノ總代ヲ選ヌルト稱スルモ訴權ナキモノナリ又岡部信太郎外五十三名カ郡參事會縣參事會ニ爲シタル訴願ハ各自ノ公民權ヲ主張スルモノナレハ右五十三名カ選舉人名簿縱覽期限内ニ町會ヘ訴願ヲ爲サヽリシ點ヲ以テ訴願提起ノ權ナシトセラレタル以上ハ訴願ノ要求點モ亦消滅スヘシ又岡部信太郎ハ訴權アル自己ノ權利ヲ申立得ルモ他ノ訴權ナキ五十三名ノ公民權ヲ主張スルヲ得スト云フト雖モ岡部信太郎カ町長ニ本件ノ申立ヲ爲シタル際ハ六十八名ヲ公民權アリト主張シタルモノニシテ選舉人名簿ノ正否ニ關シテハ町村制第十八條及第三十七條ニ依リ其關係者ニ於テ訴願ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ當時本人ノ委任ヲ受クルト否トニ拘ハラス其訴願ハ效力ナキモノト謂フヘカラス又五十三名ハ既ニ訴願ノ權ヲ失ヒタルモノナルモ右岡部信太郎ノ訴願ノ權ヲ有スルニ依リ被告ニ於テ其要求ヲ採用シ本件ノ裁決ヲ爲シタルハ不當ノ點ナキモノトス

(50) ◉村會議員二級選舉取消事件ニ付山形縣參事會裁決不服ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十六年第三十三號
仝　年六月二日宣告

（山形縣玉虫寅松外二名對仝縣南置賜郡窪田村長加藤元右衛門參加人仝縣齋藤武資外二名）

判旨○村會議員ノ選舉ヲ無效トシ其取消ヲ請求スル事件ニ對シ選舉執行者タル村長ハ被告ト爲ルノ責務アリ

（第一門第三(12)判決理由參看）

(51)◉村會議員補闕選舉ノ效力ニ關スル郡長ノ處分取消ノ訴

二十六年第八號
仝年六月六日宣告（島根縣邑智郡澤谷村長福間鋏十郎對仝縣仝郡長田中高德）

判旨○投票ヲ爲シタル選舉人ノ員數ト符合セサル過剩投票アルトキハ其票數ヲ當選者ノ得票數ヨリ控除スルモ結果ニ異動ナクンハ其選舉ハ取消スヘキモノニ非ス

○制第二十三條第二項第四ニ所謂他事ヲ記入スルトハ選舉ニ必要ナキ雜事若クハ選舉ニ害アル事ヲ記入スルヲ云フ故ニ投票ノ性質ヲ明確ナラシムル記入ノ如キハ此ニ包含セス（町村制第二十三條第二項第四）

原告ハ村會議員補闕二級選舉ニ於テ現ニ投票セシ選舉人ノ員數ニ超ユル六箇ノ過剩投票ハ不正物ニシテ若シ一票ニテモ不正物アラハ之ヲ除去スヘキハ勿論ナレトモ本訴ノ場合ノ如キ何レノ投票ノ不正ナルヤヲ認知スル能ハサルニ於テハ何レノ投票ヲモ除去スルコトヲ得サレハ其選舉ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行フヘキモノタリ爲シ一歩ヲ讓リテ該不正投票ヲ當選者ノ得票ニ歸シタリト假定シテ差引勘定ヲ爲シ得ヘシトスルモ其差引勘定ノ爲メ當選者ノ得票數カ落選者ヨリ少數トナル場合ニ於テハ如何ニスヘキヤ被告郡長ハ被選舉人氏名ノ外ニ村會議員ニ選舉ス云々及年月日ヲ記載セル二箇ノ投票ヲ有效ノモノトシテ計算ヲ爲シ該六箇ノ過剩投票カ各當選者ノ得票ニ歸シタリト假定シテ之ヲ各當選者ノ得票數ヨリ除去スルモ其最少得票當選者ノ得票數ハ最多得票ノ落選者ニ比シテ尚ホ多數ナレハ選舉ヲ取消スヘキニアラストスルモ町村制第二十三條第二項ノ四ニハ被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入シタル投票ハ無效トストアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ氏名ノ外ハ一切何事モ記載スルヲ得サルモノニシテ該二票ハ氏名ノ外ニ數文字ヲ記載シタレハ無效トセサルヲ得ス之ヲ無效トシテ六箇ノ過剩投票ヲ各當選者ノ得點數ヨリ除去スルトキハ當選者中最少得票者ノ當點數ハ最多得票ノ落選者ヨリモ少數トナルニ至ルカ故ニ該選舉ヲ取消サヽルヲ得ス隨テ又一級選舉ヲモ取消サヽルヲ得ストスト雖モ現ニ投票セシ選舉人ノ員數ニ超ユル過剩投票アル場合ニ於テモ其過剩投票ノ數ヲ當選者ノ得票數ヨリ控除スルカ爲メ當選ノ結果ニ異動ヲ生スルニ至ルコトナキトキハ其選舉ヲ取消スヘキモノニアラス而シテ又被選舉人氏名ノ外ニ選舉書及右三名選舉仕候也若クハ右之三人選舉仕候ノ文字竝ニ年月日ヲ記載シタル二箇ノ投票ハ投票タルノ性質ヲ明確ナラシムル爲メノ記入アルニ過キサルモノニシテ選舉ニ必要ナキ雜事若クハ選舉ニ害アル事ヲ記入シタルモノニアラサレハ町村制第二十三條第二項ノ四ニ該當スト謂フヘカラス此二票ヲ有效トシテ當選者ノ得票數ニ加フルトキハ假令過剩投票ヲ當選者ノ得票數ヨリ控除スルモ當選ノ結果ニ異動ヲ生スルニ至ラサルコトアラサレハ該選舉ハ一級二級共ニ取消スヘキモノニアラス

(52)◉市會議員選舉會取消ノ訴

二十五年第百二十號
二十六年六月十二日宣告（石川縣士族吉村茂吉外二名對仝縣金澤市長稻垣義方）

判旨○選舉執行ノ際選舉會場ニ在ラサル者ニ投票ヲ爲サシメサリシハ違法ノ處分ニ非ス

○選舉ノ效力ニ關スル訴願及訴訟ハ異級ノ選舉人ト雖モ之ヲ提起スルノ權利アリ

○三級選舉ノ終了前二級及一級ノ選舉ヲ執行セシハ制第十九條第二項ニ違背シタル不法アリ

（市制第十九條第二項）

第一原告ハ明治二十五年四月二十日ヲ以テ石川縣金澤市下小川町玄門寺ニ於テ施行セラレタル選舉會ハ其議場時限ニ至リ選舉會場ナル本堂入口ノ木柵ニ在リシ選舉人ヲ退散セシメテ投票ヲ爲サシメサリシモノナレハ無效ノ選舉ナリト謂フト雖モ原告甲第五號證并ニ被告乙第一號乃至乙第六號證ニ依リテ見レハ同面內圍障子トアル場所ハ選舉ノ前日掛長鈴木勇吉カ選舉掛山本茂坂本常吉ト同行シ此處ヲ以テ選舉場ノ區域ト指定セシ事實アル而已ナラス選舉ノ當日午前第三時ヨリ同處ニ第七選舉區三級公民選舉會場ナル札ヲ掲ケ其內部ニハ受付掛吏員出張シテ有權者無權者ヲ取調ヘ入場セシメタリ而シテ該障子ノ外ニアル木柵ハ當日午前八時頃助手等ノ申立ニ從ヒ多人數ノ雜沓ヲ防カン爲メ假ニ之ヲ設ケタルモノニシテ其內ニハ有權者無權者ノ別ナク入リ居タルモノナレハ選舉會場ハ卽チ內圍障子ノ內ニ在ルモノニシテ其外ニ設ケアリシ木柵內ヲモ選舉會場ト認ムルヲ得ス隨テ當日閉場時限ニ至リ木柵內ニ在リシ者ヲシテ投票ヲ行ハシメサリシモ之ヲ以テ違法ノ處分ナリト云フヲ得ス第二原告カ前記三級選舉ノ結了セサル前ニ二級一級ノ選舉ヲ行フタルハ執行ノ順序ヲ誤リタル不法ノ選舉ナリト云フニ對シ被告ハ抗辯シテ三級公民タル原告ハ二級一級ノ選舉ノ效力ニ關シ訴願スルノ權ナシト云フト雖市制第十三條ニ選舉人ハ分テ三級ト爲ストアリ又同制第十九條ニ各級ニ於テ選舉ヲ行フ云々トアルハ單ニ各級選舉ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ同制第二十八條ニ謂フ所ノ選舉ノ效力ニ關シ訴願ヲ爲スノ權利マテヲ區分スルノ謂ニアラサレハ原告ハ二級一級ノ選舉ノ效力ニ關シテモ訴願權アルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ市制第十九條第二項ニ各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級云々トアルヲ以テ見レハ三級選舉ヲ結了シ然ル後二級選舉ヲ行フヘキノ順序ナリ然ルニ本訴三級選舉ハ明治二十五年四月二十日ヲ以テ始メ五月一日ヲ以テ結了シタルモノナルニ四月二十二日ヲ以テ二級選舉ヲ行ヒ同二十四日ヲ以テ一級選舉ヲ行ヒタルノ事實アリト認ムル此ノナレハ右二級一級ノ選舉ハ順序ヲ失フタルモノト謂ハサルヲ得ス

(53)◉違法處分取消ノ訴

二十六年第五十七號
仝年六月十五日裁決（茨城縣多賀郡南中郷村會議長瀧七五郎對仝縣知事高崎親章）

判旨○村會議員ノ選舉ヲ無效ナリトシテ縣知事カ取消ノ處分ヲ爲シタルハ違法ナルモ其處分ニ對シ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ（町村制第二十九條第二項）

（第一門第一(89)判決理由參看）

(54)
◉村會議員選舉取消復活ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十六年第十號第十一號
全年六月二十日宣告
（長野縣上伊那郡南箕輪村長高木械三郎對全縣全郡長丸山英一郎）

判旨○選舉ノ效力ニ關スル訴ハ適法ニ地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ提起スルコトヲ得ス（町村制第三十七條）

（第一門第四(14)判決理由參看）

(55)
◉市會議員ノ半數改選ニ關スル選舉人名簿更正請求ノ訴

二十六年第三十號
全年六月二十七日宣告（鹿兒島縣平民總之內藤三次對全縣鹿兒島市長上村慶吉）

判旨○市町村ノ教育ニ關スル事務ハ其行政事項ニ屬スルヲ以テ之ニ要スル費用ヲ市稅町村稅トシテ徵收スルハ當然ナリ又各學區經濟ヲ異ニスルノ結果是等ノ教育費用ヲ不均一ノ稅率ニ據リ徵收スルハ市制及町村制第九十條ニ違背スルモノニアラス故ニ教育費ノ納付者ヲ市會議員選舉ノ納稅資格ニ加ヘタルハ適法ナリ（市制町村制第九十條）

原告ハ明治二十二年法律第十一號ニ依リ舊聯合町村會ヲ存綴シ各區限リ經濟ヲ異ニシ不均一ノ教育費ヲ分擔シ來リタルモノナレハ其議決スル所ノ教育費カ市稅ニ化シ得可キ理由ナキノミナラス之ヲ市稅トシテ徵收スルハ市制第九十條ニ違反スルノ疑ヒアリ然ルニ被告ハ不均一ナル稅率ヲ以テ市稅トシ徵收シタル爲メ新ニ得タル資格者ヲ選舉人名簿ニ登載シタルハ實ニ不當ノ甚シキモノナリト云フト雖市町村ノ教育ハ明治二十三年法律第八十九號同年勅令第二百十五號ニ依リ其行政事務ニ屬ス可キモノナレハ之ニ要スル費用モ亦市稅町村稅トシテ徵收ス可キハ當然ナリトス而シテ本件各學區ニ於テ要スル費用即チ市稅ノ徵收金額ヲ均一ニ爲シ得可カラサルハ市內ヲ數區ニ分チ或ハ市ノ一部ト村トヲ聯合シ其經濟ヲ異ニスルニ由テ生スル結果ナレハ之ヲ徵收スルニ方リ稅率ニ異ナルコトアルモ市制町村制第九十條ノ法意ニ背クモノニアラス依テ被告カ教育費ノ納付者ヲ市ノ納稅者トシテ市會議員選舉人名簿ニ登載シタルハ當然ノ行爲ナレハ該名簿ハ更正ス可キモノニアラス

(56)
◉村會議員當選取消ノ訴

二十六年第二十二號（長野縣平民原三津吉對全縣北
全年七月十日宣告（安曇郡廣津村長宮田今朝次）

判旨○町村制第九條第二項ニ所謂租稅滯納處分中ノ公民權停止ハ滯納者カ現ニ財產差押ノ處分ヲ受ケタル時ヨリ始マルモノトス（町村制第九條第二項）

原告ニ於テ町村制第九條ノ租稅滯納處分中ト處分ノ權力ヲ有スル官廳カ處分ニ着手シタル時ヲ以テ起算スヘキモノニシテ決シテ滯納者カ處分ヲ受ケタル時ヲ以テ始マルモノニ非ス本訴長野縣屬カ太田兼吉外三名ニ對シ發シタル財產差押命令ハ明治二十五年三月六日ナレハ其後選舉當日即チ四月十九日ハ四名共處分中ナルコト投票權ヲ有セスシテ之ヲ爲シタルニ依リ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキモノナリト主張スト雖租稅滯納處分ニ關シ本條第二項公民權ノ停止ハ滯納者カ財產差押ノ處分ヲ受ケタルニ因ヲ始マルモノニシテ其前ニ於テ滯納處分ノ手續ニ着手シタルモ未タ以テ滯納者ニ對シ其公民權ヲ停止シタルモノト言フヲ得ス依テ本件太田兼吉山崎寅十吉澤治入中山又衛カ財產差押ヲ受ケタル日ハ四月二十四日ナルヲ以テ選舉當日ハ公民權ヲ有スルモノナレハ同人等ノ投票ハ共ニ有效ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ理由ナキモノトス故ニ明治二十五年四月十九日鷹津村ニ於テ執行シタル村會議員二級選舉ハ取消スヘキモノニ非ス

(57)
◉村會議員選舉取消ノ訴

二十六年第二十八號
全年七月十日宣告（岡山縣平民齊藤權左衛門對全縣勝南郡吉野村長瀧上忠太郎）

判旨○無效投票アリタルトキハ當選者ノ得票中ヨリ之ヲ控除シ結果ニ異動ナクンハ其選舉ハ取消ス可キニアラス（町村制第二十六條）

原告ニ於テ本件選舉ヲ違法トスル要點ノ第一瀧上繁藏檜尾保藏カ公民權ナキモノニシテ投票シタリト云フハ證據ノ徵スヘキナク第二選舉開會中選舉權ナキ瀧上泰治カ入場シタルヲ目擊シタリト云フモ立證明瞭ナラス第三半數改選ノ三名ニシテ補闕選舉ハ一名ナルニ之ニ反シタル投票アリシハ選舉掛長等ノ不注意ナリト云フモ其過失ハ選舉人ノ不注意ニ歸スルモノニシテ選舉掛長選舉掛ノ責ニ屬スルモノニアラス第四被告ニ於テ和田惣助ト記シタル投票ヲ無效ニ爲シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス又和田喜太郎ハ一旦同縣勝南郡豐岡村ヘ相越明治二十四年三月二十五日吉野村ヘ復歸セシモノナルヲ被告ニ於テ公民タルノ要件ヲ具備シタルモノナリトシテ投票ヲ爲サシメタルハ法律ニ違フモノニアラスト謂フヲ得ス故ニ和田喜太郎ノ爲シタル投票ハ當選者ノ得票中ヨリ之ヲ除キ又和田惣助ト記シタル投票ハ和田左右助ノ得票ニ加フヘキモノナリ然レトモ明治二十四年六月十日ニ執行シタル本件選舉會ノ當選者中投票ノ最少數タル佐桑桃太郎ノ得點七十八點ハ前記ノ無效投票一票ヲ其得點中ヨリ除却スルモ尙七十七點ヲ得ヘク而シテ和田左右助ノ得點ハ七十六點ニシテ之ニ前記有效投票ト認ムヘキ一票ヲ加フレハ兩名同數ナルモ佐桑桃太郎ハ年長者ナルニ依リ其選舉ニ異動ヲ生スルニ至ラス故ニ該選舉ハ取消スヘキモノニ非ス

(58)
◉選舉效力ニ關シ違法裁決取消ノ訴

二十六年第五十四號
全年七月十日宣告（青森縣平民鈴木松太郎外一名對全縣北津輕郡長對島貞太郎）

判旨○町村制第十八條第一項ハ名簿ノ調製ニ係ル規定ニシテ選舉權ノ有無ヲ確定スルモノニ非ス（町村制第十八條第一項）

○町村內一部ノ負擔ニ屬スル水利土功費ハ村稅ニ非サルヲ以テ選舉資格ニ合算スヘキモノニ非ス（町村制第十二條第二項）

原告ハ町村制第十八條第一項ニ於ケル名簿縱覽期限ヲ經過シ確定名簿トナリタル上ハ假令其中ニ無資格者アリト雖モ法律上選舉權アル者ト見做サヽルヘカラスト云フト雖モ右第一項ハ選舉ヲ行フノ準備即名簿ノ調製ニ係ル規定ニ過キスシテ之ニ依リ選舉權アルコトヲ確定スルモノニアラス又之ヲ換言スレハ選舉ハ名簿ニ登錄セラレタル者ノミニ之ヲ許シ其之ニ

登錄セラレサル者ニハ假令選擧權アルモ選擧ニ與カルヲ得セシメサルノミ次ニ學校費ハ原告ノ言フカ如ク町村一般ニ渉ルノ費用ナルヲ以テ村税ト認ムルヲ得ヘキモ之ニ反シテ小阿彌堰水利土功費ノ如キハ事實町村ノ全部ニ係ルモノニアラスシテ其水利關係者ヨリ成立シ町村内一局部ノ負擔ニ屬スルモノナレハ素ヨリ村税トシテ資格ニ合算スヘキモノニ非ス又原告ハ水利組合費ハ青森縣告示第五十七號ニ依リ始メテ其組合ヲ組織シタルモノナレハ其以前ニ於ケル水利土功費ハ資格計算上村税トシテ合算スヘキモノナリト云フト雖モ水利土功費ト云ヒ水利組合費ト云ヒ其性質ニ於テ更ニ異ナルトコロナク全ク異名同質ノモノナレハ是亦資格ノ計算ニ加フヘキモノニアラス依テ郡參事會幷ニ縣參事會ニ於テ全選擧取消ノ裁決ヲ爲シタルハ違法ナルモノト云フヲ得ス

(59) ◉公民權特免ノ訴

二十六年第八十二號 全年十月五日裁決 (福岡縣平民安德武平外七名對全縣知事岩崎小二郎)

判旨○町村制第六十八條第一號ニ起因スル行政訴訟ハ町村會ニ於テ爲シタル議決ノ當否ヲ論爭スルモノナレハ町村會ヨリ出訴スルノ權アルモ一己人タル町村會議員ヨリ出訴スルヲ得ス(町村制第六十八條第二項一)

(第一門第一(96)判決理由參看)

(60) ◉村會議員選擧取消請求ノ訴

二十六年第六十號 全年十月九日宣告 (青森縣平民平山彌九郎外三名對全縣北津輕郡榮村長葛西利助)

判旨○代人投票ノ場合ニ於テ委任狀ノ眞否ニ關シ疑義ヲ生シタルトキ選擧掛長之ヲ專決シ選擧掛ニ議決セシメサリシハ町村制第二十三條第三項ノ規定ニ違背シタルモノトス(町村制第二十三條第三項)

本訴原被告カ所爭ノ要點ハ代人投票ノ場合ニ於テ委任狀ノ眞否ニ付疑義ヲ生シタルトキハ選擧掛之ヲ議決スヘキヤ否ニ在リ而シテ被告ニ於テ町村制第二十三條ニハ投票ノ受理幷其效力ニ關スル事項トアリテ未タ投票權ヲ有セサル者カ其代理權ヲ證明シ確認ヲ得ントスル際ニ於テ其代理權ノ發生スヘキ委任狀ヲ明確ナラシムル注意ヲ受ケ之ヲ甘諾セル事項ノ如キハ決シテ投票其物ノ受理及效力ニ關スル事項ト云フヘキモノニアラスト云フト雖代人投票ノ場合ニ於テ委任狀ノ眞否ハ投票ノ受理不受理ヲ決定スルノ要件ニシテ眞實ナラサル委任狀ヲ所持スル代人ノ投票ハ受理スヘキモノニアラサルナリ然ラハ則チ委任狀ニ關スル疑義ハ直ニ以テ投票其物ニ關スル疑義ト云フヲ得サルモ町村制第二十三條末項投票ノ受理ニ關スル事項中ニ包含スヘキモノナリト云ハサルヲ得ス故ニ本訴委任狀ニ關スル疑義ヲ掛長ニ於テ專決シ選擧掛ニ議決セシメサリシハ同制第二十三條末項ノ定規ニ違背シ其選擧ハ同制第二十九條末項ニ該當スルモノニシテ代人ノ甘諾如何ハ之ヲ問フノ必要ナキモノトス

(61) ◉違法選擧取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十六年第四十八號 全年十月十二日宣告 (長崎縣平民渡邊德次郎外二名對全縣西彼杵郡長原田謙吉)

判旨○村會議員選擧ニ就郡書記ヲ以テ選擧掛長ト爲シタル郡長ノ處分ヲ違法ナリトスル主張ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ

(第一門第一(98)判決理由參看)

(62) ◉違法選擧取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十六年第四十八號 全年十月十二日宣告 (長崎縣平民渡邊德次郎外二名對全縣西彼杵郡長原田謙吉)

判旨○村會議員選擧ニ於テ選擧掛三名ヲ以テ選擧會ヲ組織セシコトハ郡長ノ關與セシ所ニ非ス從テ該選擧ノ效力ニ關スル訴訟ニ對シ郡長ハ答辯スルノ義務ナキモノトス

(第一門第三(13)判決理由參看)

(63) ◉村會議員二級選擧取消ニ付山形縣參事會裁決不服ノ訴(第一門第三(12)妨訴抗辯ノ本案)

二十六年第三十三號 全年十月十九日宣告 (山形縣平民玉虫寅松外二名對全縣南置賜郡藤田村長加藤元右衛門被告參加人全縣齋藤武資外十名)

判旨○訴願權ノ有無ニ就裁決ヲ爲シタル後更ニ本案ノ爭ニ對スル訴願ヲ受理スルハ一事再理ニ非ス

○訴願權ノ有無ニ就裁決ヲ受ケタル後更ニ本案ノ爭ニ對シ提起スル訴願ハ前ノ訴願ヲ繼續スルモノニシテ新訴願ニ非ス

原告ニ於テ參加人齋藤武資等ハ附屬書第五號第六號ニアル如ク縣參事會ノ裁決ヲ得タルモノナレトモ縣參事會ニ於テ單ニ訴願權ノ有無ヲ裁決シタルノミニテ村會裁決ノ當否ニ論及セサリシヲ以テ附屬書第七號ノ如ク郡參事會ニ再ヒ訴願シタルハ町村制ノ許サヽル訴願ヲ爲シタルモノナリ郡參事會カ一事再理セストテ之ヲ排斥シタルハ適當ナリ然ルニ縣參事會ニ於テ齋藤武資等ノ訴願ヲ受理シ第十號ノ如キ裁決ヲ再ヒ與ヘタルハ一事再理ニシテ不法ノ甚シキモノナリト謂フト雖當初郡參事會ハ單ニ訴願權ノ有無ニ付訴願權ナシト裁決シタルモ齋藤武資ハ之ニ服セスシテ縣參事會ニ訴願シ而シテ訴願權アリトノ裁決ヲ得タルヲ以テ更ニ村會裁決ノ當否ニ付裁決ヲ求メタルモノナレハ其裁決ハ同一ノ事柄ニ付再ヒ受理シタルモノト謂フヲ得ス又原告ハ假リニ縣參事會ノ裁決ハ一事再理ニアラストスルモ齋藤武資等ハ訴願期限ヲ經過シタルモノナリ元來同人等ハ訴願權ノ有無ト村會裁決ノ當否トニ付縣參事會ノ議決ヲ求メタルニ縣參事會ハ單ニ訴願權アリトノミ裁決シタレハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルカ又ハ内務大臣ニ訴願スヘキニ之ヲ爲サス却テ郡參事會ニ立戻リ訴願ヲ爲シタルハ既ニ訴願期限ヲ經過シタルモノナリト云フト雖齋藤武資等ハ縣參事會ニ於テ爲シタル訴願權アリトノ裁決ニ依リ郡參事會ニ立戻リ更ニ村會裁決ノ當否ニ付訴願セシモノナレハ即チ前ノ訴願ヲ繼續シタルモノニシテ新訴願ヲ提起シタルモノニアラス從テ訴願期限ヲ經過シタリト謂フヲ得ス其他原告ハ村會ノ裁決ノ當否ニ付辯論スル所ナク又被告及參加人ノ選擧ヲ有效トスル事實上ノ理由ニ對シテモ之ヲ反駁セサルヲ以テ之ヲ觀レハ原告ハ被告及參加人ノ此點ニ關スル陳述ニ對シ異論ヲ有セサルコト明瞭ナリトス依テ本件藤田村二級選擧ハ取消スヘキ限リニアラス

(64) ◉執行選擧ノ訴願ニ對スル青森縣參事會ノ裁決不服ノ訴

二十五年第百〇一號
二十六年十月二十六日宣告
（青森縣平民野呂利江次郎外六名對仝縣中津輕郡碇野村長花田俊藏被告參加人仝縣工藤武雄）

判旨○適法ニ確定シタル選舉人名簿ニ依リテ執行シタル選舉ハ之ヲ違法トスル確實ノ原因ナキ以上ハ取消スヘキモノニ非ス

被告及被告參加人ニ於テ本件碇野村村會議員ノ選舉ハ選舉人名簿縱覽期限後被告ニ於テ須藤七郎左衞門ナルモノ、申立ヲ聞キ第一級第二級名簿ニ數名ヲ追加登錄シタルモノニ依リ選舉ヲ執行セシモノナレハ該選舉ハ違法ナリト云フト雖抑法律上ノ手續ヲ經テ確定シタル選舉人名簿ハ動カス可カラサルモノナレハ確實ナル反對ノ證據アルニアラサレハ確定後ニ變更セラレタルモノトスルヲ得ス然ルニ本件須藤七郎左衞門ノ申立ヲ聞キ確定後ニ追加登錄ヲ爲シタリトノ事ニ付一ヲ信據スルニ足ルヘキ證據ナキヲ以テ其選舉ハ無效ナリト謂フヲ得ス

(65) ◉不當裁決取消ノ訴

二十六年第二十四號
仝年十一月四日宣告
（長野縣平民中村德太郎外一名對仝縣參事會仝縣知事淺田德則仝縣北安曇郡參事會同郡長小島義知）

判旨○訴願ノ裁決ニ對シ更ニ上級行政廳ニ訴願セントスルトキハ訴願法第二條第二項ニ基キ其裁決ヲ爲シタル行政廳即チ行政機關ヲ經由スヘク代議機關ヲ經由スヘキモノニ非ス（訴願法第二條第二項）

○訴願法第八條第三項ニ依リ宥恕スヘキ事由アルヤ否ヲ認定スルハ訴願ヲ裁決スヘキ行政廳ノ職權ニ屬スト雖其事由ヲ擧示スルト否トハ亦行政廳ノ任意タリ（訴願法第八條第三項）

（第一門第四乙(24)判決理由參看）

(66) ◉不當裁決取消ノ訴

二十六年第二十四號
仝年十一月四日宣告
（長野縣平民中村德太郎外一名對仝縣參事會仝縣知事淺田德則仝縣北安曇郡參事會仝郡長小島義知）

判旨○選舉全部取消ノ訴願ニ對シ一部取消ノ裁決ヲ爲スモ不當ニアラス

原告等ニ於テ荻澤喜一郎等カ北安曇郡參事會ニ提起シタル訴願ノ趣旨ハ南小谷村會二級議員選舉ノ全部取消ニアリ然ルニ同參事會ハ淵谷吉右衞門ノ當選ハ取消スヘキモノナリト辯明シ即チ當選無效ノ裁決ヲ與ヘラレタリ是レ取モ直サス爭點以外ニ裁決ヲ與ヘタルノ不當ヲ免レスト云フト雖町村制中選舉ノ效力ニ關スル訴願ヲ以テ選舉全部ノ取消ヲ求ムル場合ニ於テ其全部ヲ取消スト將又其一部ヲ取消ストハ各事件審理ノ結果ニ依ルモノニシテ必ラス其全部ヲ取消シ若クハ取消サヽルノ裁決ヲ與フヘキモノナリト云フヲ得ス故ニ郡參事會ニ於テ選舉全部ノ取消ヲ請求セラレタルニ拘ラス審理ノ結果トシテ其一部ヲ取消シタルモ其裁決ヲ不當ト云フヲ得ス然ラハ北安曇郡參事會ノ裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

（第一門第三(14)第四乙(24)判決理由ノ一部）

(67) ◉村會議員選舉取消命令不當ノ訴

二十六年第十六號
仝年十一月十八日宣告
（島取縣氣多郡鹿野村長欠員代理同村助役松本實造對仝縣高草氣多郡長宮川武行）

判旨○制第二十條ノ選舉掛ハ偶數ヲ以テ組織スルノ規定ナリ故ニ四名ノ選舉掛中一名闕席ノ儘各投票ノ當否ヲ議決シタルハ選舉掛ノ定規ニ違背シタル不法アリ（町村制第二十條第二十三條第二十九條）

本訴所爭ノ要點ハ村長ニ於テ選任シタル四名ノ選舉掛中選舉當日一名ノ闕席者アリタル場合ニ際シ選舉掛長及七三名ノ選舉掛ヲ以テ行フタル村會議員選舉會ハ定規ニ違背スル無效ノ選舉ナルヤ否ニ在リ而シテ町村制第二十條ノ選舉掛二名若クハ四名ノ偶數ヲ選任スルノ規定ハ同第二十三條ノ規定ニ依リ議決ノ場合ニ於テ掛長ヲ併セ奇數ヲ要スルニアリ然ルニ本件甲第一號證一二三ノ選舉錄ニ依レハ二級議員補闕選舉會同定期選舉會及一級議員定期選舉會ハ各投票ノ當否ヲ議決スルニ方リ選舉掛一名闕席シ偶數ノ儘之ヲ議決シタルモノニシテ該條ノ規定ニ違背シタルモノナリトス隨テ被告カ町村制第二十九條末項ノ規定ニ基キ選舉取消ヲ命シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(68) ◉不當裁決取消ノ訴

二十六年第七號
仝年十一月二十日宣告
（福島縣平民吉田讓之輔對仝縣伊達郡堰本村長片倉風平）

判旨○町村制第二十條ハ單ニ選舉人中ヨリ選舉掛ヲ選任スヘキコトヲ規定スルニ止マルヲ以テ甲級ノ選舉掛ヲ乙級ノ選舉人中ヨリ選任シタルハ違法ニアラス（町村制第二十條）

○町村會カ訴願ニ對シ裁決ヲ爲スノ手續ニ關シテハ法律上特別ノ規定ナシ

第一原告ハ明治二十五年六月十九日堰本村役場ニ於テ村會議員二級選舉會ヲ開キタル際二級ノ選舉權ヲ有セサル收入役鈴木倉吉入場シテ他人ノ投票ヲ代書シ又同月二十日一級選舉ノ際一級ノ選舉權ヲ有セサル浦野梅

(69) ◉村會議員選舉取消請求ノ訴

二十六年第百十五號
仝年十二月十六日宣告
（福島縣平民吉田讓之輔對仝縣伊達郡堰本村長片倉風平）

後名簿中ニ無資格者ノ登載アルコトヲ發見スルモ之カ爲メ結果ニ異動ヲ生セスンハ其選舉ハ取消スヘキモノニ非ス（町村制第十八條）

被告ニ於テ公民權停止中ニシテ選舉ニ關スルコトヲ得サル大內近右衞門ヲ選舉人名簿ニ登載セルヲ以テ之ヲ除却ス可キハ當然ナルカ故ニ近右衞門カ實際選舉權ヲ行ヒタルト否トヲ問ハス從テ選舉ノ效力ニ異動アルト否トニ拘ラス既ニ不正ナル名簿其物ニ依レル選舉會ハ法律上效力ナシト云フト雖選舉人名簿ハ縱覽期限ノ滿了若クハ選舉前十日ヲ限リ確定スルモノニシテ假令無資格者ノ登載アルモ之ヲ以テ不正ノ名簿ナリト謂フヲ得ス故ニ其後ニ至リ之ヲ發見スルコトアルモ該名簿ニ依リ行フタル選舉會ハ無論選舉ノ效力ニ異動ヲ及ホサヽル限リハ選舉ヲ取消ス可キモノニアラス

之助選舉場ニ入リ他人ノ投票ヲ代書シタル事實明白ナリト謂フト雖第一號證及第二號證ノミヲ以テ其事實アルヲ認ムルヲ得ス第二原告ハ町村制第二十條ニ於テ選舉掛ノ選舉人中ヨリ選任シ云云トアレハ必ス選舉人中ヨリ之ヲ選任セサル可カラス而シテ選舉會ニ一級二級ノ區別アル以上ハ一人ニシテ兩會ノ選舉人タルヲ得サルコト勿論ナリ然ルニ被告ハ一級選舉人中ヨリ二名二級選舉人中ヨリ二名即チ澁谷五右衛門佐藤儀左衛門佐藤權之助楠内新太郎ノ四名ヲ選舉掛トシ一級二級兩選舉會ニ立會ハシメタリ是レ町村制第二十條ニ違背スルモノナリト謂フト雖同制第二十條ハ單ニ選舉人中ヨリ選舉掛ヲ選任スヘキコトヲ規定シタルモノナレハ每級每組別ニ選舉掛ヲ選任スヘキモノナリト解釋スルヲ得ス第三原告ノ渡邊丈助長男渡邊丈吉二級選舉ノ當日父丈助ノ代理トシテ出頭シ投票ヲ爲シタル事實ハ本人ノ證明ニ依リ明瞭ナリト謂フト雖當時選舉掛ニ於テ其代人タルヲ認メス異議ナク選舉ヲ結了シタルモノナレハ本人ノ作成シタル證明書ノミヲ以テ其事實アルヲ認ムルヲ得ス第四原告ハ二級選舉會場ニ於テ堀江三七大橋鐵之助鈴木倉吉各選舉人ニ對シ協議又ハ勸誘ヲ爲シタル事實ハ選舉人津田與右衛門等ノ證明ニ依リ明白ナリト謂フト雖是亦前項ノ理由ニ依リ津田與右衛門等ノ證明書ノミヲ以テ其事實アルヲ認ムルヲ得ス第五原告ハ本件訴願ノ裁決ニ係ル村會議事錄ヲ見ルニ調委査員ノ報告ヲ記セス又村會議決ノ景況ヲ記シタルモノナシ此ノ如キ裁決ハ正當ノ手續ヲ履行シタルモノト認ムル能ハスト謂フト雖其手續ノ如キハ法律上別段ノ規定ナキノミナラス選舉ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニアラス

判旨○制第二十條ハ單ニ選舉人中ヨリ選舉掛ヲ選任スヘキコトヲ規定スルニ止マルヲ以テ甲級ノ選舉掛ヲ乙級ノ選舉人中ヨリ選任シタルハ違法ニ非ス（町村制第二十條）

（本件判決ハ(69)判旨第一ト其理由同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

(70)◉村會議員選舉取消ノ訴

二十六年第百十四號
仝年十二月二十五日宣告（長野縣平民上原藤作外一名對仝縣小縣郡泉田村長上野角治）

(71)◉村會議員選舉效力ノ訴

二十六年第八十八號
二十七年一月三十一日宣告（高知縣長岡郡天坪村長杉本太郎對仝縣仝郡長吳服組）

判旨○選舉ハ適法ニ投票ヲ終ヘ當選人定マリタル時ニ終了ス故ニ爾後選舉錄ノ調製カ方式ニ違フモ選舉ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス（町村制第二十七條）

被告ハ天坪村村會議員一級選舉會ハ既ニ投票ヲ終ヘ當選人定マリタル後選舉掛ニ閉員ヲ生シタルモノナルモ適法ノ選舉錄調製マテハ選舉會ハ未タ開會中ニ屬スルヲ以テ之カ掛長タルモノハ更ニ選舉掛ヲ選任シ合議ノ上選舉錄ヲ調製シ朗讀ノ後閉會スヘキモノナルニ其之ヲ爲サスシテ掛長單獨ニ選舉錄ヲ調製シ閉會シタルカ故ニ明カニ町村制第二十條及第二十七條ニ違背シタルモノナリ依テ同制第二十九條第三項ノ制裁ヲ免カルルコト能ハスト謂フト雖凡ソ選舉ハ別ニ規定ナキ以上ハ投票ヲ終ヘ當選人定マリタル時期ニ於テ終ルモノニシテ其選舉錄ヲ調製スルコトノ如キハ只其選舉カ如何ナル狀況ニ於テ終リシカヲ他日ニ證スルカ爲メナルニ過キサレハ選舉錄ノ調製方式ニ違フノ一事ヲ以テ選舉ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス而シテ本件選舉會ハ投票ヲ終ヘ當選人ノ定マリタル時期マテハ適法ニ成立シタルコトハ被告ニ於テモ更ニ爭フ所ナキノミナラス選舉終了ノ時期ニ付キ町村制中別段ノ規定ナキカ故ニ選舉ハ適法ニ終リタルモノト謂ハサルヘカラス選舉ニシテ既ニ適法ニ成立シタル以上ハ選舉錄ニ適式ノコトアルモ之ヲ以テ選舉ノ定規ニ違背シタルモノトナスヲ得ス從テ其選舉ハ全然之ヲ取消スヘキモノトス依テ開會當初ノ選舉掛人員ニ付テノ說明ヲ要セス

(72)◉村會議員選舉效力ニ關スル訴

二十六年第八十九號
二十七年一月三十一日宣告（高知縣長岡郡天坪村長杉本太郎對仝縣仝郡長吳服組）

判旨○町村制第二十條ノ選舉掛ハ偶數ヲ以テ組織スルノ規定ナリ故ニ奇數ノ選舉掛及選舉掛長ニ於テ各投票ノ當否ヲ議決シタルハ町村制第二十三條ノ規定ニ違背シタル不法アリ（町村制第二十條第二十三條第二十九條）

本訴所爭ノ要點ハ村長ニ於テ選任シタル四名ノ選舉掛中選舉當日三名ノ關席者アリタルモ開會時限ニ至リタルヲ以テ掛長及選舉掛一名ニテ開會シタル後臨時補闕トシテ更ニ一名ヲ選任シ二名トナシタルニ關席者中ノ一名出席シタルニ依リ掛長及三名ノ選舉掛ヲ以テ行フタル村會議員選舉ハ選舉ノ定規ニ違背スル無效ノ選舉ナルヤ否ニ在リ而シテ町村制第二十條ノ選舉掛二名若クハ四名ノ偶數ヲ選任スルノ規定ハ同制第二十三條ノ規定ニ依リ議決ノ場合ニ於テ掛長ヲ合セ奇數ヲ要スルカ爲ナリ然ルニ原告ハ町村制第二十條ニ依レハ單ニ二名若クハ四名トアリテ二名以上四名迄ヲ意味セラレ必スシモ偶數ニ限リタルモノニアラスト云ヒ又原告提出ノ第一號證選舉錄ニ投票總數ノ內有效投票五百二十一點云々トアリ又投票ノ受理並效力ニ關スル調査ヲ遂ケ云々トアルヲ以テ之ヲ觀レハ村會議員定期改選二級選舉會ハ各投票ノ當否ヲ議決スルニ當リ掛長ヲ合セ偶數ノ儘之ヲ議決シタルモノニシテ該錄ノ規定ニ違背シタルモノト謂ハサルヲ得ス隨テ其選舉ハ全然之ヲ取消スヘキモノトス依テ開會當初ノ選舉掛人員ニ付テノ說明ヲ要セス

(73)◉村會議員選舉人名簿ノ件裁決不服ノ訴

二十七年第九號
仝年三月二十四日宣告（靜岡縣平民大谷千三郎對仝縣佐野城東郡長辻芳太郎）

判旨○選舉人名簿ノ正否ヲ爭フニ非スシテ其名簿中ニ記載アル選舉人ノ資格ノ有無ヲ調查セシメントスル請求ニ對シ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ（第一門第一(106)判決理由參看）

(74)◉村會議員選舉效力ニ關スル訴

二十七年第五號
仝年四月十六日宣告（香川縣寒川郡津田村長岡田眞平對仝縣大內寒川三木郡長次田俊一郎）

判旨○豫告シタル投票終了時間後ニ至リテ爲シタル投票ハ無効ナリ（町村制第十九條）

原告ハ本件選舉會ハ明治二十六年三月十四日午前九時ニ始マル旨ヲ公告シタルトモ其公告中終了時限ヲ定メサルヲ以テ普通ノ曆法ニ從ヒ當日午後十二時マテ開會中ナリ又投票ハ正午十二時ニ終ル旨ヲ公民ニ通知シタルモ是レ原告ノ婆心ヨリ發シタル注意ニ過キスシテ選舉區民一般ニ對スル公告ト稱スヘキモノニアラス故ニ零時五分ノ投票ハ有效ナリト云フト

難原告カ町村制第十九條ノ選舉日時ヲ公告スルニ當リ最初當時午前九時ニ始マル旨ヲ告示シタル後更ニ第五號證ノ如ク告知書ヲ發シ正午十二時ニ終ル旨ヲ記シタルハ最初ノ告示ノ不備ヲ補充スル爲メ終了時限ヲ定メタルモノト認メサルヘカラス而シテ其告知書タル原告ノ職名ヲ以テ公民一般ニ送付シタルモノナレハ之ヲ以テ公民ノ注意ヲ促ス所ノ一私書ナリト云フヲ得ス然ラハ當日ノ投票時間ハ午前九時ニ始リ正午十二時ニ終ルヘキモノニシテ右時間後ニ於テ爲シタル投票ハ有效ノ投票ナリト謂フヘカラス故ニ被告郡長及香川縣知事カ該選舉ヲ無效ナリト裁決シタルハ不當ナリト云フヲ得ス隨テ其裁決ノ取消スヘキモノニアラス

(75) ◉町會議員選舉人名簿更正請求ノ訴願ニ付縣參事會ノ裁決ニ不服ノ訴

二十七年第十八號　全年四月二十日宣告　（群馬縣平民吉田眞策外二十名　對　全縣多胡郡吉井町長日田東）

判旨○町村制第七條第一項末段ノ所謂公費中ニハ町村ノ公費、地方稅及備荒儲蓄金等ヲ包含ス（町村制第七條第一項）、

本訴ニ於テ原告被告所爭ノ要點ハ町村制第七條第一項ノ公費中ニハ町村ノ經濟ニ關スル公費ハ勿論備荒儲蓄金及地方稅敎育費ヲモ包含スルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ町村制第七條第一項末段其公費ヲ以テ敎助ヲ受ケタル云々トアルハ該町村ノ敎助ヲ受ケタル者ノミヲ指稱スルモノニシテ其他ノ公費ヲ以テ敎助ヲ受ケタル者ヲ包含セス其理由ハ同條ニ其町村ノ負擔ト云ヒ其町村内ニ於テ地租ヲ納メト云ヒ其町村公民ト云ヒ凡テ其ナル文字ハ町村ヲ指示スル爲ニ用ヒタリ故ニ其公費ト指稱スルハ其町村公費タルコト既ニ文義ニ於テ顯著明白ナリト云フト雖同條後段ノ其ナル文字ハ町村公民ヲ指示スルモノナレハ其公費中ニハ町村公費及地方稅備荒儲蓄金等ヲ包含スルモノナリト謂ハサルヲ得ス故ニ縣參事會カ同條第一項末段ノ規定ハ町村ノ敎助ヲ受ケタル者ハ勿論本訴ノ如キ地方稅又ハ備荒儲蓄金ヨリ食料其他ノ敎助ヲ受ケタル者ヲモ包含スルモノトシテ裁決ヲ爲シタルハ其當ヲ得タルモノトス

(76) ◉村會議員選舉ノ效力ニ關スル訴

二十七年第八號　全年五月一日宣告　（靜岡縣平民河井重藏對全縣佐野城東郡長辻芳太郎）

判旨○村内一部ノ負擔ニ屬スル水利土功費ハ村稅ニアラサルヲ以テ選舉資格ニ合算スヘキモノニアラス（町村制第十二條第二項）

○選舉人名簿ニ瑕瑾ヲ生スル原因トナリタル町村ノ一部カ町村境界變更ノ結果他ノ町村ニ編入セラレ且其名簿ニ載キ選舉シタル議員カ同一ノ理由ニ據リ當然議員タル資格ヲ失ヒタルトキハ其選舉取消ノ訴ハ原因ヲ失フモノトス

原告主張ノ要點ハ當初訴願ノ目的ハ明治二十六年八月十六日十七日當選ノ議員ヲ排斥セントスルニ在ラス之ヲ排斥シタル上更ニ完全ナル議員ヲ選出セントスルカ目的ノ他ノ一半タリ否ナ寧ロ緊要ナル目的トスル所ナリ此完全ナル議員ヲ選出セントスルニハ必スヤ南鄉村會ノ關係セサル設用即チ掛川町大字下俣南鄉村大字下俣組合水利土功會ニ於テ議決シタル設用ヲ直接村稅納額中ヨリ除却シタル完全ノ選舉人名簿ヲ調製セサルヘカラスト云フニ在リ而シテ本件水利土功費ノ如キハ事實町村ノ全部ニ係ルモノニ非スシテ其水利關係者ヨリ成立シ町村内一局部ノ負擔ニ屬スルモノナレハ原告主張ノ如ク固ヨリ村稅トシテ選舉人ノ資格ニ合算スヘキモノニアラス然レトモ掛川町大字下俣南鄉村大字下俣組合水利土功ニ關係アル南鄉村大字下俣ノ地籍カ他ノ二大字ト俱ニ町村制第四條ノ手續ニ依リ郡參事會ノ議決ヲ經タル上原告提出第十二號證及第十三號證ノ如ク掛川町ヘ編入セラレタル結果トシテ當時ノ村會議員全體ハ議員タル資格ヲ失フタルノミナラス水利土功ニ關係アル南鄉村大字下俣ハ南鄉村ヨリ分離セラレタル今日ニ於テハ更ニ水利土功費ヲ除却シタル選舉人名簿ヲ調製スヘキヲ理由トシテ南鄉村會議員補闕選舉ヲ左右シ得ルノ途ナキモノトス

(77) ◉不當裁決取消ノ訴

二十七年第二十一號　全年五月三日宣告　（福島縣北會津郡若松町長某　野亂國對全縣知事日下義雄）

判旨○制第二十條ノ選舉掛ハ偶數ヲ以テ組織スルノ規定ナリ故ニ選舉掛中一名闕席ノ儘選舉掛ト選舉掛長ヲ合セ偶數ノ人員ヲ以テ投票ノ當否ヲ議決シタルハ選舉ノ定規ニ違背シタル不法アリ（町村制第二十條第二十三條第二十九條）

（本件判決理由ハ(67)ト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

(78) ◉村會議員選舉投票無效ノ訴

二十七年第七號　全年六月六日宣告　（茨城縣平民鈴木八二郎對全縣多賀郡南中鄉村長柴田勳）

判旨○投票ノ裏面ニ一定ノ意味アル附牒ト認ムヘキ文字ノ附記アルハ町村制第二十三條第二項第四ノ規定ニ違背シタル無效ノ投票ナリ（町村制第二十三條第二項第四）

本訴所爭ノ要點ハ第一投票ノ裏面ニアル假名文字ハ町村制第二十三條第二項ノ第四ニ該當スル他事記入ニシテ即チ該投票ハ無效ト爲スヘキモノナルヤ第二該投票ノ記入文字ハ投票ノ當時ヨリ存在スルモノナルヤ又ハ投票後ニ作爲シタルモノナルヤ否ヤニ在リトス而シテ第一本件投票ノ裏面ニアル「スト」又ハ「スハ」等ノ假名文字ハ選舉人氏名ノ頭字ヲ取リ一定ノ意味アル符牒ヲ附記シタルモノト認定スヘキモノナルカ故ニ該投票ハ町村制第二十三條ノ規定ニ違背シタル無效ノ投票ナリトス第二記入文字存在ノ點ニ付テハ原告ハ選舉錄ニ記載ナキ以上ハ右ノ記入ハ投票ノ當時ニ存在シタルモノニアラスト云フト雖被告第四號證ニ依レハ八月十二日投票終了ノ際選舉掛長ハ投票ヲ封緘シ選舉掛ト共ニ之ニ封印ヲ施シ投票函ニ藏メ而シテ同月十六日ニ至リ投票檢閱ノ爲メ選舉掛長及選舉掛出席ノ上更ニ該投票ヲ取出シ檢査スルニ封緘ニ異狀ナキニ依リ直ニ開緘シテ投票ヲ檢閱シタルモノナレハ右投票終了ノ日ト投票檢閱ノ間ニ於テ投票ノ裏面ニ記入ヲ作爲シタルモノト認ムルヲ得ス隨テ該記入ハ投票ノ當時ニ存在シタルモノト謂ハサルヲ得ス

(79) ◉町會議員選舉效力ニ關スル訴

二十七年第二十號　全年六月二十日宣告　（長野縣上伊那郡高遠町長海野幸績對全縣知事淺田德則）

判旨○町村制第十八條第二項末段ノ規定ハ町村會カ關係者ノ提起シタル訴願ヲ裁決シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ其訴願アリタルトキ町村長ニ

於テ同制第四十五條ニ該當スルモノト認メ郡參事會ノ裁決ヲ請ヒタル場合ニ適用セス（町村制第十八條第二項第四十五條第三十七條末項）

被告ハ選擧人名簿ノ縱覽期限中既ニ名簿ノ正否ニ關シテ訴願スル者アルニモ係ハラス町長ニ於テ町村制第十八條第二項ノ規定ニ依テ之レヲ確定スルノ手續ヲ取ラス仝制第三十七條末項ノ規定ニ依テ執行シタル本件町會議員選擧ハ初ヨリ其效力ヲ有セサルモノナリト云フト雖モ町村制第十八條第二項ノ末段ノ規定ハ關係者ニ於テ選擧人名簿ニ異議アリテ之レニ對シテ町村會ノ裁決アリタル場合ニ際シ初メテ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ本件町長ニ於テ町村制第四十五條ノ場合ニ該當スルモノト認メ郡參事會ノ裁決ヲ請ヒタルモ其請求書ノ逼付ヲ受ケタル等ノ爲メ遂ニ選擧期日ニ逢シタルヲ以テ未タ何等ノ裁決ヲ爲スニ至ラスシテ選擧ヲ執行シタルモノヽ如キハ町村制第十八條第二項ノ規定ニ背反スル行爲ナリトニフヲ得ス

(80)◉縣參事會裁決取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十七年第三號
仝年十月十日宣告
（靑森縣東津輕郡靑森町會議員長谷川茂吉外三名對仝縣參事會仝縣知事佐和正）

判旨○町會議員選擧ニ關シ郡參事會ノ裁決ヲ是認シタル縣參事會ハ其裁決不服ノ訴ニ於テ被告ト爲ルノ責務アリ

（第一門第三(18)判決理由參看）

(81)◉區會議員選擧人名簿修正ニ關スル訴

二十七年第四十五號
仝年十月十六日裁決
（岐阜縣多羨郡養老村長佐竹金作對仝縣多羨上石津郡長川喜多壯藏）

判旨○制第三十七條ハ町村會議員ノ選擧人名簿ノ正否ニ關シ訴願出訴ヲ許スノ規定ニシテ區會議員ノ選擧人名簿ノ正否ノ如キニ之ヲ適用シ得ヘキモノニ非ス（町村制第三十七條）

○區會議員ノ選擧人名簿ノ正否ニ關シ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(122)判決理由參看）

(82)◉不當裁決及不當議決取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

二十七年第六十二號
仝年十一月二十七日宣告
（埼玉縣平民中友太郎對仝縣入間高麗郡長平井光長）

判旨○町村會カ議決シタル公民權停止ノ處分ヲ是認スルノ裁決ヲ爲シタル郡長ハ其裁決不服ノ訴ニ於テ被告ト爲ルノ責務アリ

（第一門第三(20)判決理由參看）

(83)◉違法裁決取消ノ訴

二十七年第四十六號
仝年十二月四日宣告
（岡山縣窪屋郡山手三須常盤清音四ケ村高等尋常小學校組合會山手村長神崎龍吾外三名對仝縣參事會仝縣知事河野忠三）

判旨○郡長カ許可シタル學校組合規約中其組織變更以

據ヲ掛酌シテ其當否ヲ判斷スヘキモノトス

原告ニ於テ本件所爭ノ官民地境界ハ明治二十七年調製ノ改正圖ニ依リ定ムヘキモノナリ現ニ官廳ハ之ニ依リ租稅ヲ賦課シ原告ハ之ニ依リ納租ノ義務ヲ負擔スルモノナレハ該圖ニシテ不正ノ事實ニ依リ調製セラレサル以上ハ之ヲ以テ正當ノモノト認メサルヘカラスト云フト雖境界ノ當否ヲ決スルニハ該圖ノミヲ以テ證據力アリト爲スヘカラス明治九年地租改正ノ際調製シタル所謂改租圖及其他ノ證據ヲ掛酌シテ其當否ヲ判斷セサルヘカラス而シテ明治二十七年ノ改正圖ニ依レハ原告主張ノ正當ナルヲ認ムルヲ得ルモ筆間稅務署備付ノ改租圖ニ依レハ原告ノ改正圖ニ依リ其所有地ナリト主張スル字茶園七百五十四番ノ地所ハ字寺山官林二千八百四十六番ノ一部ナルコト明白ナリ而シテ倘實地ニ就キ調査ヲ遂ケ改租圖ノ實地ニ符合スルコトヲ認メタリ尤現今該地所ニハ林木樹立セサルモ數年前伐採セラレ今尙點々散在セル切株ニ徵スレハ該地ニ官林ト同一ノ林相ナリシ樹木ノ生立セシコトヲ推定スルニ足ル又原告ノ改正圖ニ依ル經界線ナリト主張スル道路ハ其實畑ノ畔ニシテ道路ト認メ難キコトモ臨檢調査ニ依リ明瞭ナリ然ラハ改正圖ハ實地ニ適合セスシテ本件境界ノ證據トスルヲ得ス隨テ被告カ實地ニ符合スル改租圖ニ依リ境界ヲ查定シタルハ不當ノ處分ナリト謂フヲ得ス

(88)◉不當境界線取消ノ訴

三十一年第七十一號
三十二年十一月二十九日宣告
（茨城縣平民谷田部文右衞門對東京大林區署長林務官志賀泰山）

判旨○官民有地ノ境界ヲ查定スルニハ明治二十七年調製ノ改正圖ノミナラス同九年ノ改租圖其他ノ證據ヲ掛酌シテ其當否ヲ判定スヘキモノトス

（本件判決理由ハ(87)ト同一ナルヲ以テ之ヲ署ス）

(89)◉不當境界線取消ノ訴

三十一年第七十二號
三十二年十一月二十九日宣告
（茨城縣平民太田重藏對東京大林區署長林務官志賀泰山）

（本件判決理由ハ(87)ト同一ナルヲ以テ之ヲ署ス）

(90)◉官有地編入不當處分取消民有地編入ノ訴（第一門第三(48)妨訴抗辯ノ本案）

三十一年第七十五號
三十二年十一月二十九日宣告
（長野縣北佐久郡協和村ノ內笹片倉區財產管理者仝村長比田非彈右衞門對仝縣知事押川則吉）

判旨○論地ニ對シ收益權ヲ實行シタル事實ノミヲ以テ其土地ノ所有權ヲ有スルモノト爲スヲ得ス

原告ノ本件係爭地ハ民有地ニシテ原告片倉區ニ所有權アルコトハ甲第二號證ノ一元祿二年ノ裁許狀ニ二項三項ニ片倉岩下兩村ノ內山云々トアリ又甲第二號證ノ三元祿六年ノ裁許狀ニ兩村ノ內野ニ相定云々トアリ又甲第二號證ノ四元祿八年ノ裁許狀ニ兩村持山云々トアルヲ以テ明瞭ナリト云フト雖內山內野持山等ノ文字ハ入會山ニ對スル稱呼ナルコトハ前記元祿年度ノ各裁許狀全文ノ趣旨ニ徵シテ疑ナキノミナラス元祿八年ノ裁許狀ノ所謂持山ナルモノハ原告提出各證據ニ依ルモ本訴請求地ニ該當スルモノト認ムルヲ得ス又原告ハ甲第二號證ノ二五及六等ノ各證據ニ基キ係爭地ヲ自由ニ進退シ來リタレハ民有ニ屬スヘキモノナリト云フト雖該證據ニ依レハ原告ニ於テ收益權ヲ實行シタル行爲アリタルコトヲ確認スルヲ得ルモ係爭地タル地盤ヲ自由ニ進退シ來リタルモノト言フヲ得サレハ之レカ爲メニ原告ニ所有權アルモノト斷定スルヲ得ス又原告ハ甲第二號證ノ七八及九等ノ證據ヲ援用シテ本訴ノ土地ニ對シ納稅シタリト主張スルモ右證據ニ記載シアル山稅林地稅ナルモノハ何レノ地所ニ對スル租稅ナルヤ判明セサルヲ以テ該證據ハ所爭ノ所有權ヲ確ムル有效ノ證據ト爲スニ足ラス

(91) ◉國有林下戻ノ訴

三十三年第八十二號
仝　年六月六日宣告（新潟縣平民渡邊紋作對農商務大臣曾根荒助）

原告ハ甲第二號證三ノ一、二ヲ以テ原告ノ先代彦右衛門ナル者カ係爭地ヲ買受タル慣來地租改正ノ際テ所有シタル旨主張スト雖地租改正以前ニ於テ平木田村內ニ同一字ノ地所數個所ニ存在セシコトハ雙方ノ爭ハサル所ナリ然レハ甲第二號證三ノ一、二ハ其眞否如何ヲ問ハス之ニ記載ノ地所ハ果シテ本件係爭ノ地所ニ該當スルモノト認ムルヲ得サレハ之ヲ以テ原告ノ主張ヲ證スヘキ確證ト爲スニ足ラス

(92) ◉官有地民有引戻官民有區分ノ訴

三十二年第六十六號
三十三年七月九日宣告（兵庫縣平民村井宗三郎外七十八名對仝縣知事大森鍾一）

判旨○土地官民有查定ノ際自ラ其處分ヲ受ケタル者ニ非サレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

（第二門第一(273)判決理由參看）

(93) ◉國有原野下戻ノ訴

三十三年第八十七號
仝　年七月十日宣告（千葉縣市原郡濱津村長柳澤定吉對農商務大臣曾根荒助）

原告ハ甲第一號證ハ國有土地森林原野下戻法第二條第三號ニ該當スル證據物件ナルニ被告カ之レヲ排斥シテ原告ノ下戻申請ヲ却下シタルハ不法ナリト云フト雖モ甲第一號證ヲ閱スルニ此度御林拾參町歩村方惣百姓山ニ相渡云々トアルノミニシテ其場所ヲ明示セス且其反別ヲ本件係爭地ノ合反別ニ比較スルトキハ拾三町歩以上ノ差異アルヲ以テ該證記載ノ地所ハ本件係爭地ニ該當スルモノト認ムルコト能ハサルノミナラス該證ハ弘化年度ノ作製ニ係ルモノトシテハ其筆跡及墨色比較的新ラシク且其表面及裏面ノ文字殊ニ三郎兵衛ナル署名ノ文字何レモ同一筆蹟ナルヲ以テ當時正當ニ成立シタルモノト認ムルコト能ハス故ニ被告農商務大臣カ之ヲ排斥シ原告ノ下戻申請ニ對シ開屆ケ難シトノ指令ヲ與ヘタルハ相當ニシテ該指令ハ取消スヘキ限リニアラス

(94) ◉不法裁決取消境界確定請求ノ訴

三十二年第八十八號
三十三年七月十日宣告

（靜岡縣小笠郡日坂東山組合村長工藤銀次郎對仝縣參事會仝縣知事小野田元熙）

原告ハ其主張スル境界線ハ近傍ノ原野ニ於ケル境界線ト同シク分水線ニ依リ古來定マリタルモノトシテ之ヲ證スル爲メ元祿十一年ノ古給圖明治八年地租改正ノ際調製シタル地引繪圖竝ニ享保十六年遠洲佐野郡東山村指出帳等ヲ提供セリ案スルニ本件係爭地ハ山腹ノ斜面ヲナセル原野ニシテ山上御料局測量基標二三二號ヨリ山下東山村ト五和村ノ境界點ニ達スルマテ地形上自然ノ境界ヲ爲スモノ絕ヘテ無ク分水線ノ如キハ原告主張線ノ一小部分ヲ爲スニ過キサレハ實地臨檢ニ依リテ認定シタル事實ナリトス而シテ元祿十一年ノ古給圖及明治八年ノ地引給圖ハ精確ナル實測圖ニ非サルヲ以テ實地ト符合セス又享保十六年遠洲佐野郡東山村指出帳ノ如キ本件係爭地ニ係ル記事ナク皆證據トナスニ足ラス其他原告ニ於テ種種陳述スル所アルモ其主張ニ係ル境界線ヲ正當ト爲スヘキ確證アルコトナシ依テ本件被告ノ裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

(95) ◉國有林境界查定不服ノ訴

三十三年第百二十六號
仝年十月二十六日宣告

（奈良縣吉野郡國樔村長森四宇之吉對大阪大林區署長林務官稽山清利）

判旨○論所カ國有林境界查定ノ際官有ト確定シタル處分ニ對スル不服ノ訴ニ於テハ地租改正以前ニ溯テ之ヲ立證スルモ國有林野法ノ禁スル所ニアラス

（第一門第一(22)判決理由參看）

(96) ◉民有地引戻ノ訴（第一門第一(22)妨訴抗辯ノ本案）

三十年第五十七號
三十三年十一月十二日宣告

（宮崎縣士族富山佐之助外二百五十六名對仝縣知事園山勇）

案スルニ本件係爭地ハ甲第一號證享保十年御城內井御城廻竿次帳ニ記載ノ通村民各自ノ名受ニ係ル私有地タルコト明瞭ナリ然リ而シテ舊制ニ在テハ土地所有主ニシテ偶々貢租ヲ怠ル者アルトキハ之ヲ其村方ノ受持ト爲サシメタルノ例ハ甲第二號證ノ第二ニ依ルモ亦明ナル事實ナリトス故ニ係爭地ハ當時村方ノ受持タルヲ以テ地券發行規則ニ示セル書式ニ基キ甲第三號證ニ村中持ト記載セルモノト之ヲ認ムヲ相當トス又甲第三號證ニ村中持ト記載セルモ甲第二號證ノ第二ニ租稅寮ノ指令ニ『從來貢租相滯作德無之爲メ村方受持ト相成居ル分ハ先以テ村持券狀相渡シ置クヘシ』トアルニ徵スレハ其土地ノ所有權ハ未タ確定セシニアラスシテ假リニ村中持ノ名義ヲ以テ券狀ノ下付ヲ申請セシメタルモノト認定スルニ足レリ被告ハ本件係爭地ハ原告ノ共有地ト認ムヘキ事實ナシト謂フト雖甲第一號證ハ被告モ其成立ヲ認メ係爭地ニ就テハ前段ニ於テ辯明スル如ク來歷分明ニシテ且ツ甲第六號證ニ依レハ舊內山村部落ニ現今在住スル者ノ內九十六名ハ共有權ナシト謂フヲ以テ之ヲ斷レハ係爭地ハ原告等ノ共有ト認定スルヲ相當トス又被告ハ甲第一號證ニ記載ノ地所ハ係爭地ニ恰當ストハ認メス其實地ニ就テモ亦認ムヘキモノナシト申立ルモ甲第三號證ニ記載ノ土地ハ甲第一號證ト每筆符合シ而シテ之ヲ現今ノ土土簿帳ニ照合スルモ其字名ハ多クハ之ニ適合シ且ツ實地臨檢ニ於テモ字石代田一畝十八歩ノ形狀

チ始メ坡門跡其他甲第一號證ニ恰當スルモノ多々アリ殊ニ係爭地ハ濫城砦ニシテ替名ノモノナレハ他ニ類似ノ場所ナキハ勿論其他ノ點ニ於テモ毫モ疑チ容ルヽ所ナシ故ニ係爭地ハ甲第一號證ノ土地ニ該當スルモノトス之チ認定スル又被告ハ官地下戻處分ハ農商務大臣ノ所管ニ移リ被告ハ其職權ナキチ以テ對手人トナル能ハスト抗辯スルモ本件ハ既ニ其處分ノ當時ニ在テモ農商務大臣ノ指揮チ受テ之チ爲シタルモノナレハ假令現今ハ同大臣ノ所管ナルモ被告ハ之チ以テ本訴ノ對手人タルチ免ルヽチ得ス

(97) ◉不當處分取消立木下戻請求ノ訴

三十三年第百七十七號
仝年十一月十二日宣告　（千葉縣平民關本米吉外三十九名對農商務大臣林有造）

判旨○國有土地森林原野下戻法發布前既ニ公賣ニ付シテ現存セサル立木下戻ノ請求ハ同法第一條ニ所謂國有ニ屬スルノ要件チ缺クモノトス（國有土地森林原野下戻法第一條第一項）

○同法發布以前ニ在リテハ立木下戻處分ニ關シテ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ

（第一門第一(280)判決理由參看）

(98) ◉官民有山林境界查定ノ決定ニ對スル不服ノ訴

三十三年第百二十四號
仝年十一月十九日宣告　（愛媛縣平民藤本永治對愛媛大林區署長林務官三木隆太郎）

原告ハ本件係爭地ノ境界ハ甲第一號證圖ニ據リテ查定スヘキチ被告ハ之ニ據ラスシテ設ニ境界チ查定シタルハ不當ナリト言フト雖凡官民有地境界ノ查定チ爲スニハ地元村備付ノ地圖ノ外土地臺帳公簿其他ノ證據類ニ依據スヘキハ當然ノ事ナレハ單ニ原告主張ノ甲第一號證圖ノミチ以テ境界查定ノ唯一ノ根據ト爲スコトチ得ス加之甲第一號證圖面ハ明治十二年地租改正ノ際調製シタル原圖（甲第二號證）チ明治二十一年度ニ更正シタルモノニ係リ其更正ハ縣知事ノ認許チ經テ實行シタルモノニモセヨ國有林トノ境界チ變更スルニ主管廳ノ認可チ經スル一方ノミノ任意ニ決定シタルモノナレハ之チ以テ國有林トノ境界チ定メタル確證ト爲スコトチ得ス然ルニ被告提出ノ乙第一號證明治六年十二月戸長小野信愛ノ取調書乙第二號證明治十二年調製ノ官林臺帳及附屬圖ハ字崩レノ四至ノ境界チ明示シ係爭地ノ西北ノ神門村ニ接スルコトチ認メシメ明治十二年地租改正ノ際調製シタル圖面ト符合ス左レハ被告カ明治二十一年更正ノ圖面チ排斥シ明治六年調製ノ官林臺帳及其他ノ公簿圖面ニ據リテ係爭地ノ境界チ查定シタルハ不當ト謂フチ得ス其他原告提出ノ甲第三號證ハ原告カ字崩レ二千二百七十六番イ號山林チ實受ケタルチ證スルノミニテ該地ト國有林トノ境界チ確認スヘキ證據トナラス甲第四號證ハ明治十二年地租改正ノ際調製シタル圖面タルチ證シ甲第五號證ハ圖面ノ更正チ爲スニ知事ノ認許チ經タルコトチ證スルノミニテ俱ニ本件チ斷定スヘキ證據ト爲スニ足ラス

(99) ◉立木代價付拂戻ノ訴

三十三年第二百三十號
仝年十一月二十一日裁決　（栃木縣平民小笠原宮門對農商務大臣林有造）

判旨○山林立木拂戻處分ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ（三十二年法律第九十九號）

（第一門第一(283)判決理由參看）

(100) ◉官民有地境界查定處分取消ノ訴

三十三年第百三十七號
仝年十一月二十六日宣告　（高知縣平民矢野祥太郎對高知大林區署長林務官山根龜吉）

原告ハ甲號數證チ提出シ本件係爭地ハ原告ノ所有ナル旨主張スト雖モ其主要ナル甲第二號證ニ依レハ論地ノ三方即チ東、南、西ノ境界ハ大野山官林ナルコト一目瞭然タリ然ルニ甲第四號證ニ依レハ東ト南ノ二方ハ官林境ナルモ西ハ（公有地界）トアリテ甲第二號證ノ圖面ニ符合セス加之甲第二號證ハ地租改正當時ノ切圖ナレハ其形狀ハ同改正金圖ノ部ト符合スヘキハ當然ナルニ被告カ中村稅務署ノ照查チ經テ差出シタル地租改正金圖寫ト符合セサルコト原告モ認ムル所ナリ然レハ甲第二號證圖面ノ如キハ地形ノ大體チ見ルチ得ヘキモ之チ以テ本件境界ニ於ケル微細ノ點チ定ムヘキ確證ト爲スニ足ラス其他原告提出ノ證據ハ被告ノ查定チ不當トスルノ確證ト認メ難キチ以テ原告ノ主張ハ採用スルチ得サルモノトス

(101) ◉土地官民有區分查定不服ノ訴

三十三年第四十八號
仝年十二月三日宣告　（福島縣平民石井利左衛門對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本訴論地ハ山野地租改正ノ際誤テ官有地ニ編入セラレタルモノニシテ祖先以來原告家ノ所有地ナリト主張スト雖原告ノ立證シタル第一號證戸中村差出帳ハ假ニ之チ正確ノモノト爲スモ該帳ニハ單ニ百姓林四個所壹人持分トアルノミニシテ他ニ何等ノ記載ナキニ依リ該山林カ果シテ字川別官林ニ該當スルヤ之チ認ムルニ由ナク又第二號證安永八年ノ免狀第三號證文化五年ノ浮役錢請取證第四號證山林借用證文モ假ニ其事實チ認ムルモ右百姓林四個所中字川前官林ニ該當スルチ認ムヘキ證據ナキチ以テ是亦立證ノ價値ナシ其他尚舉證シタルモノアルモ何レモ證據力薄弱ニシテ本件原告ノ主張チ認ムヘキ證據ト爲スニ足ラス

(102) ◉境界審查不當處分取消ノ訴

三十三年第　百　號
仝年十二月二十一日宣告　（青森縣西津輕郡舞戸村長工藤武雄對青森大林區署長林務官道家充之）

本件原告ハ西津輕郡舞戸村地內南禿官有地ノ境界查定ニ由リ村中持ナル字東禿三百一番地及西禿八十一番地ニ侵入セラレタリト主張シ村役場備付ノ番繰繪圖ナルモノチ以テ立證セントス依テ番繰繪圖ノ提出チ命シ之チ檢閱スルニ原告ノ主張ニ對シ證據トナルヘキモノ毫モ之ナキノミナラス該圖調製ノ根據極メテ不明ナルチ以テ到底本件訴求ノ理由アルモノト認ムルチ得ス

(103) ◉不法處分取消山林下戻請求ノ訴

三十三年第二百一號
仝年十二月二十四日宣告　（福島縣士族佐野友四郎對農商務大臣林有造）

原告ハ本件係爭地ハ曾テ原告ノ先代佐野貞次郎ヨリ元會津藩廳ヘ立替タル軍用金百兩ニ對スル元利金ノ代償トシテ慶應四年中同藩廳ヨリ先代貞次郎ヘ下附セラレタルモノナリトシ其事實チ證明センカ爲メ提出シタル甲第二號證チ閱スルニ該證ハ鑑定官村田民治ニ於テ震災最モ若ク到底確證ト認ムルコト能ハスト鑑定シタル如クニシテ當時正當ニ成立シタルモノト認ムルチ得ス又其他原告ノ提出ニ係ル甲一號及三號證ハ既ニ甲二號證ニシテ前述ノ如クナル以上ハ自ラ本件ニ對シ證據ト爲スノ價値ナシ故ニ被告農商務大臣カ原告ノ下戻申請ニ對シ聞屆ケ難シトノ指令チ與ヘタルハ相當ニシテ該指令ハ取消ス可キ限リニアラス

(104) ◉原野民有下戻申請不許可ニ對スル訴

三十三年第百九十一號
全年十二月二十四日宣告　（茨城縣新治郡東村長中村源助對農商務大臣林有造）

原告ハ甲第一二號證甲第四號乃至八號證甲第三十一號證及甲第三十三號證ニアル如ク原告村大岩田カ元祿年度以來明治八年頃ニ至ル數百年ノ間十五石三斗四升ノ永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ本訴論地ニ對シ上納シ來リタルモノナリト云フモ該甲號數證ヲ閱スルニ右十五石三斗四升ノ石高ニ對スル永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ納メ來リシコトハ見ル得ヘキモ何レノ原野ニ對シ納メタルヤ毫モ徵スヘキ記載ナシ甲第三號證ニ依レハ大岩田村高ノ內十五石三斗四升ヲ南野ノ野錢高トシテ上納シ來リタル事蹟アリテ原告ノ謂フ如ク右野錢ハ南野ト稱スル原野ニ對シ納メ來リシモノナルヤモ知ルヘカラス然レトモ本訴論地ハ字南野ト稱シタリトノ事實ハ之ヲ認ムヘキ確證ナク原告カ其立證トスル甲第九號證ニハ南原付ヨリ大竹橋マテトアリ甲第十號證ニハ南野境竹來ヨリ大岩田マテニ册ノ內トアリテ其南原トアルハ南野ヲ云フモノナリトスルモ單ニ是等ノ記載ノミヲ以テ本訴論地ハ字南野ト稱シタリト斷定シ難シ原告ハ古來十五石三斗四升ノ永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ上納セシ事實アリテ甲第三十二號證ニ依リ該野錢ハ論地ニ對シ上納シタルモノト認ムルノ外ナシト云フモ該證ハ明治九年ニ於テ原告村ノ各村民所有ノ宅地田畑畝歩番號等ヲ取調ヘタルモノニ過キサレハ之ニ原野ノ記載ナキトノコトヲ以テ大岩田ニ於テ他ニ原野ヲ所有セサリシモノト認ムルヲ得ス假リニ原告村ニハ古來他ニ原野ナシトスルモ直チニ之ヲ以テ右永壹貫五百三十四文ハ本訴論地ニ對スル貢租ナリト斷定シ難シ甲第十六號證二十三號證二十六號證ハ孰レモ一私人ノ作製シタル證明書ニ過キサレハ證據ノ效力ナシ之ヲ要スルニ原告カ永壹貫五百三十四文ノ野錢ヲ納メ來リシ事實ハ之ヲ認メ得ルモ該野錢ヲ本訴論地ニ對シ納メタリト認ムヘキ確證ナシ左スレハ假令論地ニ今尙屋敷跡古井戶墳墓地等ノ形蹟存在セリト雖モ是等ハ原告村民ノ祖先カ果シテ設ケタルモノナルヤ亦立證スヘキモノナケレハ此形蹟ヲ以テ原告村大岩田ノ民有地タリトノ證據トナスニ足ラス

(105) ◉官有土地竝立木下戻請求ノ訴

三十三年第二百十九號
全年十二月二十六日宣告　（栃木縣上都賀郡菊澤村長稻葉初一郎對農商務大臣林有造）

原告ニ於テハ甲第一號證乃至甲第三號證ニ據リ本件山林ノ民有タルコトヲ主張スト雖甲第一二號證ハ紙質ノ古ヒタル割合ニ墨色新ラシクシテ其日附ノ當時ニ成立シタルモノト認メ難ク甲第三號證ハ苗木植付ニ關シテ其賞狀ヲ受ケタルコトヲ證スルマテニシテ土地竝立木ノ民有タルコトヲ見ルヘキ文詞ナキヲ以テ原告ノ主張ヲ正當ト認メ難シ然ラハ被告カ原告ノ申請ヲ却下シタルハ相當ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

(106) ◉土地返還命令取消要求ノ訴

三十三年第百九十七號
三十四年一月十四日宣告　（北海道平民古澤倉松對全道廳長官男爵園田安賢）

判旨○或目的ノ爲メニ北海道國有原野ノ貸付ヲ受ケタル者カ起業方法書ニ指定シタル設備ヲ爲サヽルトキ北海道支廳カ其土地返還命令ヲ發シタルハ正當ナリ（北海道國有未開地處分法第十條）

原告ニ於テハ甲第五號證ノ一乃至ヌ及甲第六號證ニ據リ漁網漁船ノ準備ヲ爲シ起業方法書ノ通成功シタリト主張スレトモ甲第五號證ハ差網割水產物營業人組合經營若クハ北海道水產稅納付ノ領收證ニシテ是等ノ證目ハ通常漁業者ノ負擔スル所ナレハ之ニ據テ乙第一二號證起業方法書ノ如キ漁網漁船ヲ設備シタル事實ヲ認メ難ク甲第六號證ハ鮭差網漁業ヲ爲シ稅金及諸費ヲ納付シタル證明書ニシテ漁業ヲ爲シ稅金ヲ納ムルノ事實ハ前段說明ノ如ク漁網漁船ヲ設備シタル事實ヲ認メシムルニ足ラス又原告ハ岩尾村字雄冬ノ原告居宅ニ漁具ノ貯藏ヲ爲セリト云フモ無證ノ陳述ニ過キサレハ其主張ヲ眞實ト認メ難シ然ラハ原告ハ起業方法書ノ如ク漁網漁船ヲ設備セサルモノナルヲ以テ增毛支廳カ北海道國有未開地處分法第十條ニ依リ土地返還命令ヲ發シタルハ相當ニシテ取消スヘキ理由ナキモノトス

(107) ◉土地官民有境界查定取消竝境界確認ノ訴

三十二年第二百三十一號
三十四年二月一日宣告　（宮崎縣士族松崎千三郎對鹿兒島大林區署長林務官永田正吉）

原告ニ於テ本件係爭地ハ大洲道ノ北部ニ接シ元民有九百三十三番九百三十五番六反七畝弐拾歩ノ地ナリシヲ訂正シテ乙第九百四十一番地ノ第二ト爲シタルモノニシテ原告ノ西野茂一郎ヨリ該地ヲ買受ケ所有シ現今ハ又之ヲ第二第三ニ分裂セシモノナルヲ被告ハ境界查定ノ結果第二第三ノ土地ハ官有ナリト決定シ查定標一號乃至二十號ヲ建設シ以テ原告ノ權利ヲ侵害シタル趣ヲ主張スト雖其甲號證ハ總テ人民相互間ノ關係ヨリ成立シ若クハ村內ノ取調書ニシテ村長ノ證明アルニ止リ上司ノ承認ヲ經タルモノニアラサルヲ以テ官民有區分ノ查定ヲ不當ナリトスル證據ト爲スニ足ラス又原告ハ乙第五號證官田村役場備付明治十一年ノ調製ニ係ル切圖ニ於テ黑線ヲ畫シ九百三十五ト記載シアルモノヲ採用シ證據トスレトモ乙第四號證同年村方ヨリ提出シタル大洲稅務署備付ノ圖面ニ依レハ大竹村九百四十二番ノ官林境界ハ官田村民有地ニ接シ原告主張ノ地位ニ於テ民有地ノ介在セル形蹟ナキヲ以テ乙第五號證ニ黑線ヲ畫シ九百三十五ト記載シアルハ全ク私ノ記入ナルコトヲ推知シ得ヘシ之ヲ要スルニ原告ノ各證據ハ本件係爭地ノ民有タルコトヲ立證スルモノナシ

(108) ◉土地ノ官民有境界查定取消竝境界確認ノ訴

三十二年第二百三十二號
三十四年二月一日宣告　（宮崎縣士族岡野幸郎對鹿兒島大林區署長林務官永田正吉）

原告ハ本件係爭地ノ境界ハ甲第一號證圖ニ據リテ查定スヘキヲ被告カ之ニ據ラスシテ漫ニ境界ヲ查定シタルハ不當ナリト言フト雖凡官民有地境界ノ查定ヲ爲スニハ地元村備付ノ地圖ノ外土地臺帳公簿其他ノ證據類ニ依據スヘキハ當然ノコトナレハ單ニ原告主張ノ甲第一號證圖面ノミヲ以テ境界查定ノ唯一ノ根據ト爲スコトヲ得ス加之甲第一號證圖面ハ明治十二年地租改正ノ際調製シタル原圖（甲第二號證）ヲ明治二十一年ニ更正シタルモノニ係リ其更正ハ縣知事ノ認可ヲ經テ實行シタルモノニモセヨ國有林トノ境界ヲ變更スルニ主管官廳ノ認諾ヲ經ス一方ノミノ任意ニ決定シタルモノナレハ之ヲ以テ國有林トノ境界ヲ定メタル確證ト爲スコトヲ得ス然ルニ被告提出ノ乙第一號證明治六年十二月戶長小野信愛ノ取調書乙第二號證明治十二年調製ノ官林臺帳及附屬圖ハ字葛籠內ノ四至ノ境界ヲ明示シ乙第三號證地租改正圖ハ圖中千九百六十九番民有地ニ沿ヘル溪流ヲ上リタル所ヨリ左右ニ界線ヲ劃シ四方ハ字倉谷ニ連結スルヲ證スルニ足ル左レハ彼告カ明治二十一年更正ノ圖面ヲ排斥シ明治六年調製ノ官

林鑓帳及其他ノ公證圖面ニ據リテ係爭地ノ境界ヲ査定シタルハ不當ト謂フヲ得ス其他原告提出ノ甲第三號證ハ原告カ字葛籠内千九百七十一番山林ヲ讓受ケタルヲ證スルノミニテ該地ト國有林トノ境界ヲ確認スヘキ證據ト爲スニ足ラス

(109) ◉國有林下戻ノ訴

三十三年第二百三十五號
三十四年二月十五日宣告
（廣島縣賀茂郡賀永村長渡橋後五郎對農商務大臣林有造）

本件原告被告カ爭フ所ノ要點ハ舊御建山ナル八幡山官林ト舊上三永村ノ共有地ナリシ岡野原山ト交換ヲ爲シタル事實アリシヤ否ニ在リ原告カ土地交換ノ事實ヲ直接ニ證明セントスル甲第一號第四號乃至第六號證ニ係ル鑑定人ノ鑑定ハ區々ニシテ一樣ナラス即チ年度相當或ハ明治以前ノ成立ト認ムル者アレハ又變應或ハ明治早々ノモノナリト云ヒ甚シキハ最近ノ成立ト云フト雖其成立カ最近ノモノニアラスト云フ點ニ至テハ多數鑑定ノ一致スル所ナリ又甲第八號證享保年度ノ上三永村御建山野山腰林御改帳及甲第九號證安永年度ノ上三永村差出シ帖控ヲ檢スルニ御建山二箇所トアリ然ルニ甲第十號十一號證ニ依レハ官ヨリ拂下ヲ受ケタル岡野原山ヲ他ヘ賣拂書入タル等ノ事跡アリ

前記ノ證據ニ徴シテ土地交換ノ事實ヲ接スルニ上三永村ニ於ケル御建山即チ官林ハ元來二箇所アルヘキニ私人カ官林岡野原山ノ拂下ヲ得テ更ニ他ヘ賣却シタルコトアルヲ以テ之ヲ觀レハ當時二箇所ノ官林中八幡山ヲ以テ民有ノ岡野原山ト交換シ一旦官林トナリタルモノヲ拂下ケタリシ事實ヲ認ムルニ足ル然ラハ即チ原告主張ノ如ク官林ト民有地ノ交換願ヲ許可シ官林ヲ引渡シタルモノト認ムルヲ得ヘク從テ被告カ原告ニ對シ國有林下戻不許可ノ處分ヲ爲シタルハ正當ナリト云フヲ得ス

(110) ◉官林部分木請求ノ訴

三十三年第六十二號
三十四年二月二十二日宣告
（福岡縣平民平島榮三郎外六名對農商務大臣林有造）

原告ハ甲號數證ヲ提出シテ本訴ノ請求ヲ爲スト雖其主要タル甲第一號及三號證ヲ熟檢スルニ其用紙ハ古キモノナルモ其墨色新シクシテ年度ニ相當セサルヲ以テ甲第一號及三號證ハ其當時眞正ニ成立シタルモノト認メ難シ甲第二號證ハ假令眞正ノモノトスルモ「右割米ノ內ヨリ年々向五个年之間杉拾萬本ツヽ差立申候事」トノミアリテ何レノ地ニ對スルモノナルヤ毫モ見ルヘキモノナケレハ之ヲ以テ本件ノ確證ト爲スニ足ラス其他原告提出ノ證據ハ助證ニ過キサレハ既ニ主要ノ證據ヲ排斥シタル上ハ之レニ對シ一々說明ヲ與フルノ要ナキモノトス

(111) ◉民有地引戻請求ノ訴

三十三年第二百六十九號
三十四年三月二十七日宣告
（巖手縣正法寺代表者勝木地宗對農商務大臣林有造）

原告主張ノ要點ハ本件山林ハ貞和四年黑石家長部家ノ寄附ニシテ往古ヨリ一般ニ拜領山ト稱シ處分シ來リタルモノナレハ民地トシテ下戻サルヘキハ當然ナリト云フニ在レトモ甲第一號證ハ原告前代ノ緣起覺書ニシテ該書中黑石家及長部家ヨリ山林ヲ寄附シタル記事アルモ單ニ之ヲ以テ地盤ヲ所有シタル事實アリト認ムルヲ得ス甲第三號證乃至甲第七號證ハ木材ヲ賣拂シ又ハ川下ケ等ヲ爲シタル事アルニ止リ何レノ山林ノ木材ナルカ知ルヲ得サルモノニシテ本件山林ノ所有權實行ノ證トナラス然レハ本件ハ國有土地森林原野下戻法第二條ニ該當スル證據書類ナキヲ以テ被告ノ處分ヲ不當トスル理由ナキモノトス

(112) ◉國有原野引戻申請ニ對スル不許可處分取消請求ノ訴

三十四年第一號
全年四月一日宣告
（福島縣田村郡都路村長渡邊勝家對農商務大臣林有造）

原告ハ甲第一號乃至三號證ヲ以テ本訴ノ請求ヲ爲スト雖モ其主要タル甲第一號證ヲ熟檢スルニ墨色及紙質ニ就テ視ルモ其成立確實ノモノト認メ難キヲ以テ本件ノ證據ト爲スニ足ラス又原告ハ明治七年中論地ニ對シ一旦公有地ナル地券ヲ下付セラレタリトノコトヲ以テ原告ノ所有タルコトヲ主張スルモ其後山野地租改正ノ際官有ト認メラレ官地ニ編入セラレタル上ハ更ニ民有ノ證據ヲ提出セサル限リハ單ニ地券下付ノ一事ヲ以テ原告ノ主張ヲ認ムルヲ得ス其他原告ニ於テ論證スル所アルモ既ニ甲第一號證ヲ排斥シタル以上ハ說明スルノ要ナキモノトス

(113) ◉民有地引戻請求ノ訴

三十三年第二百四十一號
三十四年四月十七日宣告
（新潟縣士族威本昌平對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本件請求ノ山林ハ甲號各證ノ如ク祖先以來ノ所有ニシテ其地內ヲ現今ノ鳥坂神社即チ往時馬頭觀音ノ堂宇地ニ充タリシニ明治九年地租改正ノ際誤テ官有地ニ編入セラレタリト云フト雖甲第一號證ハ觀音屋敷ノ年貢米十个年分ヲ赤谷村長三郎受取向後ハ威德院ヨリ納租スヘキ筈ニ相定觀音ハ永代ニ威德院ニ相渡ストノ文言ニシテ該地ハ觀音ニ附屬スルノ意思ナルニ過キス甲第二號證田畑賣買證書ハ假リニ其事實アリトスルモ本件係爭地ノ字名ニ適合セサルモノナレハ證據ト爲スヘカラス甲第三號第四號第五號第十一號第十二號證ノ杉木賣渡證書及各借金證書モ亦假リニ其事實アリトスルモ該證ノミヲ以テ抵當ノ樹木ハ果シテ原告ノ所有タルコトヲ認ムルニ足ラス甲第七號第八號證ハ自家ノ帳簿ニシテ單ニ赤谷村上納ノミ記載シ係爭地ニ對スル納租ナリト認ムルコトヲ得ス甲第十三號證モ亦自家ノ帳簿ニシテ假令ヒ杉木植付ノ事實アリトスルモ費用ノ支出又ハ勞力ノ方法明瞭ナラス之レノミヲ以テ自發栽培ノ證ト爲スニ足ラス甲第十六號證ハ赤谷村總代ト原告トノ間ニ成立シタル約定ニシテ本件ノ證據ト爲スヘキモノニアラス甲第十號第十四號證ノ地圖ハ原告ノ所有ノ地所又ハ立木タルヲ見ルヘキ點ナク甲第十五號證ハ觀音林神明林ヲ列記シ其神明林ニ就キ右先先ヨリ貴院御持分云々ト記載シ觀音林ニ其記載ナキハ却テ原告ノ持分ナラサルコトヲ推定シ得ヘキノミナラス從來ノ所有地ニシテ其地內ニ馬頭觀音ノ堂宇ヲ設ケ以テ今日ニ至リタルモノトセハ該地ヲ官有地トシ本件ノ請求地外ト爲スヘキ理由ナク要スルニ本件請求ノ山林及立木共原告ノ所有ナリト認定スヘキ證憑ナキモノトス

(114) ◉不當處分取消官有地下戻ノ訴

三十三年第一百八號
三十四年四月十九日宣告
（福島縣安積郡三代村長二瓶貞四郎對農商務大臣林有造）

原告ニ於テ本件所爭ノ字熊ノ森外十四筆ノ山野ハ苗字向山等ノ地所ニ該當スルモノニシテ古來之ヲ村山村林ト唱ヘ自由ニ處分進退シ來リタル處寬政九年舊會津藩ノ林制改革ニ依リ藩林ヲ特定シ之ヲ御林ト稱シ御林ヲ除ケノ外ハ總テ地下持山ト稱シ地下村ノ自由進退ニ任スルコトヽナリ原告村ノ所有權一層確實トナレリ而シテ此制度ハ享和二年ニ至リ廢止セラレタルモ原告村ハ依然寬政制度ノ下ニ於テ本件山野ヲ持山トシテ所有シ來レルコトヲ主張シ被告ハ苗字熊ノ森等ノ山野カ現今字向山等ノ地所ニ該當スルコトヲ認ムルモ原告ニ於テ山野ヲ所有シタルノ事實ヲ認メスト抗辯セリ依テ原告提出ノ甲第一號證乃至第二十二號證中本件所爭ノ要

點ニ最モ適切ナル甲第四號證及甲第二十二號證ニ付原被主張ノ當否ヲ說明センニ甲第四號證官製志中ニ「御林山ノ外地下持山ニ相成山稅年々定數ヲ以テ相納メ勝手次第ニ材木ニ致候」云々トアリ又甲第二十二號ノ二酋會社藩主松平家々政實記第二百五十五卷寬政九年八月ヨリ十二月ニ至ル紀事中ニ「御園山被仰付其餘ハ地下持林ニ被仰付(中略)諸木賣出候村益ノ分何レモ內端ニ見込村毎ニ山役申付云々」トアリ而シテ本件山野カ御林即官林ニアラサルコトハ甲第七號第九號及第十六號證ニ依リ明瞭ナレハ原告カ寬政以前ニ於テ之ヲ所有シタル事實ハ判明セサルモ寬政九年ノ改革ニ依リ原告村ノ持山トナリタルノ事實ヲ推定スルヲ得ヘク且爾來原告村カ此權利ヲ持續シタルコトハ甲第二十二號證ノ三家政實記第二百六十五卷享和二年正月中ヨリ六月ニ至ル紀事中ニ原告村ノ屬スル安積外五組ハ是迄ノ通リ可成證云々ト記載アル事實及甲第六號第十號第十一號等ノ諸證ニ依リ之ヲ認定スルニ足ル被告ハ之ニ對シ地下持山ナルモノハ山役銀ヲ徵收シテ設定シタルニ種ノ地上權ヲ表スルモノニシテ所有權ヲ意味スルモノニアラスト主張スルモ當時官府カ地下持山トカシ一定ノ山役ヲ申付地下村ノ勝手次第ニ任シタルハ即チ其所有權ヲ認メタルモノト解釋スヘクシテ地上權ノ設定ナリト謂フヘカラス尙ホ被告ハ甲第四號證ノ成立ヲ非認スルモ被告ノ爭ハサル甲第二十二號證ト對照スレハ其記載ノ事實カ眞正ナルコト疑ヲ容レヘカラス又原告ハ甲第一號證御年貢米勘定帳甲第二十一號證ノ二租稅皆濟目錄ニ依リ論地ニ對シ小割米及山役ヲ負擔シタルコトヲ主張シ被告ハ之ニ對シ小割米山役ハ論地ニ對シ納メタル正租ニアラサレハ所有ノ證トスルニ足ラスト論辯スルモ前述ノ如ク論地カ酋藩ノ藏書ニ依リ原告村ノ所有トナリタルコト明瞭ナル以上ハ縱令之ニ對シ正租ヲ納メタル事實證據上判明セサルモ原告ノ所有地ニアラスト謂フヲ得ス其他甲第二號證隣村福良村ヨリ山手錢ヲ徵收シタルコトニ付雙方辯論スル所アルモ以上ノ理由ニヨリ原告村ノ所有ヲ認メタルヲ以テ之カ當否ヲ說明スルノ必要ナキモノトス

(115) **國有林ノ內樹木下戻ノ訴**

三十三年第百七十三號
三十四年五月八日宣告

(秋田縣南秋田郡旭川村長代理助役佐藤龜松對農商務大臣林有造)

原告ハ甲號數證ヲ提出シテ本訴ノ請求ヲ爲スト雖モ其主要タル甲第五號證ニハ「雜木ノ分永綴其村渡世山ニ拜領被仰付候間以來別シテ出精御山所御取立」云々トアリ甲第八號證ニモ同樣ノ文面アリテ其後段ニ至リ「御山所守護致シ」云々又「以來尙更出精守護可致」云々トアル趣旨ニ依テ見レハ右渡世山ト稱スルモノハ被告陳述ノ如ク官山保護等ノ義務ヲ負擔セシメ薪炭等ノ山稼ヲ許可シタルニ止マリ全然其樹木ニ對シ所有權ヲ附與シタルモノトハ認メ難ク故ニ維新後山林制度ノ變革ト共ニ渡世山ノ制度消滅シタル今日ニ於テ尙ホ所有權アリト主張スルハ理由ナキモノトス其他原告ニ於テ論證スル所アルモ既ニ本件主要ノ證據ヲ排斥シタル上ハ一々說明スルノ限ニアラス

(116) **不當處分取消ノ訴**

三十三年第二百十六號
三十四年五月八日宣告

(巖手縣士族南部濟大對農商務大臣林有造)

原告ハ本件山林ハ原告ノ祖先以來代々所有シ來リタル屋敷地ナリ然ルニ明治八年地租改正及同十一年山林原野區分調査ノ際誤テ官有ニ歸シタルモノナルヲ以テ其下戻ヲ請フト云フト雖本訴山林ニ對シテ所有權アリトノ原告ノ主張ハ單ニ無證ノ陳述ニ止マルヲ以テ其請求ヲ採用スルニ由ナキモノトス

(117) **御料地拂下ノ訴**

三十四年第十四號
仝年五月八日裁決

(愛知縣平民日比金十郎外二名對御料局長男爵岩村通俊)

判旨○御料地拂下ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ

(第一門第一(292)判決理由參看)

(118) **國有林野境界查定不服ノ訴**

三十三年第二百五十八號
三十四年五月二十日宣告

(宮城縣平民三上源助對宮城縣大林區署長林務官道家充之)

原告ハ甲號數證ヲ提出シテ本訴ノ請求ヲ爲スト雖モ其主要タル甲第一號證及甲第二號證ノ一竝ニ其二ニ依レハ單ニ仕立山一个所云々或ハ抱山一个所トアリ而シテ其區域ニ付記載スル所ナキニアラサルモ其所在地ハ果シテ本件係爭ノ東目屋村大字中畑字外山十一番地及同上九番ノ一部ニ該當スルヤ之ヲ確認スヘキ證據ナキノミナラス却テ乙第二號證ノ一乙第二號證ノ二等ノ各證ニ依レハ係爭地ハ大字中畑部內ニアリテ甲第一二號證ノ地所ニ相當スルモノニアラサルコトヲ認ムルニ足ルヲ以テ原告ノ主張ハ採用スルヲ得サルモノトス

(119) **官有山林民有引戻ノ訴**

三十三年第二百七十二號
三十四年五月二十四日宣告

(茨城縣塚原庄伯對農商務大臣林有造)

原告ハ甲第一號證乃至第六號證ヲ以テ本件係爭地ハ原告先代カ素ト衞守ナル者ヨリ買受ケ爾來所有シ來リタル旨主張スルモ右甲號數證ヲ閱スル

ニ甲第一號證寬文山畝帳ニ二反五畝歩衞守宮脇トアリ又甲第二號證即寬政申質地證文ノ事ト題スル證書ニ字宮脇ニテ云々其他甲第三號證日記帳ニ宮脇山松苗植トアリ甲第四號證控留帳ニ字宮脇山元繩二反五畝歩云々トアルモ原告提出ノ圖面ニヨレハ本件申請地以外ニ現ニ宮脇ニシテ反別一反數畝歩ノ山林數个所ニ散在セルノミナラス原告カ下戻ヲ請求スル場所ハ合反別五反歩以上ニ渉リ然シテ甲號數證ニハ二反五畝歩トアリテ右二反五畝歩一地所カ改租ノ際五反歩以上ニ丈量ノ增加シタリトノ確證モナケレハ右甲號數證ニ字宮脇云々トアル記載ノミニ依リ之ニ記載セル字宮脇ナル場所カ本件申請地ニ該當スルモノト認メ難シ又甲第五號證ハ一個人ノ證明ニシテ隨意ニ調製シ得ヘキモノナレハ證據ノ効力ナキモノトス以上ノ理由ナルヲ以テ被告カ原告ノ申請ヲ採用セサリシハ相當ナリトス

(120) **國有林境界查定不服ノ訴**(第一門第五(122)妨訴抗辯ノ本案)

三十三年第一百二十六號
三十四年五月二十八日宣告

(奈良縣吉野郡國樔村長代理助役松岡說
被對大阪大林區署長林務官椙山清利)

本件所爭ノ要點ハ奈良縣吉野郡中龍門村大字色生殿川國有林ト同縣同郡國樔村大字新子外五大字共有柴杉山トノ境界ハ被告查定ノ如ク同所大谷分流點ヨリ同郡小川村大字小栗栖村境ニ達スル境界線ナルヤ將タ原告主張ノ如ク大谷分流點ヨリ左折シ大窪ヨリ同郡小川村大字穩家口村境ヲ見通シタル境界線ナルヤニ在リ原告ハ其主張ヲ證スル爲甲第一號證乃至甲第二十四號證ヲ提出スレトモ甲第一號證ハ原告村內舊新子村ノ地租改正

圖ト稱スルモノニシテ甲第二十二號證ニ依リ上市稅務署備付ノ地圖ト符合スルコトヲ認メ得ヘキモ乙第一號證中龍門村內舊色生村地租改正地引圖ト論地ニ該當スル部分ニ於テ牴觸セリ而シテ甲第一號證ハ乙第一號證ノ如ク年號ノ記入ナク又村總代ノ連印ナク形式ニ於テ缺クル所アルノミナラス後段說明ノ如ク他ニ之ヲ助クル有力ノ證憑ナキヲ以テ乙第一號證ニ比較シテ信憑力劣ルモノト謂ハサルヲ得ス甲第二號證ハ地押圖ニシテ畢竟甲第一號證ニ據テ作ラレタルニ外ナラサレハ甲第一號證ニシテ既ニ前顯說明ノ如クナル以上ハ是亦有力ナル證據ト認メ難シ甲第三號證ハ文政年間原告村內舊新子村外五个村ヨリ舟津新三郞ヘ論所ニ付賣買ヲ爲シタル書類ニシテ原告ハ之ヲ以テ植樹權ハ之ヲ賣渡シタルモ地盤ハ原告ニ留保シタル證據トスルモノナレトモ乙二號證舟津新三郞ヨリ辻甚太郞役所宛差出シタル中立書ニ依レハ當時ノ御林檢地帳ニハ大久保大谷卽チ查定線ヲ以テ境界トナセル事實原告村內舊六个村ハ大久保大谷ヲ二个所トシ大久保平卽チ原告線ヨリ以南ニ付苦情アリシ事實及檢地帳ノ通リ受取ル爲メ出金シタル事實ヲ認ムヘク從テ甲第三號證ハ原告舊六个村ノ苦情ヲ鎭制スルニ出テタル一時ノ權宜處分ニシテ原告舊六个村ノ權利ヲ認メテ眞實ニ爲シタル賣買ト認ムルヲ得サレハ之ニ據テ論所カ原告ノ所有タルコトヲ證明スルニ足ラサルノミナラス是兩證ヲ對照スルトキハ乙第二號證ノ大久保大谷ハ二个所ニアラスシテ甲第三號證ノ大久保ノスソ大久保ナルコトヲ知ルニ足レリ甲第四號證ハ柴杉山ヲ山本甚三郞ニ賣渡シタル書類ニシテ同書ニハ四至ノ境界ヲ表示シ東ハ御林山限リトアレトモ殿川國有林ト柴杉山トハ大體南北相接シ論所ヲ査定線ノ如クセサレハ東西相接スル境界ヲ生セサルニ依リ之ニ據テ論所ヲ包括シテ柴杉山ノ全部ヲ賣渡シタルモノト認メ難キノミナラス乙第四號證山本甚三郞ノ下戾願附屬圖面ノ朱線鷲家口村境ニ出テスシテ中黑村ニ出テタルヲ以テ見レハ甲第四號證ニハ論地ヲ包括セサルモノト認ムルニ足レリ甲第五號證及甲第六號證ノ一ハ中龍門村長代理助役ノ證明書ニシテ村長若クハ助役ハ境界ヲ證明スル職權アルモノニ非サレハ宣誓ヲ經サル一個人ノ證明ニ均シク信ヲ證クニ足ラサルノミナラス該證明ノ根據トシタルモノハ甲第六號證ノ二三ニシテ同證ニハ大久保大谷ヨリ戀越石迄若クハ南ハ大鑑大谷水流マテトアルノミニシテ大久保大谷ハ二个所ト認メ難キハ前說明ノ如クナルヲ以テ甲第五六號證ハ共ニ採用シ難シ甲第七號證八號證及甲第二十一號證二十二號證ハ延寶八年ノ境界爭論ニ關スル書類圖面及證明書ニシテ同證大久保大谷限大久保大谷ト申ヲ限リ若クハ大谷限リトアルハ一个所ニシテ二个所ノ地名ニアラサルコト前說明ノ如クナル以上ハ是亦原告ノ主張ヲ確ムルニ足ラス之ヲ要スルニ甲第一號證ハ舊記ニ照シテ據ル所ナキニ反シ乙第一號證ハ乙第二號證ノ趣旨ニ適ヒ更ニ乙第四號證卽チ原告ノ先代權利者タリシ山本甚三郞ノ圖面ニ依テ承認セラレタルモノナルカ故ニ乙第一號證等ニ依レル査定處分ハ相當ニシテ原告ノ主張ハ理由ナキモノトス此他ノ原告證據ハ訴訟ヲ爲スニ付テノ村會ノ決議ニ關スル書類、査定處分ニ付テノ林區署トノ往復書、地引圖地籍圖ニ付テノ中龍門村役場トノ往復書、舟津新恭ノ官林下戾申請又ハ同人ノ論所賣買ニ關スル書類等ニシテ爭點ニ直接ノ關係ナク又ハ效力微弱ニシテ前顯乙號證ノ效力ヲ破ルニ足ラサルモノナレハ一々說明セス

(121) ●官林民地引戾ノ訴

三十三年第百二十八號　三十四年五月二十八日宣告　（福島縣相馬郡玉野村長佐藤正信對農商務大臣林有造）

原告ハ本訴請求地ハ遠ク數百年來原告玉野村ノ所有ニシテ爾來絕エス施

用收益シ來リタルモノナリト主張シ甲第一號證乃至甲第三號證及甲第六號證乃至甲第十八號證ヲ提出シタルニ依リ其證據ヲ閱スルニ甲第一號證ニハ公有地玉野村內山反別未定ナル旨記載アルノミニシテ何レノ場所ヲ指示スルヤ明カナラス之レニ牽聯スル甲第二號證一筆限帳ニ百五十番字トヤカハナ百五十二番字イタキ山百五十三番字副靈山百五十四番字小坂山百五十五番字石ノドウ百五十六番字靈山百五十七番字フタツクボトアルモ右七字カ現今ノ三字卽チトヤカハナ靈山副靈山ニ變遷シタリトノ事實ヲ視ルヘキ確證ナク原告ハ甲第九、十號證ノ圖面ヲ以テ右變遷ノ事蹟ヲ立證セントスルモ該九號證ニハ靈山副靈山ヤキコウレ板木山ノ四字ヲ記載シアルニ止マリ又右十號證ノ圖面ハ原圖ナク明治七年ノ頃取扱人カ單ニ其記臆ニ依テ調製シタルモノニ過キサレハ孰レモ甲第二號證ニアル七字カ現今ノ三字ニ變遷シタリトノ證據トスルニ足ラス甲第三號證ハ下草刈取ニ關スル記事ニ過キス甲第六號證乃至甲第八號證ハ領分境若クハ下草ニ關スル記事ニ止マリ又甲第九號裏書及甲第十二號證乃至甲第十六號證ハ孰レモ領分境ニ關スル記事ニシテ山林地盤ノコトニ關係ナキモノナレハ原告ノ主張ヲ確カムル證據トスルニ足ラス其他甲第十七號證ノ下草刈取ニ關スル記事ノ如キモ本訴請求地ニ關スルモノナルヤ否スラ知ルニ由ナク甲第十八號證ハ爲取替書ト題スル書面ニシテ是亦相馬領福島領雙方ノ入會ヲ定メタル文面ニ止マレハ孰レモ原告所有ノ證據ト爲スニ足ラス以上說明スル如ク原告提出ノ甲號數證ハ原告村ニ於テ古來ヨリ本訴請求地ヲ所有シ來リシ事實ヲ證スルニ足ラサルヲ以テ原告ノ請求ハ其理由ナキモノトス

(122) ●脫落民有地引戾編入請求ノ訴

三十三年第百三十六號　三十四年五月二十八日宣告　（茨城縣平民松塚卯助外九名對內務大臣男爵末松謙澄）

原告ハ原告提出附屬書及ヒ甲號各證ニ依リ本件係爭地ヲ原告等ノ民有ニ編入セラレタシト云フト雖本訴係爭地ハ附屬書第二號乃至第四號證及ヒ甲第一號證乃至第四號證等ニ徵シテ一旦民有地ト爲リシコトアル事實ハ認メ得ラル、モ其後賣買讓與等ノ結果初メ何人ヨリ何人ノ所有ニ移轉シ又更ニ轉々シテ何人ヨリ原告ノ所有ニ歸シタルモノナルヤ其等ノ事實ニ關シテハ根據トスヘキ確證毫モアラサルヲ以テ原告本訴ノ要求ハ之ヲ採用スルニ由ナキモノトス

(123) ●民有地不當查定取消ノ訴

三十三年第百八十四號　三十四年五月三十一日宣告　（新潟縣北蒲原郡堀越村長樋口壽平對農商務大臣林有造）

原告提出ノ甲號各證ヲ按スルニ單獨ニ就テ之ヲ判斷スレハ原告ノ主張ヲ確ムルニ充分ナラスト雖モ甲第六號證ニハ「一御用之竹木竝雜木ニ而モ御林當村ニ無御座候」「一當村ニ百姓山御座候云々」「山名ハ菱ケ嶽ト申候云々」甲第十一號證ニハ「一米貳石六升里村持山山手米御口米共云々」甲第十二號證ニハ曾テ論山ヲ賣却セントスルニ當リ一部村民ノ故障顚末アリテ是等甲號數證ヲ綜合シテ甲第一號甲第九號等ノ各證ニ參照シ考按スレハ原告カ古來論地ヲ所有スルノ事實ヲ認定スルニ足ル然レハ原告ハ明治三十二年法律第九十九號ノ下戾條件ニ適合スルモノトシ請求スヘキ權利アルヲ以テ被告ハ之ヲ拒ムヲ得サルモノトス

(124) ●山地竝ニ立木取戾ノ訴

三十一年第五十三號　三十四年六月三日宣告

（巖手縣士族岩城基規後見人全慈平民高橋隆信對農商務大臣林有造）

原告ハ係爭山林ハ維新ノ際一旦沒收セラレタルモ其後伊達家ノ重臣ヨリ辨事役所ニ請願シ再ヒ原告ニ下渡サレタルモノニシテ其事ハ甲第七號證ニ依リ明カナリト主張スルモ該證願文ニ「舊領郡村居住ノ臣屬何分多人數ニテ悉皆新封ノ地ヘ爲取移可申樣無之且是迄土着ニテ耕耘罷在候テ爲取移候得者自然人員相減田畑荒廢ノ基ニ相成且强テ取移候ニモ新封内之内ニハ新封丈ノ人員有之以前ノ臣屬不殘扶助仕候儀行屆可申樣無御座」云々「藩士陪隷共郡村居住ノ内地所ニテ相與ヘ置手自耕耘仕右ヲ以テ相糊罷在候分御座候右ハ其地所ニ直々相耕シ相當ノ租稅相納歸農仕候樣被成下度」云々「山林所持仕又ハ除地ト唱郡村高外ノ屋敷地ヲ所持仕居候分御座候處右ハ前々ヨリ高外ニテ無租稅ノ分御座候間是迄ノ儘被相任被下置々多分ノ開墾相成候儀モ御座候ハヽ其節租稅被召上候樣被成下度」云々トアリ而シテ其末文取締ノ藩々ヘノ達ニ「伊達邈三郎舊領上地ノ内舊藩士陪隷從前土着自分耕耘致居候者歸農願出候得ハ聞屆ケ遣シ相當ノ租稅爲相收戸口共追テ可相屆仕居屋敷山野等凡テ高外ノ分ハ當分ノ所爲活計持主ヘ與ヘ置可申候」云々トアルヲ以テ之ヲ觀レハ右請願ノ趣旨ハ舊領ノ藩士陪隷ヲシテ其地ニ歸農セシメ以テ自活ノ途ヲ得セシムルニ在リ又辨事役所ニ於テモ歸農ヲ條件トシ之ヲ聞屆ケタルモノト認メサルヲ得ス然ルニ原告家ハ當時歸農ヲナシタルノ事實ナク隨テ此恩典ニ浴スルノ道理ナキニ依リ本件山林ヲ下渡ザレタルモノト認メ難ク已ニ此事實ニシテ認メ難キ以上ハ甲第一號證乃至甲第六號證及甲第八號證乃至甲第十一號證ハ假ニ信憑スヘキモノトスルモ該山林沒收前之ヲ所有シタル事實ヲ證スルニ過キサレハ本件ノ證據ト爲スノ價値ナク又甲第十二號證ハ沒收後再ヒ所有シタル事實ヲ證スルモノナルモ該證ハ唯明治六年中岩城數馬ノ所有ニ係ル岩谷野町字舘下柄杓ケ城ノ立木ヲ買取リ郡役所外二ケ所ヲ建築シタリト云フニ過キサル何等ノ根據ナキ證明ナレハ之ヲ證據トシテ採用スルヲ得ス

(125)●國有山林及地上立木下戾ノ訴

三十三年第九十二號　三十四年六月三日宣告（福岡縣朝倉郡秋月町長久野安業對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲號諸證ヲ以テ本訴ノ山林ハ文政年間村渡山トシテ下附ヲ受ケ明治七年迄正租ヲ納メ共有シ來リタル民有ノ山林ナルヲ以テ被告ハ當然下戾スヘキモノト主張シ被告ハ原告カ本件山林ニ對シ村渡山トシテ受ケタル事實及ヒ租稅ヲ納メタル事跡ナシ甲號證ハ總テ其成立ハ認ムルモ立證ノ趣旨ハ認メス要スル所原告ハ主張ノ事實ヲ證明スルニ足ルモノナシト論辯セリ按スルニ甲第八號證ハ文化年間舊秋月藩ノ郡奉行タリシ井上正敏ノ手控帳ニシテ純然タル公簿ニアラサルモ其成立ハ被告モ認ムル所ニシテ古簿册タルコト疑ナシ且其記事モ一個ノ私事ニアラスシテ公事ヲ書留置キタルモノナリ而シテ其記事中ニ「公儀山在渡山引分ケ山年貢ノ事」ト題シ「一御領内山々都テ公儀山ニ付年々大造ノ郡夫ヲ以テ仕立根サラヘ致來リ候ヘ共松雜木ハ郡テ百姓依願渡來リ差テ御用ニハ不相成(中略)依之御用材木引除跡不殘在渡山ニ相成一村限リ家別持高ニ應シ割渡聊山所年貢上納相定メ云々」トアリテ舊秋月藩内ノ在渡山ナルモノハ官地ニアラスシテ而カモ在渡山ニ山年貢ヲ納メタル事實ハ之ヲ認ムルニ足レリ然ラハ甲第一、四、五、六、七、九、十號證ニ於テ納付シタル山運上又ハ山稅ナルモノハ官地ニアラサルモノニ對シ納メタル租稅ニシテ即國有土地森林原野下戾法ニ所謂正租ヲ納メタル證アルモノト謂ハサルヘカラス被告ハ甲第三號證ニ御林又ハ御用藪ト記載シアルヲ以テ係爭地ハ官林ニシテ民林ニアラスト論シ又其表紙ノ側ラニ「村渡山別册有」ト附記シアルヲ以テ見レハ村渡山ハ別ニアルモノナリト辯スルモ其御林又ハ御用藪トアル文字ノミヲ取リ解釋スレハ或ハ然ルカ如シト雖其實體タル土地ニ就キ之ヲ精査スレハ本證ノ土地ハ甲第一號證ノ坪數ト全然符合シ殊ニ甲第一號證ハ純然タル公簿ニシテ該簿ニハ單ニ林又ハ藪ト記載シアリテ毫モ官有ノ形跡ナキモノナレハ其當時私有ノ田畑ヲモ御田地ト稱セシ習慣ニ由リ御字ヲ冠セシモノト解釋セサルヘカラス又村渡山別册有ト表紙ニ附記シアルモ既ニ本證ノ土地數筆カ其坪數ニ於テ一歩ノ差異ナク甲第一號證ニ符合スル以上ハ此一事ヲ以テ民有ニアラスト謂フヲ得ス

(126)●山林及地上立木下戾ノ訴

三十三年第九十三號　三十四年六月三日宣告（福岡縣朝倉郡秋月町長中野芳太郎對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲號數證ヲ以テ本訴ノ山林ハ文政年間村渡山トシテ下附ヲ受ケ明治七年迄正租ヲ納メ共有シ來リタル民有ノ山林ナルヲ以テ被告ハ當然下戾スヘキモノト主張シ被告ハ原告カ本件山林ニ對シ村渡山トシテ受ケタル事實及ヒ租稅ヲ納メタル事跡ナシ甲號證ハ總テ其成立ハ認ムルモ立證ノ趣旨ハ認メス要スル所原告ハ主張ノ事實ヲ證明スルニ足ルモノナシト論辯セリ按スルニ甲第八號證ハ文化年間舊秋月藩ノ郡奉行タリシ井上正敏ノ手控帳ニシテ純然タル公簿ニアラサルモ其成立ハ被告モ認ムル所ニシテ古簿册タルコト疑ナシ且其記事モ一個ノ私事ニアラスシテ公事ヲ書留置キタルモノナリ而シテ其記事中ニ「公儀山在渡山引分ケ山年貢ノ事」ト題シ「一御領内山々都テ公儀山ニ付年々大造ノ郡夫ヲ以テ仕立根サラヘ致來リ候ヘ共松雜木ハ郡テ百姓依願渡來リ差テ御用ニハ不相成(中略)依之御用材木引除跡不殘在渡山ニ相成一村限リ家別持高ニ應シ割渡聊山所年貢上納相定メ云々」トアリテ舊秋月藩内ノ在渡山ナルモノハ官地ニアラスシテ而カモ在渡山ニ山年貢ヲ納メタル事實ハ之ヲ認ムルニ足レリ然ラハ甲第一、四、五、六、七、九、十號證ニ於テ納付シタル山運上又ハ山稅ナルモノハ官地ニアラサルモノニ對シ納メタル租稅ニシテ即國有土地森林原野下戾法ニ所謂正租ヲ納メタル證アルモノト謂ハサルヘカラス被告ハ甲第三號證ニ御林又ハ御用藪ト記載シアルヲ以テ係爭地ハ官林ニシテ民林ニアラスト論シ又其表紙ノ側ラニ「村渡山別册有」ト附記シアルヲ以テ見レハ村渡山ハ別ニアルモノナリト辯スルモ其御林又ハ御用藪トアル文字ノミヲ取リ解釋スレハ或ハ然ルカ如シト雖其實體タル土地ニ就キ之ヲ精査スレハ本證ノ土地ハ甲第一號證ノ坪數ト全然符合シ殊ニ甲第一號證ハ純然タル公簿ニシテ該簿ニハ單ニ林又ハ藪ト記載シアリテ毫モ官有ノ形跡ナキモノナレハ其當時私有ノ田畑ヲモ御田地ト稱セシ習慣ニ由リ御字ヲ冠セシモノト解釋セサルヘカラス又村渡山別册有ト表紙ニ附記シアルモ既ニ本證ノ土地數筆カ其坪數ニ於テ一歩ノ差異ナク甲第一號證ニ符合スル以上ハ此一事ヲ以テ民有ニアラスト謂フヲ得ス

(127)●國有原野下戾ノ訴

三十三年第百八十八號　三十四年六月三日宣告（福島縣田村郡山根村長渡邊奥次郎對農商務大臣平田東助）

原告ハ甲第一號證乃至甲第六號證ヲ以テ磐城國田村郡山根村大字早稻川字西片草百二十七番外八十八筆國有原野面積百九十五町三反一畝二十四歩ヲ地租改正以前ニ於テ一村總持トシテ所有シ來リタル事實ヲ證シ以テ本件原野ハ原告ニ下戾サルヘキモノナリト主張シ被告ハ甲第一號證ヲ絕對ニ否認シ從テ甲第二號證以下ハ本件原野ノ下戾ヲ請求スルニ足ルヘキ

效力ナシト答辯セリ按スルニ甲第一號證ハ文政五年林山繩引覺帳ト題スルモノニシテ原告代理人カ云フ所ニ依レハ該簿ハ當庄屋ノ宅ニ在リタル控帳ナレトモ何ノ必要ニ由リ何年頃ニ調製シタルモノナルヤ不明ナリ而シテ其記事ヲ見ルニ始メハ個人持ノ山及林ヲ掲記シ其末尾ニ右私持地ニ相違無御座候何某ト一人別ニ記載シ帳簿ノ終末ニ至リ係爭地ニ該當スト云フ箇所ヲ掲記シ右ノ地所一村惣持地ニ相違無御座候早稻川村組頭早川九右衛門ト記載シアルニ止リ其性質如何ヲ知ルニ由ナキモノナレハ證據トシテ取ルニ足ラス甲第三號證ニ山野立毫野取帳甲第五號證ハ一村合帳ニシテ該帳簿ハ地券渡方ノ爲メ又ハ地租改正ノ必要ニ依リ作製シタル公簿ナルモ之ニ係爭地ヲ一村總持ト記載スルハ何レモ相當ノ根據ナカルヘカラス然ルニ原告カ其根據トスル所ハ唯甲第一號證アルノミ而シテ該證ハ既ニ前段ニ於テ說明スル如ク證據力ナキモノナレハ從テ本證モ亦證據ト爲スヲ得ス甲第四號證ハ地租改正事務局ノ達書ニシテ甲第六號證ハ地券發行ニ關スル地所取調規則ナレハ之ヲ以テ本件係爭地ノ所有ヲ證スル效力アルモノト謂フヲ得ス

(128) ◉違法處分取消山林下戻請求ノ訴

三十三年第二百二號
三十四年六月三日宣告

（福島縣大沼郡川路村大字大石代理人仝縣仝村及氷玉村組合村長長嶺直喜對農商務大臣平田東助）

被告ハ本件請求ノ目的物ノ原告カ所有シ來リタル事實竝ニ之ニ對スル納稅ハ正租ナルコトヲ認ムヘキ證左不十分ナルノミナラス乙第一號證加々山潛龍ノ覺書中一堺ノ儀ハ云々一山所ノ儀ハ云々トアリテ村方ノモノナルコトハ認メラレスト云フモ其一ハ地堺標ノ件其二ハ入合ヲ爲サセサル下數證ニ論地ニ對シ進退云々或ハ甲第八十四號證以下ノ如ク論地ニ對シ永請ヲ許シタル等ノ事ハ寺領管理權ノ範圍內ニ屬スルモノト認ムヘキモノニシテ原告ノ所有權ナキコトヲ認ムルニ足ラス却テ同書中原告ノ證據ト爲ス一右山ノ儀手元開發爲引拂候節ハ前々通慶田ニテ無異議可相返事右戶澤山開發云々ノ記事アルコトヨリ該書ハ嘉永五子閏二月二十六日加々山潛龍ヨリ當時ノ肝煎菊地東吾竝ニ村役人村中ニ對シ且前書ノ通相違ナキ旨ヲ御用場齊藤林右衛門ナル者ニ對シ述ヘタルモノナルコト及其首領項ニ一南ハ上タ澤新落堀切西ハ田方切東戶澤川堺山ノ下借受耕作爲致云々等ノ文詞アルニ徵スレハ村方ヨリ公然該地ヲ加々山潛龍ニ貸與ヘタル事實アリテ土地ノ所有權ヲ行使シタルモノナルコトヲ認ムルニ足レリ隨テ甲第一號證告濟手形ノ戶澤山年貢モ民有地タル該山ニ對シテ納付シタルモノト認定ス

(129) ◉箕面山森林下戻請求ノ訴

三十三年第二百六十五號
三十四年六月三日宣告

（大阪府平民樋上顯定外三名對農商務大臣平田東助）

本訴ノ要點ハ係爭山林ハ一般ノ寺領即チ寺ノ公領ニ屬スヘキモノナルヤ將タ特ニ寺ノ私有ニ屬スヘキモノナルヤヲ判斷スルニ在リ依テ本件主張ノ證據タル甲第一號證ヲ按スルニ文面ニシテ趣旨明確ナラス且「當寺山林之事云々被任證文旨如有來被仰付云々」トアル其證文ヲ提出セサルニ付寺有トナリタル原因ヲ知ルニ由ナク從テ其性質判明セスト雖モ其文中「自然從他鄕盜苅候者被搦推此方へ可承候云々」トアリテ恰モ領主支配地ノ如ク保護ノ法ヲ示シ又甲第三號證ニハ「當寺山林御年貢米之事云々折紙之以筋目前々ノ如ク除之云々」トアリ又原告論旨ノ如ク甲第一號證ニ依リ年貢ヲ課セラレ後年ニ至リ之ヲ免除セラレタルモノトセハ其免除以前ニ在テハ年貢ヲ納メタルヘキ筋ナルニ非モ其證跡ナク又甲第四號證以下數證ニ論地ニ對シ進退云々或ハ甲第八十四號證以下ノ如ク論地ニ對シ永請ヲ許シタル等ノ事ハ寺領管理權ノ範圍內ニ屬スルモノト認ムヘキモノニシテ原告ノ所有權ナキコトヲ認ムルニ足ラス却テ同書中原告ノ證據ト爲ス一右山ノ儀手元開發爲引拂候節ハ前々通慶田ニテ無異議可相返事右戶澤山開發云々ノ記事アルコトヨリ該書ハ嘉永五子閏二月二十六日加々山潛龍ヨリ當時ノ肝煎菊地東吾竝ニ村役人村中ニ對シ且前書ノ通相違ナキ旨ヲ御用場齊藤林右衛門ナル者ニ對シ述ヘタルモノナルコト及其首領項ニ一南ハ上タ澤新落堀切西ハ田方切東戶澤川堺山ノ下借受耕作爲致云々等ノ文詞アルニ徵スレハ村方ヨリ公然該地ヲ加々山潛龍ニ貸與ヘタル事實アリテ土地ノ所有權ヲ行使シタルモノナルコトヲ認ムルニ足レリ隨テ甲第一號證告濟手形ノ戶澤山年貢モ民有地タル該山ニ對シテ納付シタルモノト認定ス

主張ハ理由ナキモノトス又原告ハ本件區費ハ三箇年分ヲ合算シタルモノナリト謂フモ被告提出ノ各證據ニ依ルニ明治二十七年度ニ於テ前二箇年分ノ公借金ヲ一時ニ償却シ之カ爲メ區費ノ額ヲ增加シタルノ事實アルモ原告主張ノ如ク三箇年ノ區費ヲ一時ニ賦課徵收シタルモノニアラス然ラハ本件選擧人名簿ヲ調製スルニ當リ區費ヲ算入シテ其等級ヲ定メタルハ違法ノ處置ナリト謂フヲ得ス

(125) ◉村會議員半數改選選擧名簿訂正ノ訴

二十八年第五十一號
二十九年五月二十二日宣告（長野縣平民小林民吉對仝縣更級郡村長久保太兵衛）

判旨○町村制第九十九條第二項ニ基キ町村內ノ一區ニ賦課スル費用ハ同制第九十條第二項ノ原則ニ對シ例外ノ町村稅ニ屬ス從テ戶數割ノ附加稅タル網掛區費ノ如キハ直接村稅トシテ選擧人ノ等級ヲ定ムル資格ニ算入スヘキモノトス（町村制第九十九條第二項第九十條第二項）

○町村內ノ一區ハ他ニ別段ノ規定アルニ非サレハ區會ノ有無ヲ以テ區費ノ性質ヲ變スヘキモノニ非ス（同上及第百十四條）

（本件判旨第一ハ(124)ト其理由同一ナルヲ以テ之ヲ略ス）

又原告ハ町村制第百十四條ニ依リテ區條例ヲ定メ區會ヲ設ケタル場合ニ於テハ區ハ一個獨立ノ法人ニシテ町村トハ全然別種ノ物ナリト謂フト雖該條ハ町村內ノ一區ニ於テ特別ニ財產ヲ有シ營造物ヲ設クル場合ニ於テ區會ヲ設置スルコトヲ許シタルマテニシテ之ヲ以テ區ハ町村ノ外ニ獨立シテ町村ト併立スル法人ナリト定メタルモノニ非ス又原告ハ區會ヲ設ケタル區ト之ヲ設ケサル區トヲ類別シテ甲ノ區費ハ獨立法人ノ區稅ニシテ村稅ニ非ス乙ノ區費ハ村稅ト看做スコトヲ得ルカ如ク主張スルモ苟モ町村內ノ一區タル以上ハ他ニ別段ノ規定アルニ非サレハ區會ノ有無ヲ以テ區費ノ性質ヲ變スヘキモノニ非ス然ラハ明治二十八年六月七日附長野縣參事會ノ裁決ハ相當ニシテ本件選擧人名簿ハ訂正スヘキモノニ非ス

(126) ◉村會議員定期半數改選選擧取消訴願ニ對スル裁決不服ノ訴

二十九年第十六號
仝年五月二十二日宣告（齊藤縣平民野呂雄之助對仝縣知事佐和正）

判旨○町村制第七條ニ所謂公費トアル中ニハ單ニ町村ノ公費ノミニ止マラス汎ク地方稅備荒儲金等ヲ包含ス（町村制第七條第一項）

○無資格者數名ノ登載アル選擧人名簿ニ據リ執行シタル選擧ハ町村制第二十九條第三項ニ所謂選擧ノ定規ニ違背シタルモノトス（町村制第七條第一項第十三條第二十九條第三項）

（本件判旨第一ハ(75)其理由ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

選擧人一級二級ノ區別ハ町村制第十三條ノ規定ニ依ルヘキモノナルニ本件無資格者數名ノ納稅額ヲ控除スルヤ一級二級共ニ選擧人取得ノ階級ニ異動ヲ生シ隨テ兩級ノ區別ニ付違法ノ結果ヲ來スモノナレハ選擧ノ定規

ニ遠背シタルモノト云ハサルヲ得ス其他論辯スル所アルモ必要ナラサルニ付說明ヲ與ヘス

(127) ◉村會議員當選效力ニ關スル訓令取消請求ノ訴

二十九年第三號
全年六月五日宣告　（廣島縣三次郡君田村長尖戶保對全縣三次三谿郡長山口光風）

判旨○町村制中別ニ現任議員ニ對シ被選舉權ヲ有セシメサル特例ナキヲ以テ現ニ議員ノ職ニ在ル者ト雖モ尙被選舉權ヲ有スルモノトス（町村制第十五條）

原告ニ於テハ現ニ町村會議員ノ職ニ在ルモノハ同一町村會議員ノ補闕選舉ニ於ケル當選者トナルコトヲ得サルモノナレハ現任議員ノ得票ハ無效ノモノナリト謂フト雖モ町村制第十五條ニ依レハ選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選舉權ヲ有スルノ原則アルヲ以テ或者ニ對シテ被選舉權ナシト謂フニハ必ス法律ノ明文ヲ要スルモノナリ然ルニ町村制中別ニ現任議員ニ對シ被選舉權ヲ有セシメサル特例ナキヲ以テ現ニ議員ノ職ニ在ル者ト雖モ被選舉權ヲ有スルモノト謂ハサルヲ得ス從ツテ其得票ハ之ヲ無效トスヘキモノニアラス其他原被雙方ハ尙ホ當選後ノ手續ニ付キ論爭スル所アレトモ選舉ノ效力ヲ目的トセル本件裁判ニ於テハ必要ナシト認ムル

(128) ◉村會議員選舉不當決定ニ對スル訴

二十八年第百十二號
二十九年六月六日宣告　（石川縣平民宮本榮次郎外二名對同縣石川郡埼浦村長松原一義）

判旨○選舉人若クハ其代人タル資格ナキ者恣ニ選舉人ノ名義ヲ用ヰ選舉會場ニ入リ投票シタル選舉ハ制第二十九條第三項ニ依リ全部無效ナリ（町村制第二十一條第二十九條）

明治二十八年四月四日崎浦村會議員二級選舉會開會中同村宇笠舞高島仁右衛門ナルモノ同村同宇高島彌三郎ノ名義ヲ以テ選舉會場ニ入リ終ニ其名ヲ以テ投票ヲ爲セシ事實ハ當事者間ニ於テ爭無キ所ナリ而ルニ被告ニ於テ選舉ノ有效無效ハ主トシテ有效投票ノ多數ヲ得ルト否トニ依リ定ムルモノニシテ單ニ選舉人ニアラサルモノ選舉會場ニ入リタルノミヲ以テ選舉ノ全部ヲ無效トスルヲ得ス云々ト主張スト雖トモ選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得サルハ町村制第二十一條ニ規定セル所ニシテ選舉人タル資格無ク選舉人ノ代人タル資格モ無キ高島仁右衛門ニ於テ恣ニ選舉人ノ名義ヲ用ヰ選舉會場ニ入リ投票ヲ爲セシ以上ハ其選舉ハ規定ニ違背セルモノニシテ同制第二十九條第三項ニ依リ其全部ヲ取消スヘキモノトス然ルニ石川縣參事會ニ於テハ當選者ノ得票中無效投票一票ヲ除却スルモ當選ノ結果ニ異動ヲ生セストノ理由ヲ以テ本件選舉ヲ有效トセシハ其當ヲ得サルモノトス

(129) ◉村會議員選舉ニ關スル不當裁決取消請求ノ訴

二十九年第三十八號
全年六月九日宣告　（新潟縣平民池田作造外三名對全縣古志郡長宮地佐之助）

判旨○數葉ノ代書投票カ同一筆蹟ニ成リタリトノ事實ハ選舉人カ互ニ協議ヲ爲シタルモノナリトノ事實ヲ推定スルニ足ラス

○町村制中代書投票ニ關スル規定ナキヲ以テ選舉錄ニ何等ノ記載ナキ代書投票ト雖モ之ヲ無效トスルヲ得ス

原告ニ於テハ新組村村會議員一級選舉會ニ於ケル被選人小林辰次郎外三名ノ得票中十六票ハ其用紙ノ裏面ニ選舉人氏名ノ頭字ニ恰當スル假名文字若クハ記號ノ記入アリテ町村制第二十二條第一項但書及第二十三條第二項ノ四ニ依リ無效ノ投票ナリ且ツ其文字若クハ記號ハ選舉會ニ於ケル投票點檢ノ當時ニ於テ既ニ存在セシモノナリ又村長ニ於テ選舉人ノ求メニ由リ投票ノ閱覽ヲ許セシ時ハ事務室以外立會人無キ處ニ於テセシコトナシト主張シ甲第八號證ノ一二ヲ提出スレトモ如此書面ハ何時タリトモ隨意ニ作成スルコトヲ得ル性質ノモノナルヲ以テ信ヲ置クニ足ラス又原告ハ村會ニ於テ原告ノ訴願ニ對スル裁決ノ議事中原告ノ反對派議員ニ於テモ本件ノ事實ヲ爭ヒシモノ無ク全會一致ヲ以テ該十六票ノ投票ヲ無效トセシハ即チ投票檢點ノ當時ニ於テ既ニ文字ノ記入アリシコトヲ推知スルニ足ルト主張シ甲第九號證ヲ提出スレトモ村會ノ議事中投票ノ文字記入ニ關スル事實ヲ爭ヒシモノナシトテ直ニ其文字ハ點檢當時ニ於テ存在セシモノトノ證左トナラサルノミナラス現ニ同證ニ依レハ原告ノ訴願事件カ議題トナリシ際ハ原告ノ反對派ト稱スル議員ハ既ニ退場セシ後ニシテ幾ニ議長タル安藤五八郎カ居殘リタルノミナレハ投票ノ文字記入ニ關スル事實ヲ爭フ者無カリシハ毫モ怪ムニ足ラス抑投票用紙ニ現存セル文字カ果シテ當初ヨリ存在セシモノナルヤ否ヤハ一ニ其投票保存ノ情況如何ニ因リ決スヘキモノニシテ若シ其投票カ選舉結了後即時封緘ヲ施シ嚴重ニ保存セルカ如キ場合ニ於テハ其文字ノ記入ハ當初既ニ存在セシモノト認ムルニ難カラスト雖モ本件投票用紙ノ如キハ村長ニ於テ封緘ヲ施サヽリシモノタルノミナラス郡長ノ訊問ニ對スル村長ノ職務上文書タル答申書即チ乙第二號證乃至乙第五號證ニ依レハ該投票ハ役場內飯繪ナキ筆筒中ニ入レ置キタル事實竝ニ事務室以外立會人モナキ所ニ於テ數回選舉人ニ閱覽ヲ許シタル事實アリテ後日記入ノ餘地ヲ存スルヲ以テ今日現存ノ文字ハ直ニ當初ヨリ存在セシモノト言ヒ難シ故ニ原告ニ於テ該文字カ投票點檢ノ時ヨリ存在セルモノト主張スルニ於テハ其證明ヲ爲サヽル可ラス然ルニ其證據トシテ提出スル所ノモノハ前顯說明ノ通リニシテ一モ採ルニ足ル可キモノナシ然ラハ本件投票ニ記入セル文字ハ投票點檢ノ時ヨリ存在セシモノト認ムルコトヲ得サルモノトス況ンヤ乙第一號證選舉錄ニ於テ投票ノ文字記入ニ關スル記事ナキハ即チ如此事實無カリシニ因ルモノト推測セシムルニ足ルモノアルニ於テヤ又原告ハ本件係爭ノ投票ハ數葉宛同一筆跡ニシテ協議ニ出テタルモノナレハ代筆ノ規定ニ背キタルモノニシテ無效ノモノナリト主張スレトモ數葉ノ投票カ同一筆跡ニ成リタルノ事實ハ選舉人ニ於テ互ニ協議ヲ爲シタルモノトノ證據トナラス又町村制中投票代書ニ關スル規定アラサルヲ以テ選舉錄ニ何等ノ記載ナキ代書投票ナレハトテ之ヲ無效トスルコトヲ得サルモノトス

(130) ◉村會議員當選權回復ノ訴

二十九年第十二號
全年六月十日宣告　（南秋田郡平民畑澤茂之助對全縣）

判旨○被選舉權ナキ人名ヲ記載シタル投票ト雖モ被選舉權ヲ有スル者ノ中ニ就キ其投票ノ指名スル選舉人タル者ヲ確認シ得ヘキモノハ有效トス（町村制第二十三條第二項）

被告ハ本件畑澤波助ト記載シアル投票ハ被選舉權ナキ人名ヲ記載シタルモノナレハ町村制第二十三條第二項ノ三ニ該當スル無效ノ投票ナリト謂フト雖凡ソ被選舉權ナキ人名ヲ記載スル投票ト雖被選舉權ヲ有スル者ノ中ニ就キ其投票ノ指名スル被選舉人タル者ヲ確認シ得ヘキ場合ニ於テハ町村制第二十三條第二項ノ三ニ依リ直ニ之ヲ以テ無效ノ投票ナリト爲スヲ得ス然ラハ本件畑澤波助トアル投票ノ如キハ未成年者ノ人名ヲ記載スルモノナルモ選舉人ニ於テ特ニ未成年者ヲ選舉スヘキ理由ナキヲ以テ該投票ハ類似ノ人名畑澤波之助即チ原告ヲ指名選舉シタルモノト認定セサルヲ得ス而シテ右波之助ト記載アル投票ニ付テハ他ニ澤田百波之助ナル者アルモ同人カ公民權ナキ者ナルコトハ既ニ被告ノ認知スルトコロニシテ選舉人ニ於テモ公民權ナキ者ヲ選舉スヘキ理由ナキヲ以テ該投票ハ原告ヲ指名シタルモノト認ムルヲ以テ相當ナリトス

（第一門第四(35)判決理由ノ一部）

(131) ◉村會議員當選權回復ノ訴

二十九年第十二號
仝年六月十日宣告　（秋田縣平民畑澤波之助對仝縣南秋田郡内川村長大野秀正）

判旨○縣參事會ヘ訴願ヲ提起シタル際主張セサリシ理由ト雖モ請求ノ目的ヲ達センカ爲メ更ニ行政裁判所ニ於テ之ヲ主張スルモ妨ナシ

（第一門第四(35)判決理由參看）

(132) ◉村會議員選舉取消處分ノ訴

二十九年第二十八號
仝年六月十七日宣告　（愛知縣渥美郡高師村長吉原新太郎對仝縣仝郡長松井讓）

判旨○縣參事會ニ於テ村會議員選舉取消ノ處分ヲ爲シタル郡參事會ノ議決ヲ不法越權ノ原因アリト裁決シタルトキハ該議決ハ消滅スヘキヲ以テ郡長カ再ヒ取消命令ヲ發センカ爲メ更ニ行政裁判所ニ於テ之ヲ主張スルモ妨ナシ

（第一門第四(35)判決理由參看）

(133) ◉懲戒處分取消請求ノ訴

二十八年第八十八號
二十九年六月二十五日宣告

判旨○縣參事會ニ於テ村會議員選舉取消ノ處分ヲ爲シタル郡參事會ノ議決ヲ不法越權ノ原因アリト裁決シタルトキハ該議決ハ消滅スヘキヲ以テ郡長カ再ヒ取消命令ヲ發センカ爲メ更ニ行政裁判所ニ於テ之ヲ主張スルモ妨ナシ

（第一門第四(35)判決理由參看）

(134) ◉村會議員選舉ニ關スル不當裁決取消ノ訴

二十八年第五十六號
二十九年六月三十日宣告　（鹿兒島縣薩摩郡高江村長下園次郎外三名對仝縣知事子爵加納久宣）

判旨○制第九十九條第二項ニ基キ町村内ノ一區ニ賦課スル費用ハ制第九十條二項ノ原則ニ對シ例外ノ町村稅ニ屬ス隨テ區カ賦課スル學校費及土木費ハ地價割戶別割ニシテ直接町村稅ナリトス（町村制第九十九條第二項第九十條第二項）

（本件判決理由ハ(125)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(135) ◉當選無效ノ訴願裁決ニ對スル不服ノ訴

二十九年第四十八號
仝年七月九日宣告　（山形縣平民佐藤藤右衛門對仝縣參事會議長仝縣知事木下周一）

判旨○村會議員ノ選舉ヲ執行スルニ當リ制第十九條ニ所謂選舉前七日ノ期間ヲ計算スルニ選舉當日ヲ算入シタルハ定規ニ違背シタル無效ノ選舉ナリ

（町村制第十九條）

原告ニ於テ本件ノ選舉カ町村制第十九條中選舉前七日云々ノ規定ニ違背シタルノ理由ニ基キ其不法ノ選舉會ニ於テ當選シタル工藤孫四郎外二名ノ當選ノミヲ無效ナリト主張スルモ本件ノ選舉カ果シテ第十九條ノ規定ニ違背シタルモノナルニ於テハ單ニ當選ノミヲ無效トスヘキモノニアラス而シテ町村制第十九條ニハ選舉ヲ執行スルトキハ選舉前七日ヲ限リ云云トアリテ其期間ヲ計算スルニハ選舉ノ當日ヲ算入スヘカラサルモノナリ然ルニ本件ノ選舉會ハ五月十四日ヲ以テ其公告ヲ爲シ同月二十日ヲ以テ執行シタルモノニシテ選舉ノ當日ヲ算入シタルハ村長ノ告示ニ依リ明白ナル事實ナリトス然レハ本件選舉會ハ町村制第十九條ノ規定ニ違背シ有效ニ成立シタルモノニ非サレハ全部取消スヘキモノトス既ニ選舉ニシテ無效ナル以上ハ其他ノ點ニ付雙方辯論スル所アルモ說明ヲ與フルノ必要ナシ

(136) ◉村會議員違法選舉取消ノ訴

二十九年第六十一號
仝年九月二十一日宣告　（山形縣平民我妻吉郎外二名對仝縣東置賜郡高畑町長長山廣治）

判旨○無資格者カ選舉會場ニ入ルモ選舉掛長カ直ニ退場セシメタル證據アルトキハ町村制第二十一條ノ規定ニ違背シタリト謂フヲ得ス（町村制第二十一條）

○盞ヲ開クニ非サレハ投入ノ途ナキ投票函ヲ用ヰタル選舉ハ町村制第二十二條第二項ニ違背シタル不法アリ（町村制第二十二條第二項）

原告ハ無資格者タル新野廣吉安藤吉次郎カ選舉會場ニ出入シ選舉ニ干渉シタリト謂フト雖一時入場シタル彼等ヲ直ニ退場セシメタルコト選舉錄ニ徵シテ明カナレハ選舉干渉ノ事實ヲ證明セサル以上町村制第二十一條ノ規定ニ違背シタリト謂フヲ得ス然レトモ被告ニ於テ投票函ニ付テハ成法上一定ノ規定ナキニ依リ懸盞ヲ爲シタル文庫箱樣ノモノヲ用ヰタルモ町村制第二十二條第二項ニ違背スルモノニアラス又同條第二項但書ノ規定ハ投票時間中函內ノ投票ヲ開披交換スル等ノ行爲ナカラシメン爲メ設メタル制止ニ過キスシテ投票函ヲ用ヰシムルノ主旨ニ外ナラス而ルニ本訴選舉ニ於ケル如ク其盞ヲ開クニアラサレハ投票投入ノ途ナキ箱ヲ用ヰルトキハ不正行爲ヲ制止シ難ク該規定ノ主旨ニ悖戾スルヲ以テ即チ選舉ノ定規ニ違背シタルモノト謂ハサルヲ得ス

(137)

◉村會議員選舉取消處分ノ訴願不當却下ニ關スル訴

二十九年第七十一號
仝年十月十五日宣告

（福岡縣平民加藤平四郎外二名對仝縣田川郡猪位金村長矢野卿三）

判旨○町村制第二十九條第二項ニ依リ郡長カ郡參事會ノ裁決ニ付シテ爲シタル處分ニ對スル不服ハ同制第三十七條第三項ニ依リ直ニ縣參事會ニ訴願ヲ爲ス可キモノトス（町村制第二十九條第二項第三十七條第三項）

（第一門第四(37)判決理由參看）

(138)

◉村會議員選舉ノ效力ニ關スル不當裁決取消請求ノ訴

二十九年第五十六號
仝年十一月二日宣告

（山形縣東置賜郡高畑町長長山廣治對仝縣知事木下周一參加人仝縣平民佐藤重郎左衛門外二名）

判旨○制第二十一條ニハ單ニ選舉人トアリテ其級選舉人トアラサルカ故ニ各級選舉人ヲ總稱シタルモノト謂ハサル可ラス（町村制第二十一條）

○先キニ提起シタル訴願ノ裁決前其事實及理由ヲ追加スルハ附帶ノ申立ニ過キサルヲ以テ獨立ノ訴願ト謂フヘキモノニ非ス

○盞ヲ開クニ非サレハ投入ノ途ナキ投票函ヲ用ヰタル選舉會ハ違法ナリ（町村制第二十二條第二項）

被告ハ町村制第二十一條ノ規定ハ各級選舉會開會中其選舉ニ關係ナキ者ハ其會場ニ入ルヲ許サヽル精神ニ出テタルモノニシテ法律上選舉人ニ一級二級ノ區別ヲ設ケ每級各別ニ選舉會ヲ開キ各其選舉ヲ行フモノナレハ一級選舉人ニシテ二級選舉會場ニ出入スルカ如キハ同條ノ規定ニ違背スルモノナリト謂フト雖同制第二十一條ニハ單ニ選舉人ノ外云々トアリテ其級選舉人ト非サレハ各級選舉人ヲ總稱シタルモノト謂ハサルヲ得ス又原告ハ原訴願人等ノ提出シタル追訴願ハ獨立ノ訴願ナリト云フト雖該追訴願ハ先キニ提出セシ訴願ノ裁決前其事實及理由ヲ追加シタルモノニシテ附帶ノ申立ニ過キサレハ獨立ノ訴願ト謂フヘキモノニアラス而シテ其追訴願ニ依レハ本件選舉會ニ於テハ錄前ナキ懸盞ヲ爲シタル文庫箱ノ如キモノヲ以テ投票函トシ投票投入ノ都度之ヲ開閉シタルノ事實アリ是町村制第二十二條第二項ニ違背スルモノナリ何トナレハ本項但書ノ規定ハ投票時間中函內ノ投票ヲ開披交換スル等ノ行爲ナカラシメン爲メ設メタル制止シ得ヘキ投票函ヲ用ヰシムル主旨ニ外ナラス然ルニ右ノ如キ其盞ヲ開クニ非サレハ投票投入ノ途ナキ箱ヲ用ヰルトキハ不正行爲ヲ制止シ難ク隨テ其主旨ニ悖戾スレハナリ故ニ明治二十八年六月一日ニ於テ執行セシ高畑村村會議員中數改選二級選舉會ハ違法ナルニ付被告ノ裁決ハ取消スヘキモノニアラス

(139)

◉町會議員選舉取消請求ノ訴

二十九年第二十四號
仝年十一月十四日宣告

（島取縣士族後藤清對仝縣知事深野一三）

判旨○選舉ヲ執行スヘキ町村ニ住居セサル者ノ名義ヲ以テ爲セシ投票アルトキハ選舉人ニアラサル者ノ選舉會場ニ入リタル事實明白ナルカ故ニ其選舉ハ無效ナリ（町村制第二十一條）

本件所爭ノ要點ハ明治二十八年九月二十八日執行シタル米子町會議員二級選舉ノ當時選舉人石田作次郎ハ同町ニ住居セシヤ否ニ在リ被告ハ石田作次郎カ乙第一號證ノ如ク伊藤貞次郎ノ納稅代人タルコトヲ屆出テ乙第十一號證ノ如ク納稅セシハ同人カ米子町ニ住居スルノ證據ナリト謂フト雖稅金ヲ納付スルハ必シモ自身之ヲ爲スヲ必要トセサルヲ以テ乙第一號證及乙第十一號證ノミヲ以テ石田作次郎カ米子町ニ住居セシノ證ト爲スニ足ラス而シテ甲第一號證乃至甲第十二號證ノ證明書往復書類電信等ト當裁判所ノ照會ニ對スル根室警察署長ノ廻答書トニ據レハ石田作次郎ハ本件選舉已前ヨリ北海道ニ寄留シ當日米子町ニ現住セサリシ事實ヲ認定スルニ餘アリ被告ハ又石田作次郎ハ北海道ニ住居セリト假定スルモ同人名義ノ者選舉會場ニ立入リ投票セシノ事實ナシト主張スレトモ原告ハ逐次提起シタル訴願書ニ於テ每ニ此事實アリシコトヲ陳述シ原告ノ訴願ニ對スル町長ノ裁決書中ニ於テハ選舉ノ當時公開セル選舉會場ニ於テ選舉掛長及選舉掛立會選舉人名簿ニ照合シテ之ヲ執行シ異議ナク終了シタルモノナレハ他ニ適切ノ證據ヲ擧示セスシテ單ニ何人カ作次郎ノ名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタリトノ申立ノミヲ信憑スルニ足ラスト說明シ縣參事會ノ裁決書ニ於テハ原告提出ノ證據書類ハ石田作次郎カ選舉ノ當時北海道ニ居住セシコトヲ證スルニ足ラストノミ說明スルハ要スルニ他ニ反證ナキ限リハ石田作次郎自身選舉ヲ爲シタルモノトスルノ意ナリト認メサルヲ得ス然ルニ當時同人ハ北海道ニ住居セシ證據アル已上ハ其名義ヲ以テ投票セシハ他人ノ所爲タルコト明白ニシテ選舉人ニ非サル者選舉會場ニ入リシ事實ナレハ本件選舉ハ町村制第二十一條ニ違背スルニ依リ之ヲ取消スヘキモノトス藤谷茂三郎選舉資格有無ノ論點ハ裁判ニ必要ナラサルヲ以テ之カ說明ヲ與ヘス

(140)

◉村會議員一級選舉ノ效力ニ關スル不當裁決取消ノ訴

二十九年第三十六號
全年十二月四日宣告　（栃木縣平民鈴木善兵衛外一名對全縣知事佐藤暢）

判旨○村會議員選舉ノ效力ニ關シ其選舉全部ノ取消ヲ村會ニ訴願シタル場合ニ在リテ同一事件ニ對スル縣參事會ノ裁決ハ其一部ニ止ルトキト雖モ行政訴訟ニ於テ全部無效ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

○等級ノ區別ヲ誤リタル選舉人名簿ニ依リテ行ヒタル選舉ハ制第十三條ノ規定ニ違背スルヲ以テ全部無效タリ（町村制第十三條）

第一被告ハ原告ノ請求ハ被告カ與ヘタル裁決ノ範圍外ナリト謂フト雖原告カ町村會ニ提出シタル訴願ノ要旨ハ一級選舉ノ全部取消ヲ請求シ而シテ本案訴訟ハ該訴願ヲ繼承シタルモノナレハ縱令被告ノ裁決ハ其一部ニ止ルモ訴訟ノ範圍外ニ屬スル請求ナリト謂フヲ得ス第二被告ハ原告ノ主張ニ選舉人ノ資格ノ有無ヲ論スルモノナレハ選舉名簿確定以後ニ至リ選舉取消ノ原由ト爲スヲ得スト謂フト雖選舉人等級ノ區別ハ町村制第十三條ノ規定ニ依ルヘキモノナルニ本件一級選舉人登山愼作ノ納稅額ヲ誤リ爲メニ選舉人全員ノ納ル總稅額ノ半ヲ超越シテ等級ヲ區別シタルモノナレハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノトス

(141) **公民權無資格確認請求ノ訴**

二十九年第七十六號
全年十二月二十一日裁決　（熊本縣阿蘇郡南山村會議長全村長非孫平治對全縣池田智）

判旨○公民權無資格確認ノ請求ニ於テハ一私人ヲ對手トシテ起訴スルヲ得ス

（第一門第三(30)判決理由參看）

(142) **不當村稅賦課及不法議決取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯**

二十九年第八十一號
全年十二月二十一日宣告　（滋賀縣平民北川傳兵衛對全縣知事）（愛知郡秦川村長小林彌右衛門）

判旨○制第八條ニ基ク公民權停止ノ村會議決ニ對シ訴願ヲ提起セントスルトキハ制第百二十條第二項ニ定メタル期限內ニ於テスルヲ要ス（町村制第八條第百二十條第二項訴願法第八條）

（第一門第四(40)判決理由參看）

(143) **村會議員選舉取消請求ノ訴**

二十九年第七號
全年十二月二十八日宣告　（福島縣平民近藤倫之助外一名對全縣東白川郡往原村長高橋英正）

判旨○村會議員ノ選舉資格ヲ定ムヘキ納稅負擔額ヲ納稅義務ノ生シタル當月ヨリ算出シタルハ制第十三條ノ規定ニ違背シタル不法アリ（町村制第十三條第百條第二十九條末項）

被告ハ選舉ノ效力ノ爭訟ニハ納稅ノ正當ナルヤ否ニ迄論及シテ判斷ヲ受クヘキモノニ非スト謂フト雖町村制第百條ノ規定ニ依レハ町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ日割ヲ以テ之ヲ徵收スヘキモノニシテ選舉資格ヲ定ムヘキ納稅負擔額モ亦翌月ヨリ起算スヘキモノトス而シテ本件選舉人ノ中白石力之助白石彌右衛門近藤類之助安部松吉及白石庄吉ノ五名ハ孰レモ明治二十七年十月ヨリ營業ノ屆書ヲ差出シ其月ヨリ納稅ヲ爲シタル爲メ本件一級選舉ニ必要ナル納稅最少額以上ヲ納付シタル者ナレトモ法律ニ從ヒ明治二十七年十一月分ヨリ納稅ヲ負擔シタルモノトスルトキハ其納稅少キヲ以テ二級選舉人タルノ資格ヲ有スルモ一級選舉人タルノ資格ハ有セサルモノト言ハサルヘカラス然ルニ右五名ノ者ヲシテ一級選舉人ノ中ヘ編入シ等級ヲ定メタルハ町村制第十三條ノ規定ニ違背スルモノニシテ同制第二十九條ノ所謂選舉ノ規定ニ違背スルモノト爲サヽルヘカラス隨テ本件一級選舉ハ之ヲ取消スヘキ理由アルモノトス

(144) **選舉效力ニ係ル裁決不服ノ訴**

二十九年第八十號
三十年一月二十七日宣告　（青森縣平民山崎政吉對全縣參事會全縣知事牧朴眞）

判旨○選舉ノ際選舉掛長カ出席シタル事實明白ナルニ於テハ選舉錄ニ其署名ナキモ他ノ選舉掛ノミカ選舉ヲ執行シタルモノト謂フヲ得サルノミナラス其署名ナキノ一事ヲ以テ必スシモ選舉ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノト謂フヲ得ス（町村制第二十三條第二十七條）

原告ハ明治二十八年五月五日村會議員一級定期改選選舉執行ニ際シ四名ノ選舉掛即偶數ノ選舉掛ニテ集議シ用紙ヲ與ヘ投票セシメタルノミナラス開票スルニ當リ其投票ヲ無效トナセシハ是町村制第二十三條ニ違背スルモノナリ而シテ選舉掛ノ四名ナリシコトハ選舉錄ニ掛長ノ署名ナキヲ以テ見ルモ明瞭ナル事實ナリト謂フト雖當日掛長ノ出席セシコトハ臨場セシ郡書記ニ於テ認明スルノミナラス原告ニ於テモ爭ハサル所ノ事實ナレハ單ニ選舉錄ニ署名ナキノ一事ヲ以テ掛長ヲ差措キ四名ノ選舉掛ニテ議決ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス又原告ハ選舉錄ニ掛長ノ署名ナキハ町村制第二十七條ニ違背スルモノナレハ該選舉ハ無效ナリト謂フト雖選舉錄ハ選舉終了後其事實ヲ證スル爲メ調製スル所ノ記錄ニ過キスシテ之ニ由リ選舉ヲ定ムルモノニアラサレハ本件掛長ノ署名ナキハ選舉錄其物ノ瑕瑾ニ止マリ選舉ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス

(145) **村會議員選舉取消ノ訴**

三十年第七號
全年四月九日宣告　（山形縣平民佐藤惣吉對全縣南村山郡南沼原村長坪沼長作）

判旨○區有田畑ヨリ生スル米穀ハ區ノ必要ナル支出ニ充テ尙殘餘アルトキ區內各戶不平等ニ分配シ來リタル慣例アル場合ハ其增分配ヲ受クルノ一事ヲ以テ直ニ制第七條ニ所謂公費ヲ以テ救助ヲ受ケタルモノト謂フヲ得ス（町村制第七條）

原告ハ高橋權藏外十一名ハ明治二十七年度沼木區有財產歲入出據算第四款救助費ヨリ救助ヲ受ケタルニ依リ公民權ヲ失ヒタル者ナレハ村會議員選舉ニ與カルヘキモノニアラスト謂フト雖沼木區有ノ田畑ヨリ生スル立附米ハ先ツ區ノ必要ナル支出ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ區內各戶ヘ不平等ニ分配シ來リタル慣例アルモノナレハ其增分配ヲ受クルノ一事ヲ以テ直ニ町村制第七條ニ所謂公費ニテ爲ス救助ト認ムルヲ得ス又被告ニ於テ救助費ナル慣用名稱ノ不可ナルヲ悟リ之カ支出ヲ明治二十七年度區有財產歲入出決算第四款救助費ヨリ除キタルヲ以テ見ルモ其性質ノ救助ニ

アラサルヲ認ムルニ足ル故ニ明治二十八年六月二日山形縣南村山郡南沼原村ニ於テ執行シタル村會議員半數改選ノ取消スヘキ理由ナキモノトス

(146) ◉村會議員選舉會取消ノ訴

二十九年第五十四號
三十年四月十三日宣告
（山梨縣平民雇田德能對仝縣東山梨縣八幡村長雨川松次郎）

判旨○選舉掛長ハ選舉會場取締ノ責任アルヲ以テ其必要上他級選舉人ノ入場ヲ拒絕スル權能アリ（町村制第二十條）

○町村制中定期改選ト補闕選舉トハ其選舉錄ヲ各別ニ調製セサル可ラサル規定ナシ

原告ニ於テハ第一村會議員選舉會ハ公會ナルカ故ニ公行セサル可カラスシタルハ町村制第二十一條ノ規定ニ依テ原告カ有スル權利ヲ侵害シタル不法ノ處置ナリト謂フト雖町村制第二十條ニ町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ストアリ苟モ會場取締ノ實任ヲ有スル選舉掛長ニシテ其入場ヲ拒絕セサレハ無事ニ選舉ヲ結了スルヲ得スト認ル場合ニ在リテ之レヲ拒絕シ得ルハ取締上固有ノ權能ニシテ不法ノ處置ナリト謂フヲ得ス而シテ其當時競爭ノ結果頗ル不穩ノ虞アリシハ選舉錄其他地方ノ情況ニ徵スルモ之ヲ確認スルニ足レリ第二町村制第二十一條ニ依レハ選舉會場內ニハ選舉人ノ外何人タリトモ入ルコトヲ得サル規定ナルニ被告カ選舉權ナキ巡査ヲシテ入場セシメタルハ違法ナリト謂フモ當時ノ顚末ヲ記シタル選舉錄及證人ノ陳述ニ依ルモ其事實ヲ確認スルヲ得ス要スルニ原告ノ申立ハ無證ノ陳述ニ過キサルヲ以テ之ヲ採用スルヲ得ス第三巡査入場ノ顚末ヲ選舉錄ニ記載セサルハ不法ナリト謂ヒ且定期改選ト補闕選舉トヲ同一選舉錄ニ記載シタルハ違法ナリト謂フト雖上段說明スル如ク巡査入場ノ事實ヲ確認スルヲ得サルカ故ニ之ヲ選舉錄ニ記載セサルヲ以テ不法ナリト謂フヲ得ス又定期改選ト補闕選舉トハ其選舉錄ヲ各別ニセサル可カラサル規定ナキニ依リ之ヲ各別ニセサレハトテ法規ニ違フト謂フヲ得ス其他原告ニ於テ選舉錄中票數記載方ニ云々トアルハ即チ一票四名ヲ記載シタルニ因リ四十三票ノ內有效投票百七十二點トナル旨ヲ記載シタルモノニシテ明瞭ナラスト謂フヲ得ス

(147) ◉村會議員選舉會取消ノ訴

二十九年第五十五號
三十年四月十三日宣告
（山梨縣平民古屋廣對仝縣東山梨郡八幡村長雨川松次郎）

判旨○選舉掛長ハ選舉會場取締ノ責任アルヲ以テ其必要上他級選舉人ノ入場ヲ拒絕スル權能アリ（町村制第二十條）

○町村制中定期改選ト補闕選舉トハ其選舉錄ヲ各別ニ調製セサル可ラサル規定ナシ

（本件判決理由ハ(146)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

(148) ◉組合町村會議員選舉ニ關スル妨訴抗辯

二十九年第百六號
三十年五月十二日宣告
（福島縣東白川郡近津山岡組合村長野中親寬對仝縣仝郡長長武藤宗彬）

判旨○選舉掛長ハ選舉會場取締ノ責任アルヲ以テ其必要上他級選舉人ノ入場ヲ拒絕スル權能アリ（町村制第二十條）

○町村制中定期改選ト補闕選舉トハ其選舉錄ヲ各別ニ調製セサル可ラサル規定ナシ

（本件判決理由ハ(146)ト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス）

判旨○組合町村會議員選舉ノ效力ニ關スル訴ニ於テ其監理者タル郡長ヲ相手取リタルハ不當ニ非ス（第一門第三(31)判決理由參看）

(149) ◉村會議員選舉取消ノ訴

三十年第八號
仝年五月二十四日宣告
（德島縣平民田村熊藏外三名對仝縣三好郡雲間村長丸岡浪藏）

判旨○選舉人中ニ二重ノ投票ヲ爲シタル者アルトキハ其選舉ハ無效ナリ

被告ハ原告第一ノ論點タル本件選舉ニ於テ不正投票一票アリトノ主張ニ對シ選舉掛長カ投票受理ノ際人名簿ニ附點ヲ施セシハ八十五名ニシテ投票ノ實數ハ八十六票ナリシハ事實ナレトモ是選舉掛長ニ於テ吉見芳三郎ノ姓名上ニ附點ヲ施スヲ遺脫セシカ爲メニシテ不正投票ヲ爲セシ者アルニ非スト謂フト雖甲第四號證ノ選舉錄ヲ閱スルニ其一節ニ於テ選舉人名總數九十一名ナルニ不參者六名此氏名田岡數平太谷富三郎吉見芳三郎中川三吉大西德藏大村泰藏アリト明記シアリ而シテ其次節ニ於テハ選舉掛福田篤十郎ヨリ丸岡萬藏カ二重投票ヲ爲セリトノ申立ニ對スル選舉掛ノ議決ヲ擧ケ選舉人名簿投票受理ノ附點八十五名ナルニ投票總數八十六票ニシテ壹票過剩シタルハ掛長ニ於テ人名簿ニ附點ヲ脫シタルモノト認メ有效ノ投票ニシテ無效ニアラスト議決セリト記載スルモ是單ニ附點ヲ脫シタルモノト認ムルニ止マリ前記ノ不參者六名中何人ノ姓名上ニ附點ヲ脫セシヤヲモ示サヽル漠然ノ記事ニシテ前節不參者六名アリトノ記事ヲ取消スニ足ラス又被告提出乙第四號證ノ一二三ノ如キハ一私人後日ノ作成ニ係リ選舉錄ノ記事ニ對シテ吉見芳三郎カ投票セリトノ事實ヲ證スルノ力ナシ故ニ投票者八十五名投票數八十六票ニシテ不正投票ヲ爲セシ者アリシハ事實ナルコトヲ認ムヘク從テ本件選舉ノ無效ナリト謂ハサルヲ得ス其他雙方論難スル所アルモ本件裁判ニ必要ナラサルヲ以テ之カ說明ヲ與ヘス

（第一門第四(47)判決理由ノ一部）

(150) ◉組合町村會議員選舉ニ關スル訴ニ對スル妨訴抗辯

二十九年第百六號
三十年五月二十五日宣告
（福島縣東白川郡近津山岡組合村長野中親寬對仝縣仝郡長長武藤宗彬）

判旨○訴願ノ本案ニ對シ行政廳ノ裁決ヲ經サル事件ト雖其形式ヲ具備シテ提起セラレタル訴ニ就テハ判決ヲ爲スコトヲ得

（第一門第三(32)判決理由參看）

(151) ◉不當裁決取消請求ノ訴

三十年第二十七號
仝年七月五日宣告
（新潟縣越後國北蒲原郡水原町外四ケ村高等小學校組合會議長安孫子石太郎對仝縣知事藤岡毅）

判旨○制第百十七條ニハ會議ノ組織トアリ即其構成ヲ組合ノ規定ニ一任シアルヲ以テ之ニ屬スヘキ議員選舉ノ方法及其資格任期亦同條ニ包含スヘキ

モノト解釋スルヲ當然トス（町村制第百十七條）

本訴原告被告所爭ノ要點ハ町村制第百十七條ノ組合會議ノ組織ニ在リ而シテ被告ハ該條ニ所謂會議ノ組織トハ單ニ會議其物ノ組成方法ヲ指スニ止マリ議員選舉ノ方法並其資格任期ヲ包含スヘキモノニアラスト謂フト雖町村制第百十七條ニハ會議ノ組織トアリテ其構成ヲ組合ノ規定ニ一任シタル以上ハ之ニ屬スヘキ議員選舉ノ方法及其資格任期ヲモ包含スヘキモノト解釋セサルヘカラス從テ水原町外四箇村學校組合規則ハ町村制ニ背反シタル違法ノ規定ト謂フヲ得ス

(152) ◉村會議員不當選舉取消ノ訴

三十年第二十二號　佐賀縣士族岡部康國外十名對
仝年七月九日宣告　（縣杵島郡武雄村長一ノ瀨儀三郎）

判旨○村長カ法律ノ規定外ニ無效ノ條件ヲ付シテ投票ノ方法ヲ揭示スルモ之カ爲メ選舉ヲ妨害シタル事實ナキニ於テハ其選舉ハ違法ニ非ス

原告ハ被告ハ選舉人名簿縱覽期間內ニ其修正ヲ爲シタリト謂ヒ甲第一號證ヲ以テ之ヲ立證スルモ該證ハ村長ニ於テ之ヲ取消シタルモノナレハ證據トシテ之カナク隨テ其事實アリト認ムルヲ得ス又原告ハ本件選舉ハ被告ニ於テ甲第二號證ノ如ク法律以外ノ制限ヲ設ケ選舉人ノ權利ヲ妨害シタルモノナレハ選舉ノ定規ニ違背スルモノナリト謂フト雖之レカ爲メ投票ノ投入ヲ爲サシメス又ハ投票ヲ無效トシタルノ事實アルニアラサレハ無效ノ條件ヲ揭示セシニ過キスシテ違法ノ選舉ナリト謂フヲ得ス

(153) ◉市參事會員違法選舉取消ノ訴

三十年第七十一號　（石川縣金澤市參事會員山森隆外一名）
仝年十月八日裁決　（對仝縣仝市參事會仝市長長谷川準也）

判旨○市會議員解職ノ處分ヲ受ケタル者カ訴願ニ因テ該處分ノ執行停止中參事會員選舉ノ投票ヲ爲シタルハ不法ナリト主張シ其選舉會ノ取消ヲ請求スル事件ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ（市制第五十七條）

（第一門第一(207)判決理由參看）

(154) ◉村會議員一級選舉取消ノ訴

三十年第十五號　（德島縣平民眞鍋恒夫外二名對
仝年十一月五日宣告　仝縣美馬郡郡里村長眞鍋儀平）

判旨○封緘ヲ施サヽル投票ヲ以テ執行シタル選舉ハ違法ナリ（町村制第二十二條第一項）

○選舉錄ニ記載ナキ爭點ニシテ投票ノ效力ニ關スルモノハ投票其モノニ就キ判定スヘク選舉錄ニ記載ナキヲ以テ違法ノ證跡ナシト謂フヘカラス（町村制第二十七條第二項）

被告ハ村會議員選舉投票ハ必ス封緘スヘキコトハ法律上ノ規定ナリ故ニ若シ無封緘ノ投票アリシカ選舉長ハ之ヲ受理スヘキ理アラス假リニ誤テ之ヲ受理シタリトスルモ他ノ掛員中必ス異議ヲ生スヘキ筈ナルニ選舉錄中絕テ異論紛議ノ事實ナキ以上ハ本件選舉ハ一モ規定ニ違背シタルモノナシト謂フト雖モ原告提出ノ甲第一號證ヲ檢スルニ投票七十七個ノ內糊貼ヲ存スルモノハ僅ニ二箇ニシテ其他ハ悉ク糊貼ノ痕跡ナキノミナラス之レカ封緘ヲ爲シタリト認ムル所ナシ且ツ被告ニ於テ投票ハ封筒ニ入レタルモノモアリト陳述スルニ止リテ其封筒ハ悉クアリタリト斷言シ得サル以上ハ該投票中必ス若干ノ無封筒ノモノ有リシコトヲ推定スルニ足レリ然ラハ則チ本件ノ町村制第二十二條一項ニ違背ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出スヘシト有ル規定ニ違背スタル選舉ト謂ハサルヘカラス又被告ハ本件ハ證ヲ選舉錄ニ取リ以テ選舉ノ有效無效ヲ斷定セサルヘカラスト謂ヘトモ町村制第二十七條第二項ニ投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄保存スヘシトアリテ選舉錄ト共ニ後證タルヘキモノナレハ本件ノ如キ選舉錄ニ記載ナキ爭點ハ投票其物ニ就キ判定セサルヘカラス故ニ被告ノ選舉錄ニ記載ナキノ一事ヲ以テ違法ノ證跡ナシト謂フヲ得ス

(155) ◉組合村村會議員選舉ニ關スル訴ニ對スル妨訴抗辯

二十九年第百六號
三十年十一月十六日宣告
（福島縣東白川郡近津村山岡村組合村
長野中親寬對仝縣仝郡長武藤宗彬）

判旨○町村組合會ニ於テ組合會議員ノ選舉ニ關スル訴願ヲ裁決シタルヲ違法トシ其取消ヲ求ムルハ選舉ノ效力ニ關スル事件ニ非サレハ法令中行政訴訟ヲ許ス明文ナシ

（第一門第一(212)判決理由參看）

(156) ◉村會議員二級選舉ニ關スル訴

三十年第二十九號
仝年十二月一日宣告　（福島縣石川郡小鹽江村長代理助役
橋本源三郎對仝縣知事安樂兼道）

判旨○制第二十五條末項ハ本會ト同日時ニ選舉分會ヲ開クヘキ規定ニシテ其閉會ヲモ同日時ニ爲スヘシトノ意義ニ非ス（町村制第二十五條末項）

被告ハ本分兩會ノ間ニ於テ開會時間ニ長短ノ差違アリシ事實ハ爭フヘカラサルモノナリ果シテ然ラハ町村制第二十五條末項ハ同日時ニ行フヘシトノ意義ナリト信スルカ故ニ該規定ニ違反シタル無效ノ選舉ナレハ被告ノ爲シタル裁決ハ正當ナリト謂フト雖町村制第二十五條末項ハ本會ト同日時ニ選舉分會ヲ開クヘキコトヲ規定シタルモノニシテ其閉會ヲモ同日時ニ爲スヘキコトヲ規定シタルモノニアラス而シテ本件分會ノ開會時刻ニ付テハ本會ノ開會時刻ニ後レタリト認ムヘキ證左ナク其閉會ニ至リテハ同時刻ニ爲シ得ヘキモノニアラサルヲ以テ明治二十八年六月九日小鹽江村ニ於テ執行シタル村會議員選舉會ハ無效ト爲スヘキモノニアラス

(157) ◉不當裁決取消要求ノ訴

三十年第五十二號
三十一年二月十日宣告　（石川縣平民市井與四平對仝
縣參事會仝縣知事古澤滋）

判旨○制第十八條末項ノ規定ハ選舉ノ當時其當選ヲ辭スルカ若クハ選舉ノ無效ト爲リタル場合ニノミ適用スヘク無效ニ歸シタル二級半數改選ノ再選舉ト同時ニ一級補闕選舉ヲ執行スル場合ニ於テハ二級選舉人名簿ヲ新ニ調製スルノ必要アルモノトス（町村制第十八條第十七條）

被告ハ原告カ訴願ノ目的タル選舉ハ既ニ消滅シ又明治三十年三月十五日執行シタル村會議員ノ選舉ニ新名簿ヲ用ヒタルハ違法ナルモ此點ハ原告

ニ於テ來タ村會郡參事會等ノ裁決ヲ經サルモノナレハ之ヲ棄却シタルハ正當ナリト謂フト雖原告カ越路村長竝鹿島郡參事會ニ提出シタル訴願ノ旨趣ヲ按スルニ何レモ新ニ調製シタル人名簿ノ正否ヲ論爭スルモノニシテ其被告ニ提出シタル訴願ノ主意ト其請求ノ目的終始一貫セルモノト認メサルヲ得ス隨テ此點ニ對シ未タ村會郡參事會等ノ裁決ヲ經由セスト謂フヲ得サルモノトス而シテ原告ニ於テハ本件新調ノ人名簿ハ町村制第十八條末項ノ規定ニ違背スルモノナリト謂フト雖モ同條末項ハ選舉ノ當時其當選ヲ辭スルカ若クハ選舉ノ定規ニ違フタルコトアルカ爲メ選舉ノ無效トナリタル場合ニノミ適用スヘキ規定ニシテ本件ノ如ク同時ニ一級補闕選舉ヲ執行スル場合ニ當テハ該名簿調製ノ必要上自然二級人名簿ヲ新ニ調製セサルヲ得ス之ニ因テ本件爭フ所ノ名簿ハ不正ナリト謂フヲ得サルモノトス

(158) ◉不當裁決取消ノ訴

三十年第八十三號
三十一年四月六日宣告

（和歌山縣平民堀内伊太郎對仝縣那賀郡安樂川村會議長仝村長津田正朔）

判旨○町村會議員ノ選舉人名簿ニ對シ選舉人ノ一人ヨリ申立タル異議ニ關シ町村會カ與ヘタル裁決ヲ不當トシ更ニ他ノ選舉人ヨリ訴願ヲ提起スルニハ制第百二十條第二項ノ訴願期間ニ依ル可キモノトス（町村制第十八條第二項第百二十條第二項）

被告ニ於テ原告訴求ノ要領タル選舉人名簿ノ正否ニ關スル申立ハ町村制第十八條ニ規定スル期間ヲ經過シタルモノナレハ那賀郡長カ之ヲ却下シタルハ相當ナリト謂フト雖町村制第十八條第二項ノ規定ノ期間ハ名簿縱覽中自ラ名簿ニ異議アルコトヲ發見シタルトキニ方テ之ヲ申立得ルノ期間ナリ而シテ本件ノ訴願ハ他人ノ異議申立ニ對シ爲シタル裁決ニ因由スルモノナレハ素ヨリ同期間ニ依リ論スヘキモノニアラスシテ訴願ニ就テハ同制第百二十條第二項ノ期間ニ依ルヲ當然トス又被告ハ堀内仙右衛門ノ訴願ニ對シテハ查覈ノ末同人カ資格ノ要件アルコト明カナルヲ以テ之ヲ一級選舉人名簿ニ加入シ原告ヲ二級選舉人名簿ニ編入スヘキ裁決ヲ爲シタリト謂フト雖堀内仙右衛門ハ明治二十九年三月卅一日退隱シ其後一戸ヲ構ヘスシテ公民ノ資格ヲ完備スルモノヽ如ク虛僞ノ申立ヲ爲シタル事實ハ明治三十年十一月四日和歌山地方裁判所カ與ヘタル判決ニ由リ明カナリ然レハ則堀内仙右衛門ハ無論同年七月調製ノ選舉人名簿ニ登載セラルヘキ權利ナク隨テ原告ノ資格ニ異動ヲ生スヘキ理由ナキモノナレハ明治三十年七月十二日ノ本件ニ關スル安樂川村會ノ裁決ハ失當ナリトス

(159) ◉町會議員選舉ニ關スル不法裁決取消ノ訴

三十年第百十八號
三十一年四月十二日宣告

（奈良縣三戸郡八戸町長遠山景三對仝縣參事會仝縣知事河野圭一郎）

判旨○一私人カ隨意ニ作成シ得ヘキ證明書ノ如キハ法律上何等ノ效力ヲモ有スルモノニ非ス

本件所爭ノ要點ハ明治二十八年五月一日執行シタル八戸町會議員選舉會ニ於テ選舉人田頭仁太郎及坂口松太郎ハ不在ニシテ代人ヲ以テ投票シタルノ事實アリヤ如何ニ在リ而シテ被告ハ本件ノ如ク北海道出稼人ノ多キ場所ニ於テハ中以下住人ノ在不在ハ原告主張ノ如ク單ニ屆出ノ有無ヲ以テ判定スルヲ得ス田頭仁太郎坂口松太郎カ本件選舉ノ當時北海道ニ出稼シテ不在ナリシコトハ第壹號乃至第三號證ニ依リ明瞭ナリト謂フト雖第壹號七通トモ何レモ一個人ノ證明若クハ答書ニシテ何時ニテモ隨意ニ作成シ得ヘキモノナレハ一モ信ヲ措クニ足ルモノナシ又第三號證ハ八戸警察署ノ回報ナルモ之ヲ以テ田頭坂口ノ兩人カ當時確カニ北海道ニ在住シタルトノ證トナスヲ得サルモノトス而シテ之ヲ選舉錄ニ徵スルモ選舉ノ當日田頭坂口ノ兩人カ不在ナリシコト及明地亥之松坂口重太郎カ代人投票ヲナシタルトノ事實ヲ認ムルニ由ナキモノナレハ本件選舉ノ適法ニシテ被告カ之ヲ取消シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス

(160) ◉選舉取消請求ノ訴

三十年第九十七號
三十一年四月二十九日宣告

（青森縣平民齋藤申松對仝縣東津輕郡高田村長奥崎義郎被告從參加人仝縣參事會仝縣知事河野圭一郎）

判旨○選舉掛長及選舉掛等共謀シテ投票函在中ノ投票ヲ差替ヘタル事實アル選舉ハ無效ナリ

○郡參事會カ村會ノ裁決後普通裁判所ノ判決ニ依リ確定シタル事實ヲ根據トシテ裁決ヲ與フルハ原告申立以外ノ事項ニ亘リタル者ト謂フヲ得ス

本件高田村會議員半數改選二級選舉ニ於テ選舉掛長並ニ選舉掛等共謀シ自派ノ候補者ヲ擧クル目的ヲ以テ自派ノ候補者氏名ヲ列記シタル投票三枚ト投票函ニ在中セシ反對派ノ候補者氏名ヲ列記シタル投票三枚トヲ差替ヘタル事實普通裁判所ノ判決ニ依リ確定シタルモノナルコトハ本件當事者ノ爭無キ所ナリ然ラハ則チ本件選舉ニ於テハ選舉ノ定規ニ違背セル不正ノ所爲アルモノニシテ是點ヲ以テ選舉ヲ取消ス理由ト爲スニ足ルモノトス然ルニ參加人ニ於テハ郡參事會カ其裁決ノ證據ト爲シタル投票差替ノ事實ハ村會ノ裁決後ニ普通裁判所ノ確定判決ニ因リ生シタル新事實ニシテ村會ニ於ケル原告訴願ノ當時ニ在テハ原告ノ曾テ主張セサル事柄ニ屬スル從ツテ郡參事會カ原告申立以外ノ事實ニ亘リ裁決ヲ與ヘタルハ不當ナリト謂フト雖モ原告訴願ノ趣旨ハ本件選舉ニ於テ犯罪ノ所爲アルモノトシ之レカ取消ヲ求ムルニ在リテ投票差替ノ事實ノ如キハ普通裁判所ノ判決ニ依リ訴願ノ原因タル事實ヲ確定シタルニ過キサルヲ以テ郡參事會カ之レヲ以テ新山市五郎ノ訴願ニ對スル裁決ノ基本ト爲セシハ不當ニアラス

(161) ◉村會議員一級選舉取消ノ訴（第一門第三(36)妨訴抗辯ノ本案）

三十年第百號
三十一年六月四日宣告

（山梨縣平民細田謙對仝縣參事會仝縣知事伯爾清樓家敎）

判旨○選舉前二日ニ至リ同一地内ニ在ル選舉會場ヲ豫告外ノ位地ニ移シ殊更ニ區域ヲ設ケ選舉ヲ執行シタルハ即チ選舉會場ノ變更ニシテ制第第十九條ノ規定ニ反ス（町村制第十九條）

被告ニ於テ本件選舉會場ナル上野原小學校ハ最初會場ト定メタル上野原村役場ト隣接シ村役場ト小學校トハ其建物入口ヲ異ニスルモ等シク同一ノ地内ニ在ルモノナレハ公告第一六號ハ町村制第十九條ニ規定セル選舉